



札幌市立大学年報

平成24年度

(2012年度)



札幌市立大学
SAPPORO CITY UNIVERSITY

目 次

I 概要

1 大学設置の経緯	1
2 デザイン学部の概要	3
3 看護学部の概要	4
4 デザイン研究科の概要	5
5 看護学研究科の概要	6
6 助産学専攻科の概要	7
7 平成24年度の特筆すべき事項	8
8 行事	10

II 教育活動

1 教育活動概要	11
2 共通教育・連携教育	12
3 デザイン学部	15
4 看護学部	30
5 デザイン研究科	43
6 看護学研究科	47
7 助産学専攻科	55
8 デザインと看護の連携教育	58
9 産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業(産業界ニーズG P)	60

III 研究活動

1 個人研究費による研究一覧	62
2 学内公募研究課題一覧	66
3 学外からの研究費、研究補助金などの受入状況	67
4 寄附金の受入状況	69
5 その他研究助成	69
6 海外出張記録	70

IV 社会活動

1 地域貢献諸活動	73
2 公開講座開催実績	89
3 社会における活動	90
4 専門職支援・セミナー講師等	93
5 国際交流実績	104
6 サテライトキャンパスの利用状況	104

V キャリア支援活動

1 デザイン学部	105
2 看護学部	110
3 デザイン研究科	112

Ⅵ 平成 25 年度入学者選抜結果

1 デザイン学部・看護学部	113
2 大学院デザイン研究科・大学院看護学研究科	118
3 助産学専攻科	123

Ⅶ 附属図書館

1 概要	125
2 利用状況	126

Ⅷ 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

1 役員会及び審議会の審議状況	127
2 役員及び審議会委員名簿	128

Ⅸ 学内運営の概要

1 2012年度(平成24年度)公立大学法人札幌市立大学 組織図	129
2 部局長会議	129
3 企画戦略会議	130
4 教授会	130
5 地域連携研究センター	131
6 附属図書館	132
7 アドミッションセンター	132
8 キャリア支援センター	132
9 学内委員会	132
10 FD・SD活動	140

X 資料

1 平成24年度年度計画	142
2 平成24年度決算	149
3 教職員数	150
4 管理職一覧表	150
5 教員一覧表	151
6 学生定員及び学生数	152
7 授業料等	154
8 奨学金貸与・授業料減免実施状況	154
9 学生の入選・受賞	155
10 学生の課外活動	156
11 後援会	157
12 教育・研究刊行物一覧	157
13 施設	158
14 大学への交通アクセス	162
15 札幌市立大学 大学歌『みらいの手』	163

XI 教員業績一覧	164
------------------	-----

I 概要

1 大学設置の経緯

環境問題や少子高齢化、高度情報化、国際化などの進展に伴い、社会構造がますます複雑化する中で、学術研究の高度化、学際化とともに、社会では高い資質と能力をもった職業人が強く求められている。特に、札幌市においては、公共事業の削減が進む中、IT産業に代表される札幌の産業特性に対応したデザイン分野、積雪寒冷という札幌の気候風土に着目したデザイン分野など、地域社会に密着した産業の振興への取り組みがより重要であり、こうした取り組みに対応できる幅広いデザイン能力を持った職業人が求められている。

また、今後も当分の間、看護職の不足が続くと予測されているにもかかわらず、看護職養成機関の廃止や定員の削減に伴う新卒看護職の減少が懸念されている。そうした中、在宅医療を支える訪問看護等の需要増加を初めとして、今後は、患者の生活の質向上を目指したケアを行うことができる、広範で高度な看護能力を有する看護職の確保が求められている。

一方、今日の高等教育機関においては、その高度な教育研究機能を通じて、これまで以上に地域社会への貢献を果たすことが大きな社会的要請となっている。

平成3年に開校した札幌市立高等専門学校は中学卒業時から5年間の早期一貫教育を行うデザイン系高等教育機関として、実践的職業人を数多く輩出してきたほか、企業や行政からの受託研究などを通じて、産業の振興や市民生活の向上に貢献してきた。

また、昭和40年に開校した札幌市立高等看護学院は、高校卒業後の3年課程の専修学校として、市立札幌病院を始めとする札幌市内医療機関に看護職を多数輩出し、市民の健康支援に貢献してきた。

このような状況の中で、先の地域課題への対応や社会的要請にこたえるために、札幌市立高等専門学校と札幌市立高等看護学院の大学化の必要性和方向性について幅広い議論を行うべく、平成13年11月、「市立高等専門学校・高等看護学院の大学化検討懇話会」を設置した。

大学化検討懇話会は、市民論議の中心的役割を担う立場から、インターネットを始め、さまざまな形で寄せられる市民の意見に耳を傾け、審議経過を逐次公開しながら検討を進め、平成14年12月、約1年間にわたる市民論議の集大成として、「札幌市立高等専門学校と札幌市立高等看護学院が社会構造の変化に的確に対応し、かつ、地域社会の要請にこたえていくためには、4年生大学化によるレベルアップをできるだけ早期に図る必要がある。」とした「市立高等専門学校・高等看護学院の大学化に関する提言」をまとめた。

こうした市民論議の経過を踏まえて、札幌市では、平成15年9月に「（仮称）札幌市立大学基本構想」を策定し、平成18年春の札幌市立大学の開学を目指すこととした。

そして、この基本構想に盛り込まれた方向性を具体化するために、平成15年11月に大学教育の専門家を中心とする「（仮称）札幌市立大学設置準備委員会」を設置して調査・審議を進め、学部・学科や教育課程、学生の受け入れ、校地・校舎のあり方といった事項について準備委員会における検討内容を踏まえて、平成16年7月に「（仮称）札幌市立大学基本計画」を策定し、平成17年4月に札幌市立大学の設置認可申請を行った。同年12月に大学の設置が認可され、「人間重視を根幹とした人材の育成」と「地域社会への積極的な貢献」を理念とした札幌市立大学を平成18年4月に開学した。

また、デザインと看護の学部での教育を基盤として、より高度な専門的知識を有する高度専門職業人及び研究者・教育者の育成を目的として大学院修士課程を設置することとした。

大学院修士課程は大学院基本計画に基づき1期生の卒業時期に合わせた開設が計画され、平成21年5月に「札幌市立大学大学院設置認可申請書」を文部科学省に提出、10月に大学院の設置が認可され、平成22年4月に札幌市立大学大学院を開設した。

大学院の開設と合わせて、より高度な能力を持った助産師の養成が必要とする社会的要請を受け、本学に助産学専攻科を設置して助産師の養成を行うこととした。

その後、平成23年5月に「大学院（博士後期課程）設置認可申請」を文部科学省に提出、10月に大学院（博士後期課程）の設置が認可され、平成24年4月に札幌市立大学大学院（博士後期課程）を開設した。

I 概要
II 教育活動
III 研究活動
IV 社会活動
V キャリア支援活動
VI 入学者選抜結果
VII 附属図書館
VIII 役員会、経営審議会 及び教育研究審議会
IX 学内運営の概要
X 資料
XI 教員業績一覧

沿革

昭和40年4月	札幌市立高等看護学院 開校
平成3年4月	札幌市立高等専門学校 開校
平成8年4月	札幌市立高等専門学校専攻科 開設 札幌市立高等専門学校附属研究所 開設
平成13年11月	「市立高等専門学校・高等看護学院の大学化検討懇話会」設置
平成14年12月	同懇話会による「市立高等専門学校・高等看護学院の大学化に関する提言」
平成15年9月	「(仮称) 札幌市立大学基本構想」策定
平成15年11月	「(仮称) 札幌市立大学設置準備委員会」設置
平成16年7月	「(仮称) 札幌市立大学基本計画」策定
平成17年12月	大学設置認可
平成18年3月	公立大学法人札幌市立大学 設立認可
平成18年4月	公立大学法人札幌市立大学 開学
平成18年10月	サテライトキャンパス 開設
平成19年4月	地域連携研究センター 開設 アドミッションセンター 開設
平成20年3月	札幌市立高等看護学院 閉校
平成20年4月	キャリア支援センター 開設
平成20年8月	認定看護管理者制度サードレベル教育課程 開講
平成21年3月	札幌市立高等専門学校本科 開科
平成21年10月	大学院（修士課程）設置認可
平成21年12月	助産学専攻科の助産師学校指定通知
平成22年4月	大学院（修士課程）デザイン研究科・看護学研究科・助産学専攻科 開設
平成23年3月	札幌市立高等専門学校専攻科 閉校
平成23年10月	大学院（博士後期課程）設置認可
平成24年4月	大学院（博士後期課程）開設

2 デザイン学部の概要

1) 特色

デザイン学部では、大学の特色を踏まえ、幅広い職業人の育成を行うことを基盤とし、デザインという特定の専門分野の教育研究を通じて、社会に貢献することを特色としている。具体的には、優秀で創造的な人材を社会に輩出するほか、企業との共同研究や受託研究といった産学連携、個人の創造性・スキルに基盤を置き、知的資産によって価値を生み出す創造的な産業の振興などを通じて社会に貢献するものである。

また、平成17年1月中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」にある七つの機能のうち、「幅広い職業人養成」を主軸とするほか、デザインという「特定の専門的分野の教育・研究」及び「社会貢献機能」に比重を置いて教育研究に取り組むことを特色としている。

2) 教育目的

デザイン学部では、次のような人材の育成を目的とする。

- ① 幅広いデザイン能力を持った人材の育成
デザインの基礎的な理論や技術について幅広く教育を行い、高度な職業人に必要なデザイン能力を持った人材を育成する。
- ② 人間中心の視点に立ったデザインに取り組める人材の育成
造形の基盤となる芸術的要素に機能の基盤となる工学的要素を融合させ、人にやさしいデザインや使いやすいデザインなど、人間中心の視点に立ったデザインに取り組むことのできる人材を育成する。
- ③ 地域社会に貢献できる人材の育成
時代や社会の要請を的確に捉えた教育研究に取り組むとともに、地域産業や芸術・文化の振興を始め、都市機能や都市景観の向上など、まちづくり全体に幅広く貢献する人材を育成する。

3) 育成する人材像

札幌市においては、IT産業に代表される札幌の産業特性に対応したデザイン分野や、積雪寒冷という札幌の気候風土に着目したデザイン分野など、地域社会に密着した産業の振興への取組が特に重要視されており、こうした取組に対応できる幅広いデザイン能力を持った職業人が求められている。

デザイン学部では、そうした社会の人材需要にこたえとともに、教育目的を達成するため、次の能力を備えた人材を育成する。

- ① 多様なコミュニケーション能力
的確に意思疎通を図り、豊かな人間関係を形成することができる能力のほか、海外とのコミュニケーションに必要な実用的な英語能力、高度情報化社会に不可欠な情報処理能力を養う。
- ② 課題探求能力と問題解決能力
社会の課題やニーズを自ら探求する能力と、その問題をデザインによって解決することのできる能力を養う。
- ③ デザインの基礎となる表現力
豊かな感性を涵養するとともに、創造的な発想と豊かな表現力を養う。
- ④ 人間や環境に配慮したデザイン思考能力
人間にとって使いやすいデザインや環境への負荷に配慮したデザインを行う能力を養う。
- ⑤ 新たな価値を発見する柔軟な発想力
固定観念にとらわれず、さまざまな視点からデザインに取り組むことのできる柔軟な発想を養う。
- ⑥ 企画力や管理・運営能力
デザインを実践的に活用することのできる企画力や管理・運営能力を養う。

3 看護学部の概要

1) 特色

看護学部では、幅広い職業人を育成することを基盤として、看護学という特定の専門的分野の教育研究を通じて、社会貢献を果たしていくことを特色としている。具体的には、確実な看護実践力を持ち、高い資質を有する看護職を輩出するとともに、保健・医療・福祉行政や関係機関などと連携し、地域看護の充実や市民の健康の保持増進につながる研究を通して社会に貢献するものである。

したがって、看護学部では、平成17年1月中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」にある7つの機能のうち、「幅広い職業人養成」を主軸とするほか、看護という「特定の専門的分野の教育・研究」及び「社会貢献機能」に比重を置いて教育研究に取り組むことを特色としている。

2) 教育目的

看護学部では、看護職として活躍する次のような人材の育成を目的とする。

① 的確な実践力を有する人材の育成

看護は、看護の理論や知識を基盤とした看護実践を通して研鑽を重ねつつ、専門性を深める学問である。

高度・専門化する医療、多様化する看護ニーズに対応するためには、緻密な観察に基づく的確な判断能力と技術力、さらにこれらを基盤とした問題解決能力が求められる。また、人々がより高い水準の健康を維持・獲得するためには、科学的根拠に基づいた専門的知識・技術を用いて、自律的にケアを推進する実践的な援助能力が求められる。

このため、あらゆる健康レベルや場において、人々が快適で安全に安心して生活できるよう、理論・知識・根拠に基づき的確に看護を実践できる技術と能力を有する看護職を育成する。

② 人間性を尊重した対人関係形成能力を備えた人材の育成

看護の援助過程は、看護職と看護を必要とする人との人間関係形成により進行するものである。看護職は、人間の尊厳を重視し、安心感を与える態度・態様が求められるとともに、看護行為を実施する上では、すべての人に対する人権の擁護と倫理的判断ができるように常に志向することが肝要である。

また、医療施設における看護はもとより、福祉施設や在宅における看護、地域における看護など、看護職に求められる能力、期待される役割が増大しているとともに、高度化する医療は、さまざまな職種の医療従事者を必要としており、看護職や他の従事者と連携・協働し、対象である人間を中心とする視点に立った医療・看護を提供することが重要である。

このため、対象あるいは医療従事者間との意思疎通を図り、対人関係の形成のために、身体的側面だけではなく、心理的、社会的側面から人間を理解し、幅広い教養を基盤とした豊かな人間性と倫理観を備えた看護職を育成する。

③ 地域社会に貢献できる人材の育成

市民の健康に対するニーズの増大や価値観の多様化などに伴い、看護職に対する需要は増大、複雑化してきており、本学では、このような地域の看護需要に対応することが必須になる。

このため、保健・医療・福祉などの学びに加えて、幅広い分野・職種と連携し、創造的、主体的に学習することで、積極的に地域社会における市民の健康の保持増進に貢献できる人材を育成する。また、看護職に対する需要は、それぞれの地域ごとに異なっており、札幌市はもとより、北海道内あるいは全国的な視点から、看護の発展に寄与できる看護職を育成する。

3) 育成する人材像

札幌市には、多くの高度・専門的医療機関が立地し、北海道における高度、先進的医療技術の中核的役割を担っている。少子高齢化が急速に進行し、さらに、独居老人世帯数、高齢夫婦世帯

数も増加しており、このような社会情勢に的確に対応した看護職が求められている。

このため、看護学部では、医療機関における高度・専門的医療を担う看護職を育成することはもとより、在宅の高齢者等に対する看護、保健指導など地域の看護需要に対応できる看護職を育成することとし、こうした社会の人材需要の充足と教育目的を達成するため、次の能力を備えた人材を育成する。

- ① 対人関係形成能力
豊かな人間性と倫理的判断力を備え、安心感を与える的確な意思疎通により対人関係を形成できる能力を養う。
- ② 権利擁護・安全なケア提供能力
さまざまな健康レベル、あらゆる発達段階、さまざまな場において、対象の権利を擁護し、安全なケアを提供できる能力を養う。
- ③ 的確な判断能力と問題解決能力に基づく看護実践技術力
緻密な観察と科学的知識に基づく的確な判断能力と問題解決能力を培い、これらを基盤とした看護実践技術力を養う。
- ④ 医療従事者間における調整・指導のための基礎的能力
看護対象者の視点から保健・医療・福祉を追究し、各分野における看護の専門性と役割を認識の上、医療従事者間の調整や指導的役割を担うための基礎的な能力を養う。
- ⑤ 課題解決力を高めるための自己研鑽能力
主体的・創造的に課題探求に取り組み、解決する力を高めるために継続的に自己研鑽できる能力を養う。

4 デザイン研究科の概要

1) 特色

デザインの役割が拡張し、従来のように造形や視覚表現にとどまらず、社会や地域、産業等の複雑な問題をデザイン課題として受け止め、人間や環境に配慮したデザイン提案によりその解決策を実現できる、高度なデザイン能力を有する人材が必要となっている中で、デザイン研究科では、よりよい地域社会の実現に貢献できる高度専門職業人及び研究者・教育者を育成するため、以下の能力を修得することを特色とする。

また、平成17年9月中央教育審議会答申「新時代の大学院教育－国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて－」の四つの「大学院に求められる人材養成機能」のうち「高度な専門的知識・能力を持つ高度専門職業人の養成」及び「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者等の養成」に比重を置いて教育・研究に取り組む。

【博士前期課程】

- ① デザインに関連する複合的かつ複雑な課題・問題を解決する「課題解決能力」
- ② デザインを通じて新たな価値を生み出す「創造力」
- ③ 課題・問題の発見、分析から具体的事業化までを一貫したデザインプロセスとしてまとめる「企画調整能力」
- ④ 一連のデザインプロセスを具体化する「実践能力」

【博士後期課程】

- ① 自身の専攻分野の専門的知識・技能を中心としつつ、関連近隣分野の基礎的素養をも修得し、幅広い見識から事象の本質を捉える「課題発見・分析・解決能力」
- ② デザインの視点を通じて自主的・自立的に研究や調査、分析等を実践できる「研究遂行能力」
- ③ 国内外の専門家や研究者とのコミュニケーションを図りながら、広く社会全体を俯瞰し、「リーダーシップ」を発揮できる確かな「調整力」及び「指導力」

2) 教育目的

【博士前期課程】

デザイン研究科は、地域社会全体に内在する様々な課題に対してデザインによる解決策を教育・研究することにより、高度で専門的なデザイン能力を持った職業人の育成を目指し、産業、芸術・文化等の振興、地域再生・活性化などの貢献を果たすことを目的としている。

【博士後期課程】

自立した研究者として独創的な視点から社会課題を発見するとともに、深く研究に取り組み、デザイン分野における学術理論及び技能の高度化の追究を通じて、社会への貢献を果たすことを目的としている。

3) 育成する人材像

【博士前期課程】

- ① 屋内外の様々な空間を対象とする空間デザイン分野において、人間の生活や自然環境に配慮しつつ、建築デザインや環境デザインに関する高度なデザイン能力を有する人材。
- ② 人間生活に欠かせない多様な製品並びにそれを支えるインタフェース（操作性）について、人間中心の生活システムとしての製品やそのインタフェースをデザインできる高度なデザイン能力を有する人材。
- ③ 人々の豊かなコミュニケーション活動を支えるコンテンツの制作と、多様なコンテンツのメディア展開を企画・構築し、運営に至るプロセスをプロデュースできる高度なデザイン能力を有する人材。

【博士後期課程】

- ① デザインを通じた組織構築や質改善のためのシステム開発を実践し、組織において指導的立場となり得る人材。
- ② 自立して研究活動を行い、デザインの学問的体系を構築できる人材。

5 看護学研究科の概要

1) 特色

近年、看護分野は専門分化しており、これに対応する卓越した実践能力を有する看護職及び統合的な調整能力を有する看護管理者の育成が急務となっている。

また、これら卓越した臨床能力及び看護の専門性のさらなる向上には、看護の未来を見据えた洞察力・創造力を有し、学問的理念を基盤として研究を推進する自立した教育者・研究者の果たす役割が大きい。

看護学研究科は、このような社会の要請に応える人材を育成し、札幌を発信源に、21世紀の看護の一端を担い、これを保健・医療・福祉分野へ発信できる、看護のバランス感覚に優れた人材の育成を目指している。

なお、本研究科では、平成17年9月5日中央教育審議会答申「新時代の大学院教育－国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて－」の4つの「大学院に求められる人材養成機能」のうち「高度な専門的知識・能力を持つ高度専門職業人の養成」及び「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者等の養成」に比重を置いて教育・研究に取り組むことを特色とし、以下の能力の修得を目指している。

【博士前期課程】

- ① 正確性・緻密性及び独創性を有する高度な臨床看護実践能力
- ② 高度な倫理観に基づき、専門看護分野において分析・判断・行動・評価ができる能力
- ③ 他職種と協働し、看護における将来展望に資する統合・調整ができる能力
- ④ 積雪寒冷地における健康づくり支援に取り組む能力

【博士後期課程】

- ① 看護に対する社会的課題を的確に認識し、将来を見据えた技術開発やシステムの検証・創出、組織での施策提言等を行う能力
- ② 豊かな人間性や広い視野に加え、高度な倫理観、専門知識や技能に裏打ちされる高い管理能力、指導能力
- ③ 高度な学識と臨床の両面から、看護学の基礎研究や応用研究に自立的に取り組み、実践科学としての看護学を追究する能力

2) 教育目的

【博士前期課程】

保健・医療・福祉分野における様々な課題に主体的に取り組む高度な看護実践能力を有する看護職及び総合的な調整能力を有する看護管理者の育成を目指し、市民の健康の保持増進への貢献を果たすことを目的としている。

【博士後期課程】

自立した研究者として、様々な看護現象に対して深く研究に取り組み、看護の枠組みの再構築やシステム開発、技術開発などを行い、看護分野における学術理論及び技能の高度化の追究を通じて、社会への貢献を果たすことを目的としている。

3) 育成する人材像

【博士前期課程】

- ① 保健・医療の中核を担う高度臨床看護実践者の育成（専門看護師を含む）
- ② 総合的に看護ケアをマネジメントする看護管理者の育成
- ③ 地域や在宅においては健康な生活と福祉の向上に率先して貢献する看護職の育成
- ④ 看護の学問的基盤をもとに実践知、経験知を統合できる看護研究者の育成
- ⑤ 次世代の看護教育の中心的担い手としての教育者の育成
- ⑥ 看護技術の開発及び評価能力を備える人材の育成
- ⑦ 幅広い視野のもとで新しい看護システムや制度の開発に資する人材の育成

【博士後期課程】

- ① 看護学の基礎研究・応用研究に自立的に取り組み、人材育成システムの検証・提言ができる研究者、開発者
- ② 確かな知識や技術、倫理観を基盤として、看護職者を志す人々に質の高い教育を実現し、さらに新たな教育制度や方法、カリキュラム等の創出に寄与できる教育者
- ③ 看護現象の分析・評価を通じて、看護システムをグローバルに構築・変革し、自ら行動する高度専門職業人及び看護管理者を養成・指導できる教育者・管理者

6 助産学専攻科の概要

1) 特色

助産学専攻科では、学士課程4年間に於いて培った自己研鑽力が発揮できる教育課程を特色としている。

その1つとして、選択科目を設定せず、学生個々に助産学に広く関連した課題を発見し、自ら学びを深める機会を創っている。加えて、この学びの更なる発展に向け文献研究を行う。

また、1年間の学修では、助産師に必要な基本的知識・技術を土台に、ハイリスク事例に対応できるような高度な知識・技術を熟練した助産師と専門医のもとで修得する。この学修では看護師資格が大いに役立っている。

2) 教育目的

札幌市立大学の理念である「人間重視を根幹とした人材の育成」と「地域社会への積極的な貢献」を基盤に、各種助産技術能力の正確な修得を目指し、次のような教育を目的とする。

- ① 助産師に必要な基本的かつ高度な知識が修得できる。
- ② 助産師に必要な基本的かつ正確な助産技術が修得できる。
- ③ 助産師に必要な知識と技術を統合し、助産ケアが実践できる。

3) 育成する人材像

北海道、札幌市においては、需給見通しで助産師の不足が見込まれる一方、産科医師の減少などにより、助産師の需要がさらに増加する可能性がある。また、少子高齢化が急速に進行する中で、より一層安全で安心な分娩介助が求められるとともに、思春期や更年期への相談など、助産師が担う役割は広範化・高度化する傾向にある。

このため、助産学専攻科においては、次のような人材を育成する。

- ① 助産に関する幅広く、高度な知識と正確な技術を有する助産師
- ② 地域社会における母子健康の向上に貢献できる助産師
- ③ 人間性豊かな助産師

7 平成24年度の特筆すべき事項

平成24年度、札幌市立大学では以下のような特筆すべき事項があった。

1) 新理事長体制の始動

平成24年4月より新理事長・学長に蓮見孝が就任した。蓮見新理事長は着任後より積極的に学内の意見を集約し、第二期中期目標ならびに第二期中期計画を踏まえ、第二期経営戦略を策定し、以下の4基本方針が示された。

- ① 「地域創成の核となる大学づくり（COC（Center of Community））」の積極的な推進
- ② 人の生活と社会の持続的充実・発展に寄与する教育・研究・社会貢献活動の三位一体による推進
- ③ デザインと看護の有機的連携と、連携成果をいかした新たな科学の基盤づくり
- ④ 大学の社会的プレゼンスを高めるための施策の推進

2) 第二期中期計画始動

第一期中期計画（平成18年度～平成23年度）終了に伴い、第二期中期計画が始動した。

札幌市が策定した「大学の存在感を高める」ならびに「目標の重点化」を基本とする第二期中期目標（平成24年度～平成29年度）を受け、札幌市立大学では第二期中期計画を策定し、「教育」「研究」「地域貢献、国際化、大学間連携」「業務運営の改善及び効率化」「財務内容の改善」「自己点検・評価」「その他業務運営」に関する目標を掲げた。平成24年度は63項目の年度計画を立案、実施した。

3) 大学院博士後期課程の開設

本学では、平成22年度から大学院デザイン研究科修士課程及び同看護学研究科修士課程を設置し、高度専門職業人、研究者及び教育者の育成に取り組んできた。

平成24年度から大学院博士後期課程を開設し、デザイン研究科、看護学研究科ともに、2年間の博士前期課程（修士課程）と3年間の博士後期課程からなる「区分制」大学院として再組織した。

4) 平成24年度「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」採択

北海道・東北地域の17大学が協同して、産官学連携による人材育成を目的とした文部科学省の「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」に応募し、「産官学連携による地

域・社会の未来を拓く人材の育成」の取組が採択された。この事業のもとで札幌市立大学では、早期キャリア教育、往還型研修、ワークショップ型インターンシップの実施やポートフォリオを活用したキャリア支援教育体制、キャリアデータベースの構築等に取り組むとともに、大学・企業連携による地域キャリア連携体制の強化を図っている。

また、この採択に伴い、通常のFDに加え、デザイン学部では教員向けのキャリア指導力強化のためのFD研修、看護学部でも、教員向けラーニングポートフォリオ指導力強化のためのFD研修を行っている。

5) 北海道立総合研究機構との連携協定の調印

北海道の農業、水産業、林業、工業、食品産業、環境、地質及び建築の広範にわたる研究開発や技術支援等を実施している地方独立行政法人北海道立総合研究機構（道総研）と連携協力協定を調印した。連携協力内容は「研究開発の推進」「研究者等の交流」「研究資源の共有」「広報活動等に係る協力」であり、今後は、この協定に基づき、研究シーズや人材、施設など研究資源を有効に活用して相互に連携・協力し、互いの研究・技術分野を補完・強化することにより、地域社会への貢献、道内産業の振興及び道民生活の向上を図ることを目的とし、活動を推進している。

6) 「コネキッド」が「キッズデザイン賞」を受賞し、「キッズワークショップカーニバルinふくしま」に参加

7月に地下歩行空間を使って開催した「あたま」「こころ」「からだ」を活かす遊びをテーマにした公開講座「コネキッド（connekid）」が、キッズデザイン協議会による「キッズデザイン賞」受賞した。その結果、福島で開催された「キッズワークショップカーニバルinふくしま」への参加要請があった。札幌市立大学の復興支援事業として参加し、多くの子どもたちに喜ばれるなど成果を挙げた。

7) 国際交流事業

提携校関連では、7月、又松大学（韓国）主催の「2012又松大学 日本姉妹大学生韓国語学・文化体験研修」にデザイン学部学生5名が参加した。8月、デザイン学部とのワークショップを相互に開催してきた台湾の華梵大学に札幌市立大学の学生15名を派遣し、華梵大学学生とのワークショップに参加した。9月には中国の承德医学院大学の学生5名を派遣する予定であったが、社会情勢の悪化を受け、やむなく延期とした。

この他、提携校以外との交流では、5月には「21世紀東アジア青少年大交流計画」の一環で看護学部生がカンボジア、ラオスの視察を行った。9月、ノボシビルスク建築美術大学（ロシア）とデザイン学部が連携し、空間デザインワークショップを開催した。3月には、国際交流基金に採択されたデザイン学部ならびに研究科の学生が、中国の大連にて「ふれあいの場 日中交流イベント」を実施した。

8) 桑園キャンパス増築

桑園キャンパスではPC教室、ロッカー室ならびに図書館の狭隘化が課題となっていたが、増築を行い、環境改善を行った。元ロッカー室のスペースに新たに設置した新学生ラウンジは広く、明るく、学生が過ごしやすいスペースとなっている。

9) 地域連携

平成24年度より地域連携専門員を1名雇用し、地域連携活動の促進を図った。11月22日には2度目の「SCU産学官研究交流会」を開催し、教員の研究成果を報告する事業を行った結果、130名を越す来場者があった。また、行政、民間企業等をデザイン学部及び研究科の卒業・修了展に招待する「卒展ツアー」を実施した。

平成23年度に協力協定を調印した札幌芸術の森とは、共催の公開講座の実施した他、札幌芸術の森主催事業の「福田繁雄展」と連動した企画展を図書館で開催し連携を図った。

10) 学会活動の誘致

平成24年度は、日本デザイン学会、日本看護管理学会、SAGAシンポジウムの主催校となり、本学ならびに札幌市内の会場にて学会を開催した。

11) その他の活動

昨年度の夕張に引き続き、NPO 法人 炭鉱の記憶推進事業団が主催する「奔別アートプロジェクト」のアートプロデューサーを上遠野敏教授が担当し、企画・制作・運営に関わった。このイベントは、北海道三笠市にある旧住友奔別炭鉱・選炭施設（石炭積み出しホッパー）をメイン会場にアートの力で炭鉱遺産の価値と記憶を甦らせ、炭鉱の記憶を掘り起こすことを目的とする。本学からは17チーム総勢28名の学生が参加した。

8 行事

前期開始	4月1日
入学式・後援会総会	4月3日
前期ガイダンス	4月4日
前期授業開始	4月5日
前期履修登録期間	4月5日～18日
健康診断	4月16日・18日
第1回オープンキャンパス	6月16日
デザイン学部編入学試験	7月21日
前期定期試験期間	7月31日～8月10日
夏季休業	8月11日～9月5日
看護学部編入学試験	9月8日
助産学専攻科入学試験	9月8日
第2回オープンキャンパス	9月22日
後期ガイダンス	9月28日
大学院デザイン研究科博士前期課程入学試験	9月29日・30日
大学院看護学研究科博士前期課程入学試験	9月29日
前期終了	9月30日
後期開始	10月1日
後期授業開始	10月1日
後期履修登録期間	10月1日～12日
大学祭	10月6日・7日
特別選抜入学試験（推薦入学・社会人）	11月24日
冬季休業	12月22日～1月6日
大学院看護学研究科博士後期課程入学試験	1月26日
後期定期試験期間	2月5日～18日
一般選抜入学試験（前期日程）	2月25日
特別選抜入学試験（私費外国人留学生）	2月25日
大学院デザイン研究科博士前期課程入学試験（2次募集）	3月2日
大学院看護学研究科博士前期課程入学試験（2次募集）	3月2日
大学院デザイン研究科博士後期課程入学試験	3月2日
春季休業	3月5日～31日
一般選抜入学試験（後期日程）	3月12日
卒業式	3月19日
後期終了	3月31日

II 教育活動

1 教育活動概要

デザイン学部・看護学部共通の「共通教育科目」は、デザインと看護の両学部共通とし、両学部
に共通する「人間重視」の考え方を基本に、両学部の学生と一緒に学習することにより、学部間の
交流を深め、異なる分野を志す学生が互いの発想に触れ、広い視野を持つことができるよう体系化
した。また、「共通教育科目」は、①大学における心構えや履修方法、あるいは基本的な学習の
進め方や研究方法を学ぶ「導入科目」、②文化や人間、社会に対する理解を目的とする「教養科
目」、③語学などのコミュニケーション・ツールの習得を目的とする「コミュニケーション科目」
の3つの区分で構成した。

デザイン学部の「専門教育科目」は、デザインの基礎的な理論や技術から、より専門性の高い知
識や技術、実践的・発展的な知識やデザインの方法までを体系的に理解できるよう、①「基本科
目」、②「展開科目」、③「発展科目」の3つの科目群で構成した。また、学芸員の資格を取得す
るために必要となる科目を「自由科目」という区分で開講した。その他、専門教育科目を履修する
上で必要となる技術や知識を補完する目的で「コンピュータ・グラフィクスによる日本建築の形と
色彩の研究」、「発想から具現まで」著書デザイナーのプレゼンテーション技術」といった特別
講義を実施した。

デザイン研究科博士前期課程の授業科目は、幅広い視野を身につけ、デザインと看護に共通する
関連領域の基礎的素養を涵養するため、看護学研究科と合同で行う「研究科連携科目」とデザイン
分野における高度専門職業人及び研究者・教育者に必要な専門知識・技術、研究方法を修得するた
めの「専門教育科目」の2つに区分し、「専門教育科目」はさらに「基本科目」、「展開科目」、
「実践科目」及び「修了研究」の4つの科目群で構成し、学生がデザインの高度かつ専門的な知
識・技術を学ぶことができるよう体系化した。

デザイン研究科博士後期課程では、「基本科目」、「展開科目」、「研究指導科目」の3つの科
目区分を設け、体系的なコースワークによる教育課程を編成し、研究指導を体系的・組織的に展開
する教育・研究環境を整備した。それにより、専門分野に関する高度な専門知識及び能力を修得さ
せるとともに、関連する分野の教育を行う。

2 共通教育・連携教育

1) 教育活動

授業科目	授業形態・ 時数	年次	担当教員
スタートアップ演習	演習 60 時間	1 年次 前期	◎原 俊彦 吉田 恵介 武田 亘明 張 浦華 町田 佳世子 福田 大年 松井 美穂 三谷 篤史 山田 良 長谷川 聡 松浦 和代 猪股 千代子 大野 夏代 貝谷 敏子 菊地 ひろみ 守村 洋 山田 典子 原井 美佳 山内 まゆみ 工藤 京子
哲学と倫理	講義 30 時間	1 年次 前期	★中島 孝一
体のしくみ	講義 30 時間	1 年次 前期	小宮 加容子
人間関係を考える	講義 30 時間	1 年次 前期	★椿 武愛子
自然科学を学ぶ	講義 30 時間	1 年次 前期	★小野田 波里
札幌を学ぶ	講義 30 時間	1 年次 前期	原 俊彦
英語 I A	演習 30 時間	1 年次 前期	町田 佳世子 松井 美穂 ★大野 拓恵 ★佐川 萌東子 ★清水 香
英語 I B	演習 30 時間	1 年次 前期	★白土 淳子 ★向井 千和子
英語 I C	演習 30 時間	1 年次 前期	★アイツバマイ モクター ★山田 パトリシア
日本語表現法	演習 30 時間	1 年次 前期	★安永 立子
基礎カウンセリング	演習 30 時間	1 年次 前期	★小坂 守孝
情報リテラシー I (デザイン学部)	演習 30 時間	1 年次 前期	★児玉 潤二郎
情報リテラシー I (看護学部)	演習 30 時間	1 年次 前期	★川畑 智子
情報リテラシー II (デザイン学部)	演習 30 時間	1 年次 前期	大淵 一博
情報リテラシー II (看護学部)	演習 30 時間	1 年次 後期	★川島 千明
宗教と思想	講義 30 時間	1 年次 後期	★堀 雅彦

授業科目	授業形態・ 時数	年次	担当教員
芸術と文化	講義 30 時間	1 年次 後期	★望月 由美子
心のしくみ	講義 30 時間	1 年次 後期	★藤 本 愉
動物のくらし	講義 30 時間	1 年次 後期	★桑 原 禎知
現代社会と家族	講義 30 時間	1 年次 後期	原 俊彦
現代社会と経済	講義 30 時間	1 年次 後期	★近 藤 公彦
統計の世界	講義 30 時間	1 年次 後期	原 俊彦
英語Ⅱ A	演習 30 時間	1 年次 後期	町田 佳世子 ★大野 拓恵 ★佐川 萌東子 ★清水 香
英語Ⅱ B	演習 30 時間	1 年次 後期	松 井 美穂 ★白土 淳子 ★向井 千和子
英語Ⅱ C	演習 30 時間	1 年次 後期	★アイツバマイ モクター ★山田 パトリシア
プレゼンテーション	演習 30 時間	1 年次 後期	◎武田 亘明 柿山 浩一郎
対人コミュニケーション	演習 30 時間	1 年次 後期	町田 佳世子
手話	演習 30 時間	1 年次 後期	★高 橋 淨
環境を考える	講義 30 時間	2 年次 前期	矢 部 和夫
生活と文化	講義 30 時間	2 年次 前期	★幅崎 麻紀子
ジェンダーを考える (ジェンダーと文化)	講義 30 時間	2 年次 前期	松 井 美穂
健康とスポーツ (デザイン学部)	講義 30 時間	2 年次 前期	★布 上 恭子
現代社会と国際関係	講義 30 時間	2 年次 前期	★青 木 隆直
ボランティア活動を考える	講義 30 時間	2 年次 前期	★小 沼 春日
中国語 (デザイン学部)	演習 30 時間	2 年次 前期	★照井 はるみ
ロシア語 (デザイン学部)	演習 30 時間	2 年次 前期	★ジダーノフ ウラジーミル
グループ・ダイナミックス	演習 30 時間	2 年次 前期	★山 口 司

I
概要II
教育活動III
研究活動IV
社会活動V
キャリア支援活動VI
入学者選抜結果VII
附属図書館VIII
役員会、経営審議会
及び教育研究審議会IX
学内運営の概要X
資料XI
教員業績一覧

授業科目	授業形態・ 時数	年次	担当教員
実践英語 A (デザイン学部)	演習 30 時間	2 年次 前期・後期	松井 美穂
実践英語 B (デザイン学部)	演習 30 時間	2 年次 前期	★アイツバマイ モクター
実践英語 A (看護学部)	演習 30 時間	2 年次 前期	町田 佳世子
実践英語 B (看護学部)	演習 30 時間	2 年次 前期・後期	★山田 パトリシア
健康とスポーツ (看護学部)	講義 30 時間	2 年次 後期	★布上 恭子
中国語 (看護学部)	演習 30 時間	2 年次 後期	★照井 はるみ
ロシア語 (看護学部)	演習 30 時間	2 年次 後期	★ジダーノフ ウラジーミル
教育を考える	講義 30 時間	2 年次 後期	★竹 中 健
日本国憲法を学ぶ	講義 30 時間	2 年次 後期	★岡田 信弘
韓国語	演習 30 時間	2 年次 後期	★松田 由紀

◎印：科目責任者（オムニバス形式などの場合）

★印：非常勤講師

3 デザイン学部

1) 平成24年度時間割

① 1年前期

		月		火		水	木	金
1	9:00 ～ 10:30	情報リテラシーⅡ		デザイン原論		情報リテラシーⅠ	体のしくみ	人間関係を考える
2	10:40 ～ 12:10	情報リテラシーⅡ		色彩設計論		情報リテラシーⅠ	英語ⅠA 英語ⅠB 日本語表現法	哲学と倫理
3	13:10 ～ 14:40	デザイン史		造形基礎 実習Ⅰ	表現基礎 実習 ※2010 年度以降 入学生	英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅠC	英語ⅠA 英語ⅠB 日本語表現法	札幌を学ぶ
4	14:50 ～ 16:20	造形基礎 実習Ⅰ	表現基礎 実習 ※2010 年度以降 入学生			英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅠC	スタートアップ演習	基礎カウンセリング 英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅠC
5	16:30 ～ 18:00			リメディアル	自然科学を学ぶ	基礎カウンセリング 英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅠC		

② 1年後期

		月		火		水	木	金
1	9:00 ～ 10:30	プログラミングⅠ		デザイン方法論		動物のくらし	工学基礎 ※2010年度以降入学生	手話
2	10:40 ～ 12:10	プログラミングⅠ		コンピュータ 基礎実習Ⅰ	造形基礎 実習Ⅰ	宗教と思想	現代社会と家族	手話
						芸術と文化		
3	13:10 ～ 14:40	コンピュータ 基礎実習Ⅰ	造形基礎 実習Ⅱ				英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅡC	英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅡC プレゼンテーション
4	14:50 ～ 16:20			感性科学		英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅡC	英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅡC プレゼンテーション	英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅡC 対人コミュニケーション
5	16:30 ～ 18:00			リメディアル		心のしくみ	統計の世界	英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅡC 対人コミュニケーション

③ 2年前期

		月		火	水	木		金	
1	9:00 ～ 10:30	デザイン材料 加工実習Ⅰ	コンピュータ 基礎実習Ⅱ A (3D)	現代社会と国際関係	感性デザイン論	創造産業論	デザイン解析論		
				ジェンダーを考える					
2	10:40 ～ 12:10			ロシア語	デザイン法規	設計製図基礎	健康とスポーツ		
				実践英語 A			実践英語 B		
3	13:10 ～ 14:40	プログラミングⅡ		ロシア語	認知科学	デザイン材料 加工実習Ⅰ	コンピュータ 基礎実習Ⅱ A (3D)	実践英語 B	
				実践英語 A					
4	14:50 ～ 16:20	ヒューマンファクターズ 入門		環境を考える	中国語				ユニバーサルデザイン論
5	16:30 ～ 18:00	近現代建築史		グループ・ダイナミックス	中国語			現代芸術論	
				ボランティア活動を考える					

④ 2年後期

		月	火	水	木		金	
					第1～7.5週	第7.5～15週		
1	9:00 ～ 10:30	広告デザイン	教育を考える	コンピュータグラフィクス				
		製品造形論						
2	10:40 ～ 12:10	空間デザイン論	韓国語	日本国憲法 を学ぶ	ヒューマンファクターズ	メディアビ ジネス	家具・ インテリア デザイン	コンピュータ基礎実習ⅡB (ムービー)
		コンテンツデザイン論						
		メディアデザイン論						
3	13:10 ～ 14:40	デザイン総合実習Ⅰ	実践英語A		コンピュータ基礎実習ⅡB (ムービー)	コンピュータ 基礎実習ⅡC (CAD)	デザイン 材料加工 実習Ⅰ	ダイナミックオブジェクトデザイン
								空間デザイン史
4	14:50 ～ 16:20			視聴覚教育メディア論 ※前半8回				
5	16:30 ～ 18:00		生涯学習概論 ※前半8回		博物館概論	エコロジーデザイン論		デザイン材料加工実習Ⅱ
						情報社会論		

⑤ 3年前期

		月	火	水	木	金
1	9:00 ～ 10:30	博物館実習		ブランド構築	一般構造 インタラクティブデザイン	物語デザイン論
2	10:40 ～ 12:10	博物館実習	アニメーション I	メディア文化史	コンテンツ制作システム論 都市計画論 製品計画論	環境計画論 マルチメディアコンテンツデザイン
3	13:10 ～ 14:40	博物館資料論	プロトタイプシミュレーション I 出版メディアデザイン	博物館資料論	建築計画論 感性情報学	景観デザイン論
4	14:50 ～ 16:20	博物館経営論	学外実習 A インターシップ 学外実習 B フィールドスタディ		知的財産権論	デザイン総合実習 II
5	16:30 ～ 18:00	博物館情報論	キャリアガイダンス	博物館経営論		

⑥ 3年後期

		月	火	水	木	金
1	9:00 ～ 10:30	寒冷地デザイン論	バーチャルリアリティ デジタルアーカイブ		インターネットメディアデザイン	
2	10:40 ～ 12:10	観光とデザイン	空間デザイン法規 製品デザイン史 アニメーション II	デジタル映像 コンテンツデザイン	建築生産 アートマネジメント論 プロトタイプシミュレーション II	構造力学
3	13:10 ～ 14:40	デジタル映像史		建築講法	メカトロ ニクス 構造材料 実験	メディア芸術論
4	14:50 ～ 16:20	地場産業振興論	学部連携演習		感性インタ ラクション デザイン	デザイン総合実習 III
5	16:30 ～ 18:00			キャリアガイダンス		

⑦ 4年前期

		月	火	水	木	金
1	9:00 ～ 10:30		デジタル音響デザイン			構造力学Ⅱ
2	10:40 ～ 12:10		放送メディアデザイン 建築設備計画	ネットワークシステムデザイン	コンテンツ流通技術	ヒューマンケア機器デザイン
3	13:10 ～ 14:40		住宅論	デザイン英語	デザインマネジメント	ロボテックス
4	14:50 ～ 16:20					
5	16:30 ～ 18:00		キャリアガイダンス			

⑧ 4年後期

		月	火	水	木	金
1	9:00 ～ 10:30					
2	10:40 ～ 12:10					
3	13:10 ～ 14:40					
4	14:50 ～ 16:20					
5	16:30 ～ 18:00			キャリアガイダンス		

2) カリキュラム

① 授業科目一覧

平成18～20年度（編入学生は平成20～22年度）入学生用

区 分	授業科目	シラバス 掲載頁	授業形態	単位数	配当年度(○は集中で開講)								卒業 要件 単位	
					必修	選択	自由	1年度		2年度		3年度		4年度
導入科目														2単位
文化に 対する 理 解	スタートアップ演習	89	演習	2										
	哲学と倫理	90	講義	2										
	宗教と思想	104	講義	2			○							
	芸術と文化	106	講義	2										
	環境を考える	117	講義	2					○					
	教育を考える	130	講義	2						○				
	生活と文化	118	講義	2	2				○					
	心のしくみ	106	講義	2										
	体のしくみ	91	講義	2			○							
	ジェンダーを考える	119	講義	2										
人間に 対する 理 解	人間関係を考える	92	講義	2			○							
	健康とスポーツ	120	講義	2						○				
	自然科学を学ぶ	93	講義	2		2								
	動物のしくみ	107	講義	2		2			○					
	現代社会と環境	108	講義	2										
	現代社会と国際関係	122	講義	2						○				
	現代社会と経済	109	講義	2										
	札幌を学ぶ	94	講義	2										
	ボランティア活動を考える	123	講義	2										
	統計の世界	110	講義	2										
社会に 対する 理 解	日本国憲法を学ぶ	131	講義	2							○			
	英語IA	95	演習	1		2								
	英語IB	96	演習	1										
	英語IC	97	演習	1				○						
	英語IIA	111	演習	1					○					
	英語IIB	112	演習	1						○				
	英語IIC	113	演習	1							○			
	実践英語A	124	演習	1						○	○			
	実践英語B	125	演習	1								○		
	韓国語	132	演習	1						○				
外国語	中国語	126	演習	1										
	ロシア語	128	演習	1							○			
	日本語表現法	98	演習	1			○							
	プレゼンテーション	114	演習	1				○						
	基礎カウンセリング	99	演習	1					○					
	対人コミュニケーション	115	演習	1										
	グループ・ダイナミクス	129	演習	1										
	手話	116	演習	1										
	情報リテラシーI	100	演習	1										
	情報リテラシーII	102	演習	1										
デザイン 基 礎	デザイン概論	133	講義	2										
	デザイン史	134	講義	2										
	デザイン方法論	137	講義	2						○				
	色彩設計論	135	講義	2										
	感性科学	138	講義	2						○				
	感性デザイン論	142	講義	2							○			
	ユニバーサルデザイン論	143	講義	2							○			
	創造産業論	144	講義	2								○		
	現代芸術論	145	講義	2									○	
	デザイン概論	146	講義	2										○
造形基礎	ヒューマン・ファクター入門	147	講義	2										
	認知科学	149	講義	2										
	デザイン法則	148	講義	2								○		
	エコロジーデザイン論	153	講義	2									○	
	情報社会論	154	講義	2										○
	造形基礎実習I	139	実習	2										○
	造形基礎実習II	136	実習	2										○
	造形基礎実習III (ムービー)	156	実習	2										○
	造形基礎実習IV (CAD)	157	実習	2										○
	情報基礎	プログラミングI	141	演習	2									
プログラミングII		152	演習	2										
コンピュータ基礎実習I (3D)		151	実習	2										
コンピュータ基礎実習II (ムービー)		156	実習	2										
コンピュータ基礎実習III (CAD)		157	実習	2										
プログラミングI		141	演習	2										
プログラミングII		152	演習	2										
コンピュータ基礎実習I (3D)		151	実習	2										
コンピュータ基礎実習II (ムービー)		156	実習	2										
コンピュータ基礎実習III (CAD)		157	実習	2										

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

平成21年度（編入学生は平成23年度）入学生用

区 分	授業科目	シラバス掲載 授業頁	単位数			配当年次(○は集中で開講)								卒業 要件 単位	
			必修	選択	自由	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期		
基礎科目	導入科目	スタートアップ演習	89	演習	2		○								2単位
	文化に 対する 理 解	哲学と倫理	90	講義	2										4単位 以上
		宗教と思想	104	講義	2		○								
		芸術と文化	105	講義	2										
		環境を考える	117	講義	2					○					
		暮らしを考える	130	講義	2						○				
	人間に 対する 理 解	生活と文化	118	講義	2	2				○					4単位 以上
		心のしくみ	106	講義	2					○					
		体のしくみ	91	講義	2		○								
		ジェンダーを考える	119	講義	2					○					
		人間関係を考える	92	講義	2					○					
	社会に 対する 理 解	健康とスポーツ	120	講義	2					○					6単位 以上
		自然科学を学ぶ	93	講義		2	2								
		動物のくらし	107	講義		2	2								
		現代社会と変遷	108	講義	2					○					
		現代社会と国際関係	122	講義	2						○				
外国語	英語	現代社会と経済	109	講義	2					○					6単位 以上
		礼儀を学ぶ	94	講義	2						○				
		ボランティア活動を考える	123	講義	2							○			
		統計の世界	110	講義	2								○		
		日本国憲法を学ぶ	131	講義	2									○	
	実践英語	英語A	95	演習	1			○							8単位 以上
		英語B	96	演習	1			○							
		英語C	97	演習	1				○						
		英語A	111	演習	1					○					
		英語B	112	演習	1						○				
	実践英語	実践英語A	124	演習	1					○					8単位 以上
		実践英語B	125	演習	1						○				
		韓国語	132	演習	1						○				
		中国語	126	演習	1							○			
		ロシア語	128	演習	1								○		
	コミュニケーション	情報技術	日本語表現法	98	演習	1			○						
プレゼンテーション			114	演習	1			○							
基礎カンパニング			99	演習	1				○						
対人コミュニケーション			115	演習	1					○					
グループ・ダイナミクス			129	演習	1						○				
デザイン系		手話	116	演習	1						○				16単位 以上
		情報リテラシーI	100	演習	1				○						
		情報リテラシーII	102	演習	1					○					
		デザイン概論	133	講義	2					○					
		デザイン史	134	講義	2						○				
応用基礎		デザイン方法論	137	講義	2					○					16単位 以上
		色彩設計論	135	講義	2						○				
		感性科学	138	講義	2							○			
		感性デザイン論	142	講義	2								○		
		ユニバーサルデザイン論	143	講義	2									○	
応用基礎		デザイン系	創造性基礎	144	講義	2								○	
	現代芸術論		145	講義	2									○	
	デザイン概論論		146	講義	2									○	
	ヒューマン・ファクターズ入門		147	講義	2									○	
	近現代建築史		247	講義	2									○	
	造形基礎	設計製図基礎	248	演習	2									○	6単位 以上
		認知科学	149	講義	2									○	
		デザイン法論	148	講義	2									○	
		エコロジーデザイン論	153	講義	2									○	
		情報社会論	154	講義	2									○	
	情報基礎	造形基礎実習I	136	実習	2									○	6単位 以上
		造形基礎実習II	139	実習	2									○	
		デザイン材料加工実習I	150	実習	2									○	
		デザイン材料加工実習II	155	実習	2									○	
		コンピュータ基礎実習I	140	実習	2									○	
	卒業研究	コンピュータ基礎実習IIA (3D)	151	実習	2									○	8単位 以上
コンピュータ基礎実習IIB (ムービー)		156	実習	2									○		
コンピュータ基礎実習IIC (CAD)		157	実習	2									○		
プログラミングI		141	演習	2									○		
プログラミングII		152	演習	2									○		

区 分	授業科目	シラバス 掲載頁	授業形態	単位数			配当年次(○は集中で開講)								卒業要 件単位
				必修	選択	自由	1年次		2年次		3年次		4年次		
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
空 間 デザイン系	空間デザイン論	158	講義	2											
	空間デザイン論	159	講義	2											
	景観デザイン論	177	講義	2					○						
	都市計画論	178	講義	2						○					
	空間デザイン法規	203	講義	2								○			
	構造力学	204	講義＋演習	2								○			
	建築製図	205	講義＋演習	2								○			
	構造・材料実験	206	実習	2											
	建築設備計画	232	講義＋演習	2									○		
	建築計画論	179	講義	2											
新 品 デザイン系	環境計画論	180	講義	2						○					
	家具・インテリアデザイン	160	講義＋演習	2											
	住宅論	233	講義	2											
	製品デザイン論	161	講義	2											
	製品デザイン史	207	講義	2								○			
	製品造型論	162	講義	2									○		
	製品計画論	181	講義	2								○			
	感性科学特講	182	講義	2									○		
	ヒューマンファクターズ	163	講義＋演習	2								○			
	インタラクションデザイン	183	講義＋演習	2											
展 望 デザイン系	メカトロニクス	208	講義＋演習	2							○				
	ロボティクス	234	講義＋演習	2											
	感性インタラクションデザイン	209	演習	2								○			
	プロセスマニキュレーションI	184	演習	2									○		
	プロセスマニキュレーションII	210	演習	2										○	
	ヒューマン・カネセグデザイン	235	演習	2									○		
	コンテンツデザイン論	164	講義	2							○				
	デジタル映像史	211	講義	2											
	コンテンツ制作システム論	185	講義	2											
	物語デザイン論	186	講義	2								○			
コンテンツ デザイン系	バーチャルリアリティ	212	講義	2								○			
	コンピュータグラフィクス	165	講義＋演習	2											
	アニメーションI	187	講義＋演習	2								○			
	アニメーションII	213	講義＋演習	2									○		
	デジタル音楽制作	236	講義＋演習	2											
	ダイナミックオブジェクトデザイン	166	演習	2								○			
	マルチメディアコンテンツデザイン	188	演習	2											
	デジタル映像コンテンツデザイン	214	演習	2											
	ネットワークシステムデザイン	237	演習	2											
	メディアデザイン論	167	講義	2											
メディア デザイン系	メディア文化史	189	講義	2							○				
	知的財産権論	190	講義	2											
	メディア芸術論	215	講義	2								○			
	アートマネジメント	216	講義	2											
	広告デザイン	168	講義＋演習	2							○				
	ブランド戦略	191	講義＋演習	2											
	デジタルアーカイブ	217	講義＋演習	2											
	コンテンツ流通技術	238	講義＋演習	2									○		
	メディアビジネス	169	演習	2								○			
	出版メディアデザイン	192	演習	2									○		
デザイン 応 用	インタ－ネットメディアデザイン	218	演習	2								○			
	放送メディアデザイン	239	演習	2											
	一般構造	249	講義＋演習	2											
	寒冷地デザイン論	219	講義	2								○			
	観光地デザイン	220	演習	2								○			
	地産地消発展戦略	221	講義	2									○		
	建築生産	220	講義＋演習	2											
	デザインマネジメント	240	演習	2									○		
	起業論	241	講義	2										○	
	デザイン実習	242	演習	2										○	
学 部 連 携	構造力学実習	251	講義＋演習	2											
	学外実習I (インターンシップ)	193	実習	2											
	学外実習II (フィールドスタディ)	194	実習	2								○			
	学外実習III	195	実習	2											
	学外実習IV	196	実習	2											
	学外実習V	197	実習	2											
	学外実習VI	198	実習	2											
	学外実習VII	199	実習	2											
	学外実習VIII	200	実習	2											
	学外実習IX	201	実習	2											
学 生 自 主 的 研 究 課 目	学外実習X	202	実習	3											
	学外実習XI	203	実習	1								○			
	学外実習XII	204	実習	1									○		
	学外実習XIII	205	実習	1										○	
	学外実習XIV	206	実習	1											○
	学外実習XV	207	実習	1											○
	学外実習XVI	208	実習	1											○
	学外実習XVII	209	実習	1											○
	学外実習XVIII	210	実習	1											○
	学外実習XIX	211	実習	1											○
学 生 自 主 的 研 究 課 目	学外実習XX	212	実習	1											○
	学外実習XXI	213	実習	1											○
	学外実習XXII	214	実習	1											○
	学外実習XXIII	215	実習	1											○
	学外実習XXIV	216	実習	1											○
	学外実習XXV	217	実習	1											○
	学外実習XXVI	218	実習	1											○
	学外実習XXVII	219	実習	1											○
	学外実習XXVIII	220	実習	1											○
	学外実習XXIX	221	実習	1											○
学 生 自 主 的 研 究 課 目	学外実習XXX	222	実習	1											○
	学外実習XXXI	223	実習	1											○
	学外実習XXXII	224	実習	1											○
	学外実習XXXIII	225	実習	1											○
	学外実習XXXIV	226	実習	1											○
	学外実習XXXV	227	実習	1											○
	学外実習XXXVI	228	実習	1											○
	学外実習XXXVII	229	実習	1											○
	学外実習XXXVIII	230	実習	1											○
	学外実習XXXIX	231	実習	1											○
学 生 自 主 的 研 究 課 目	学外実習XL	232	実習	1											○
	学外実習XL1	233	実習	1											○
	学外実習XL2	234	実習	1											○
	学外実習XL3	235	実習	1											○
	学外実習XL4	236	実習	1											○
	学外実習XL5	237	実習	1											○
	学外実習XL6	238	実習	1											○
	学外実習XL7	239	実習	1											○
	学外実習XL8	240	実習	1											○
	学外実習XL9	241	実習	1											○
学 生 自 主 的 研 究 課 目	学外実習XL10	242	実習	1											○
	学外実習XL11	243	実習	1											○
	学外実習XL12	244	実習	1											○
	学外実習XL13	245	実習	1											○
	学外実習XL14	246	実習	1											○
	学外実習XL15	247	実習	1											○
	学外実習XL16	248	実習	1											○
	学外実習XL17	249	実習	1											○
	学外実習XL18	250	実習	1											○
	学外実習XL19	251	実習	1											○
学 生 自 主 的 研 究 課 目	学外実習XL20	252	実習	1											○
	学外実習XL21	253	実習	1											○
	学外実習XL22	254	実習	1											○
	学外実習XL23	255	実習	1											○
	学外実習XL24	256	実習	1											○
	学外実習XL25	257	実習	1											○
	学外実習XL26	258	実習	1											○
	学外実習XL27	259	実習	1											○
	学外実習XL28	260	実習	1											○
	学外実習XL29	261	実習	1											○
学 生 自 主 的 研 究 課 目	学外実習XL30	262	実習	1											○
	学外実習XL31	263	実習	1											○
	学外実習XL32	264	実習	1											○
	学外実習XL33	265	実習	1											○
	学外実習XL34	266	実習	1											○
	学外実習XL35	267	実習	1											○
	学外実習XL36	268	実習	1											○
	学外実習XL37	269	実習	1											○
	学外実習XL38	270	実習	1											○
	学外実習XL39	271	実習	1											○
学 生 自 主 的 研 究 課 目	学外実習XL40	272	実習	1											○
	学外実習XL41	273	実習	1											○
	学外実習XL42	274	実習	1											○
	学外実習XL43	275	実習	1											○
	学外実習XL44	276	実習	1											○
	学外実習XL45	277	実習	1											

平成22～23年度（編入学生は平成24年度）入学生用

区 分	授業科目	シラバス 掲載頁	授業形態	単位数		配当年次(○は集中で開講)								卒業 要件 単位	
				必修	選択	自由	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期		4年次 後期
基礎科目	導入科目	スタートアップ演習	89	演習	2										2単位
	文化に 対する 理 解	哲学と倫理	90	講義	2										4単位 以上
		芸術と思想	104	講義	2		○								
		芸術と文化	105	講義	2		○								
		環境を考える	117	講義	2				○						
	人間に 対する 理 解	教育を考える	130	講義	2					○	○				4単位 以上
		生活と文化	118	講義	2	2			○						
		心のしくみ	106	講義	2				○						
		体のしくみ	91	講義	2				○						
		人間関係を考える	92	講義	2				○						
専門基礎科目	社会に 対する 理 解	健康とスポーツ	120	講義	2										6単位 以上
		自然科学を学ぶ	93	講義	2		○								
		動物の心と心	107	講義	2	2									
		現代社会と家族	108	講義	2				○						
	外国語	現代社会と国際関係	122	講義	2				○						8単位 以上
		現代社会と経済	109	講義	2				○						
		危機を学ぶ	94	講義	2				○						
		ボランティア活動を考える	123	講義	2				○						
	コミュニケーション・ 情報技術	統計の世界	110	講義	2		2			○					4単位 以上
		日本国憲法を学ぶ	131	講義			2			○					
専門基礎科目	デザイン基 礎	英語IA	95	演習	1					○					16単位 以上
		英語IB	96	演習	1				○						
		英語IC	97	演習	1				○						
		英語IIA	111	演習	1				○						
	造形基礎	英語IIB	112	演習	1				○						6単位 以上
		英語IIC	113	演習	1				○						
		実践英語A	124	演習	1				○	○					
		実践英語B	125	演習	1				○	○					
	情報基礎	韓国語	132	演習	1				○						8単位 以上
		中国語	126	演習	1				○						
		ロシア語	128	演習	1				○						
		日本語表現法	98	演習	1				○						
専門基礎科目	デザイン基 礎	プレゼンテーション	114	演習	1					○					16単位 以上
		基礎カンセリング	99	演習	1				○						
		対人コミュニケーション グループ・ダイナミクス	119	演習	1				○						
		手語	129	演習	1				○						
	造形基礎	情報デザインI	100	演習	1				○						6単位 以上
		情報デザインII	102	演習	1				○						
		デザイン原論	133	講義	2				○						
		デザイン史	134	講義	2				○						
	情報基礎	デザイン方法論	137	講義	2					○					8単位 以上
		色彩設計論	135	講義	2					○					
		感性科学	138	講義	2					○					
		工学基礎	253	講義	2					○					
専門基礎科目	デザイン基 礎	感性デザイン論	142	講義	2					○					16単位 以上
		ユニバーサルデザイン論	143	講義	2					○					
		創造産業論	144	講義	2					○					
		現代芸術論	145	講義	2					○					
	造形基礎	デザイン彫刻論	146	講義	2					○					6単位 以上
		ヒューマンファクター入門	147	講義	2					○					
		近現代建築史	247	講義	2					○					
		設計製図基礎	248	演習	2					○					
	情報基礎	認知科学	149	講義	2					○					8単位 以上
		デザイン法論	148	講義	2					○					
		エコロジ・デザイン論	153	講義	2					○					
		情報社会論	154	講義	2					○					
専門基礎科目	造形基礎	造形基礎実習I	136	実習	2					○					6単位 以上
		造形基礎実習II	252	実習	2					○					
		造形基礎実習III	139	実習	2					○					
		造形基礎実習IV	155	実習	2					○					
	情報基礎	コンピュータ基礎実習I	140	実習	2					○	○				8単位 以上
		コンピュータ基礎実習IIA (3D)	151	実習	2					○	○				
		コンピュータ基礎実習IIB (ムービー)	156	実習	2					○	○				
		コンピュータ基礎実習IIC (CAD)	157	実習	2					○	○				
	情報基礎	プログラミングI	141	演習	2					○	○				8単位 以上
		プログラミングII	152	演習	2					○	○				

区 分	授業科目	シラバス 掲載頁	授業形態	単位数		配当年次（○は集中で開講）								卒業 要件 単位	
				必修	選択	1年次		2年次		3年次		4年次			
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
空 間 デザイン系	空間デザイン論	158	講義	2											
	空間デザイン史	159	講義	2				○							
	空間デザイン論	177	講義	2					○						
	都市計画論	178	講義	2						○					
	空間デザイン法規	203	講義	2							○				
	構造力学	204	講義＋演習	2											
	建築構造	205	講義＋演習	2							○				
	構造・材料実験	206	実習	2							○				
	建築設備計画論	232	講義＋演習	2									○		
	建築計画論	179	講義	2											
製 品 デザイン系	環境計画論	180	講義	2						○					
	家具・インテリアデザイン	160	講義＋演習	2											
	住宅論	233	講義	2									○		
	製品デザイン論	161	講義	2				○							
	製品デザイン史	207	講義	2					○						
	製品造形論	202	講義	2											
	製品計画論	181	講義	2							○				
	感性情報学	182	講義	2								○			
	ヒューマンファクターズ	163	講義＋演習	2											
	インタラクティブデザイン	183	講義＋演習	2						○					
コンテン トデザイン系	メディアデザイン史	208	講義＋演習	2							○				
	ロゴタイプ	234	講義＋演習	2											
	感性インタラクションデザイン	209	演習	2								○			
	UI/UXデザイン・セッションI	184	演習	2											
	UI/UXデザイン・セッションII	210	演習	2											
	ヒューマン・コンピュータインタラクション	226	実習	2											
	コンテンツデザイン論	164	講義	2						○					
	デジタル映像史	211	講義	2											
	コンテンツ制作システム論	185	講義	2											
	物語デザイン論	186	講義	2											
メディア デザイン系	バーチャルリアリティ	212	講義	2											
	コンピュータグラフィクス	165	講義＋演習	2											
	アニメーションI	187	講義＋演習	2											
	アニメーションII	213	講義＋演習	2											
	デジタル音響デザイン	236	講義＋演習	2											
	ダイミミオグラフィックデザイン	166	演習	2					○						
	マルチメディアコンテンツデザイン	188	演習	2						○					
	デジタル映像コンテンツデザイン	214	演習	2											
	ネットワークシステムデザイン	237	演習	2											
	メディアデザイン論	167	講義	2					○						
デザイ ン応 用	メディア文化史	189	講義	2											
	知的財産権論	190	講義	2											
	メディア芸術論	215	講義	2							○				
	アートマネジメント論	216	講義	2											
	広告デザイン	168	講義＋演習	2					○						
	ブランド構築	191	講義＋演習	2											
	デジタルアートI	217	講義＋演習	2											
	コンテンツ流通技術	238	講義＋演習	2								○			
	メディアビジネス	169	演習	2						○					
	出版メディアデザイン	192	演習	2							○				
学芸員課程 選択科目	インターネットメディアデザイン	218	演習	2											
	インタ－ネットメディアデザイン	239	演習	2											
	一般構造	249	講義＋演習	2											
	第六地デザイン論	219	講義	2											
	観光とデザイン	220	演習	2											
	地域産業振興論	221	講義	2											
	健康生産	250	講義＋演習	2											
	デザインマネジメント	240	演習	2							○				
	起業論	241	講義	2											
	卒業研究	デザイン実技	242	演習	2								○		
構造力学II		251	講義＋演習	2									○		
学外実習A（インターンシップ）		193	実習	2						○					
学外実習B（フィールドスタディ）		194	実習	2							○				
卒業論文指導		222	実習	2								○			
デザイン総合実習I		170	実習	2						○					
デザイン総合実習II		195	実習	2											
デザイン総合実習III		223	実習	2							○				
卒業研究		卒業研究	243	演習	6								○		6単位
その他に 共通教育科目 の教育を考 える1の単位 修得が必要		学芸員課程 選択科目	252	実習	1								○		
	博物館概論	174	講義	2						○					
	博物館概論	175	講義	2							○				
	博物館経営論	199	講義	2											
	博物館資料論	200	講義	2											
	博物館情報論	201	講義	1											
	博物館実習	202	実習	3								○			
	芸術鑑賞教育メディア論	176	講義	2											
	卒業論文指導	222	実習	2											

I 概要

Ⅱ 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

Ⅷ 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X
資料

XI 教員業績一覽

平成24年度（編入学生は平成26年度）以降入学生用

[illegible]

区 分		授業科目	シラバス 掲載頁	授業形態	単位数			配当単位数(104単位中)						卒業 単位 単位			
					必修	選択	自由	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期		
空間 デザイン系		空間デザイン論	158	講義	2					○							
		空間デザイン史	159	講義	2					○							
		単純デザイン論	177	講義	2						○						
		都市計画論	178	講義	2							○					
		空間デザイン法概	203	講義	2								○				
		構造力学	204	講義＋演習	2									○			
		建築構造	205	講義＋演習	2										○		
		構造＋材料実験	206	実習	2											○	
		建築設備概論	232	講義＋演習	2											○	
		建築計画論	179	講義	2							○					
製品 デザイン系		建築計画論	180	講義	2							○					
		音楽・インテリゲンデザイン	160	講義＋演習	2												
		住宅論	233	講義	2									○			
		製品デザイン論	161	講義	2												
		製品デザイン史	207	講義	2								○				
		製品造形論	162	講義	2									○			
		製品計画論	181	講義	2								○				
		感性情報学	182	講義	2								○				
		ヒューマンファクターズ	163	講義＋演習	2												
		インタラクションデザイン	183	講義＋演習	2												
コンテンツ デザイン系		メタロコクス	208	講義＋演習	2												
		ロケットス	234	講義＋演習	2											○	
		感性イノベーションデザイン	209	演習	2												
		プロタイプシミュレーションⅠ	184	演習	2											○	
		プロタイプシミュレーションⅡ	210	演習	2												
		ヒューマンアーク規格デザイン	235	演習	2											○	
		コンテンツデザイン	164	講義	2									○			
		デジタル歴史学	211	講義	2												
		デジタル歴史学	185	講義	2									○			
		物語デザイン論	186	講義	2												
メディア デザイン系		バーチャルリアリティ	212	講義	2								○				
		コンピュータグラフィクス	165	講義＋演習	2												
		アニメーションⅠ	197	講義＋演習	2												
		アニメーションⅡ	213	講義＋演習	2									○			
		デジタル音響デザイン	236	講義＋演習	2												
		ダイナミックグラフィックデザイン	166	演習	2								○				
		デジタルメディア・コンテンツデザイン	188	演習	2												
		デジタル映像コンテンツデザイン	214	演習	2												
		ネットワークシステムデザイン	237	演習	2											○	
		メディアデザイン論	167	講義	2								○				
デザイン 応 用		メディア文化史	189	講義	2							○					
		知的財産権論	190	講義	2							○					
		メディア芸術論	215	講義	2												
		アートマネジメント論	216	講義	2												
		広告デザイン	168	講義＋演習	2							○					
		ブランド戦略	191	講義	2							○					
		デジタルマーケティング	217	講義＋演習	2												
		コンテンツ流通技術	238	講義＋演習	2												
		メディアビジネス	169	演習	2								○				
		出版メディアデザイン	192	演習	2												
学芸員課程 関連科目		インターネッティメディアデザイン	218	演習	2												
		放送メディアデザイン	239	演習	2												
		一般構造	240	講義＋演習	2							○					
		寒冷地デザイン論	219	講義	2								○				
		観光とデザイン	220	演習	2												
		気候環境資源費論	221	講義	2												
		建築衛生学	250	講義＋演習	2												
		デザインマネジメント	240	演習	2												
		起業論	241	講義	2									○			
		デザイン英語	242	演習	2										○		
学部連携 総合実習		建築力学	251	講義＋演習	2												
		学外実習A (インターンシップ)	193	実習	2							○					
		学外実習B (フィールドスタディ)	194	実習	2								○				
		学部連携演習	222	演習	2								○				
		デザイン総合実習Ⅰ	170	実習	2												
		デザイン総合実習Ⅱ	196	実習	2												
		デザイン総合実習Ⅲ	223	実習	2									○			
		卒業研究	243	演習	6												
		生活学習概論	352	講義		2											
		博物館概論	352	講義		2						○					
学芸員課程 関連科目		博物館概論	352	講義		2						○					
		博物館概論	352	講義		2							○				
		博物館概論	352	講義		2								○			
		博物館概論	352	講義		2									○		
		博物館概論	352	講義		2											
		博物館概論	352	講義		2											
		博物館概論	352	講義		2											
		博物館概論	352	講義		2											
		博物館概論	352	講義		2											
		博物館概論	352	講義		2											
博物館概論	352	講義		2													
博物館概論	352	講義		2													
博物館概論	352	講義		2													
博物館概論	352	講義		2													
博物館概論	352	講義		2													
博物館概論	352	講義		2													
博物館概論	352	講義		2													
博物館概論	352	講義		2													
博物館概論	352	講義		2													
博物館概論	352	講義		2													
博物館概論	352	講義		2													
博物館概論	352	講義		2													
博物館概論	352	講義		2													
博物館概論	352	講義		2													
博物館概論	352	講義		2													
博物館概論	352	講義		2													
博物館概論	352	講義		2													
博物館概論	352	講義		2													
博物館概論	352	講義		2													
博物館概論	352	講義		2													
博物館概論	352	講義		2													
博物館概論	352	講義		2													
博物館概論	352	講義		2													
博物館概論	352	講義		2													
博物館概論	352	講義		2													
博物館概論	352	講義		2													
博物館概論	352	講義		2													
博物館概論	352	講義		2													
博物館概論	352	講義		2													
博物館概論	352	講義		2													
博物館概論	352	講義		2													
博物館概論	352	講義		2													
博物館概論	352	講義		2													
博物館概論	352	講義		2						</							

注1)◎は集中 注2)属関科目(単位数の網掛け部分):所属コース系内の各科目は卒業要件単位となるため、すべて履修する必要があります。

② 卒業要件

区分	必修	選択	合計
共通教育科目	13	15	28
専門教育科目	40	56	96
(基本科目)	(26)	(14)	(40)
(展開科目)	(－)	(34)	(34)
(発展科目)	(14)	(8)	(22)
合計	53	71	124

3) 教育活動

授業科目	授業形態・ 時数	年次	担当教員
デザイン原論	講義 30 時間	1 年次 前期	◎吉田 恵介 原田 昭 武邑 光裕
デザイン史	講義 30 時間	1 年次 前期	★今村 信隆
色彩設計論	講義 30 時間	1 年次 前期	★中井 和子
造形基礎実習 I	実習 60 時間	1 年次 前期	◎石崎 友紀 ★外崎 由香
表現基礎実習	実習 60 時間	1 年次 前期	◎齋藤 利明 杉 哲夫 片山 めぐみ
デザイン方法論	講義 30 時間	1 年次 後期	酒井 正幸
感性科学	講義 30 時間	1 年次 後期	張 浦 華
造形基礎実習 II	実習 60 時間	1 年次 後期	◎上遠野 敏 上田 裕文 須之内 元洋
コンピュータ基礎実習 I	実習 60 時間	1 年次 後期	◎吉田 和夫 ★児玉 潤二郎
プログラミング I	演習 30 時間	1 年次 後期	大 淵 一 博
工学基礎	講義 30 時間	1 年次 後期	◎斉藤 雅也 細谷 多聞 ★菊池 規雄 ★和田 義則
感性デザイン論	講義 30 時間	2 年次 前期	張 浦 華
ユニバーサルデザイン論	講義 30 時間	2 年次 前期	酒井 正幸
創造産業論	講義 30 時間	2 年次 前期	武邑 光裕

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

授業科目	授業形態・ 時数	年次	担当教員
現代芸術論	講義 30 時間	2 年次 前期	上 遠 野 敏
デザイン解析論	講義 30 時間	2 年次 前期	中 原 宏
ヒューマンファクターズ入門	講義 30 時間	2 年次 前期	小宮 加容子
デザイン法規	講義 30 時間	2 年次 前期	★津 幡 笑
認知科学	講義 30 時間	2 年次 前期	片山 めぐみ
デザイン材料加工実習 I	実習 60 時間	2 年次 前期	◎上 遠 野 敏 石 崎 友 紀 齋 藤 利 明
コンピュータ基礎実習 II A (3D)	実習 60 時間	2 年次 前期	細 谷 多 聞 ★増 田 直 也
プログラミング II	演習 30 時間	2 年次 前期	石 井 雅 博
近現代建築史	講義 30 時間	2 年次 前期	◎羽 深 久 夫 那 須 聖 山 田 良 ★池 上 重 康 ★小 澤 丈 夫 ★武 田 明 純 ★中 渡 憲 彦
設計製図基礎	演習 30 時間	2 年次 前期	◎山 田 良 那 須 聖
エコロジーデザイン論	講義 30 時間	2 年次 後期	矢 部 和 夫
情報社会論	講義 30 時間	2 年次 後期	武 田 亘 明
デザイン材料加工実習 II	実習 60 時間	2 年次 後期	◎石 崎 友 紀 ★川 上 理 恵
コンピュータ基礎実習 II B (ムービー)	実習 60 時間	2 年次 後期	望 月 澄 人 ★河 原 大
コンピュータ基礎実習 II C (CAD)	実習 60 時間	2 年次 後期	◎城 間 祥 之 ★那 須 聖
空間デザイン論	講義 30 時間	2 年次 後期	◎吉 田 恵 介 山 田 良
空間デザイン史	講義 30 時間	2 年次 後期	羽 深 久 夫
家具・インテリアデザイン	講義 + 演習 30 時間	2 年次 後期	◎片山 めぐみ ★中 村 昇 ★長 谷 川 演
製品デザイン論	講義 30 時間	2 年次 後期	◎長 谷 川 聡 杉 哲 夫
製品造形論	講義 30 時間	2 年次 後期	石 崎 友 紀

授業科目	授業形態・ 時数	年次	担当教員
ヒューマンファクターズ	講義＋ 演習 30 時間	2 年次 後期	小宮 加容子
コンテンツデザイン論	講義 30 時間	2 年次 後期	◎望月 澄人 城間 祥之 石井 雅博 齋藤 利明 細谷 多聞 大渕 一博 福田 大年
コンピュータグラフィクス	講義＋ 演習 30 時間	2 年次 後期	福田 大年
ダイナミックオブジェクトデザイン	演習 30 時間	2 年次 後期	◎齋藤 利明 細谷 多聞
メディアデザイン論	講義 30 時間	2 年次 後期	◎武邑 光裕 上遠野 敏 吉田 和夫 武田 亘明 石田 勝也 須之内 元洋
広告デザイン	講義＋ 演習 30 時間	2 年次 後期	吉田 和夫
メディアビジネス	演習 30 時間	2 年次 後期	武邑 光裕
デザイン総合実習Ⅰ (空間デザインコース)	実習 60 時間	2 年次 後期	◎山田 良 中原 宏 小西 敏正 羽深 久夫 矢部 和夫 吉田 恵介 斉藤 雅也 上田 裕文 片山 めぐみ
デザイン総合実習Ⅰ (製品デザインコース)	実習 60 時間	2 年次 後期	◎杉 哲夫 酒井 正幸 石崎 友紀 張 浦華 柿山 浩一郎 小宮 加容子 三谷 篤史 長谷川 聡
デザイン総合実習Ⅰ (コンテンツデザインコース)	実習 60 時間	2 年次 後期	◎細谷 多聞 大渕 一博
デザイン総合実習Ⅰ (メディアデザインコース)	実習 60 時間	2 年次 後期	◎吉田 和夫 上遠野 敏 武田 亘明 石田 勝也
生涯学習概論	講義 15 時間	2 年次 後期	★木村 純
景観デザイン論	講義 30 時間	3 年次 前期	◎吉田 恵介 ★中野 美代子 ★三宅 理一
都市計画論	講義 30 時間	3 年次 前期	中原 宏
建築計画論	講義 30 時間	3 年次 前期	那須 聖
環境計画論	講義 30 時間	3 年次 前期	◎齋藤 雅也 矢部 和夫 吉田 恵介
製品計画論	講義 30 時間	3 年次 前期	柿山 浩一郎
感性情報学	講義 30 時間	3 年次 前期	張 浦華

I
概要II
教育活動III
研究活動IV
社会活動V
キャリア支援活動VI
入学
者選
抜結
果VII
附
属
図
書
館VIII
役員
会・
経営
審議
会
及
び
教
育
研
究
審
議
会IX
学
内
運
営
の
概
要X
資
料XI
教
員
業
績
一
覧

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

授業科目	授業形態・ 時数	年次	担当教員
インタラクショndeザイン	講義＋ 演習 30 時間	3 年次 前期	柿山 浩一郎
プロトタイプシミュレーション I	演習 30 時間	3 年次 前期	三谷 篤史
コンテンツ制作システム論	講義 30 時間	3 年次 前期	福田 大年
物語デザイン論	講義 30 時間	3 年次 前期	望月 澄人
アニメーション I	講義＋ 演習 30 時間	3 年次 前期	望月 澄人
マルチメディアコンテンツデザイン	演習 30 時間	3 年次 前期	細谷 多聞
メディア文化史	講義 30 時間	3 年次 前期	武田 亘明
知的財産権論	講義 30 時間	3 年次 前期	◎★安河内 正文 ★北尾 知道 ★中村 直樹 ★野呂 洋子 ★濱口 英樹 ★武藤 伸樹 ★八代 峰樹
ブランド構築	講義＋ 演習 30 時間	3 年次 前期	武邑 光裕
出版メディアデザイン	演習 30 時間	3 年次 前期	◎吉田 和夫 ★橘 匡子
一般構造	講義＋ 演習 30 時間	3 年次 前期	羽深 久夫
学外実習 A (インターンシップ)	実習 60 時間	3 年次 前期(学外 での実習 は集中)	◎杉 哲夫 斉藤 雅也 石田 勝也 福田 大年
学外実習 B (フィールドスタディ)	実習 60 時間	3 年次 前期(学外 での実習 は集中)	◎吉田 和夫 上田 裕文 大渕 一博 長谷川 聡
デザイン総合実習 II (空間デザインコース)	実習 60 時間	3 年次 前期	◎那 須 聖 中原 宏 小西 敏正 羽深 久夫 矢部 和夫 吉田 恵介 斉藤 雅也 上田 裕文 片山 めぐみ 山田 良
デザイン総合実習 II (製品デザインコース)	実習 60 時間	3 年次 前期	◎張 浦 華 酒井 正幸 石崎 友紀 杉 哲夫 柿山 浩一郎 小宮 加容子 三谷 篤史 長谷川 聡
デザイン総合実習 II (コンテンツデザインコース)	実習 60 時間	3 年次 前期	◎城間 祥之 石井 雅博 齋藤 利明

授業科目	授業形態・ 時数	年次	担当教員
デザイン総合実習Ⅱ (メディアデザインコース)	実習 60 時間	3 年次 前期	◎吉田 和夫 上遠野 敏 須之内 元洋
空間デザイン法規	講義 30 時間	3 年次 後期	★小林 宏
構造力学	講義＋ 演習 30 時間	3 年次 後期	★石丸 修二
建築構法	講義＋ 演習 30 時間	3 年次 後期	★正田 亨
構造・材料実験	実習 60 時間	3 年次 後期	羽深 久夫
製品デザイン史	講義 30 時間	3 年次 後期	杉 哲夫
メカトロニクス	講義＋ 演習 30 時間	3 年次 後期	三谷 篤史
感性インタラクションデザイン	演習 30 時間	3 年次 後期	◎三谷 篤史 張 浦華
プロトタイプシミュレーションⅡ	演習 30 時間	3 年次 後期	柿山 浩一郎
デジタル映像史	講義 30 時間	3 年次 後期	武邑 光裕
バーチャルリアリティ	講義 30 時間	3 年次 後期	石井 雅博
アニメーションⅡ	講義＋ 演習 30 時間	3 年次 後期	福田 大年
デジタル映像コンテンツデザイン	演習 30 時間	3 年次 後期	福田 大年
メディア芸術論	講義 30 時間	3 年次 後期	武邑 光裕
アートマネジメント論	講義 30 時間	3 年次 後期	上遠野 敏
デジタルアーカイブ	講義＋ 演習 30 時間	3 年次 後期	須之内 元洋
インターネットメディアデザイン	演習 30 時間	3 年次 後期	須之内 元洋
寒冷地デザイン論	講義 30 時間	3 年次 後期	◎斉藤 雅也 山田 良

I
概要II
教育活動III
研究活動IV
社会活動V
キャリア支援活動VI
入学
者選
抜結
果VII
附
属
図
書
館VIII
役員会、経営審議会
及び教育研究審議会IX
学
内
運
営
の
概
要X
資
料XI
教
員
業
績
一
覧

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

授業科目	授業形態・ 時数	年次	担当教員
観光とデザイン	演習 30 時間	3 年次 後期	◎上田 裕文 ★小野 有五 ★敷田 麻美
地場産業振興論	講義 30 時間	3 年次 後期	★内田 純一
建築生産	講義＋ 演習 30 時間	3 年次 後期	★中村 欣嗣
学部連携演習	演習 60 時間	3 年次 後期	◎矢部 和夫 石井 雅博 杉 哲夫 武邑 光裕 石田 勝也 上田 裕文 大渕 一博 柿山 浩一郎 片山 めぐみ 須之内 元洋 ◎宮崎 みち子 山本 勝則 村松 真澄 吉川 由希子 神島 滋子 櫻井 繭子 田中 広美 藤井 瑞恵 鶴木 恭子 照井 レナ
デザイン総合実習Ⅲ (空間デザインコース)	実習 60 時間	3 年次 後期	◎山田 良 中原 宏 小西 敏正 羽深 久夫 矢部 和夫 吉田 恵介 斉藤 雅也 上田 裕文 片山 めぐみ
デザイン総合実習Ⅲ (製品デザインコース)	実習 60 時間	3 年次 後期	◎柿山 浩一郎 酒井 正幸 石崎 友紀 杉 哲夫 張 浦華 小宮 加容子 三谷 篤史 長谷川 聡
デザイン総合実習Ⅲ (コンテンツデザインコース)	実習 60 時間	3 年次 後期	◎望月 澄人 福田 大年
デザイン総合実習Ⅲ (メディアデザインコース)	実習 60 時間	3 年次 後期	◎吉田 和夫 上遠野 敏 武邑 光裕 武田 亘明 石田 勝也 須之内 元洋
建築設備計画	講義＋ 演習 30 時間	4 年次 前期	斉藤 雅也
住宅論	講義 30 時間	4 年次 前期	山田 良
ロボティクス	講義＋ 演習 30 時間	4 年次 前期	三谷 篤史
ヒューマンケア機器デザイン	演習 30 時間	4 年次 前期	◎小宮 加容子 杉 哲夫 張 浦華
デジタル音響デザイン	講義＋ 演習 30 時間	4 年次 前期	◎★久保 壽光 ★伊藤 博之
ネットワークシステムデザイン	演習 30 時間	4 年次 前期	大渕 一博
コンテンツ流通技術	講義＋ 演習 30 時間	4 年次 前期	石田 勝也
放送メディアデザイン	演習 30 時間	4 年次 前期	武邑 光裕

授業科目	授業形態・ 時数	年次	担当教員
デザインマネジメント	演習 30 時間	4 年次 前期	杉 哲 夫
起業論	講義 30 時間	4 年次 前期	◎★佐々木 信 ★小林 元
デザイン英語	演習 30 時間	4 年次 前期	松井 美穂
構造力学Ⅱ	講義＋ 演習 30 時間	4 年次 前期	★石丸 修二
卒業研究 (空間デザインコース)	演習 90 時間	4 年次 全期	◎羽深 久夫 中原 宏 矢部 和夫 吉田 恵介 斉藤 雅也 上田 裕文 片山 めぐみ 山田 良 ★那須 聖
卒業研究 (製品デザインコース)	演習 90 時間	4 年次 全期	◎石崎 友紀 酒井 正幸 杉 哲夫 張 浦華 柿山 浩一郎 小宮 加容子 三谷 篤史 長谷川 聡
卒業研究 (コンテンツデザインコース)	演習 90 時間	4 年次 全期	◎望月 澄人 城間 祥之 石井 雅博 齋藤 利明 細谷 多聞 大渕 一博 福田 大年
卒業研究 (メディアデザインコース)	演習 90 時間	4 年次 全期	◎吉田 和夫 上遠野 敏 武邑 光裕 武田 亘明 石田 勝也 須之内 元洋
博物館概論	講義 30 時間	2 年次 後期	◎矢部 和夫 ★佐々木 亨 ★佐藤 友哉 ★山田 悟郎
視聴覚教育メディア論	講義 15 時間	2 年次 後期	武田 亘明
博物館経営論	講義 15 時間	3 年次 前期	◎矢部 和夫 ★佐々木 亨 ★佐藤 幸宏
博物館資料論	講義 30 時間	3 年次 前期	◎★古沢 仁 ★亀谷 隆 ★佐藤 幸宏
博物館情報論	講義 15 時間	3 年次 前期	武邑 光裕
博物館実習	実習 90 時間	3 年次 前期(学 外での 実習は 集中)	◎矢部 和夫 ★石井 淳 ★佐藤 幸宏 ★吉崎 元章

◎印：科目責任者（オムニバス形式などの場合）

★印：非常勤講師

I
概要

II
教育活動

III
研究活動

IV
社会活動

V
キャリア支援活動

VI
入学選抜結果

VII
附属図書館

VIII
役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX
学内運営の概要

X
資料

XI
教員業績一覧

4 看護学部

1) 平成24年度時間割

① 1年前期

		月		火	水	木	金
		前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)				
1	9:00 ～ 10:30				情報リテラシーⅠ	体のしくみ	人間関係を考える
2	10:40 ～ 12:10	薬理学		看護観察技術論	情報リテラシーⅠ	英語ⅠA 英語ⅠB 日本語表現法	哲学と倫理
3	13:10 ～ 14:40	形態機能学Ⅰ			英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅠC	英語ⅠA 英語ⅠB 日本語表現法	札幌を学ぶ
4	14:50 ～ 16:20	形態機能学Ⅰ		感染予防論	英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅠC	スタートアップ演習	基礎カウンセリング 英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅠC
5	16:30 ～ 18:00	看護学原論	地域保健学概論	人間発達援助論	自然科学を学ぶ		基礎カウンセリング 英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅠC

※集中講義：看護初期実習 6月4日（月）～6月8日（金）
※看護学部専門教育科目は、開講曜日時間を週によって変更する場合がある。

② 1年後期

		月		火		水	木	金
		前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)			
1	9:00 ～ 10:30	病理病態学			看護過程論	動物のくらし		情報リテラシーⅡ
								手話
2	10:40 ～ 12:10	病理病態学		看護理論	看護過程論	宗教と思想	現代社会と家族	情報リテラシーⅡ
						芸術と文化		手話
3	13:10 ～ 14:40	基礎看護技術論		形態機能学Ⅱ		英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅡC	英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅡC プレゼンテーション	現代社会と経済
4	14:50 ～ 16:20	基礎看護技術論		形態機能学Ⅱ		英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅡC	英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅡC プレゼンテーション	英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅡC 対人コミュニケーション
5	16:30 ～ 18:00					心のしくみ	統計の世界	英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅡC 対人コミュニケーション

※集中講義：基礎看護学臨地実習Ⅰ 10月15日（月）～10月19日（金）
※看護学部専門教育科目は、開講曜日時間を週によって変更する場合がある。

③ 2年前期

		月		火	水		木		金	
		前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)		前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)
1	9:00 ～ 10:30	精神看護学 概論	人間工学	現代社会と国際関係 ジェンダーを考える	生命科学		成人看護学 概論	家族社会学	老年看護学 概論	環境保健
2	10:40 ～ 12:10	疾病治療学B		実践英語A 実践英語B	医療情報		疾病治療学A		臨床栄養学	
3	13:10 ～ 14:40	公衆衛生学	成人看護 援助論	実践英語A 実践英語B	生命倫理	社会福祉学	疾病治療学概論		症状マネジメント論	
4	14:50 ～ 16:20	公衆衛生学	成人看護 援助論	環境を考える		社会福祉学			症状マネジメント論	
5	16:30 ～ 18:00			グループ・ダイナミクス ボランティア活動を考える						

※集中講義：生活と文化 8月16日・17日・20日・21日開講予定

基礎看護学臨地実習Ⅱ 5月21日（月）～6月1日（金）

※看護学部専門教育科目は、開講曜日時間を週によって変更する場合がある。

④ 2年後期

		月		火	水		木		金	
		前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)		前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)
1	9:00 ～ 10:30	在宅看護学 概論	精神看護 援助論	教育を考える			臨床薬理学		健康とスポーツ	
2	10:40 ～ 12:10	母性看護学 概論	精神看護 援助論	日本国憲法を学ぶ			小児看護学 概論	看護倫理学	臨床心理学	
3	13:10 ～ 14:40	感染管理論		中国語 ロシア語	疾病治療学C		老年看護 援助論	がん看護学	援助的 人間関係論	在宅看護 援助論
4	14:50 ～ 16:20			中国語 ロシア語	韓国語		老年看護 援助論	がん看護学	援助的 人間関係論	在宅看護 援助論
5	16:30 ～ 18:00			実践英語B				チーム 医療論		

※集中講義：成人看護学臨地実習Ⅰ 10月22日（月）～11月9日（金）

※看護学部専門教育科目は、開講曜日時間を週によって変更する場合がある。

⑤ 3年前期

		月		火		水		木		金	
		前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)
1	9:00 ～ 10:30	認知症ケア		小児看護 援助論		在宅看護 技術論				保健統計	
2	10:40 ～ 12:10	認知症ケア		小児看護 援助論		在宅看護 技術論		地域看護学 概論		保健統計	
3	13:10 ～ 14:40	成人看護 技術論		母性看護 援助論		保健医療 福祉行政論		リハビリ テーショ ン看護学		精神看護 技術論	
4	14:50 ～ 16:20	成人看護 技術論		母性看護 援助論		保健医療 福祉行政論		リハビリ テーショ ン看護学		精神看護 技術論	
5	16:30 ～ 18:00										

※集中講義：老年看護学臨地実習Ⅰ 5月7日（月）～5月11日（金）

成人看護学臨地実習Ⅱ、精神看護学臨地実習、在宅看護学臨地実習 6月18日（月）～7月27日（金）

※看護学部専門教育科目は、開講曜日時間を週によって変更する場合があります。

⑥ 3年後期

		月		火		水		木		金	
		前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)
1	9:00 ～ 10:30	研究方法論		健康教育 指導法		看護教育学		地域看護 援助論		小児看護 技術論	
2	10:40 ～ 12:10	研究方法論		健康教育 指導法		透析ケア		地域看護 援助論		小児看護 技術論	
3	13:10 ～ 14:40	地域看護 援助論						母性看護 技術論		重症集中 ケア	
4	14:50 ～ 16:20	地域看護 援助論		学部連携演習 ※一部集中で開講します。				母性看護 技術論		老年看護 技術論	
5	16:30 ～ 18:00	救急看護学						放射線医療 管理論		老年看護 技術論	

※集中講義：母性看護学臨地実習、小児看護学臨地実習、老年看護学臨地実習Ⅱ 11月19日（月）～12月14日（金）、1月14日（月）～1月25日（金）

母性看護学臨地実習の一部 12月17日（月）～12月21日（金）、1月28日（月）～2月1日（金）

※看護学部専門教育科目は、開講曜日時間を週によって変更する場合があります。

⑦ 4年前期

		月		火		水		木		金	
		前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)
1	9:00 ～ 10:30	国際保健学		パリアティブケア		看護管理学				ヘルスプロ モーション 活動論	
2	10:40 ～ 12:10	現代専門職論		災害看護学		看護管理学				ヘルスプロ モーション 活動論	
3	13:10 ～ 14:40	地域看護 技術論		医療経営学		看護情報学		卒業研究		医療安全 管理論	
4	14:50 ～ 16:20	地域看護 技術論		寒冷地医療				卒業研究		ペリネタルケア	
5	16:30 ～ 18:00			国際看護学							

※集中講義：地域看護学臨地実習ⅠⅡ 6月11日（月）～7月20日（金）

※看護学部専門教育科目は、開講曜日時間を週によって変更する場合がある。

⑧ 4年後期

		月		火		水		木		金	
		前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)
1	9:00 ～ 10:30										
2	10:40 ～ 12:10										
3	13:10 ～ 14:40							卒業研究			
4	14:50 ～ 16:20							卒業研究			
5	16:30 ～ 18:00										

※集中講義：ヘルスケアマネジメント実習 9月24日（月）～10月12日（金）

※看護学部専門教育科目は、開講曜日時間を週によって変更する場合がある。

2) カリキュラム

① 授業科目一覧

平成21～23年度(編入学生は平成23～25年度)入学生用

区分	授業科目	シラバス掲載頁	授業形態	単位数	必修	選択	自由	1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	
導入科目	スタートアップ演習	89	演習	2								2単位
	数学と論理	90	講義	2			○					
	宗教と思想	104	講義	2				○				
	芸術と文化	105	講義	2				○				4単位以上
	職業と考える	117	講義	2					○			
文化に対する理解	教育を考える	130	講義	2						○		
	生活と文化	118	講義	2			○					
	心のしくみ	106	講義	2				○				
	物のしくみ	91	講義	2				○				4単位以上
	ジェンダーを考える	119	講義	2					○			
人間に対する理解	人間関係を考える	92	講義	2				○				
	健康とスポーツ	121	講義	2						○		
	自然科学の学び	93	講義	2				○				
	動物のくらし	107	講義	2				○				
	現代社会と家族	108	講義	2					○			
社会に対する理解	現代社会と国際関係	122	講義	2						○		
	現代社会と経済	109	講義	2							○	6単位以上
	経済学Ⅰ	94	講義	2								
	ボランティア活動と考える	123	講義	2								
	統計の世界	110	講義	2					○			
外国語	日本語表現法を学ぶ	131	演習	2					○			
	英語IA	95	演習	1						○		
	英語IB	96	演習	1							○	
	英語IC	97	演習	1								○
	英語DA	111	演習	1								○
外国語	英語DB	112	演習	1								○
	英語DC	113	演習	1								○
	実践英語A	124	演習	1								○
	実践英語B	125	演習	1								○
	韓国語	132	演習	1								○
コミュニケーション・情報技術	中国語	127	演習	1								○
	ロシア語	128	演習	1								○
	日本語表現法	98	演習	1					○			
	プレゼンテーション	114	演習	1						○		
	基礎カンパニング	99	演習	1							○	
人間と命	対人コミュニケーション	115	演習	1								○
	グループ・ダイナミクス	129	演習	1								○
	手話	116	演習	1								○
	情報リテラシーⅠ	101	演習	1						○		
	情報リテラシーⅡ	103	演習	1							○	
健康と健康障害と予防	形態機能学Ⅰ	255	演習	2					○			
	形態機能学Ⅱ	263	演習	2						○		
	生命科学	259	講義	1							○	
	生命倫理	270	講義	1								○
	環境保健	271	講義	1								○
学部連携	人間工学	272	講義	1								○
	新理容	256	講義	1								○
	臨床薬理学	287	演習	1								○
	臨床栄養学	273	演習	1								○
	西洋美術学	264	演習	2								○
健康と健康障害と予防	疾病治療学Ⅰ	274	演習	1								○
	疾病治療学Ⅱ	276	演習	1								○
	疾病治療学Ⅲ	288	演習	1								○
	公衆衛生学	257	講義	1								○
	公衆衛生学Ⅱ	277	演習	1								○
学部連携	社会福祉学	278	講義	1								○
	家庭社会学	279	講義	1								○
	チーム医療論	289	講義	1								○
	臨床心理学	291	講義	1								○
	地域保健学概論	258	講義	1								○
保健と医療と福祉	保健医療福祉行政論	302	演習	1								○
	保健統計	303	演習	1								○
	医療情報	280	演習	1								○

区分	授業科目	シラバス掲載頁	授業形態	単位数	必修	選択	自由	配当年次(○は集中で開講)								卒業要件単位		
								1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期			
基礎的素養と専門的素養	ヒューマンケアの基本	看護学概論	259	講義	1													
		看護理論	265	講義	1				○									
		援助的人間関係論	292	演習	1						○							
		人間発達援助論	260	演習	1				○									7単位
		看護初期実習	261	実習	1				○									
		看護倫理学	293	講義	1													
		健康教育指導法	316	演習	1								○					
		看護過程論	266	演習	1				○									
		看護観察技術論	262	演習	1				○									
		認知マインドマップ	281	演習	2													
	看護の基本的展開	基礎看護技術論	267	演習	2						○							10単位
		基礎看護学臨床実習Ⅰ	268	実習	1				○									
		基礎看護学臨床実習Ⅱ	282	実習	2						○							
		研究力講座	317	演習	1								○					
		小児看護学概論	294	講義	1									○				
		小児看護援助論	304	演習	1										○			
		小児看護学臨床実習	318	演習	1											○		5単位
		小児看護学臨床実習Ⅱ	319	実習	2												○	
		女性看護学概論	295	講義	1							○						
成人	女性看護援助論	325	演習	1								○						
	女性看護技術論	320	演習	1									○				5単位	
	女性看護学臨床実習	321	実習	2										○				
	成人看護学概論	283	講義	1						○								
	成人看護援助論	284	演習	1							○							
	成人看護技術論	326	演習	1									○				3単位	
	成人看護学臨床実習Ⅰ	296	実習	3								○						
	成人看護学臨床実習Ⅱ	307	実習	2									○					
	老年看護学概論	285	講義	1							○							
	老年看護援助論	297	演習	1								○						
高齢者	老年看護技術論	322	演習	1										○			6単位	
	老年看護学臨床実習Ⅰ	308	実習	1											○			
	老年看護学臨床実習Ⅱ	323	実習	2												○		
	精神看護学概論	286	講義	1							○							
	精神看護援助論	298	演習	1								○						
	精神看護技術論	309	演習	1									○				5単位	
	精神看護学臨床実習	310	実習	2										○				
	在宅看護学概論	299	講義	1										○				
	在宅看護援助論	300	演習	1											○			
	在宅看護技術論	311	演習	1												○	5単位	
在宅	在宅看護学臨床実習	312	実習	2														
	リハビリテーション看護学	313	演習	1												○		
	がん看護学	301	演習	1								○						
	認知症ケア	314	演習	1									○					
	認知症ケア	324	講義	1										○				
	重症集中ケア	325	講義	1											○			
	救急看護学	326	講義	1												○		
	認知症看護管理論	327	講義	1												○		
	ペルソナリティケア	335	講義	1													○	
	ペルソナリティケア	336	講義	1													○	
健康増進への対応	安全地産産	337	講義	1														
	地域看護学概論	315	講義	1														
	地域看護援助論	328	演習	2												○		
	地域看護技術論	331	演習	1													○	
	ヘルスプロモーション活動論	332	演習	1														
	地域看護学臨床実習Ⅰ	333	実習	2														
	地域看護学臨床実習Ⅱ	334	実習	2														
	看護管理学	338	演習	1														
	看護学教育学	329	講義	1														
	卒業研究	347	演習	4													○	
コミュニティ関与に関するもの	ヘルスケアマネジメント実習	346	実習	3													○	
	看護管理学	339	講義	1														
	災害看護学	340	講義	1														
	国際保健学	342	講義	1														
	医療経営学	343	講義	1														
	看護文化管理論	344	講義	1														
	福祉社会学論	345	講義	1														
	学際連携	330	演習	2														
	発展・総合に関するもの	看護管理学	339	講義	1													
		災害看護学	340	講義	1													
国際保健学		342	講義	1														
医療経営学		343	講義	1														
看護文化管理論		344	講義	1														
福祉社会学論		345	講義	1														
学際連携		330	演習	2														
卒業連携		学際連携	330	演習	2													
		学際連携	330	演習	2													
		学際連携	330	演習	2													
	学際連携	330	演習	2														
	学際連携	330	演習	2														
	学際連携	330	演習	2														
	学際連携	330	演習	2														
	学際連携	330	演習	2														
	学際連携	330	演習	2														
	学際連携	330	演習	2														

平成24年度（編入学生は平成26年度）以降入学生用

区 分	専 業 科 目	シラバス 掲載頁	授業形態	単位数	配当年度(○は集中で開講)								卒業 要件 単位
					必修	選択 必修	1年度 前期 後期	2年度 前期 後期	3年度 前期 後期	4年度 前期 後期			
導入科目	スタートアップ演習	89	演習	2									2単位
	哲学と倫理	90	講義	2									4単位 以上
	芸術と思想	104	講義	2									
	芸術と文化	105	講義	2									
	歴史を学ぶ	130	講義	2									
	生活と文化	118	講義	2									
	ジェンダーと文化	119	講義	2									
	心の心み	106	講義	2									
	動物のくらし	91	講義	2									
	人間関係を考える	92	講義	2									
健康とスポーツ	121	講義	2										6単位 以上
環境を学ぶ	117	講義	2										
自然科学を学ぶ	93	講義	2										
動物のくらし	107	講義	2										
現代社会と家庭	108	講義	2										
現代社会と国際関係	122	講義	2										8単位 以上
現代社会と経済	109	講義	2										
札幌を学ぶ	94	講義	2										
ボランティア活動を考える	123	講義	2										
経済の発展	110	講義	2										
日本経済を学ぶ	131	講義	2										8単位 以上
英語IA	95	演習	1										
英語IB	96	演習	1										
英語IC	97	演習	1										
英語IIA	111	演習	1										
英語IIB	112	演習	1										4単位 以上
英語IIC	113	演習	1										
実践英語A	124	演習	1										
実践英語B	125	演習	1										
韓国語	132	演習	1										
中国語	127	演習	1										4単位 以上
ロシア語	128	演習	1										
日本語表現	98	演習	1										
プレゼンテーション	114	演習	1										
基礎から応用まで	99	演習	1										
対人コミュニケーション	115	演習	1										5単位 以上
グループ・ダイナミクス	129	演習	1										
手話	116	演習	1										
情報リテラシーI	101	演習	1										
情報リテラシーII	103	演習	1										
形態機能学I	255	演習	2										5単位 以上
形態機能学II	263	演習	2										
生命科学	269	講義	1										
生命倫理	270	講義	1										
環境保健	271	講義	1										
人間工学	272	講義	1										12単位
薬理学	256	講義	2										
臨床薬理学	267	演習	1										
臨床薬理学	273	演習	1										
西洋医療学	264	演習	2										
疾病治療学概論	274	演習	1										9単位 以上
疾病治療学A	275	演習	1										
疾病治療学B	276	演習	1										
疾病治療学C	288	演習	1										
感染症論	257	講義	2										
公衆衛生学	277	演習	1										(保健師 コース 11単位 以上)
社会福祉学	278	講義	1										
福祉社会学	279	講義	1										
チーム医療論	289	講義	1										
感染管理論	290	講義	1										
臨床心理学	291	講義	1										(保健師 コース 11単位 以上)
地域保健学概論	258	講義	1										
保健医療福祉行政論I	351	演習	1										
保健医療福祉行政論II	351	演習	2										
保健統計	303	講義	1										
疫学I	351	講義	1										(保健師 コース 11単位 以上)
疫学II	351	講義	1										
医療情報	280	講義	1										
疫学II	351	講義	1										
医療情報	280	講義	1										

区 分	投 入 科 目	シラバス 掲載頁	授業形態	単位数	必修 選択	配当年度(○は集中で開講)								卒業 要件 単位	
						1年度 前期	1年度 後期	2年度 前期	2年度 後期	3年度 前期	3年度 後期	4年度 前期	4年度 後期		
基礎科目 看護の基礎 看護の専門 看護の発展	ヒューマン の基 本	看護学総論	259	講義	1			○							7単位
		看護学理論	265	講義	1			○							
		援助的人間関係論	292	演習	1					○					
		人間発達援助論	260	演習	1			○							
		看護倫理実習	261	実習	1			○							
	看護の 基本	看護倫理学	293	講義	1					○					10単位
		健康増進指導法	316	演習	1						○				
		看護過程論	266	演習	1				○						
		看護観察技術論	262	演習	1				○						
		現状マネジメント論	281	演習	2					○					
	看護の 発展	看護学総論	267	演習	2				○						10単位
		基礎看護学臨床実習Ⅰ	268	実習	1						○				
		基礎看護学臨床実習Ⅱ	282	実習	2							○			
		研究手法論	317	演習	1								○		
		小児看護学総論	294	講義	1						○				
	小児	小児看護学総論	304	演習	1						○				5単位
		小児看護学臨床実習Ⅰ	318	実習	1							○			
		小児看護学臨床実習Ⅱ	319	実習	2								○		
		母性看護学総論	295	講義	1							○			
		母性看護学臨床実習Ⅰ	305	実習	1							○			
母性	母性看護学臨床実習Ⅱ	320	実習	1								○		5単位	
	母性看護学臨床実習Ⅲ	321	実習	2									○		
	成人看護学総論	283	講義	1							○				
	成人看護学臨床実習Ⅰ	284	実習	1								○			
	成人看護学臨床実習Ⅱ	306	実習	1									○		
成人	成人看護学臨床実習Ⅲ	296	実習	3									○	8単位	
	成人看護学臨床実習Ⅳ	307	実習	2											
	老年看護学総論	285	講義	1							○				
	老年看護学臨床実習Ⅰ	297	実習	1								○			
	老年看護学臨床実習Ⅱ	322	実習	1									○		
老年	老年看護学臨床実習Ⅲ	308	実習	1									○	6単位	
	老年看護学臨床実習Ⅳ	323	実習	2											
	精神看護学総論	286	講義	1							○				
	精神看護学臨床実習Ⅰ	298	実習	1								○			
	精神看護学臨床実習Ⅱ	309	実習	1									○		
精神	精神看護学臨床実習Ⅲ	310	実習	2									○	5単位	
	在宅看護学総論	299	講義	1								○			
	在宅看護学臨床実習Ⅰ	300	実習	1									○		
	在宅看護学臨床実習Ⅱ	311	演習	1									○		
	在宅看護学臨床実習Ⅲ	312	実習	2											
在宅	リハビリテーション看護学	313	実習	1									○	5単位	
	がん看護学	301	演習	1									○		
	認知症ケア	314	演習	1									○		
	認知症ケア	324	講義	1									○		
	認知症ケア	324	講義	1									○		
健康増進 の関心	慢性疾患ケア	325	講義	1									○	5単位 以上	
	救急看護学	326	講義	1									○		
	放射線医療管理論	327	講義	1									○		
	ペパノイタルケア	335	講義	1									○		
	リハビリテーション	336	講義	1									○		
コミュニケーション に関するもの	実用英語	337	講義	1										2単位 (保健 コース 10単位)	
	公衆衛生看護学総論	351	講義	1											
	公衆衛生看護学援助論Ⅰ	352	演習	1							○				
	公衆衛生看護学援助論Ⅱ	352	演習	1								○			
	公衆衛生看護学援助論Ⅲ	352	演習	1									○		
	ヘルスケアマネジメント総論	353	講義	1									○		
	公衆衛生看護学臨床実習Ⅰ	352	実習	2									○		
	公衆衛生看護学臨床実習Ⅱ	352	実習	3									○		
	看護管理学	338	演習	1									○		
	看護教育学	339	演習	1									○		
発展・統合 に関するもの	医療統計	347	演習	4									○	12単位 以上	
	ヘルスケアマネジメント実習	346	実習	3											○
	公衆衛生看護学援助論Ⅳ	353	講義	1									○		
	看護情報学	339	講義	1									○		
	災害看護学	340	講義	1									○		
	国際看護学	341	講義	1									○		
	国際保健学	342	講義	1									○		
	医療経営学	343	講義	1									○		
	医療文化学	344	講義	1									○		
	社会福祉論	345	講義	1									○		
学部課程	学部課程実習	330	実習	2									○	2単位	

② 卒業要件

※平成21～23年度(編入学生は平成23～25年度)入学生

区分	必修	選択	合計
共通教育科目	12	16	28
専門教育科目	94	6	100
(専門基礎科目)	(20)	(2)	(22)
(専門科目)	(74)	(4)	(78)
合計	106	22	128

※平成24年度(編入学生は26年度)以降入学生

区分	必修	選択	合計
共通教育科目	12	16	28
専門教育科目	91	7	98
(専門基礎科目)	(24)	(2)	(26)
(専門科目)	(67)	(5)	(72)
合計	103	23	126

3) 教育活動

授業科目	授業形態・ 時数	年次	担当教員
形態機能学 I	演習 60 時間	1 年次 前期	★高野 廣子
薬理学	講義 30 時間	1 年次 前期	★松本 真知子
感染予防論	講義 30 時間	1 年次 前期	富樫 武弘
地域保健学概論	講義 15 時間	1 年次 前期	清水 光子
看護学原論	講義 15 時間	1 年次 前期	◎定廣 和香子 猪股 千代子
看護初期実習	実習 45 時間	1 年次 前期	◎吉川 由希子 大野 夏代 貝谷 敏子 菊地 ひろみ 清水 光子 菅原 美樹 村松 真澄 守村 洋 山田 典子 太田 晴美 櫻井 繭子 杉田 久子 田中 広美 藤井 瑞恵
看護観察技術論	演習 30 時間	1 年次 前期	◎大野 夏代 杉田 久子 田中 広美 鶴木 恭子 檜山 明子
人間発達援助論	演習 30 時間	1 年次 前期	◎内田 雅子 坂倉 恵美子 松浦 和代 宮崎 みち子 山本 勝則
形態機能学 II	演習 60 時間	1 年次 後期	★高野 廣子

授業科目	授業形態・ 時数	年次	担当教員
病理病態学	演習 60 時間	1 年次 後期	★小林 正伸
看護理論	講義 15 時間	1 年次 後期	定廣 和香子 杉田 久子
看護過程論	演習 30 時間	1 年次 後期	◎杉田 久子 大野 夏代 田中 広美 鶴木 恭子 檜山 明子
基礎看護技術論	演習 60 時間	1 年次 後期	◎田中 広美 樋之津 淳子 大野 夏代 杉田 久子 鶴木 恭子 檜山 明子
基礎看護学臨地実習 I	実習 45 時間	1 年次 後期	◎杉田 久子 定廣 和香子 樋之津 淳子 大野 夏代 田中 広美 工藤 京子 鶴木 恭子 照井 レナ 坂東 奈穂美 三上 智子 柏倉 大作 田仲 里江 檜山 明子 星 幸江
生命科学	講義 15 時間	2 年次 前期	★山田 恵子
生命倫理	講義 15 時間	2 年次 前期	★村上 友一
環境保健	講義 15 時間	2 年次 前期	★齋藤 健
人間工学	講義 15 時間	2 年次 前期	◎樋之津 淳子 鶴木 恭子 ★佐藤 秀一
臨床栄養学	演習 30 時間	2 年次 前期	★高野 良子
疾病治療学概論	演習 30 時間	2 年次 前期	◎★福島 直樹 ★伊東 義忠
疾病治療学 A	演習 30 時間	2 年次 前期	◎★柳澤 克之 ★本村 文宏 ★甲谷 哲郎
疾病治療学 B	演習 30 時間	2 年次 前期	★向井 正也
公衆衛生学	演習 30 時間	2 年次 前期	◎★池野 多美子 ★喜多 歳子
社会福祉学	講義 15 時間	2 年次 前期	★大内 高雄
家族社会学	講義 15 時間	2 年次 前期	◎原 俊彦 吉川 由希子
医療情報	演習 30 時間	2 年次 前期	★小笠原 克彦
症状マネジメント論	演習 60 時間	2 年次 前期	◎菅原 美樹 貝谷 敏子 村松 真澄 神島 滋子 藤井 瑞恵 工藤 京子 原井 美佳 工藤 京子 杉田 久子 照井 レナ 坂東 奈穂美 鶴木 恭子 柏倉 大作 田仲 里江 三上 智子 星 幸江 檜山 明子
基礎看護学臨地実習 II	実習 90 時間	2 年次 前期	◎田中 広美 定廣 和香子 樋之津 淳子 大野 夏代 神島 滋子 杉田 久子 原井 美佳 工藤 京子 鶴木 恭子 照井 レナ 坂東 奈穂美 三上 智子 柏倉 大作 田仲 里江 檜山 明子 星 幸江

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

授業科目	授業形態・ 時数	年次	担当教員
成人看護学概論	講義 15 時間	2 年次 前期	◎内田 雅子 中村 恵子
成人看護援助論	講義 30 時間	2 年次 前期	◎菅原 美樹 貝谷 敏子 神島 滋子 藤井 瑞恵 工藤 京子
老年看護学概論	講義 15 時間	2 年次 前期	坂倉 恵美子
精神看護学概論	講義 15 時間	2 年次 前期	山本 勝則
臨床薬理学	演習 30 時間	2 年次 後期	★唯野 貢司
疾病治療学 C	演習 30 時間	2 年次 後期	★三澤 一仁
チーム医療論	講義 15 時間	2 年次 後期	◎太田 晴美 猪股 千代子 坂東 奈穂美
感染管理論	講義 15 時間	2 年次 後期	◎スーディ神崎 和代 ★前田 朝子 ★土佐 理恵子
臨床心理学	講義 15 時間	2 年次 後期	◎山本 勝則 ★菊池 浩光
援助の人間関係論	演習 30 時間	2 年次 後期	◎守村 洋 山本 勝則 田中 広美 藤井 瑞恵
看護倫理学	講義 15 時間	2 年次 後期	宮崎 みち子
小児看護学概論	講義 15 時間	2 年次 後期	松浦 和代
母性看護学概論	講義 15 時間	2 年次 後期	◎宮崎 みち子
成人看護学臨地実習 I	実習 135 時間	2 年次 後期	◎藤井 瑞恵 内田 雅子 貝谷 敏子 菅原 美樹 神島 滋子 工藤 京子 鶴木 恭子 照井 レナ 坂東 奈穂美 三上 智子 柏倉 大作 田仲 里江 檜山 明子 星 幸江
老年看護援助論	演習 30 時間	2 年次 後期	◎村松 真澄 坂倉 恵美子 原井 美佳 ★川人 由美子
精神看護援助論	演習 30 時間	2 年次 後期	◎守村 洋 ★安田 素次
在宅看護学概論	講義 15 時間	2 年次 後期	スーディ神崎 和代
在宅看護援助論	演習 30 時間	2 年次 後期	◎菊地 ひろみ スーディ神崎 和代 照井 レナ ★工藤 和子 ★石崎 剛
がん看護学	演習 30 時間	2 年次 後期	◎樋之津 淳子 松浦 和代 ★松山 茂子
保健医療福祉制度論	演習 30 時間	3 年次 前期	清水 光子
保健統計	演習 30 時間	3 年次 前期	◎★片倉 洋子 ★槇 洋一

授業科目	授業形態・ 時数	年次	担当教員
小児看護援助論	演習 30 時間	3 年次 前期	◎吉川 由希子 三上 智子 富樫 武弘
母性看護援助論	演習 30 時間	3 年次 前期	◎山本 真由美 多賀 昌江 ★奥 穀公雄
成人看護技術論	演習 30 時間	3 年次 前期	◎藤井 瑞恵 貝谷 敏子 菅原 美樹 神島 滋子 工藤 京子
成人看護学臨地実習Ⅱ	実習 90 時間	3 年次 前期	◎神島 滋子 内田 雅子 貝谷 敏子 菅原 美樹 藤井 瑞恵 工藤 京子 柏倉 大作
老年看護学臨地実習Ⅰ	実習 45 時間	3 年次 前期	◎原井 美佳 坂倉 恵美子 村松 真澄
精神看護技術論	演習 30 時間	3 年次 前期	◎守村 洋 山本 勝則
精神看護学臨地実習	実習 90 時間	3 年次 前期	◎守村 洋 山本 勝則 星 幸江
在宅看護技術論	演習 30 時間	3 年次 前期	◎照井 レナ スーディ神崎和代 菊地 ひろみ
在宅看護学臨地実習	実習 90 時間	3 年次 前期	◎菊地 ひろみ スーディ神崎和代 照井 レナ
リハビリテーション看護学	演習 30 時間	3 年次 前期	◎神島 滋子 ★石鍋 圭子 ★表 亮介 ★平山 光久
認知症ケア	演習 30 時間	3 年次 前期	スーディ神崎和代
地域看護学概論	講義 15 時間	3 年次 前期	◎清水 光子 ★河原田 まり子
健康教育指導法	演習 30 時間	3 年次 後期	◎櫻井 蘭子 清水 光子 山田 典子
研究方法論	演習 30 時間	3 年次 後期	◎内田 雅子 松浦 和代 貝谷 敏子
小児看護技術論	演習 30 時間	3 年次 後期	◎三上 智子 松浦 和代 吉川 由希子
小児看護学臨地実習	実習 90 時間	3 年次 後期	◎吉川 由希子 松浦 和代 三上 智子
母性看護技術論	演習 30 時間	3 年次 後期	◎多賀 昌江 山内 まゆみ 山本 真由美
母性看護学臨地実習	実習 90 時間	3 年次 後期	◎山本 真由美 宮崎 みち子 山内 まゆみ 多賀 昌江
老年看護技術論	演習 30 時間	3 年次 後期	◎原井 美佳 村松 真澄
老年看護学臨地実習Ⅱ	実習 90 時間	3 年次 後期	◎村松 真澄 坂倉 恵美子 原井 美佳
透析ケア	講義 15 時間	3 年次 後期	◎内田 雅子 ★木村 剛
重症集中ケア	講義 15 時間	3 年次 後期	◎菅原 美樹 中村 恵子 ★小山 昭人

I
概要II
教育活動III
研究活動IV
社会活動V
キャリア支援活動VI
入学者選抜結果VII
附属図書館VIII
役員会・経営審議会
及び教育研究審議会IX
学内運営の概要X
資料XI
教員業績一覧

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

授業科目	授業形態・ 時数	年次	担当教員
救急看護学	講義 15 時間	3 年次 後期	◎菅原 美樹 中村 恵子 ★三上 剛人
放射線医療管理論	講義 15 時間	3 年次 後期	◎★池田 光 ★神島 保
地域看護援助論	演習 60 時間	3 年次 後期	◎山田 典子 清水 光子 櫻井 繭子
看護教育学	講義 15 時間	3 年次 後期	◎定廣 和香子 田中 広美
学部連携演習	演習 60 時間	3 年次 後期	◎宮崎 みち子 山本 勝則 村松 真澄 吉川 由希子 神島 滋子 櫻井 繭子 田中 広美 藤井 瑞恵 鶴木 恭子 照井 レナ ◎矢部 和夫 杉 哲夫 武邑 光裕 石井 雅博 石田 勝也 大渕 一博 柿山 浩一郎 片山 めぐみ 上田 裕文 須之内 元洋
地域看護技術論	演習 30 時間	4 年次 前期	◎櫻井 繭子 清水 光子 山田 典子
ヘルスプロモーション活動論	演習 30 時間	4 年次 前期	◎山田 典子 清水 光子 櫻井 繭子
地域看護学臨地実習 I	実習 90 時間	4 年次 前期	◎櫻井 繭子 清水 光子 山田 典子 田仲 里江
地域看護学臨地実習 II	実習 90 時間	4 年次 前期	◎櫻井 繭子 清水 光子 山田 典子 田仲 里江
ペリネイタルケア	講義 15 時間	4 年次 前期	◎三上 智子 吉川 由希子 多賀 昌江
パリアティブケア	講義 15 時間	4 年次 前期	◎菊地 ひろみ ★石垣 靖子 ★松山 茂子 ★武藤 記代子
寒冷地医療	講義 15 時間	4 年次 前期	◎坂倉 恵美子 ★前沢 政次
看護管理学	演習 30 時間	4 年次 前期	◎猪股 千代子 太田 晴美
看護情報学	講義 15 時間	4 年次 前期	★佐藤 ひとみ
災害看護学	講義 15 時間	4 年次 前期	◎太田 晴美 ★浅井 康文
国際看護学	講義 15 時間	4 年次 前期	◎大野 夏代 スーディ神崎 和代
国際保健学	講義 15 時間	4 年次 前期	★玉城 英彦
医療経営学	講義 15 時間	4 年次 前期	◎猪股 千代子 スーディ神崎 和代 坂東 奈穂美
医療安全管理論	講義 15 時間	4 年次 前期	◎猪股 千代子 ★佐々木 真理子
現代専門職論	講義 15 時間	4 年次 前期	◎樋之津 淳子 中村 恵子

授業科目	授業形態・ 時数	年次	担当教員
ヘルスケアマネジメント実習	実習 135 時間	4 年次 後期	◎太田 晴美 猪股 千代子 大野 夏代 貝谷 敏子 菊地 ひろみ 菅原 美樹 村松 真澄 守村 洋 吉川 由希子 杉田 久子 田中 広美 藤井 瑞恵 坂東 奈穂美
卒業研究	演習 120 時間	4 年次 全期	◎内田 雅子 猪股 千代子 坂倉 恵美子 定廣 和香子 スーディ 神崎 和代 樋之津 淳子 松浦 和代 宮崎 みち子 山本 勝則 大野 夏代 貝谷 敏子 菊地 ひろみ 清水 光子 菅原 美樹 村松 真澄 守村 洋 山田 典子 吉川 由希子 太田 晴美 神島 滋子 櫻井 繭子 杉田 久子 田中 広美 原井 美佳 藤井 瑞恵 工藤 京子 多賀 昌江 鶴木 恭子 照井 奈穂美 三上 智子

◎印：科目責任者（オムニバス形式などの場合）

★印：非常勤講師

I
概要

II
教育活動

III
研究活動

IV
社会活動

V
キャリア支援活動

VI
入学者選抜結果

VII
附属図書館

VIII
役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX
学内運営の概要

X
資料

XI
教員業績一覧

4) 実習概要

※機関種別

科目名	実習期間	実習機関	延べ人数
看護初期実習	平成24年6月4日～8日	医療機関	99名
		障がい児通園施設	27名
		老人福祉センター	67名
		地域包括支援センター・ 居宅介護支援事業所	16名
		保健所・保健センター	32名
		その他	8名
基礎看護学臨地実習Ⅰ	平成24年10月15日～19日	医療機関	332名
基礎看護学臨地実習Ⅱ	平成24年5月21日～6月1日	医療機関	747名
成人看護学臨地実習Ⅰ	平成24年10月22日～11月9日	医療機関	1,092名
老年看護学臨地実習Ⅰ	平成24年5月7日～11日	老人福祉センター	243名
成人看護学臨地実習Ⅱ	平成24年6月18日～7月27日	医療機関	783名
精神看護学臨地実習	平成24年6月18日～7月27日	医療機関	702名
在宅看護学臨地実習	平成24年6月18日～7月27日	医療機関	48名
		訪問看護ステーション	266名
		地域包括支援センター・ 居宅介護支援事業所	307名
母性看護学臨地実習	平成24年11月19日～12月21日 平成25年1月14日～2月1日	医療機関	681名
小児看護学臨地実習	平成24年11月19日～12月14日 平成25年1月14日～25日	医療機関	471名
		保育所	235名
老年看護学臨地実習Ⅱ	平成24年11月19日～12月14日 平成25年1月14日～25日	医療機関	441名
		介護老人保健施設	126名
地域看護学臨地実習Ⅰ	平成24年6月11日～7月20日	保健所・保健センター	900名
地域看護学臨地実習Ⅱ	平成24年6月11日～7月20日	事業所	90名
		教育機関	180名
ヘルスケアマネジメント実習	平成24年9月24日～10月12日	医療機関	1,014名
		介護老人保健施設	104名

5 デザイン研究科

1) 平成24年度時間割

① 前期

		月		火	水	木		金	土
		芸森キャンパス		芸森キャンパス	芸森キャンパス	芸森キャンパス		芸森キャンパス	桑園キャンパス
		博士前期1年生	博士後期課程	博士前期1年生	博士前期1年生	博士前期1年生	博士前期2年生	博士前期1年生	博士前期1年生
1	9:00 ～ 10:30							デザインマネジメント特論	国際関係特論
2	10:40 ～ 12:10	環境マネジメント特論		建築計画特論 製品造形特論					コミュニケーション特論
3	13:10 ～ 14:40	デザイン研究法				形状情報処理			少子高齢社会特論
4	14:50 ～ 16:20			インターンシップⅠ (事前講義) インターンシップⅡ (事前講義)		インタラクシ ョンデザイン特論			連携プロジェクト 演習
5	16:30 ～ 18:00	メカトロニクス 特論		ビジュアル デザイン特論	建築構造 デザイン特論	地域創成デザイ ンセミナーA			
6	18:10 ～ 19:40	環境共生 デザイン特論	人間空間デザイ ン研究法 人間情報デザイ ン研究法	デザイン特論	メディアプロ デュース特論		地域プロジェクト 演習	景観デザイン 特論	
7	19:50 ～ 21:20								

※横断型連携特別演習の開講時期は担当教員により異なる。

② 後期

		月		火	水	木		金	土
		芸森キャンパス		芸森キャンパス	芸森キャンパス	芸森キャンパス		芸森キャンパス	桑園キャンパス
		博士前期1年生	博士後期課程	博士前期1年生	博士前期1年生	博士前期1年生		博士前期1年生	博士前期1年生
1	9:00 ～ 10:30			建築環境学特論					健康福祉政策特論
2	10:40 ～ 12:10							製品評価特論 造形表現特論	地域経済政策特論
3	13:10 ～ 14:40	地域ブランド 構築特論				インタフェース デザイン特論	映像 デザイン特論		ヒューマニティ 特論
4	14:50 ～ 16:20	日本建築史特論						地域創成デザイン セミナーB	連携プロジェクト 演習
5	16:30 ～ 18:00	地域環境評価特論							
6	18:10 ～ 19:40	現代芸術特論	人間空間デザイ ン特講 人間情報デザイ ン特講						
7	19:50 ～ 21:20								

※横断型連携特別演習の開講時期は担当教員により異なる。

2) カリキュラム

① 授業科目一覧

科目区分	授業科目の名称	配当年次 (時期)	単位数			空間デザイン分野		製品デザイン分野		コンテンツ・メディアデザイン分野		
			必修	選択	自由	建築デザイン	環境デザイン	プロダクトデザイン	インテリアデザイン	コンテンツ制作	メディア展開	
研究科連携科目	国際関係特論	1・2 前期		2					△		△	
	少子高齢社会特論	1・2 前期		2			△					
	健康福祉政策特論	1・2 後期		2		△						
	地域経済政策特論	1・2 後期		2			△	△			△	
	ヒューマニティ特論	1・2 後期		2						△		
	コミュニケーション特論	1・2 前期		2					△	△		
	連携プロジェクト演習	1 通年		2		△		△				
	小計(7科目)	—	—	14	—	4	4	4	4	4	4	
基本科目	デザイン特論	1 前期	2			◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	デザイン研究法	1 前期		2			△		△	△		
	デザインマネジメント特論	1 前期		2		△		△			△	
	小計(3科目)	—	2	4	—	4	4	4	4	4	4	
専門教育科目	展開科目	建築計画特論	1・2 前期		2		○ ■					
		建築環境学特論	1・2 後期		2		○ ■					
		建築構造デザイン特論	1・2 前期		2		○ ■					
		日本建築史特論	1・2 後期		2		△					
		景観デザイン特論	1・2 前期		2			△				
		地域環境評価特論	1・2 後期		2		△	△				
		環境共生デザイン特論	1・2 前期		2			△				
		環境マネジメント特論	1・2 前期		2			△	△			
		製品造形特論	1・2 前期		2				△			
		製品評価特論	1・2 後期		2				△	△		
		メカトロニクス特論	1・2 前期		2				△	△		
		インタフェースデザイン特論	1・2 後期		2				△	△		
		インタラクションデザイン特論	1・2 前期		2					△	△	
		形状情報処理特論	1・2 前期		2					△	△	
		造形表現特論	1・2 後期		2						△	
		映像デザイン特論	1・2 後期		2						△	△
		ビジュアルデザイン特論	1・2 前期		2						△	△
		現代芸術特論	1・2 後期		2							△
		メディアプロデュース特論	1・2 前期		2							△
		地域ブランド構築特論	1・2 後期		2				△			△
		デザイン特別演習	1 前・後	2			◎ ■	◎	◎	◎	◎	◎
		小計(21科目)	—	2	40	—	12	12	12	12	12	12
実践科目	地域プロジェクト演習	2 前期	2			◎ ■	◎	◎	◎	◎	◎	
	地域創成デザイン特別セミナーA	1・2 前期		2							△	
	地域創成デザイン特別セミナーB	1・2 後期		2					△	△		
	インターンシップⅠ	1・2 集中		2		○ ■	△	△				
	インターンシップⅡ	1・2 集中			4	○ ■						
	小計(5科目)	—	2	6	4	8	4	4	4	4	4	
修了研究	特別研究	1～2 通年	6	—	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	小計(1科目)	—	6	—	—	6	6	6	6	6	6	
合計(37科目)				12	64	4	34	30	30	30	30	

② 修了要件

科目区分			修了要件	
研究科連携科目			4単位以上	
専門教育科目	基本科目		4単位以上	
	展開科目	空間デザイン分野 製品デザイン分野 コンテンツ・メディアデザイン分野	12単位以上	
		実践科目		4単位以上
		修了研究		6単位
	合計			30単位以上

3) 教育活動

連携科目

授業科目	授業形態・時数	担当教員
国際関係特論	講義 30時間	◎スーディ神崎和代 城間 祥之 石井 雅博 大野 夏代 ★玉城 英彦
少子高齢社会論	講義 30時間	原 俊彦
コミュニケーション特論	講義 30時間	町田 佳世子
健康福祉政策特論	講義 30時間	◎山本 勝則 ★大久保 一郎
地域経済政策特論	講義 30時間	★佐藤 孝一
ヒューマニティ特論	講義 30時間	★藤尾 均
連携プロジェクト演習	演習 30時間	◎城間 祥之 石井 雅博 吉田 恵介 三谷 篤史 ◎スーディ神崎和代 大野 夏代 守村 洋 山田 典子

◎印：科目責任者（オムニバス形式などの場合）

★印：非常勤講師

授業科目	授業形態・時数	担当教員
デザイン特論	講義 30時間	原田 昭
デザイン研究法	講義 30時間	◎中原 宏 矢部 和夫 柿山 浩一郎
デザインマネジメント特論	講義 30時間	◎酒井 正幸 ★篠崎 稚春
建築計画特論	講義 30時間	★那須 聖
建築環境学特論	講義 30時間	斉藤 雅也
建築構造デザイン特論	講義 30時間	★渡邊 和之
日本建築史特論	講義 30時間	羽深 久夫
景観デザイン特論	講義 30時間	吉田 恵介
地域環境評価特論	講義 30時間	◎中原 宏 矢部 和夫
環境共生デザイン特論	講義 30時間	◎上田 裕文 ★鶴島 孝一
環境マネジメント特論	講義 30時間	◎上田 裕文 ★鶴島 孝一
製品造形特論	講義 30時間	石崎 友紀
製品評価特論	講義 30時間	柿山 浩一郎
メカトロニクス特論	講義 30時間	三谷 篤史
インタフェースデザイン特論	講義 30時間	酒井 正幸
インタラクションデザイン特論	講義 30時間	細谷 多聞
形状情報処理特論	講義 30時間	城間 祥之
造形表現特論	講義 30時間	齋藤 利明
映像デザイン特論	講義 30時間	望月 澄人
ビジュアルデザイン特論	講義 30時間	吉田 和夫
現代芸術特論	講義 30時間	上遠野 敏
メディアプロデュース特論	講義 30時間	★久保 俊哉
地域ブランド構築特論	講義 30時間	★内田 純一

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

授業科目	授業形態・時数	担当教員
デザイン特別演習	演習 30時間	◎城間 祥之 原田 昭 石崎 友紀 上遠野 敏 齋藤 利明 酒井 正幸 中原 宏 羽深 久夫 望月 澄人 矢部 和夫 吉田 和夫 吉田 恵介 細谷 多聞 柿山 浩一郎 斉藤 雅也 三谷 篤史
地域プロジェクト演習	演習 30時間	◎城間 祥之 酒井 正幸 羽深 久夫 斉藤 雅也 ★那須 聖
地域創成デザイン特別セミナーA	演習 30時間	羽深 久夫
地域創成デザイン特別セミナーB	演習 30時間	酒井 正幸
インターンシップ I	実習 60時間	◎中原 宏 羽深 久夫
インターンシップ II	実習 120時間	◎羽深 久夫 斉藤 雅也 ★那須 聖
特別研究	演習 90時間	◎城間 祥之 原田 昭 石崎 友紀 上遠野 敏 齋藤 利明 酒井 正幸 中原 宏 羽深 久夫 望月 澄人 矢部 和夫 吉田 恵介 細谷 多聞 柿山 浩一郎 斉藤 雅也 三谷 篤史

◎印：科目責任者（オムニバス形式などの場合）

★印：非常勤講師

6 看護学研究科

1) 平成24年度時間割

		月		火		水	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期
1	9:00 ～ 10:30						
2	10:40 ～ 12:10						
3	13:10 ～ 14:40						
4	14:50 ～ 16:20	看護理論特論	看護コンサルテーション特論	看護研究法特論	寒冷地生活支援看護学特論	看護専門職教育特論 小児看護学特論D クリティカルケア看護学特論 精神看護学特論IV	継続教育特論
5	16:30 ～ 18:00	地域生活看護学特論 母子看護学特論 成人看護学特論 精神看護学特論I 看護技術学特論I 看護教育・看護マネジメント学特論	老年看護学特論 在宅看護学特論 地域看護学特論 母性看護学特論 小児看護学特論B 急性期看護学特論 慢性期看護学特論 精神看護学特論II 看護技術学特論II 看護教育学特論 看護マネジメント学特論	看護管理学特論	家族看護学特論	看護倫理学特論	臨床哲学特論 クリティカル精神看護学演習
6	18:10 ～ 19:40	地域生活看護学特論 母子看護学特論 成人看護学特論 精神看護学特論I 看護技術学特論I 看護教育・看護マネジメント学特論	老年看護学特論 在宅看護学特論 地域看護学特論 母性看護学特論 小児看護学特論B 急性期看護学特論 慢性期看護学特論 精神看護学特論II 看護技術学特論II 看護教育学特論 看護マネジメント学特論	看護研究法特論	寒冷地生活支援看護学特論	看護専門職教育特論 小児看護学特論D クリティカルケア看護学特論 精神看護学特論IV	継続教育特論
7	19:50 ～ 21:20	看護理論特論	看護コンサルテーション特論	看護管理学特論	家族看護学特論	看護倫理学特論	臨床哲学特論 クリティカル精神看護学演習

I 概要
II 教育活動
III 研究活動
IV 社会活動
V キャリア支援活動
VI 入学者選抜結果
VII 附属図書館
VIII 役員会、経営審議会 及び教育研究審議会
IX 学内運営の概要
X 資料
XI 教員業績一覧

木		金		土	
前期	後期	前期	後期	前期	後期
				国際関係特論	健康福祉政策特論
				コミュニケーション特論	地域経済政策特論
				少子高齢社会特論	ヒューマニティ特論
地域生活看護学演習 母子看護学演習 成人看護学演習 精神看護学演習I 看護技術学演習I 看護教育・看護マネジメント学演習		特別研究 課題研究		連携プロジェクト演習	
		小児看護学特論A アドバンスト・フィジカルア セスメント看護学演習 精神看護学特論VI	小児看護学特論C 急性期病態管理学特論 精神看護学特論V	リハビリテーション 精神看護学演習	
				小児看護学演習B クリティカルケア看護学演習	
地域生活看護学演習 母子看護学演習 成人看護学演習 精神看護学演習I 看護技術学演習I 看護教育・看護マネジメント学演習		小児看護学特論A アドバンスト・フィジカルア セスメント看護学演習 精神看護学特論VI	小児看護学特論C 急性期病態管理学特論 精神看護学特論V		
		小児看護学特論A アドバンスト・フィジカルア セスメント看護学演習 精神看護学特論VI			
		特別研究 課題研究			

2) カリキュラム

① 授業科目一覧

科目区分	授業科目の名称	シラバス 掲載頁	配当年次	単 位 数			授業形態			修了要件
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
研究科連携科目	国際関係特論	27	1・2 前		2		○			4単位以上
	少子高齢社会特論	28	1・2 前		2		○			
	健康福祉政策特論	29	1・2 後		2		○			
	地域経済政策特論	30	1・2 後		2		○			
	ヒューマニティ特論	31	1・2 後		2		○			
	コミュニケーション特論	32	1・2 前		2		○			
	連携プロジェクト演習	33	1 通		2			○		
	看護理論特論	35	1 前	2			○			
	看護研究法特論	36	1 前	2			○			
	看護倫理特論	37	1 前		2		○			
専 門 基 礎 科 目	看護管理特論	38	1 前		2		○			8単位以上
	臨床哲学特論	39	1 後		2		○			
	看護コンサルテーション特論	40	1 後		2		○			
	看護専門職教育特論	41	1 前		2		○			
	継続教育特論	42	1 後		2		○			
	寒冷地生活支援看護学特論	43	1 後		2		○			
	家族看護学特論	44	1 後		2		○			
	地域生活看護学特論	45	1 前		2		○			
	老年看護学特論	46	1・2 後		2		○			
	在宅看護学特論	47	1・2 後		2		○			
専 門 実 践 科 目	地域看護学特論	48	1・2 後		2		○			1つの領域から8単位以上（専門看護認定希望者10単位以上）
	地域看護学演習	49	1 通		2			○		
	老年看護学演習	50	1・2 通		2			○		
	在宅看護学演習	51	1・2 通		2			○		
	地域看護学演習	52	1・2 通		2			○		
	母子看護学特論	53	1 前		2		○			
	母性看護学特論	54	1・2 後		2		○			
	小児看護学特論I	55	1・2 後		2		○			
	小児看護学特論II	56	1・2 前		2		○			
	小児看護学特論A	57	1 前		2		○			
専 門 実 践 科 目	小児看護学特論B	58	1 後		2		○			1つの領域から8単位以上（専門看護認定希望者10単位以上）
	小児看護学特論C	59	1 後		2		○			
	小児看護学特論D	60	2 前		1		○			
	母子看護学演習	61	1 通		2			○		
	母性看護学演習	62	1・2 通		2			○		
	小児看護学演習A	63	1・2 通		2			○		
	小児看護学演習B	64	1・2 通		2			○		
	小児看護学実習I	65	1・2 通		2				○	
	小児看護学実習II	66	1・2 通		2				○	
	成人看護学特論	67	1 前		2		○			
専 門 実 践 科 目	急性期看護学特論	68	1・2 後		2		○			1つの領域から8単位以上（専門看護認定希望者10単位以上）
	慢性期看護学特論	69	1・2 後		2		○			
	急性期臨床看護学特論	70	1 前		2		○			
	クリティカルケア看護学特論	71	1 前		2		○			
	成人看護学演習	72	1 通		2			○		
	急性期看護学演習	73	1・2 通		2			○		
	クリティカルケア看護学演習	74	1 通		2			○		
	慢性期看護学演習	75	1・2 通		2			○		
	急性期看護学実習	76	1・2 通		6				○	
	精神看護学特論I	77	1 前		2		○			
専 門 実 践 科 目	精神看護学特論II	78	1・2 後		2		○			1つの領域から8単位以上（専門看護認定希望者10単位以上）
	精神看護学特論III	79	1・2 前		2		○			
	精神看護学特論IV	80	1・2 前		2		○			
	精神看護学特論V	81	1 後		2		○			
	精神看護学特論VI	82	2 前		2		○			
	精神看護学演習I	83	1 通		2			○		
	精神看護学演習II	84	1・2 通		2			○		
	精神看護学実習I	85	1 後		2				○	
	精神看護学実習II	86	2 通		4				○	
	看護技術学特論I	87	1 前		2		○			
専 門 実 践 科 目	看護技術学特論II	88	1・2 後		2		○			1つの領域から8単位以上（専門看護認定希望者10単位以上）
	看護技術学演習I	89	1 通		2			○		
	看護技術学演習II	90	1・2 通		2			○		
	看護教育・看護マネジメント学特論	91	1 前		2		○			
	看護教育学特論	92	1・2 後		2		○			
	看護マネジメント学特論	93	1・2 後		2		○			
	看護教育・看護マネジメント学演習	94	1 通		2			○		
	看護教育学演習	95	1・2 通		2			○		
	看護マネジメント学演習	96	1・2 通		2			○		
	特別研究	97	1～2 通		8					
専 門 実 践 科 目	課題研究	98	1～2 通		4			○		8単位（専門看護師認定希望者4単位）

② 修了要件

※修士論文コース

区分	必修	選択	自由科目	合計
研究科連携科目	－	4	－	4
専門教育科目	4	20	－	24
専門基礎科目	4	4	－	8
専門科目	－	16	－	16
選択する領域・分野から	－	8	－	8
研究	－	8	－	8
合計	4	26	－	30

※専門看護師コース

区分	必修	選択	自由科目	合計
研究科連携科目	－	4	－	4
専門教育科目	4	24	－	28
専門基礎科目	4	4	－	8
専門科目	－	20	－	20
選択する領域・分野から	－	16	－	16
研究	－	4	－	4
合計	4	30	－	34

3) 教育活動

授業科目	授業形態・ 時数	年次	担当教員
国際関係特論	講義 30時間	1・2年次 前期	◎スーディ神崎和代 城間 祥之 石井 雅博 大野 夏代 ★玉城 英彦
少子高齢社会特論	講義 30時間	1・2年次 前期	原 俊彦
健康福祉政策特論	講義 30時間	1・2年次 後期	◎山本 勝則 ★大久保 一郎
地域経済政策特論	講義 30時間	1・2年次 後期	★佐藤 孝一
ヒューマニティ特論	講義 30時間	1・2年次 後期	★藤尾 均
コミュニケーション特論	講義 30時間	1・2年次 前期	町田 佳世子
連携プロジェクト演習	演習 30時間	1年次 通年	◎スーディ神崎和代 大野 夏代 守村 洋 山田 典子 ◎吉田 恵介 矢部 和夫 三谷 篤史 石井 雅博 城間 祥之
看護理論特論	講義 30時間	1年次 前期	◎内田 雅子 ★黒田 裕子
看護研究法特論	講義 30時間	1年次 前期	◎松浦 和代 内田 雅子
看護倫理学特論	講義 30時間	1年次 前期	◎宮崎 みち子 ★今井 道夫
看護管理学特論	講義 30時間	1年次 前期	◎猪股 千代子 中村 恵子 河野 總子
臨床哲学特論	講義 30時間	1年次 後期	★尾形 敬次
看護コンサルテーション特論	講義 30時間	1年次 後期	◎猪股 千代子 ★藤野 智子
看護専門職教育特論	講義 30時間	1年次 前期	定廣 和香子
継続教育特論	講義 30時間	1年次 後期	◎★佐藤 紀子 ★舟島 なをみ ★中山 登志子
寒冷地生活支援看護学特論	講義 30時間	1年次 後期	◎坂倉 恵美子 ★池田 貴夫 ★前沢 政次
家族看護学特論	講義 30時間	1年次 後期	◎吉川 由希子 ★柳原 清子
地域生活看護学特論	講義 30時間	1年次 前期	◎坂倉 恵美子 スーディ神崎和代 山田 典子
老年看護学特論	講義 30時間	1・2年次 後期	坂倉 恵美子

I
概要

II
教育活動

III
研究活動

IV
社会活動

V
キャリア支援活動

VI
入学者選抜結果

VII
附属図書館

VIII
役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX
学内運営の概要

X
資料

XI
教員業績一覧

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

授業科目	授業形態・ 時数	年次	担当教員
在宅看護学特論	講義 30時間	1・2年次 後期	スーディ神崎 和代
地域看護学特論	講義 30時間	1・2年次 後期	◎山田 典子 ★河原田 まり子
地域生活看護学演習	演習 60時間	1年次 通年	◎坂倉 恵美子 スーディ神崎 和代 菊地 ひろみ 村松 真澄 山田 典子
老年看護学演習	演習 60時間	1・2年次 通年	◎村松 真澄 坂倉 恵美子
在宅看護学演習	演習 60時間	1・2年次 通年	◎菊地 ひろみ スーディ神崎 和代
地域看護学演習	演習 60時間	1・2年次 通年	◎山田 典子 ★河原田 まり子
母子看護学特論	講義 30時間	1年次 前期	◎宮崎 みち子 松浦 和代
母性看護学特論	講義 30時間	1・2年次 後期	宮崎 みち子
小児看護学特論 A	講義 30時間	1年次 前期	松浦 和代
小児看護学特論 B	講義 30時間	1年次 後期	松浦 和代
小児看護学特論 C	講義 15時間	1年次 後期	松浦 和代
小児看護学特論 D	講義 15時間	2年次 前期	◎松浦 和代 吉川 由希子
母子看護学演習	演習 60時間	1年次 通年	◎松浦 和代 宮崎 みち子 吉川 由希子 山内 まゆみ
母性看護学演習	演習 60時間	1・2年次 通年	◎宮崎 みち子 山内 まゆみ
小児看護学演習 A	演習 60時間	1年次 通年	◎松浦 和代 吉川 由希子
小児看護学演習 B	演習 60時間	1・2年次 通年	◎吉川 由希子 松浦 和代
小児看護学実習 I	実習 180時間	1・2年次 通年	◎松浦 和代 吉川 由希子
小児看護学実習 II	実習 90時間	1・2年次 通年	◎松浦 和代 吉川 由希子
成人看護学概論	講義 30時間	1年次 前期	◎内田 雅子 中村 恵子
急性期看護学特論	講義 30時間	1・2年次 後期	中村 恵子
慢性期看護学特論	講義 30時間	1・2年次 後期	内田 雅子

授業科目	授業形態・ 時数	年次	担当教員
急性期病態管理学特論	講義 30時間	1・2年次 後期	◎★田中 秀治 ★山口 芳裕
クリティカルケア看護学特論	講義 15時間	1年次 前期	◎中村 恵子 菅原 美樹
成人看護学演習	演習 60時間	1年次 通年	◎内田 雅子 中村 恵子 菅原 美樹
急性期看護学演習	演習 60時間	1・2年次 通年	◎中村 恵子 菅原 美樹 ★平尾 明美 ★藤野 智子
アドバンスト・ フィジカルアセスメント演習	演習 30時間	1年次 前期	◎菅原 美樹 中村 恵子
クリティカルケア看護学演習	演習 60時間	1年次 通年	◎中村 恵子 菅原 美樹
慢性期看護学演習	演習 60時間	1・2年次 通年	内田 雅子
急性期看護学実習	実習 270時間	1・2年次 通年	◎中村 恵子 菅原 美樹 平尾 明美 ★藤野 智子
精神看護学特論Ⅰ	講義 30時間	1年次 前期	◎山本 勝則 ★阿保 順子
精神看護学特論Ⅱ	講義 30時間	1・2年次 後期	◎山本 勝則 ★藤井 博英
精神看護学特論Ⅳ	講義 15時間	1・2年次 前期	◎山本 勝則 守村 洋
精神看護学特論Ⅴ	講義 30時間	1年次 後期	◎山本 勝則 ★藤井 博英
精神看護学特論Ⅵ	講義 30時間	2年次 前期	◎山本 勝則 守村 洋
精神看護学演習Ⅰ	演習 60時間	1年次 通年	◎山本 勝則 守村 洋
精神看護学演習Ⅲ	演習 60時間	1・2年次 通年	◎山本 勝則 守村 洋
クリティカル精神看護学演習	演習 30時間	1年次 後期	◎山本 勝則 守村 洋
リハビリテーション精神看護学 演習	演習 30時間	2年次 前期	◎山本 勝則 守村 洋
精神看護学実習Ⅰ	実習 90時間	1年次 後期	◎山本 勝則 守村 洋
精神看護学実習Ⅱ	実習 180時間	2年次 通年	◎山本 勝則 守村 洋
看護技術学特論Ⅰ	講義 30時間	1年次 前期	樋之津 淳子
看護技術学特論Ⅱ	講義 30時間	1・2年次 後期	樋之津 淳子

I
概要II
教育活動III
研究活動IV
社会活動V
キャリア支援活動VI
入学者選抜結果VII
附属図書館VIII
役員会、経営審議会
及び教育研究審議会IX
学内運営の概要X
資料XI
教員業績一覧

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

授業科目	授業形態・ 時数	年次	担当教員
看護技術学演習Ⅰ	演習 60時間	1年次 通年	◎樋之津 淳子 大野 夏代 ★山内 豊明
看護技術学演習Ⅱ	演習 60時間	1・2年次 通年	◎大野 夏代 樋之津 淳子
看護教育・マネジメント学特論	講義 30時間	1年次 前期	◎定廣 和香子 猪股 千代子 河野 總子
看護教育学特論	講義 30時間	1・2年次 後期	定廣 和香子
看護マネジメント学特論	講義 30時間	1・2年次 後期	◎猪股 千代子 河野 總子
看護教育・看護マネジメント学演習	演習 60時間	1年次 通年	◎定廣 和香子 猪股 千代子
看護教育学演習	演習 60時間	1・2年次 通年	定廣 和香子
看護マネジメント学演習	演習 60時間	1・2年次 通年	猪股 千代子
特別研究	演習 240時間	1・2年次 通年	◎中村 恵子 内田 雅子 猪股 千代子 河野 總子 坂倉 恵美子 定廣 和香子 スーディ神崎和代 樋之津 淳子 松浦 和代 宮崎 みち子 山本 勝則 大野 夏代 菊地 ひろみ 菅原 美樹 村松 真澄 守村 洋 山田 典子 吉川 由希子 山内 まゆみ
課題研究	演習 120時間	1・2年次 通年	◎中村 恵子 松浦 和代 山本 勝則 菅原 美樹 守村 洋 吉川 由希子

◎印：科目責任者（オムニバス形式などの場合）

★印：非常勤講師

7 助産学専攻科

1) 平成24年度時間割

① 前期

		月		火		水		木		金	
		前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)
1	9:00 ～ 10:30	妊娠期助産 診断・技術学 シミュレーションラボ 演習室1		分娩期助産 診断・技術学 シミュレーションラボ 演習室1		周産期 ハイリスク援助論 シミュレーションラボ 演習室1		分娩期助産 診断・技術学 シミュレーションラボ 演習室1		産褥期助産 診断・技術学 シミュレーションラボ 3階実習室 演習室1	
2	10:40 ～ 12:10	妊娠期助産 診断・技術学 シミュレーションラボ 演習室1		分娩期助産 診断・技術学 シミュレーションラボ 演習室1		周産期 ハイリスク援助論 シミュレーションラボ 演習室1		分娩期助産 診断・技術学 シミュレーションラボ 演習室1		産褥期助産 診断・技術学 シミュレーションラボ 3階実習室 演習室1	
3	13:10 ～ 14:40	助産学総論 演習室1	助産学演習 演習室1	助産学 フィールド 演習 演習室1		周産期医学論 演習室1		乳幼児 支援論 演習室1		助産管理論 演習室1	
4	14:50 ～ 16:20	助産学総論 演習室1	助産学演習 演習室1	助産学 フィールド 演習 演習室1		周産期医学論 演習室1		乳幼児 支援論 演習室1			
5	16:30 ～ 18:00			地域母子 保健論 演習室1							

※開講曜日時間は週によって変更する場合がある。

② 後期

		月		火		水		木		金	
		前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)
1	9:00 ～ 10:30	助産学演習 演習室1									
2	10:40 ～ 12:10	助産学演習 演習室1									
3	13:10 ～ 14:40	助産学課題研究 演習室1									
4	14:50 ～ 16:20	助産学課題研究 演習室1									
5	16:30 ～ 18:00										

※開講曜日時間は週によって変更する場合がある。

2) カリキュラム

① 授業科目一覧

区分	授業科目の名称	授業形態	単位数 (全科目：必修)
基礎助産学	助産学総論	講義	2
	周産期医学論	講義	2
	乳幼児支援論	講義	2
	妊娠期助産診断・技術学	演習	1
	分娩期助産診断・技術学	演習	2
	産褥期助産診断・技術学	演習	1
実践助産学	助産学フィールド演習	演習	1
	周産期ハイリスク援助論	演習	1
	地域母子保健論	講義	1
	助産管理論	講義	1
	助産学実習Ⅰ	実習	3
	助産学実習Ⅱ	実習	3
	助産学実習Ⅲ	実習	3
	助産学実習Ⅳ	実習	2
	助産学実習Ⅴ	実習	1
統合助産学	助産学演習	演習	2
	助産学課題研究	演習	2
合計			30

② 修了要件

30単位（全科目必修）

3) 教育活動

授業科目	授業形態・ 時数	年次	担当教員
助産学総論	講義 30時間	前期	宮崎 みち子
周産期医学論	講義 30時間	前期	◎★堀本 江美 ★小泉 基生 ★高野 良子 ★唯野 貢司 ★西 基
乳幼児支援論	講義 30時間	前期	◎渡邊 由加利 ★富樫 武弘 ★丸山 知子
妊娠期助産診断・技術学	演習 30時間	前期	◎山内 まゆみ 多賀 昌江

授業科目	授業形態・ 時数	年次	担当教員
分娩期助産診断・技術学	演習 60時間	前期	◎渡邊 由加利 山内 まゆみ 山本 真由美 多賀 昌江
産褥期助産診断・技術学	演習 30時間	前期	◎山本 真由美 多賀 昌江
助産学フィールド演習	演習 30時間	前期	◎山内 まゆみ 山本 真由美 ★長田 理恵 ★番場 幹子 ★福井 智恵 ★福田 由佳
周産期ハイリスク援助論	演習 30時間	前期	◎渡邊 由加利 ★荒木 英司 ★鈴木 伸和 ★築島 健 ★中島 健 ★服部 司 ★平山 恵美 ★紅粉 睦男
地域母子保健論	講義 15時間	前期	◎宮崎 みち子 大野 夏代 ★有原 友子
助産管理論	講義 15時間	前期	◎宮崎 みち子 中村 恵子 ★荻田 ヒロミ ★浪花 弘美 ★成瀬 恵 ★水野 栄子
助産学実習Ⅰ	実習 135時間	通年	◎渡邊 由加利 山内 まゆみ 山本 真由美 多賀 昌江
助産学実習Ⅱ	実習 135時間	通年	◎渡邊 由加利 山内 まゆみ 山本 真由美 多賀 昌江
助産学実習Ⅲ	実習 135時間	通年	◎山内 まゆみ 山本 真由美 渡邊 由加利 多賀 昌江
助産学実習Ⅳ	実習 90時間	後期	◎渡邊 由加利 宮崎 みち子 山内 まゆみ 山本 真由美 多賀 昌江 ★成瀬 恵 ★橋詰 智子
助産学実習Ⅴ	実習 45時間	後期	◎山本 真由美 山内 まゆみ 渡邊 由加利 多賀 昌江
助産学演習	演習 60時間	通年	◎宮崎 みち子 羽深 久夫 山内 まゆみ 山本 真由美 渡邊 由加利 多賀 昌江
助産学課題研究	演習 60時間	通年	◎宮崎 みち子 山内 まゆみ 山本 真由美 渡邊 由加利

◎印：科目責任者（オムニバス形式などの場合）

★印：非常勤講師

4) 実習概要

※機関種別

科目名	実習期間	実習機関	延べ人数（名）
助産学実習	平成24年7月2日～ 平成25年1月8日	医療機関	811
	平成24年7月23日～ 11月30日	母子健康センター	11

8 デザインと看護の連携教育

「デザイン」・「看護」という、一見異なる学部の学生たちが、共に学ぶことが札幌市立大学の特色である。常識にとらわれない多彩なカリキュラムと自由な雰囲気での授業で、地域社会に根ざした豊かな人間性と柔軟な感性を育む。

1年次前期「スタートアップ演習」（共通教育科目）では、「デザインと看護の連携」をテーマに、大講義室での合同講義や少人数編成によるグループ活動を通じ、コミュニケーション能力を高める。また、異分野同士が協力して何かを作り出す体験をすることで、主体的に勉学・研究を進めるための基礎的な学習方法や課題解決の手法などを学ぶ。

平成24年度（2012年度）「スタートアップ演習」

テーマ	チーム名
会飲バス ～コミュニケーションの活性化により、全世代が豊かに交流する地域づくり～	なぎなたいも
もちくう？	のびーる
和スビス ～緩和ケアにおける和風庭園を利用したサービスの提案～	西くんと黄色いパーカー
NEW 入院着～快適性とデザインの向上をめざして～	妖精の関節
Welcome to Sickness 雑誌「Wellness」を用いた療養生活のイメージチェンジ	からあげピーマン
Stress less projects for outpatients in hospitals	ボジョレー・ヌーヴォー解禁
日常リターンズ	うまい棒〇〇味
コミュニケーションスペースの提案 ～コミュニケーションは突然に～	先生がいいならいいんじゃないですか
スタートアップ演習が目指したことと成果 介護付きマンション・幸せ太郎	アンティークペンケース
病院の食堂を快適で楽しく！ ～HAPPY×HOSPITAL LIFE=HOPPY LIFE!～	みんなホッピーライフ

3年次後期「学部連携演習」（専門教育科目）では、スタートアップ演習から2年を経て、基本的な専門教育の上に、相互の専門性を尊重し合い、それぞれがデザイン・看護の専門家として積極的に取り組む姿勢を身につける。少人数グループで、デザイン・看護相互に関わりのあるテーマや課題について、毎年共通テーマを設定し、相互の学生が共同・協力しながら、課題発見・解決に取り組む。

平成24年度（2012年度）「学部連携演習」

テーマ	チーム名
親子間のつながりを深めるコミュニケーションツールの提案	アタマホールディングス
「ほうかごポストマン」～手渡しでつなぐ世代のバトン～	G O D A I G O
Memorial Collection－メモリアルコレクション－ 世代間ファッションショーの提案	プリコリング！！！！

テーマ	チーム名
今は無き、“街頭紙芝居”が世代間交流を生む	百澤プロ
げんき！のみかた	げんき放送委員会
おたすけ戦隊 ジェネレンジャー 「世代間の理解は俺たちに任せろ！！」	ジェネレンジャー
育児に悩む母親のための新しい託児所の提案 「ココロニ」～こころを育てる第2の我が家～	C R U N K Y
世代間交流雑誌「P I M」	チーム武藤
社員マゲ ほっと一息あなたと話すきっかけ作り	輝-shine-
Reborn Communication ～ゆとり世代 to 団塊世代 de 思い繋げ隊～	べにてんぐたけ

I
概要II
教育活動III
研究活動IV
社会活動V
キャリア支援活動VI
入学選抜結果VII
附属図書館VIII
役員会、経営審議会
及び教育研究審議会IX
学内運営の概要X
資料XI
教員業績一覧

9 産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業（産業界ニーズGP）

1) 概要

文部科学省補助事業「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」について、本学を含む北海道・東北ブロックの17校が平成24年度から平成26年度までの3ヵ年事業として採択された。当ブロック協同テーマ「産官学連携による地域・社会の未来を拓く人材の育成」を基に、3つの取組テーマ、①『企業構造・地域課題を踏まえた教育内容の評価と改善』②『産業界と大学のニーズを踏まえたインターンシップの実施』③『早い段階から「将来目標」「社会・企業」を意識させる正課外の取組』に基づき、本学では下記の実施体制の下実施した。

2) 実施体制

【全体会議】

①GP推進会議、②広報部門、③評価部門、④FD部門

【学部内会議】

デザイン学部

①早期キャリア教育班、②ワークショップ型インターンシップ班、
③ポートフォリオ班、④キャリアデータベース班、⑤地域キャリア連携班

看護学部

①実務家教員導入班、②往還型（シャトル）研修班、
③ポートフォリオ班、④キャリアデータベース班、⑤地域キャリア連携班

3) 「産官学連携による地域・社会の未来を拓く人材の育成」平成24年度の主な事業実績

年月日	事業実績	部門・班	
平成24年10月17日	joint meeting(3・4年生)を実施。(参加者16名)	看護学部	ポートフォリオ班
平成24年11月14日	第3.4回往還型(シャトル)研修「若手看護職員のためのアサーティブ・コミュニケーション」(札幌会場)を実施。(参加者32名)	看護学部	往還型研修班
平成24年11月15日	第3.4回往還型(シャトル)研修「若手看護職員のためのアサーティブ・コミュニケーション」(東京会場)を実施。(参加者16名)	看護学部	往還型研修班
平成24年12月19日	FD研修会「最近の企業動向と就職支援について」を実施。(講師：株式会社帝国データバンク人事部人材開発部)(参加者31名)	デザイン学部	地域キャリア連携班
平成25年2月14日	キャリアガイダンス「人生設計図講演と作成ワークショップ(1年生対象)」を実施。(講師：大坂靖彦氏非常営利株式会社ビッグ・エスインターナショナル社長)(参加者20名)	デザイン学部	早期キャリア教育班
平成25年2月27日 ～3月15日	卒業前スキルアップトレーニング(参加者65名)	看護学部	往還型研修班
平成25年3月15日	ホームページ制作	全学	広報部門

平成25年3月22日	ワークショップ「『アーカイブでコミュニケーションすること』とキャリアデザイン」を実施。 (講師：柳本浩市氏プロデューサー、アキヴィスト、Glyph主催／佐々木孟氏Webデザイナー、ヤフー株式会社、本学卒業生)(参加者22名)	デザイン学部	ワークショップ型インターンシップ班、ポートフォリオ班、キャリアデータベース班
平成25年3月25日	ワークショップ「『コミュニケーションをデザインすること』とキャリアデザイン」を実施。 (講師：澤本嘉光氏CMプランナー、電通コミュニケーション・デザイン・センター)(参加者64名)	デザイン学部	ワークショップ型インターンシップ班、ポートフォリオ班、キャリアデータベース班
平成25年3月28日	FD研修会「ラーニングポートフォリオを学ぼう!」を実施。(講師：土持ゲリー法一氏帝京大学高等教育開発センター長)(参加者39名)	全学 看護学部	FD部門、ポートフォリオ班
平成25年3月30日	公開フォーラム(成果報告会)開催(参加者73名)	全学	広報部門
平成25年3月30日	パンフレット・リーフレット・ポスター制作	全学	広報部門
平成25年3月31日	キャリアデータベース機能追加	看護学部	キャリアデータベース班

I
概要II
教育活動III
研究活動IV
社会活動V
キャリア支援活動VI
入学者選抜結果VII
附属図書館VIII
役員会、経営審議会
及び教育研究審議会IX
学内運営の概要X
資料XI
教員業績一覧

III 研究活動

1 個人研究費による研究一覧

デザイン学部

教員名	研究課題
蓮見 孝	デザインと看護の連携によるウェルネス科学の推進
酒井 正幸	動物園のグランドデザイン ユニバーサルデザイン研究
城間 祥之	高齢者とロボットとの会話によるコミュニケーションの可能性に関する研究 －北海道弁による会話プログラムの構築－
中原 宏	札幌市における都市機能の多様性に関する研究
原田 昭	札幌市立大学の国際関係事業の展開と、産学公連携事業の展開
小西 敏正	建築構法の時代・地域特性
石井 雅博	視覚認知に関する研究
石崎 友紀	工学的性能、審美的性能、情緒的性能の可視化 道具学探求 地域様式デザイン研究 造形教育
上遠野 敏	現代美術創作研究 同時代の美術研究 日本の美意識研究
齋藤 利明	オールビスクによる創作人形制作研究と人形を主体とした空間演出
杉 哲夫	北国におけるプロダクトデザイン事例研究およびデザイン開発
武邑 光裕	ソーシャルメディア時代(大規模社交環境)におけるビデオ広告のストーリーテリングと拡散手法に関する研究-Relevance Modelの生成について
羽深 久夫	1)北海道における歴史的建造物の保存・再生・活用 2)米国・東欧・北欧及び東アジア(韓国・台湾)における木造建築の保存・再生・活用 3)日本および世界における医療施設・福祉施設の調査 4)世界の高等教育機関における建築教育調査と相互交流
原 俊彦	1)ドイツと日本における無子の増加に関する研究(継続) 2)超少子高齢化・人口減少社会に対応した社会保障システムのデザイン(継続) 3)震災に関わる地域人口への影響評価・復興モデルの検討(継続)
細谷 多聞	視覚的環境情報の電子化とその活用に関する研究
望月 澄人	CG作品、アニメーション・実写合成映像の制作
矢部 和夫	地域の湿原やその他の生態系における生物多様性の保全・再生と創出に関する研究
吉田 和夫	組織活性化におけるVI(ビジュアル・アイデンティティ)の役割とその生成について
吉田 恵介	地域資源の評価とランドスケープデザイン
柿山 浩一郎	PCを用いた教育システム(eラーニング)の質の向上～リアルタイム集団評価～
斉藤 雅也	寒冷地建築の熱性能と住まい手の想像温度の関係

教員名	研究課題
武田 亘明	クリエイティブ人材育成の実践的学びの場のデザイン
張 浦華	形態の感性評価の相関要因に関する研究
町田 佳世子	1)コミュニケーション能力の構造と評価方法の研究 2)「伝えるコミュニケーション」に関する研究
石田 勝也	研究1. サウンドアンドビジュアルを使用した空間的創造性の構築 研究2. コンテンツ産業における地域プロモーションの研究
上田 裕文	震災復興の風景計画に関する研究
大淵 一博	デザイン学習者向け教材の開発と教育効果測定に関する研究
片山 めぐみ	文化資源としての野生動物の展示利用—その展示効果と利用に関わる諸問題
小宮 加容子	身体・精神の発達に応じた使いやすく魅力のある形に関する研究
福田 大年	ワークショップの活動を基盤としたアイデア発想能力の向上におけるプロトタイピングの可能性に関する研究
松井 美穂	アメリカ南部文学における Whiteness/Blackness
三谷 篤史	木の感性性能を生かしたメカトロ積木の開発
山田 良	環境デザイン(環境芸術・ランドスケープデザイン)の地域に果たす役割に関する研究
須之内 元洋	オンライン音響編集プラットフォームを活用したサウンドスケープ活動の展開、及び音響パターン認識技術の研究
長谷川 聡	産学連携によるキッズデザイン～地域貢献・学生支援活動としての24時間TVのオブジェデザイン～

看護学部

教員名	研究課題
中村 恵子	大学院教育における高度実践看護に関する研究
樋之津 淳子	基礎看護技術と臨床教育をつなぐ卒後研修プログラムの開発
スーディ神崎 和代	ICTを用いた遠隔看護(E-KANGO)に関する研究 地域在住高齢者の転倒リスクに関する研究
宮崎 みち子	胎児の生きる権利に関する研究
猪股 千代子	統合医療の看護教育・看護管理に関する研究
内田 雅子	1)慢性期看護、2)事例研究法、3)看護職キャリア形成プロセス
河野 總子	呼吸ケアにおける看護師の裁量権の見直しと拡大可能性
河原田 まり子	ソーシャルキャピタルを活用した地域保健活動の推進
坂倉 恵美子	1)老人福祉センター利用者の生活実態と主観的幸福感 2)閉じこもり高齢者のスクリーニング尺度の作成と訪問介入プログラムの開発
定廣 和香子	看護学実習における医療事故防止に向けた教授活動自己評価尺度の開発
松浦 和代	低学年児童の基礎活動力を高める転倒予防マットレスの開発と運動プログラムへの適用
山本 勝則	精神看護学におけるシミュレーション教育

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

教員名	研究課題
大野 夏代	1) マッサージなど看護技術に関する研究 2) 国際的研修活動の計画や評価に関する研究 3) シャトル研修等、キャリア支援に関する研究
貝谷 敏子	高度褥瘡管理技術としての特定行為を臨床導入し定着させるためのプロセスモデルの構築
菊地 ひろみ	在宅看護サービスによる在宅療養者の病状安定および重症化予防の対医療費効果に関する基礎的研究
清水 光子	保健師の専門性に関する研究 官学民連携による地域に根ざした健康教育演習の実践と学習効果
菅原 美樹	救急・クリティカルケア看護師の職務レジリエンス能力評価尺度の開発
村松 真澄	全国の新生児集中治療室(NICU)の看護管理者を対象に口腔ケアに関する看護管理的な取り組みの実態調査
守村 洋	メンタルヘルスに関する研究(主として精神障害セルフヘルプ・グループへの地域生活支援および自殺予防に関する研究)
山田 典子	セーフティプロモーション(SP)/セーフコミュニティ(SC)に関する外傷予防活動
吉川 由希子	コンピテンシーの概念分析
太田 晴美	災害看護に取り組む看護師支援に関するアクションリサーチ
神島 滋子	高次脳機能障害を抱える人と生活する家族の困難 看護学生の「リハビリテーション看護」に対する認識の様相
櫻井 繭子	産業保健専門職に関する研究 官学民連携による地域看護教育に関する研究
杉田 久子	臨床看護実践における知の構築プロセスの研究(継続) ～看護師の「知」に基づく看護実践の可視化～ ～臨床新人看護師の「知」の語り～
田中 広美	看護技術に関する研究
原井 美佳	1) 前期高齢者である女性の加齢に伴う尿失禁のリスク要因の解明 2) 高齢女性の通常歩行時に身体が受ける振動と老年症候群との関連についての検討
藤井 瑞恵	成人看護学領域における臨床看護師との連携による技術演習の効果
山内 まゆみ	1) 助産師基礎教育の「職業準備性」を高める教育技法の検証(研究期間:平成22年度から平成24年度) 2) 助産学専攻科学生を対象とした「私はこんな助産師になるぞ!」プロジェクト学修への効果検証を実施する。 3) 助産学専攻科OSCEの運営と効果
山本 真由美	助産師の可視化されにくい業務の実態調査
渡邊 由加利	1) 妊娠期にある女性の心理・社会的適応に向けた夫婦間のコミュニケーション支援モデルの検討 2) 助産学におけるOSCEの方法と信頼性の検討 3) Concept Analysis of Nursing Competency from Japanese Perspective
工藤 京子	呼吸器疾患患者が自律して社会生活を営む上での患者会の役割
多賀 昌江	死産児出産の悲しみを癒す棺の感性デザインに関する研究
鶴木 恭子	基礎看護技術に関する基礎的研究

教員名	研究課題
照井 レナ	訪問看護師の医行為における裁量に関する研究 在宅ケア従事者が連携して行うMulti-discipline型、かつ計画と評価に関わる自己主導型学習活動システムの構築 ICT活用による遠隔看護サービス(E-KANGO)研究
坂東 奈穂美	看護師と看護補助者のケア協働システム構築への取り組み -看護補助者の現状と課題-
三上 智子	看護基礎教育における小児看護学OSCEの展開
柏倉 大作	周手術期における患者の栄養状態と術後経過不良に関する研究
田仲 里江	保健師のストレスに関する研究
檜山 明子	入院患者に対する転倒予防対策に関する研究
鈴木 ちひろ	月経前症候群の症状が看護職者に与える影響
星 幸江	精神科長期入院患者の退院支援の実態と地域における支援の可能性

I
概要

II
教育活動

III
研究活動

IV
社会活動

V
キャリア支援活動

VI
入学者選抜結果

VII
附属図書館

VIII
役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX
学内運営の概要

X
資料

XI
教員業績一覧

2 学内公募研究課題一覧

学術奨励研究

教員名	研究課題
長谷川 聡	有機薄膜太陽電池の用途開発及びデザインに関する研究
須之内 元洋	サウンドスケーププラットフォームを活用した、拡張マルチスケールフラクタル次元による包括的音響特徴量の提案と評価
山田 良	美術館施設と大学の連携による芸術環境形成のための基礎研究
小宮 加容子	散剤服用に適した動作を誘導する処方箋分包袋のデザイン提案
星 幸江	札幌市における精神障害者の地域移行支援の実態調査
原井 美佳	寒冷地で居住してきた女性高齢者の尿失禁のリスク要因解明と尿失禁への対処行動促進に関する研究
守村 洋	医療および地域をも含めた包括的な自殺予防に関する研究

共同研究

教員名	研究課題
◎上田 裕文 町田 佳世子	健康観光まちづくりにおける健康ウォーキングの活用：参加者の心理的・認識的变化を促すガイドの役割と地域のつながり
◎吉田 和夫 原田 昭 酒井 正幸 細谷 多聞 斉藤 雅也 町田 佳世子 大渕 一博 柿山 浩一郎 片山 めぐみ 小宮 加容子	円山動物園入園までの高揚感を創出するアプローチデザインに関する基礎的研究
◎矢部 和夫 酒井 正幸 吉田 和夫	「共生をキーワードとした環境教育」教材としての芸術の森地区の研究
◎三上 智子 杉 哲夫	非日常・日常時に囲んで食べられる保存食「石狩なべ」の開発
◎田中 広美 檜山 明子	安全で適切な注射の技術の開発

◎印：代表者

田村ICT基金

教員名	研究課題
◎スーディ神崎 和代 菊地 ひろみ 柿山 浩一郎 福田 大年 照井 レナ	高齢者の健康意識と健康管理ツールへの入力負荷とのトレードオフ関係の解明による最適化システムの開発

◎印：代表者

採択状況

学術奨励研究		共同研究		田村 ICT 基金		合計	
応募件数	採択件数	応募件数	採択件数	応募件数	採択件数	応募件数	採択件数
9	7	6	5	2	1	17	13

3 学外からの研究費、研究補助金などの受入状況

学術研究助成基金助成金(科研費)

研究代表者	研究課題	研究種目	金額(円)
松井 美穂	アメリカ南部モダニズム文学の形成と女性作家	基盤研究(C)一般	130,000
樋之津 淳子	看護基礎教育と看護師の臨床教育をつなぐ客観的臨床能力試験プログラムの開発	基盤研究(C)一般	1,690,000
渡辺 由加利	看護教育における模擬患者養成プログラムの検証と模擬患者を支援するシステム構築	基盤研究(C)一般	1,040,000
定廣 和香子	看護学実習中の医療事故回避に向けた教授活動自己評価尺度の開発—実習安全FDの実現	基盤研究(C)一般	910,000
内田 雅子	チーム・プロセスに焦点を当てた人材育成連携活動の形成的評価研究	基盤研究(C)一般	650,000
吉川 由希子	広域医療圏に居住する障害児の在宅ケア支援ネットワークモデルの構築と検証	基盤研究(C)一般	910,000
坂倉 恵美子	閉じこもり高齢者のスクリーニング尺度の作成と訪問介入プログラムの開発	基盤研究(C)一般	2,210,000
酒井 正幸	インタフェースデザインにおける視覚的使いやすさ感の研究	基盤研究(C)一般	910,000
上田 裕文	樹木葬墓地にみる新たな森林利用の日独比較研究	若手研究(B)	780,000
蓮見 孝	「手づくね」に着目したアート&デザイン・ワークショップによる病院の療養環境改善	基盤研究(C)一般	1,040,000
猪股 千代子	難病患者の健康と安寧の推進を目的とした音楽を活用した心身のリハビリテーションケア	挑戦的萌芽研究	1,300,000
町田 佳世子	動物園を舞台とした教育・啓蒙活動における専門的実践家の役割とその効果の解明	基盤研究(C)一般	910,000
原 俊彦	札幌市における配偶関係別移動率の解明	基盤研究(C)一般	650,000
三谷 篤史	異方性エッチング加工による非対称微細構造表面におけるトライボロジ特性の解明	基盤研究(C)一般	1,560,000
太田 晴美	災害看護に取り組む看護師支援に関するアクションリサーチ	基盤研究(C)一般	1,820,000
山内 まゆみ	現職助産師の業務実態を背景とした看護系大学による卒後研修教育プランの開発	基盤研究(C)一般	2,340,000
宮崎 みち子	助産学専攻科における客観的臨床能力試験(OSCE)を用いた教育プログラムの開発	基盤研究(C)一般	910,000
菊地 ひろみ	看護系大学の在宅看護分野における看護技術教育の到達度と方法の明確化	基盤研究(C)一般	650,000
斉藤 雅也	小学児童の夏・冬の閾値温度の地域比較研究	基盤研究(C)一般	1,300,000
松浦 和代	低学年児童の基礎活動力を高める転倒予防マットレスの開発と運動プログラムへの適用	基盤研究(C)一般	1,690,000
矢部 和夫	低地泥炭湿原の群落の景観と種組成における地理的変異の把握とその生成機構の解明	基盤研究(C)一般	1,820,000
藤井 瑞恵	地域一般住民のアルコール摂取量とアディポカイトサイン、生活習慣病リスクとの関係	基盤研究(C)一般	3,120,000

I 概要
II 教育活動
III 研究活動
IV 社会活動
V キャリア支援活動
VI 入学者選抜結果
VII 附属図書館
VIII 役員会、経営審議会 及び教育研究審議会
IX 学内運営の概要
X 資料
XI 教員業績一覧

研究代表者	研究課題	研究種目	金額(円)
村松 真澄	介護保険施設において実践されている口腔ケアに関する看護管理的取り組みの実態調査	基盤研究(C)一般	3,120,000
山田 典子	外傷サーベイランスが現場にもたらす課題とシミュレータを用いたスタッフ育成	挑戦的萌芽研究	1,560,000
片山 めぐみ	高齢者福祉に対する子どもの感性を育む地域コミュニティ：幼老複合施設の新しい試み	若手研究(B)	780,000
檜山 明子	「疼痛アセスメント能力自己評価尺度－精神科看護師用－」の開発	若手研究(B)	650,000

受託研究費

研究代表者	研究課題	受託元	金額(円)
石井 雅博	共生社会に向けた人間調和型情報技術の構築	(独)科学技術振興機構	6,500,000
上田 裕文	寿都町におけるブルーツーリズムと中間支援組織に関する調査研究	寿都町	1,200,000
片山 めぐみ	寿都町におけるコミュニティ・レストランの調査研究	寿都町	1,200,000
坂倉 恵美子	高齢者（札幌市老人福祉センター利用者）の意識調査	社会福祉法人札幌市福祉事業団	506,000
城間 祥之	大学院講義を活用した地域貢献活動（地域動画の制作）の実証的研究	札幌市(市民まちづくり局)	997,500
羽深 久夫	札幌市中央卸売市場施設の機能的なデザイン等に関する調査研究	札幌市(中央卸売市場)	1,000,000
酒井 正幸	地方都市観光振興のための ICT を用いた情報ユニバーサルデザイン	三菱電機㈱デザイン研究所	1,000,000
羽深 久夫	仮称札幌市障がい児（者）医療・福祉複合施設整備に係る障がい児等への療育環境向上のためのデザイン、看護の双方向の視点による研究	札幌市(保健福祉局)	1,000,000
杉 哲夫	生ごみ水切りの市民意識向上のための調査・研究	札幌市(環境局)	1,000,000
羽深 久夫	南区の地域活性化に関する研究業務	札幌市(南区)	987,000
矢部 和夫	円山動物園の森ビオトープの生物多様性向上のための研究	札幌市(円山動物園)	500,000
吉田 和夫	ユニバーサルデザイン視点からの動物園獣舎のサイン計画研究	札幌市(円山動物園)	500,000
斉藤 雅也	動植物の光・温熱環境と省エネルギーに配慮した動物舎のデザイン研究	札幌市(円山動物園)	1,000,000
吉田 和夫	ブランディングの視点に基づく福祉用具企業の Web サイト戦略に係る研究	㈱特殊衣料	500,000
守村 洋	札幌市における児童精神医療に関する調査	札幌市(保健福祉局)	500,000
斉藤 雅也	再生可能な地中熱の利用による「札幌版次世代コミュニティ暖房」の可能性に関する調査研究	札幌市(市長政策室)	1,480,500

4 寄附金の受入状況

教員名	寄附目的	寄附元	金額(円)
中村 恵子	1. 教育を基にした人材育成のための支援 2. 看護教育の促進・強化	医療法人徳州会 札幌徳州会病院	300,000
	看護研究の促進および看護の質向上のため	北海道勤労者医療協会	480,000
矢部 和夫	釧路湿原生態系保全に関する研究のため	環境コンサルタント(株)	500,000
	ウトナイ湖の水位変化が北西岸湿地のハンノキ林や他の群落の分布に与える影響の評価に対する研究助成	(公財)リバーフロント研究所	800,000

5 その他研究助成

教員名	寄附目的	寄附元	金額(円)
三谷 篤史	遊び手の操作に応じて反応が変化するメカトロ積み木の開発	(公財)北海道科学技術総合振興センター	400,000
スーディ神崎 和代	在宅療養者と保健および医療をつなぐ24時間対応の遠隔看護システムの向上と検証	(公財)北海道科学技術総合振興センター	2,000,000

6 海外出張記録

期間	教員名	目的国	目的
平成24年5月9日 ～13日	福田 大年	タイ	札幌のクリエイターの展覧会「RAWPLAN & GIANT SWING presents...『ILL POP COMMUNICATION 2012』HELLO!!! from ILLUSTRATORS OF HOKKAIDO.」のサポート及び出席
平成24年5月10日 ～18日	石井 雅博	アメリカ	Vision Sciences Society 12th Annual Meeting に参加、研究成果発表及び資料収集
平成24年5月13日 ～20日	三谷 篤史	アメリカ	2012 International Conference on Robotics and Automation (ICRA2012)参加
平成24年5月21日 ～27日	酒井 正幸	台湾	KEER2012(感性と感情に関する国際会議)出席及び研究発表
平成24年6月2日 ～11日	矢部 和夫	アメリカ	第9回インテコル 国際湿地学会で発表、エバークレース 国立公園視察
平成24年7月1日 ～5日	羽深 久夫	台湾	華梵大学との大学連携協定によるデザインワークショップ 出席、新北市黄金博物館・九分山城・宜蘭市蘭陽博物館見学
平成24年7月9日 ～16日	村松 真澄	イギリス、フランス	高齢者看護に関する資料や本の情報収集 British Society Gerontology Annual Conference 2012 1st Annual Conference -11th-13th July 2012 ポスター発表
平成24年7月11日 ～15日	三谷 篤史	台湾	2012 IEEE/ASME International Conference on Advanced Intelligent Mechatronics (AIM2012)参加及び発表
平成24年7月12日 ～16日	石井 雅博	韓国	8th Asia-Pacific Conference on Vision (APCV) 参加、研究成果発表及び研究資料収集
平成24年7月13日 ～29日	武邑 光裕	オランダ、ドイツ、フィンランド	Triodos Bank におけるエコ&グリーン、アートに関わるソーシャル・ビジネス支援のあり方をヒアリング、ベルリンの現代アートシーンとの交流及び研究課題の絞り込み、欧州文化首都のデザイン首都2012の行事視察及び研究調査
平成24年7月27日 ～8月2日	定廣 和香子	オーストラリア	STTI 第23回国際学術集会発表
平成24年7月28日 ～8月5日	渡邊 由加利	オーストラリア	第23回シグマ・シータ・タウ・インターナショナル国際看護研究会議学会参加
平成24年7月28日 ～8月5日	吉川 由希子	オーストラリア	Sigma Theta Tau International's 23rd International Nursing Research Congress 参加
平成24年8月1日 ～9日	小西 敏正	カナダ、アメリカ	国際図学会発表(The 15th International Conference on Geometry and Graphics)、歴史的建造物の調査(震災被害後に保存再生された Ferry building とその周辺の調査)
平成24年8月5日 ～8日	羽深 久夫	台湾	東アジア都市建築デザインワークショップ2012参加
平成24年8月6日 ～13日	宮崎 みち子	ブラジル	第19回世界医事法学会出席
平成24年9月3日 ～9日	三谷 篤史	ベルギー	The 14th International Conference on Engineering and Product Design Education 参加及び発表
平成24年9月3日 ～7日	斉藤 雅也	ドイツ	ECBCS Annex definition workshop on LowEx Communities - Optimised Performance of Energy Supply Systems with Exergy Principles 会議にて研究発表

期間	教員名	目的国	目的
平成24年9月11日 ～17日	山 田 良	ロシア	空間デザインワークショップ実施
平成24年9月11日 ～24日	矢 部 和 夫	インドネシア	JST-JICA International Symposium 参加、泥炭湿地林化最後の二次草原の生態調査
平成24年9月17日 ～23日	神 島 滋 子	アメリカ	National Leagur for Nuring Education Summit 出席、シュミレーション教育施設視察
平成24年9月28日 ～10月6日	須之内 元洋	アメリカ	国際企画展「DataVis： Information as Art. 」にて音響メディアプラットフォームを活用したインスタレーション作品の展示設置、及びプレゼンテーション
平成24年9月30 ～10月5日	山 田 典 子	ニュージーランド	Safety 2012 World Conference 出席、第11回外傷予防とセーフティプロモーション世界大会にて発表
平成24年10月3日 ～11日	小 西 敏 正	チベット	石材・煉瓦・木材・土の混構造建築物の構法調査. Dr. Bhaikaji Tiwari, Chief of Kathmandu Valley Department, Mr. Prasad Prajapti, Surveyer of Department of Archaology Res, Mr. Tej Ranta Tamurakar, Chef of Hanuman Dhoka(元カトマンズ王宮責任者)と打ち合せ、ヒマラヤ北部のチベット住居との構法比較、煉瓦と地域材料による山岳建築調査
平成24年10月16日 ～24日	武 邑 光 裕	ドイツ	Digital Backyards International Conference October 18th-20th at Kunstquartier Bethanien Berlin パネラー会議、日本会議参加、the Kunstraum Kreuzberg / Bethanienでのメディア・アーツ、現代アートに関する研究会合出席、ディレクター、Stéphane Bauer 氏との研究打ち合せ
平成24年10月25日 ～30日	町 田 佳 世 子	ハンガリー	International Society for Quality of Life Research 19th Annual Conference 出席及び発表、スパ施設(温泉療法施設)の施設状況・利用状況等視察
平成24年10月26日 ～11月1日	村 松 真 澄	アメリカ	Dr. Kolcaba(アクロン大学 Associate Professor)とコンフォート理論を使用しての研究の打ち合せ
平成24年11月1日 ～4日	山 田 良	韓国	都市における現代美術に関する研究会出席、大学視察と美術学部教員との面談、現代美術館視察、現代アートディレクターとの面談
平成24年11月27日 ～12月1日	山 田 良	イギリス	建築デザイン会議出席
平成24年12月1日 ～5日	石 田 勝 也	香港	北海道クリエイティブとアジア(香港)におけるネットワークの構築イベント参加、クリエイティブ北海道プレゼンテーション及び展示、ワークショップ視察、クリエイティブ北海道ダイニング参加、北海道フード試食商談会視察
平成24年12月4日 ～11日	須之内 元洋	イギリス	フィールドレコーディング、マスタリングの実践技術と作品制作に関するワークショップ・レクチャ・シンポジウムへの参加及び聴講、Chris Watson 氏によるフィールド・レコーディングワークショップ、ディスカッション参加
平成24年12月28日 ～平成25年1月6日	猪 股 千 代 子	イタリア	統合医療ネットワークアジアヨーロッパ国際会議出席、ローマ市内病院視察
平成25年2月6日 ～17日	須之内 元洋	ラオス、タイ	ラオス文化のサウンスケープ調査、バンコク都心部サウンドスケープ調査

I
概要II
教育活動III
研究活動IV
社会活動V
キャリア支援活動VI
入学者選抜結果VII
附属図書館VIII
役員会、経営審議会
及び教育研究審議会IX
学内運営の概要X
資料XI
教員業績一覧

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

期間	教員名	目的国	目的
平成25年2月7日 ～11日	村 松 真 澄	アメリカ	イブニングセミナー、デイサービス見学、急性期病院見学、 ハワイ大学医学部シミュレーション教育見学、ハワイ国際 交流セミナーで演題発表
平成25年2月10日 ～13日	柿 山 浩 一 郎 ス ー デ ィ 神 崎 和 代	韓国	今後の札幌市立大学との学術的交流の検討を目的とした セミナー、ワークショップ、病院見学による交流
平成25年2月17日 ～20日	斉 藤 雅 也	オーストリア	「札幌版次世代コミュニティ暖房システム」に関する研究 における、地中熱・太陽熱利用のコミュニティ暖房システ ム関連施設の視察、研究者ワークショップ参加
平成25年2月20日 ～23日	大 野 夏 代	タイ	The 16th East Asian Forum of Nursing Scholar 参加
平成25年2月28日 ～3月5日	片 山 め ぐ み	台湾	台湾の老人福祉施設における「縁側サービス」の実態調査
平成25年3月1日 ～6日	大 淵 一 博 吉 田 和 夫	オーストラリア	共同研究に関わる動物園と類似施設視察
平成25年3月9日 ～12日	羽 深 久 夫	韓国	韓国における歴史的建造物調査
平成25年3月11日 ～16日	坂 倉 恵 美 子	イギリス	第5回国際地域看護学会出席
平成25年3月12日 ～17日	田 仲 里 江	イギリス	ICCHNR 国際地域看護学会出席、医療施設・医療機関視察
平成24年3月14日 ～30日	山 田 良	イタリア	公共広場における環境芸術調査・研究
平成25年3月19日 ～25日	上 田 裕 文	ドイツ	「樹木葬墓地にみる新たな森林利用の日独比較研究」のた め、ドイツの樹木葬墓地の追加インタビュー
平成25年3月22日 ～27日	中 村 恵 子 菅 原 美 樹 山 田 典 子 山 内 ま ゆ み	アメリカ	医学部・看護学部のシミュレーション教育の視察及び研 修、病院視察

Ⅳ 社会活動

1 地域貢献諸活動

1) 受託研究一覧

研究課題	期間	概要	連携先
共生社会に向けた人間調和型情報技術の構築	平成24年4月1日 ～平成25年3月31日	三次元空間知覚や認知のメカニズム解明に取り組み、上視野では近方の奥行き知覚が困難であり、下視野では遠方の奥行き知覚が困難であることを見出した。また、目の焦点調節が奥行き知覚に及ぼす影響を明らかにした。	独立行政法人 科学技術振興機構
寿都町におけるブルーツーリズムと中間支援組織に関する調査研究	平成24年4月25日 ～平成25年3月25日	社会実験として「寿都鉄道跡ウォーキングイベント」や「磯遊びイベント」を開催し、この活動を通して、リーダーの発掘、関係組織や団体を横断する協議の場の設定、最終的なまりづくり中間支援組織の立ち上げに関してアクションリサーチを用いた研究を行った。	寿都町
寿都町におけるコミュニティ・レストランの調査研究	平成23年4月25日 ～平成25年3月25日	寿都町における地域活性化のためのコミュニティ・ビジネスの提案が求められ、ヒト・モノ・コト・バショに注目して町の資源を調査した。27回に及ぶ町民座談会、およびフォーラムを開催し、町民の感じる「町の魅力」を資源としたコミュニティ・ビジネスの提案を行った。	寿都町
高齢者(札幌市老人福祉センター利用者)の意識調査	平成24年5月11日 ～平成25年3月20日	本研究は、札幌市老人福祉センター利用者の生活環境や日常生活全般と主観的幸福感の関連性について明らかにすることを目的とした。その結果、高齢者の生活の質を高め、健康であり続けるための示唆を得た。	社会福祉法人 札幌市福祉事業団
大学院講義を活用した地域貢献活動(地域動画の制作)の実証的研究	平成24年5月30日 ～平成25年3月15日	本研究では札幌市民が自分の住む地域に愛着を持ち、まちづくりに参加したくなるプロモーション映像の制作を行った。ここでは特に、若者にまちづくり活動への参加を促すことを目標に3本のプロモーション映像作品を制作した。 (1)マチツクー若者のまちづくり参加を促す映像制作の研究ー (2)ゴミモン・バスターーまちづくりエンターテイメント作品の試みー (3)雪あかりの祭典「ARTOU」ー札幌市立大生のまちづくりに対する試みー	札幌市 (市民まちづくり局)
札幌市中央卸売市場施設の機能的なデザイン等に関する調査研究	平成24年7月9日 ～平成25年3月15日	札幌市場施設の機能的なデザイン等に関する調査研究として、札幌市中央卸売市場において、「札幌市中央卸売市場経営活性化プロジェクト」の目標である「集客力」増加に向けて単なる業務施設ではなく、「食育」や「環境教育」の場として、見学者や観光客を呼び込むための手法等を企画・提案した。	札幌市 (中央卸売市場)

Ⅰ
概要

Ⅱ
教育活動

Ⅲ
研究活動

Ⅳ
社会活動

Ⅴ
キャリア支援活動

Ⅵ
入学選抜結果

Ⅶ
附属図書館

Ⅷ
役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

Ⅸ
学内運営の概要

Ⅹ
資料

Ⅺ
教員業績一覧

研究課題	期間	概要	連携先
地方都市観光振興のためのICTを用いた情報ユニバーサルデザイン	平成24年7月4日 ～平成25年3月15日	札幌市を事例に地方都市の観光振興を目的とした情報ユニバーサルデザインについての調査研究を行った。昨年の調査研究と追加調査研究を基に、外国人旅行者を主対象とした新たな案内システムを考案しプロトタイプを制作した。	三菱電機(株) デザイン研究所
仮称札幌市障がい児(者)医療・福祉複合施設整備に係る障がい児等への療育環境向上のためのデザイン、看護の双方向の視点による研究	平成24年7月12日 ～平成25年3月15日	仮称札幌市障がい児(者)医療・福祉複合施設整備の設計業務を進めるにあたり、デザイン、看護の双方向の視点による研究を設計に反映させ、施設を主に利用する障がい児の療育環境の向上を目指す提案を行なった。	札幌市 (保健福祉局)
生ごみ水切りの市民意識向上のための調査・研究	平成24年7月30日 ～平成25年2月28日	生ごみ水切り関連の台所流し台形状・寸法調査ならびに水切り商品・特許調査を行った。また、実際の食事後の水切り実験より、適切な形状・構造の水切り器具があれば10%程度水分を減らせることがわかり、4種類のデザインを考案し、デザインモデルの制作および製造メーカーの検討・一般主婦へのアンケート調査などを行った。	札幌市 (環境局)
南区の地域活性化に関する研究業務	平成24年8月28日 ～平成25年3月15日	南区の地域活性化に関する研究調査シーニックバイウエイの取組の活性化に関する研究として、シーニックバイウエイ会議等の出席状況、シーニックバイウエイカレンダーのデザイン制作、シーニックバイウエイ関連イベントの広報に関する考案、シーニックバイウエイロゴマークのデザイン提案を行なった。	札幌市(南区)
円山動物園の森ビオトープの生物多様性向上のための研究	平成24年9月26日 ～平成25年2月28日	(1)ササ除去による山野草回復試験 (2)外来種除去による山野草回復試験 (3)導入候補小動物の現状把握と地図化 (4)小動物の生育環境のモニタリングと導入予備実験 (5)ガイドボランティアの技術向上 (6)動物園の森全体管理方針検討会議への出席	札幌市 (円山動物園)
ユニバーサルデザイン視点からの動物園獣舎のサイン計画研究	平成24年9月26日 ～平成25年2月28日	札幌市円山動物園を対象に、ユニバーサルデザイン視点からのトータルサイン計画の監修を目的とし、以下の項目を行った。 (1)ピクトグラムのデザイン(今後導入予定動物及び、サインの無い飼育動物) (2)サイン配置実施計画策定 (3)サイン計画の全体監修 (4)ユニバーサルデザイン視点からの視認性の検証	札幌市 (円山動物園)

研究課題	期間	概要	連携先
動植物の光・温熱環境と省エネルギーに配慮した動物舎のデザイン研究	平成24年9月26日 ～平成25年2月28日	札幌市円山動物園のアジアゾーンおよび、アフリカゾーンのデザイン監修、「類人猿館」と「は虫類・両生類館」のエネルギー・マネジメント実態を数値解析によって明らかにした。 アジアゾーンのデザイン監修では、①サインデザイン、②放養場の環境エンリッチメント、③展示空間の仕上げチェックを対象に具体的なデザインの提案を行なった。 アフリカゾーンでは、国内外主要動物の放養場、来園者展示空間、サイン、ランドスケープ、バックヤードのデザイン事例に関する写真データ集を作成した。アメリカ合衆国、ヨーロッパ、日本国内の事例を網羅した。 また「類人猿館」と「は虫類・両生類館」のエネルギーデータの分析から、築2年の「は虫類・両生類館」は、築36年の「類人猿館」に比べて5倍性能が良好な省エネルギー建築であることがわかった。	札幌市 (円山動物園)
ブランディングの視点に基づく福祉用具企業のWebサイト戦略に係る研究	平成24年9月24日 ～平成25年2月28日	(株)特殊衣料および同社の福祉用具ブランドのポジショニングを分析し、Webサイトのデザイン提案、構築を行った。デザイン提案にあたっては、同社の企業パンフレットと連動しつつ、総合的な広報・販促メディアとして活用できるものであることを重視した。	(株)特殊衣料
札幌市における児童精神医療に関する調査	平成24年12月25日 ～平成25年3月15日	札幌市児童心療センターの安定的な運営体制等を検討するため、全国の児童精神科病院(33件)、札幌市内の精神科病院(38件)および精神科心療所施設の運営体制等を視察調査した。	札幌市 (保健福祉局)
再生可能な地中熱の利用による「札幌版次世代コミュニティ暖房」の可能性に関する調査研究	平成24年12月27日 ～平成25年3月22日	再生可能な地中熱利用による「札幌版次世代コミュニティ暖房」の可能性について調査した結果を述べたものである。具体的には、地中熱暖房システムの熱特性、機器効率、地中熱利用率を建築環境・設備機器の実測によって明らかにした。また、「札幌市都市計画基礎調査」データに基づき、市内の住宅地を対象とした「地中熱需要MAP」を作成し、経済性を考慮した「札幌版次世代コミュニティ暖房」のモデルプランの基礎資料を提示した。	札幌市 (市長政策室)

I
概要II
教育活動III
研究活動IV
社会活動V
キャリア支援活動VI
入学選抜結果VII
附属図書館VIII
役員会、経営審議会
及び教育研究審議会IX
学内運営の概要X
資料XI
教員業績一覧

2) 受託事業一覧

事業名	期間	概要	担当教員	連携先
防災カード(仮称) の企画デザイン	平成24年6月29日 ～平成25年3月31日	児童が防災について手軽に学べるゲーム「防災勇者」を学生2名の協力のもと、企画デザインを制作、提案した。	福田 大年	(一社)建設コンサル タント協会北海 道支部

3) 地域連携研究センターへの協力依頼一覧

事業名	期間	依頼元	対応教員名	備考
つながる@きたカフェ 「この街きらり」の取材協力	平成24年4月11日	NHKプラネット北海道 支社	小宮 加容子 福田 大年	学生協力
中央図書館元気カフェ整備事業 基本計画作成業務	平成24年4月11日 ～6月30日	札幌市(保健福祉局)	那 須 聖 清水 光子	学生協力
ふれあいガーデン 生きがいづくり事業	平成24年5月9日 ～8月30日	芸術の森地区 まちづくりセンター	矢 部 和 夫	
大学院講義を活用した地域住民への省CO ₂ 普及啓蒙活動の促進	平成24年5月9日 ～9月30日	(株)札幌副都心開発公社	斉 藤 雅 也	学生協力・ 大学院講義
環境保全及び環境活動推進事業 グリーンカーテン普及プロジェクト	平成24年5月9日 ～10月30日	芸術の森地区 まちづくりセンター	斉 藤 雅 也	
ICT遠隔看護相談システム 構築事業	平成24年5月9日 ～平成25年3月31日	枝幸町	スーディ神崎 和代 菊地 ひろみ 照 井 レナ 柿山 浩一郎 福田 大年	
異動販売おもちゃバスの内装及び外装デザイン提案ならびに子ども向けワークショップの企画及び支援	平成24年6月13日 ～12月10日	ハンズオントイ キンダーリープ	小宮 加容子 福田 大年	学生協力
「環境カルタ」の制作	平成24年6月13日 ～平成25年2月28日	ごみ減量実践活動ネットワーク及び札幌消費者協会	福田 大年 小宮 加容子	学生協力
北海道陶芸作家協会主催 東日本大地震震災義捐金募集事業 (ポスターデザイン依頼)	平成24年6月16日	北海道陶芸作家協会	張 浦 華	
北海道陶芸作家協会ロゴマークのデザイン	平成24年7月11日 ～8月31日	北海道陶芸作家協会	張 浦 華	
「福田繁雄大回顧展」開催期間中の学生による作品展示	平成24年7月11日 ～9月2日	(財)札幌市芸術文化財団	上 遠 野 敏	学生協力

ポロトコタンの夜 Ustream配信プロジェクト	平成24年8月3日 ～9月10日	(財)アイヌ民族博物館	石田 勝也	学生協力
札幌市グリーティングカード 作成事業	平成24年8月8日 ～12月31日	札幌市(総務局)	大 渕 一 博	学生協力
南区児童会館地域子育て力向上事業 「あそびの宝箱」事業	平成24年8月20日 ～9月2日	(財)札幌市青少年 助成活動協会	福 田 大 年	学生協力
第3回ミニ大通お散歩まつり	平成24年9月5日 ～9月9日	ミニ大通お散歩まつり 実行委員会	上 遠 野 敏 村 松 真 澄	学生協力
第18回芸術の森地区文化祭(出展 依頼)	平成24年10月10日 ～11月18日	芸術の森地区連合会	上 遠 野 敏 羽 深 久 夫	学生作品 展示
札幌市国保「とくとく検診」 ロゴデザイン制作	平成24年10月10日 ～12月31日	札幌市(保健福祉局)	望 月 澄 人	学生協力
札幌市常盤児童会館開館20周年記 念式典&祭典 森もりフェスティ バル ～作ろう じどうの未来 友だちの未来 君の手で～	平成24年11月14日 ～11月17日	札幌市常盤児童会館	小宮 加容子	学生協力
救急安心センターさっぽろ普及・ 啓発業務におけるロゴマーク作成	平成24年11月14日 ～平成25年2月28日	札幌市(保健福祉局)	吉 田 和 夫	学生協力
ウォーキング推進キャンペーン事業	平成24年11月14日 ～平成25年3月31日	札幌市(保健福祉局)	大 渕 一 博 清 水 光 子	学生協力
札幌ステラプレイス10周年 清川あさみプロデュース ケーキオブジェの製作	平成24年12月12日 ～平成25年3月1日	(株)電通北海道 (主催:札幌駅総合開発(株) 札幌ステラプレイス店)	吉 田 和 夫	学生協力
中央図書館「元気カフェ本の森」 ノベルティグッズ制作等業務	平成25年1月16日 ～3月31日	札幌市(保健福祉局)	羽 深 久 夫	学生協力
ウィンターファンタジー 雪像製作	平成25年2月2日 ～2月11日	サッポロビール(株)	吉 田 恵 介	学生協力

4) 高大連携

①デザイン学部 第5回高大連携公開講座

開催日	高校名	参加生徒数	タイトル	担当教員
平成24年10月7日	北海道札幌旭丘高等学校 北海道札幌開成高等学校 北海道札幌清田高等学校 北海道札幌新川高等学校 北海道札幌平岸高等学校	18名	目に見えない空間の世界を 感じる・知る・デザインする	齊 藤 雅 也
			伝えるために ～メディアとは何か?～	石 田 勝 也

②看護学部 高大連携講座

開催日・期間	高校名	受講生徒数		受講科目名	担当教員
平成24年4月10日 ～平成25年1月31日	北海道札幌旭丘高等学校 北海道札幌清田高等学校 北海道札幌新川高等学校 北海道札幌藻岩高等学校	25名	5名	看護学原論（講義・15時間）	◎定廣 和香子 猪股 千代子
			5名	地域保健学概論（講義・15時間）	◎清 水 光子
			5名	人間発達援助論（演習・30時間）	◎内 田 雅子 坂倉 恵美子 松 浦 和代 宮崎 みち子 山 本 勝則
			5名	チーム医療論（講義・15時間）	◎太 田 晴美 猪股 千代子 坂東 奈穂美 谷口 ひろ子
			5名	国際看護学（講義・15時間）	◎大野 夏代 スーディ神崎 和代

◎印：科目責任者（オムニバス形式などの場合）

③看護学部 模擬授業

開催日・期間	高校名	受講生徒数	受講科目名	担当教員
平成24年10月6日	北海道札幌旭丘高等学校 北海道札幌清田高等学校 北海道札幌平岸高等学校 北海道札幌新川高等学校 北海道札幌藻岩高等学校 北海道札幌啓北商業高等学校	45名	小児がんの子どもと家族の看護	松 浦 和代
			心の健康を考える～メンタルヘルスのススメ	守 村 洋

5) 高校出前講義

デザイン学部

開催日	高校名	テーマ	担当教員
平成24年6月18日	北海道石狩南高等学校	“遊びのデザイン”から、デザインの可能性を考えてみる。	福田 大年
平成24年7月20日	北海道帯広緑陽高等学校	札幌市円山動物園リスタートプロジェクトにおける展示デザイン監修	片山 めぐみ
平成24年8月28日	北海道旭川北高等学校	人の感性(心)を読めるヒト。それがデザイナーだ！	柿山 浩一郎
平成24年9月19日	北海道千歳高等学校	日常の空間デザイン	山田 良
平成24年11月6日	北海道札幌旭丘高等学校	使いやすさをデザインする	酒井 正幸
平成24年11月6日	北海道札幌清田高等学校	メカトロニクス製品におけるデザイン	三谷 篤史
平成24年11月7日	北海道札幌新川高等学校	創造都市さっぽろと国際芸術祭	武邑 光裕
平成24年12月13日 ～平成25年1月31日 (全4回)	北海道札幌手稲高等学校	みんなの公園をデザインしよう	上田 裕文

看護学部

開催日	高校名	テーマ	担当教員
平成24年6月18日	北海道石狩南高等学校	看護入門	猪股 千代子
平成24年7月19日	北海道室蘭清水丘高等学校	母性看護学－リプロダクティブヘルス・ライツ－	宮崎 みち子
平成24年10月5日	北海道札幌新川高等学校	在宅看護学	スーディ神崎 和代
平成24年11月15日	北海道札幌平岸高等学校	小児看護学概論－小児の成長・発達の原則と影響因子－	松浦 和代

I
概要

II
教育活動

III
研究活動

IV
社会活動

V
キャリア支援活動

VI
入学者選抜結果

VII
附属図書館

VIII
役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX
学内運営の概要

X
資料

XI
教員業績一覧

6) その他の地域貢献諸活動

デザイン学部

教員名	内容	主催者	参加学生数	参加日・期間
酒井 正幸	副理事長、企画運営	北のユニバーサルデザイン協議会		
	評議員	(財)さっぽろ産業振興財団		
	運営委員	北のケア環境研究会		
	理事	NPO法人北海道デザインネットワーク		
	委員	さっぽろデザインウィーク実行委員会		
城間 祥之	理事として、IT事業の普及事業等の選定・決定	NPO法人「札幌ITフロント」		
	北海道産乳製品の新商品開発に係るワークショップ参加	農都共生研究会		
	講演会参加／運営	札幌なにかができる経済人ネットワーク		
上遠野 敏	炭鉱の記憶推進事業団運営委員、各種活動に参加	NPO炭鉱の記憶推進事業団		通年
	年間10回の美術講演の企画、運営、出版、文化賞の顕彰事業	サッポロアートラボ		通年
齋藤 利明	理事(北海道支部長)	テレビ日本芸術家協会		
杉 哲夫	中小企業人材確保・定着協議会委員	(社)北海道中小企業同友会		平成24年5月 ～平成25年3月
	札幌市立桑園小学校における健康・安全教育の推進活動支援	札幌市立大学、北海道医療大学共同		平成24年11月8日
	高齢者向け三輪自転車の開発活動リーダー	株式会社Will-E		平成24年4月 ～平成25年3月
	授産施設木工製品開発支援	特定非営利活動法人クリオネ		平成24年7月 ～平成25年3月
武邑 光裕	新渡戸稲造と札幌遠友夜学校を考える会 アドバイザー	新渡戸稲造と札幌遠友夜学校を考える会		年間
羽深 久夫	札幌市南区定山溪地区まちづくり協議会 委員	札幌市南区定山溪地区まちづくり協議会		年間
	札幌市南区芸術の森地区まちづくり推進会議 特別委員	札幌市南区芸術の森地区まちづくり推進会議		年間
	札幌市南区芸術の森地区「雪明かりの祭典」実行委員会 委員	札幌市南区芸術の森地区「雪明かりの祭典」実行委員会		平成24年8月 ～平成25年2月

教員名	内容	主催者	参加学生数	参加日・期間
羽 深 久 夫	札幌市南区「こまおか夏祭り」実行委員会 委員	札幌市南区「こまおか夏祭り」実行委員会		平成24年7月～10月
	札幌市南区石山地区まちづくり協議会委員(石山商店街振興組合理事として)	札幌市南区石山地区まちづくり協議会		年間
	NPO法人北の民家の会 理事長・事務局	NPO法人北の民家の会		年間
	NPO法人日本民家再生協会 会員	NPO法人日本民家再生協会		年間
	NPO法人アルテピアッツア美唄 会員	NPO法人アルテピアッツア美唄		年間
	芸術の森フラワーロードに花を咲かせる会 会員	芸術の森フラワーロードに花を咲かせる会		年間
	北海道中小企業家同友会札幌支部南地区会 会員	北海道中小企業家同友会札幌支部南地区会		年間
	札幌市南区商店街連絡協議会 会員	札幌市南区商店街連絡協議会		年間
細 谷 多 聞	理事	北海道デザインマネジメントフォーラム		
望 月 澄 人	「とくとく健診」シンボルマーク作成アートディレクター	札幌市保健福祉局		平成24年10月17日
	ICAF(インター・カレッジ・アニメーション・フェスティバル)への学生参加	ICAF	17名	平成24年5月～11月
	受託研究映像制作「ゴミモン・バスター」への参加	札幌市立大学／札幌市	受講生以外2名	平成25年2月
矢 部 和 夫	ふれあいガーデン生きがいがづくり事業に協力	芸術の森地区町づくりセンター		平成24年5月～10月
	サマーアートキャンプ I N 江別(江別市共催)の子どもキャンプのスタッフを務めた	トライ☆アス☆カル2011実行委員会		平成24年5月～10月
	道内の自然を守る活動(常務理事)	北海道自然保護協会		平成24年5月～10月
	湿原植生のアドバイザーとしての役割	キウシト湿原の会		平成24年5月～10月
	植生管理のアドバイザーとしての役割	ビオトープイタンキ		平成24年5月～10月
	湿原再生のアドバイザーとしての役割	フラット南幌		平成24年5月～10月
吉 田 和 夫	救急安心センターさっぽろロゴ・マーク選考会審査委員	札幌市保健福祉局		
吉 田 恵 介	隊長として運営	八剣山発見隊		通年
	地元町内会と協力し、雪まつり協賛でサッポロガーデンパークに雪像	サッポロビール		平成25年2月1日～2月3日

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

I 概要
II 教育活動
III 研究活動
IV 社会活動
V キャリア支援活動
VI 入学者選抜結果
VII 附属図書館
VIII 役員会、経営審議会 及び教育研究審議会
IX 学内運営の概要
X 資料
XI 教員業績一覧

教員名	内容	主催者	参加学生数	参加日・期間
吉田 恵介	顧問として運営・企画を行った	グリーンライフさっぽろ		通年
	ボランティアハンドブック作成委員会に前年に引き続き参加	札幌市公園緑化協会		通年
	会長として企画運営に関わる	札幌市農政部		通年
斉藤 雅也	第18回サイエンスフォーラムinさっぽろ「北国の住まいの環境をデザインする」	札幌市博物館活動センター		平成25年2月16日
武田 亘明	事務局代表。メディアを活用した情報協働教育の企画運営	バーチャル雪まつり実行委員会		平成24年4月 ～平成25年3月
	web・ドメイン・サーバ管理、運営・外部対応などに関する活動	情報と教育フォーラム「オンコの木」		平成24年4月 ～平成25年3月
	web・ドメイン・サーバ管理、運営・外部対応などに関する活動	ハイパー風土記札幌InterCityOroppas運営委員会		平成24年4月 ～平成25年3月
	web・ドメイン・サーバ管理、運営・外部対応などに関する活動	ネットワークコミュニティフォーラム事務局		平成24年4月 ～平成25年3月
	運営委員。事務局活動、ワークショップ等プロジェクト企画運営	札幌メディアアートフォーラム		平成24年4月 ～平成25年3月
	理事。会運営に関する活動	北海道高齢者ハートフル共同住宅・地域ケア協議会		平成24年4月 ～平成25年3月
	副会長、北海道支部長。web・ドメイン管理およびメディア教育に関する情報交流	教育とコンピュータ利用研究会		平成24年4月 ～平成25年3月
	代表。障害者就労支援、人材育成支援およびメディア戦略検討プロジェクト等の主催	北海道企画デザイン研究会		平成24年4月 ～平成25年3月
張 浦華	被災地支援チャリティーバザール運営実施及び作品出品	北海道陶芸作家協会		平成24年6月16日
町田 佳世子	女性の地位向上を目的とした企画活動に参加	特定非営利活動法人日本BPW連合会札幌クラブ		平成24年7月11月
	上山型の温泉クアオルトの周知・広報への協力、調査等のアドバイス	かみのやま温泉クアオルト協議会		平成24年4月1日 ～平成25年3月31日
石田 勝也	北海道地域のクリエイティブ及び食の東アジア地域に対するPRプロジェクト	クリエイティブ北海道		平成24年11月 ～12月
	映像プログラム制作	エレキネシス		平成24年7月、10月
	メーキャップイベント映像制作及びオペレーション	横山美和		平成24年10月19日
	ポロトコタンの夜Ustream配信プロジェクト	白老アイヌ民族博物館		平成24年8月3日
	映像プログラム制作	AZURAM		平成24年12月、 平成25年3月

教員名	内容	主催者	参加学生数	参加日・期間
石田 勝也	実行委員会委員としてプロジェクトの運営を行った	行啓通フィルムコンテスト実行委員会		平成24年3月～10月
	札幌中央区にあるギャラリーにて美術部と写真部の合同展のサポート	ノメノン・シード	20名	平成25年1月～2月
	本校サテライトにて地下歩行空間コンテナの製作方法講義	札幌市IT振興普及推進協議会	10名	平成24年12月
大 淵 一 博	ウォーキング推進キャンペーン事業ワークショップ	札幌市保健福祉局保健所健康企画課	17名	平成24年11月19日～平成25年1月21日
	札幌市長グリーティングカード制作	札幌市総務局国際部交流課推進係	32名	平成24年11月8日
	EKGs'12ポスターコンペ	日本建築学会北海道支部	5名	平成25年3月8日
三 谷 篤 史	道内の大学生を対象としたロボットコンテスト「第12回ロボット・トライアスロン」の実施・運営	ロボット・トライアスロン実行委員会		平成24年9月17日
	道内の小中学生を対象とした子供向けメカトロ教室「簡単！電子工作」の実施・運営	日本機械学会		平成24年6月30日
山 田 良	定山溪雪灯路プロデュース	定山溪観光協会		平成24年7月～12月
	休憩スペースのデザイン・設置	さっぽろシャワー通り商店街		平成24年4月～5月
	HELPO札幌オーロラタウン案内ブースのデザイン提案	札幌大通まちづくり会社		平成24年10月～12月
須之内 元洋	行事企画運営・ウェブサイト広報	札幌メディアアートフォーラム		通年
	行事企画運営・ウェブサイト広報	Sapporo Media Arts Lab		平成24年8月～平成25年3月
長 谷 川 聡	こどものデザイン教育：STB×AEON（イオン）未来へ泳げ！みんなの鯉のぼり デザインディレクション	STV 札幌テレビ放送		平成24年8月15日～9月1日

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

看護学部

教員名	内容	主催者	参加学生数	参加日・期間
中村 恵子	専門看護師認定審査	日本看護協会		2回／年
	専門看護師専門領域認定審査	日本看護協会		2回／年
樋之津 淳子	看護学部の概要説明、大学案内	滝川高校PTA		
スーディ神崎 和代	世話役	北海道医療産業研究会		
宮崎 みち子	外部顧問として、ワンストップセンターの設立・研修会・学習会の企画・運営	ゆいネット北海道		平成24年4月 ～10月
	運営支援・周知活動	性暴力被害者支援センター北海道SACRACH		平成24年10月 ～平成25年3月
	留学生の支援	北海道女性協会		平成24年10月27日
猪股 千代子	地域の保健医療福祉職とケアリングの学習会を開催	日本統合医療学会北海道地区研究会		平成24年5月、7月、 9月、11月、平成25 年1月、3月
	難病患者さんへの健康増進支援活動 音楽・アロマ・ヨガと看護療法	統合医療ヘルスケア システム開発機構 HOKT123研究会		平成24年5月11日、 6月1日・22日、7月 13日・27日、9月28 日、10月19日、11月9 日・30日、平成25年 1月25日、2月22日
坂倉 恵美子	講演「高齢者にやさしい健康なまちづくりへの提案―看護の立場から」、評議員	社会福祉法人札幌市 福祉事業団		
	高齢者特性と看護の理解	札幌市立病院		
大野 夏代	看護師によるマッサージボランティア活動	手稲溪仁会病院ボラ ンティア		平成24年4月12日・ 19日、6月14日・21 日、7月19日・25日、 8月1日・22日・29日、 9月5日・26日、11月7 日、12月5日・12日、 平成25年1月9日・30 日、2月6日・13日、3 月6日・13日・27日
貝谷 敏子	本学の紹介として研究内容の展示と市民への健康教育	札幌市中央区保健福 祉部		平成24年9月29日
清水 光子	中央図書館元気カフェワークショップ	札幌市保健福祉局障 がい保健福祉部		平成24年4月17日、 5月14日、 平成25年2月1日
	さっぽろぐるりウォーキングマップ ワークショップ	札幌市保健福祉局保 健所		平成24年11月19日、 12月3日・8日、平成25 年1月21日、2月9日
	札幌市中央区社会福祉協議会評議員	社会福祉法人 札幌 市中央区社会福祉協 議会		

教員名	内容	主催者	参加学生数	参加日・期間
清水 光子	中央図書館元気カフェ整備事業	札幌市保健福祉局障がい福祉部	13名	平成24年4月17日、5月14日、平成25年2月1日
	ウォーキング推進キャンペーン事業	札幌市保健福祉局保健所	17名	平成24年11月19日、12月3日・8日、平成25年1月21日、2月9日
菅原 美樹	監事：委員会活動が適切に実施されているか監査、会計監査	日本救急看護認定看護師会		平成24年9月1日・8日
村松 真澄	健康教育の企画運営、学生参加事業調整担当、地域交流ボランティア同好会actの学生と活動	ミニ大通りお散歩祭り実行委員会		平成24年9月9日
	地域交流ボランティア同好会actの学生と住民への口腔の健康教育の企画運営	NPO法人炭鉱の記憶推進事業団		平成24年10月21日
	地域交流ボランティア同好会actの学生と健康まつりのスタッフとしてボランティア	札幌市福祉事業団		平成24年7月25日
守村 洋	札幌市権利擁護審査会委員長、札幌市社会福祉総合センター管理運営委員会委員長	社会福祉法人札幌市社会福祉協議会		
山田 典子	地域の活動への参加調整	桑園地区連合町内会		平成24年9月1日
	性暴力被害者支援の情報ネットワーク	札幌市男女共同参画課		平成24年11月
神島 滋子	「パーソナルノート(仮)」の準備委員	脳外傷友の会コロポックル		
工藤 京子	役員会、総会への出席、講演会の企画、会報誌への執筆、発行	難病連所属北海道低肺の会		隔月1回
	大学における授業の担当者と模擬患者間の連絡調整、学習会やその他の活動支援	札幌市立大学模擬患者桑の会		通年
多賀 昌江	一般市民向け「うまれる」映画自主上映会誘致活動、当日運営、講演	はーと・あーと・はっぴー北海道		平成25年2月17日
三上 智子	大縄跳び大会	桑園まちづくりセンター青少年育成委員会		平成24年8月25日
	試合大会時の救護活動	小樽地区サッカー協会4種大会		平成24年6月9日、9月29日
田仲 里江	桑園地区のまちづくりセンターでの行事に学生と参加	桑園地区連合町内会		平成24年7月～10月
渡邊 由加利	模擬患者組織の支援 近郊の模擬患者との交流会の開催など	札幌市立大学模擬患者担当者		平成24年7月18日・19日、9月7日、平成25年3月29日
櫻井 蘭子	北海道産業看護研修会	日本産業衛生学会北海道地方会看護部会		平成24年10月6日
	実務研修会	日本産業衛生学会北海道地方会看護部会		平成25年1月29日

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

7) マスメディアへの掲載

デザイン学部

教 員 名	内 容	掲載媒体	掲載日
蓮 見 孝	時論(客員論説委員) 地域で教育の構築を	茨城新聞 朝刊	平成24年10月14日
	時論(客員論説委員) 札幌から見る茨城のデザイン力	茨城新聞	平成24年4月29日
城 間 祥之	卒業研究デザイン 「カワイイ」でつながれ世界	朝日新聞 朝刊	平成25年3月13日
石 崎 友紀	芸能欄での人物紹介	北海道新聞 夕刊	平成24年5月2日
	日本テレビ「世界一受けたい授業」社会科で授業	日本テレビ系列	平成24年6月30日
	「つくってあそぼ」造形監修	NHK教育テレビ	平成24年度
	「つくってあそぼ」テキスト指導	NHK出版	
上遠野 敏	炭鉱丸ごとアートに あすから芸術家40人、作品展示 三笠	北海道新聞 朝刊	平成24年9月21日
	炭鉱アート40点見に来て 作品展が開幕 三笠・旧奔別選炭施設	北海道新聞 朝刊	平成24年9月23日
	三笠・旧選炭施設跡で作品展 炭都の盛衰芸術に	北海道新聞 朝刊	平成24年10月13日
	炭鉱遺産 アートの祭典 三笠「奔別プロジェクト」開幕	読売新聞 朝刊	平成24年9月25日
	炭鉱遺産彩るアート あすから仮設展示や絵画など	読売新聞 朝刊	平成24年9月21日
齋 藤 利明	作家紹介	北海道新聞 朝刊	平成25年6月15日
杉 哲夫	どさんこワイドモノづくりテクノフェア取材放映	札幌テレビ放送(STV)	平成24年8月7日
	NHK秋田放送局ゆきみらい2013in秋田取材放映	NHK秋田放送局	平成25年2月7日
	秋田文化放送ゆきみらい2013in秋田取材放映	秋田文化放送	平成25年2月7日
武 邑 光裕	北海道新聞コラム「魚眼図」毎月連載 年12回	北海道新聞 夕刊	毎月
羽 深 久夫	今日の話題「農村の古民家」	北海道新聞 夕刊	平成25年3月27日
	住宅改修 エコの浸透	北海道新聞 夕刊	平成24年10月27日
原 俊彦	フォーカス 「ファミリー層 マチ形成」	北海道新聞 朝刊	平成24年4月13日
	女性の労働市場と働き方:その現状と課題	ベストナース	平成25年1月1日
	U型テレビ「高齢化率35%」	北海道放送(UHB)	平成24年6月14日
吉 田 恵介	札幌の農業と歩む会の活動	北海道新聞 朝刊	平成24年10月22日
	南区版南区再発見	広報さっぽろ	毎月初旬配布
	学会の目、眼、眼	広報日造協	平成24年8月10日
	北海道の絆に乾杯	北海道新聞 朝刊	平成24年5月26日
	サッポロビール印スターレーション模型製作紹介	北海道新聞 朝刊	平成24年5月24日

教 員 名	内 容	掲載媒体	掲載日
斉 藤 雅 也	緑のカーテンで涼演出 芸術の森地区 新景観づくり計画	北海道新聞 朝刊	平成24年6月12日
	夏を涼しく省エネに 節電の夏 寒冷紗の効果を検証する	北海道住宅新聞 隔週版	平成24年8月15日
	ブラインド 二重窓の間に設置「外付け風」で涼しく	北海道新聞 朝刊	平成24年8月18日
石 田 勝 也	クリエイティブ北海道ミーツ香港 計5回掲載	北海道新聞 朝刊	平成24年11月28日
	クリエイティブ北海道ミーツ香港 計5回掲載	北海道新聞 朝刊	平成24年12月1日
	クリエイティブ北海道ミーツ香港 計5回掲載	北海道新聞 朝刊	平成24年12月4日
	クリエイティブ北海道ミーツ香港 計5回掲載	北海道新聞 朝刊	平成24年12月6日
	クリエイティブ北海道ミーツ香港 計5回掲載	北海道新聞 夕刊	平成24年12月26日
上 田 裕 文	世代結ぶぜジェネレンジャー	北海道新聞 朝刊	平成24年11月17日
	寿都の日常写真で紡ぐ	北海道新聞 朝刊	平成25年2月22日
	時計台「危機」を救え	北海道新聞 朝刊	平成25年3月15日
大 舘 一 博	「札幌ぐるりウォーキングマップ」公開	北海道新聞 朝刊	平成25年2月14日
	「メッセージムービーサミット2013」開催	北海道新聞 朝刊	平成25年2月19日
	「札幌市長グリーティングカード」制作	北海道新聞 朝刊	平成24年12月11日
片 山 め ぐ み	「風のごはんや」18日開店ー寿都にコミュニティーレストラン	北海道新聞 朝刊	平成24年6月8日
	好評 地域交流拠点にー寿都・コミュニティーレストラン 開店3ヶ月	北海道新聞 朝刊	平成24年10月2日
	「コミレス」で世代超え交流をー寿都で講演会とワークショップ	北海道新聞 朝刊	平成25年3月12日
小 宮 加 容 子	番組「この街きらり☆」での「芸術の森地区特集」	NHK札幌放送局	平成24年5月14日
福 田 大 年	NHK北海道「つながる@きたカフェ」にて、札幌市南区紹介～大学紹介～遊びのデザインについて出演およびインタビュー	NHK札幌放送局	平成24年5月14日
	HBC「北海道ニュース1」にて、痛タクシーについてコメント	北海道放送(HBC)	平成24年6月7日
山 田 良	小樽アートプロジェクト2012	北海道新聞 朝刊	平成24年7月21日
	環境芸術学会賞受賞紹介	北海道新聞 夕刊	平成24年11月14日
	Creators Work	AXIS	2月号
	Recent Works	IN&OUT	4月号
	Vertical Landscape	arhitekt	5月号
	AR+D Award Infinite Landscape	The Architectural Review	12月号

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会・経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

I 概要
II 教育活動
III 研究活動
IV 社会活動
V キャリア支援活動
VI 入学者選抜結果
VII 附属図書館
VIII 役員会、経営審議会 及び教育研究審議会
IX 学内運営の概要
X 資料
XI 教員業績一覧

看護学部

教員名	内容	掲載媒体	掲載日
スーディ神崎 和代	ICT活用し在宅支援 訪問看護負担軽減も 札幌市立大学看護学部	北海道医療新聞	平成25年2月15日
	認知症の予防紹介	北海道新聞 朝刊	平成24年9月4日
坂倉 恵美子	老年看護学概論において現役高齢者の老いについてゲストとして招聘、最終年の感謝の風景	北海道新聞 朝刊	平成24年6月9日
菊地 ひろみ	神経難病のQOL研究の掲載	北海道医療新聞	平成24年7月
清 水 光 子	中央図書元気カフェ整備事業	北海道新聞 朝刊	平成25年2月2日
	ウォーキング推進キャンペーン事業	北海道新聞 朝刊	平成25年2月14日
	さっぽろ散歩「ぐるりウォーキングマップ」の紹介	STVラジオ	平成25年2月23日
村 松 真 澄	口腔機能向上の健口体操について出演	UHB「さぁトークだよ」	平成25年2月20日
	はつらつ健康まつりでボランティア (札幌市福祉事業団主催事業)	ベストナース9月号	平成24年9月1日
	ミニ大通お散歩まつりで認知症の予防目指す舌の体操を紹介	ケア12月号	平成24年12月1日
	老年看護学概論でゲストスピーカーをされた高齢者の記事	北海道新聞	平成24年6月9日
	高齢者と学生合同のファッションショーを開催(学部連携演習)	ベストナース12月号	平成24年12月1日
山 田 典 子	桑園ボランティア	北海道新聞 朝刊	平成24年8月24日
藤 井 瑞 恵	お酒と健康	壮瞥町広報誌「すまいる」	平成25年1月号
多 賀 昌 江	映画「うまれる」上映会inさっぽろ 2月17日札幌市立大学	まんまる新聞	平成25年2月15日

2 公開講座開催実績

開催日	タイトル	講師	受講者数(名)
平成24年 6月2日(土)	訪問看護スキルアップ講座2012	阿部 てるみ(市立札幌病院／糖尿病看護認定看護師・糖尿病療養指導士)	67
平成24年 6月9日(土)	札幌芸術の森：彫刻と自然の調和	上田 裕文 吉崎 元章(札幌芸術の森)	18
平成24年 6月30日(土)	札幌芸術の森：彫刻と自然の調和	矢部 和夫 吉崎 元章(札幌芸術の森)	16
平成24年 7月11日(水)	高齢者にやさしい健康な“まち”作りへのご提案－看護の立場から－	坂倉 恵美子 河原田 まり子 (北海道大学大学院保健科学研究院)	6
平成24年 7月21日(土)	音響コンポジション・ワークショップ&ライブ・パフォーマンス	森本 洋太(英国バーミンガム大学博士 課程作曲専攻・オランダソノロジー研究所特別研究員)	21
平成24年 7月28日(土)	Connekid(コネキッド)！ 〈遊びのデザインワークショップ〉	小宮 加容子 福田 大年 学生有志スタッフ	190 (子ども108、 大人82)
平成24年 8月7日(火)	高齢者にやさしい健康な“まち”作りへのご提案－看護の立場から－	村松 真澄 原井 美佳	9
平成24年 8月25日(土)	ウロボロスのコーチ～音響合成プログラミング言語「SuperCollider」と拡張現実システム「ARArt」によるワークショップ～	石田 勝也(デザイン学部) 赤松 武子(Craftwife) 赤松 正行(IAMAS)	18
平成24年 8月27日(月)	臨床看護師のための指圧マッサージ実践講座	大野 夏代 河内 香久子(治療室シーズ院長) 鶴木 恭子	60
平成24年 10月18日(木)	さっぽろ建築夜学校 2012	羽深 久夫	32
平成24年 11月13日(火)	知的財産講習会	丞村 宏(八戸工業大学客員教授・札幌市立大学知的財産アドバイザー) 山本 典子(株)メディディア医療デザイン研究所 代表取締役)	110
平成24年 11月15日(木)	さっぽろ建築夜学校 2012	中原 宏	42
平成24年 11月17日(土)	訪問看護スキルアップ講座 2012	スーディ神崎 和代	63
平成24年 12月13日(木)	さっぽろ建築夜学校 2012	山田 良	35
平成25年 1月17日(木)	さっぽろ建築夜学校 2012	上田 裕文	18
平成25年 2月14日(木)	さっぽろ建築夜学校 2012	片山 めぐみ	32

I
概要

II
教育活動

III
研究活動

IV
社会活動

V
キャリア支援活動

VI
入学選抜結果

VII
附属図書館

VIII
役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX
学内運営の概要

X
資料

XI
教員業績一覧

3 社会における活動

デザイン学部

教員名	名称／自治体名・主催団体名
蓮 見 孝	・ 茨城県生涯学習審議会・社会教育委員会／茨城県教育庁 ・ 茨城県総合計画策定委員会／茨城県 ・ いばらきデザインセレクション審査委員会／茨城県 ・ 茨城イメージアップ大賞審査委員会／茨城県 ・ 羽鳥駅周辺地区まちづくり検討委員会／小美玉市
城 間 祥之	・ 平成25年度情報セキュリティポリシー研究業務の業務発注に係る審査委員会／札幌市
酒 井 正幸	・ 次世代博物館検討会議／札幌市 ・ 円山動物園の森協議会／札幌市 ・ 図書館協議会／札幌市
中 原 宏	・ 北海道建築士審査会／北海道 ・ 札幌市中高層建築物紛争調整委員会／札幌市 ・ アイヌアートモニュメント設置検討アドバイザー／札幌市 ・ アイヌアートモニュメント設置検討会議／札幌市
吉 田 恵介	・ 札幌市公園緑化協会 評議員／札幌市 ・ 札幌市環境影響評価審議会／札幌市 ・ 札幌市芸術文化財団 評議員／札幌市 ・ 札幌市都市景観アドバイザー／札幌市 ・ 札幌市屋外広告物審議会 委員／札幌市 ・ 古代の里整備基本構想検討委員会／札幌市 ・ 藻岩山魅力アップ構想環境配慮ライン検討懇談会／札幌市 ・ 公園マネジメント評価委員会／札幌市 ・ 北海道特定開発行為審査会／北海道
齋 藤 利明	・ あけぼのアート&コミュニティーセンター管理運営団体選定委員会／札幌市 ・ 理事／NPO法人 テレビ日本美術家協会
石 崎 友紀	・ 札幌市芸術文化財団／札幌市 ・ 工芸専門委員会 委員
上遠野 敏	・ 空知地域づくり推進委員会&ガイドマニュアル専門部会／空知総合振興局 ・ そらち「炭鉱の記憶」提案活動選定委員会／空知総合振興局
吉 田 和夫	・ 札幌市都市景観審議会／札幌市 ・ 札幌市広告アドバイザ会議／札幌市 ・ 中央区まちづくりPRのイメージデザイン選考委員会／札幌市 ・ キョタでお菓子を食べよう!キャンペーン委員会 シンボルマーク選考委員／札幌市 ・ 札幌シーニックバイウエイ藻岩山麓・定山溪ルート シンボルマーク&ロゴタイプ選考委員会／札幌市 ・ 大通交流拠点地下広場プロポーザル 選定委員／札幌市 ・ 大通交流拠点デザイン検討における外部アドバイザー／札幌市 ・ 喜茂別町地域再生推進協議会 喜茂別ブランド検討委員会 委員／札幌市 ・ 広告電通賞 地区選考委員会 委員長/広告電通賞審議会 ・ 駅前通地下広場広告デザイン審査会 委員/札幌駅前通まちづくり株式会社
羽 深 久夫	・ 札幌市文化財保護審議会 委員長代理／札幌市 ・ 豊平館修理整備等検討委員会 委員長代理／札幌市

教員名	名称／自治体名・主催団体名
羽 深 久 夫	・豊平館設計デザインワーキング 副リーダー／札幌市 ・札幌芸術の森運営協議会委員 委員／札幌芸術文化財団 ・喜茂別町地域再生推進協議会 委員長／喜茂別町 ・喜茂別町水の郷さもべつまちづくり振興基金補助金審査会 委員／喜茂別町 ・喜茂別町民間賃貸住宅促進事業公募型プロポーザル審査委員会 委員／喜茂別町 ・厚真町古民家再生推進協議会 委員長／厚真町 ・札幌シーニックバイウエイ藻岩山麓・定山溪ルート運営代表者会議 委員／札幌市南区 ・札幌シーニックバイウエイ藻岩山麓・定山溪ルート検討協議会 委員／札幌市南区 ・札幌シーニックバイウエイ藻岩山麓・定山溪ルート地域づくり部会 委員／札幌市南区 ・札幌市保養センター駒岡運営協議会 委員／札幌市環境福祉事業団 ・北海道地域づくりアドバイザー／北海道
望 月 澄 人	・札幌市保健福祉局 PRポスター選考／札幌市
矢 部 和 夫	・植生凡例検討委員会／環境省 ・釧路湿原自然再生協議会／環境省・国交省 ・美々川自然再生事業技術検討委員会／北海道 ・平岡公園原っぱ会議 委員／札幌市・札幌市公園緑化協会 ・円山動物園の森協議会／円山動物園 ・ウトナイ湖ネイチャーセンター運営協議会 委員／日本野鳥の会 ・成東・東金食虫植物群落作業部会 委員／千葉県山武市
武 邑 光 裕	・北海道商工振興審議会／北海道 ・創造都市さっぽろ実行委員会 副会長／札幌市 ・札幌メディア・アーツラボ所長(創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会メディア・アーツ部会長)／北海道 ・ユネスコ創造都市ネットワーク加盟申請起草委員会 委員長／札幌市 ・Film in 北海道委員会 委員／北海道
原 俊 彦	・国立社会保障・人口問題研究所 研究評価委員／厚生労働省
細 谷 多 聞	・札幌スタイル審査委員会 委員長／札幌市
張 浦 華	・役員／北海道陶芸作家協会
町田 佳世子	・家庭裁判所 参与員／裁判所 ・一般財団法人札幌市水道サービス協会評議 委員／札幌市
武 田 亘 明	・北海道学校・家庭・地域の連携による教育活動促進事業推進委員会／北海道 ・望ましい生活習慣定着推進事業検討委員会／北海道 ・望ましい読書週間定着推進事業子ども読書プロジェクトチーム／北海道 ・さっぽろ地域IT活用支援事業審査委員会／北海道 ・「視聴覚教育・情報教育功労者表彰」選考委員会／札幌市 ・優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰推薦活動選考委員会／北海道 ・北海道立生涯学習センター業務委託契約に係る総合評価審査委員会／北海道 ・札幌市立西岡小学校学校評議員会／札幌市 ・枝幸町学校支援地域本部事業／枝幸町 ・北海道札幌藻岩高等学校学校評議員会／札幌市
柿山 浩一郎	・路面電車 トータルデザイン検討会議 委員／札幌市市民まちづくり局
大 舘 一 博	・ウォーキング推進キャンペーン事業／札幌市保健局
片山 めぐみ	・札幌市犯罪のない安全で安心なまちづくり等審議会 委員／札幌市 ・次世代育成支援対策推進協議会 委員／札幌市

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

教員名	名称／自治体名・主催団体名
片山 めぐみ	・大規模小売店舗立地法専門家会議 委員／札幌市 ・地域活動の場整備支援事業審査 委員／札幌市
山田 良	・さっぽろテレビ塔塗装色検討委員会／札幌市 ・札幌市総合企画調査 専門委員／札幌市
福田 大年	・札幌スタイル ブランドマネジメント委員会／札幌市 ・札幌メディア・アート・フォーラム 運営委員
上田 裕文	・札幌市みどりの審議会 委員／札幌市 ・北海道特定開発行為審査会 委員／北海道 ・上山型温泉クアオルト推進員アドバイザーフェロー／上山市

看護学部

教職員	名称／自治体名・主催団体名
スーディ神崎 和代	・医療福祉に関するアドバイザー／夕張市
中村 恵子	・電話トリアージカリキュラム委員会／札幌市 ・救急業務検討委員会／札幌市 ・医道審議会／厚生労働省 ・委員／日本看護協会専門看護師認定制度委員会 ・委員長／日本看護協会専門看護師認定実行委員会 ・委員／日本看護協会特定看護師教育委員会
樋之津 淳子	・大学設置・学校法人審議会 専門委員／文部科学省
坂倉 恵美子	・介護認定審査会 審査委員／札幌市 ・北海道建築審査会 審査委員／北海道 ・評議委員／札幌市社会福祉協議会 ・幹事／北海道社会福祉協議会
守村 洋	・北海道精神医療審査会／北海道 ・北海道精神保健福祉審議会／北海道 ・札幌市精神保健福祉審議会／札幌市
清水 光子	・札幌市地域包括支援センター運営協議会 委員／札幌市 ・札幌市桑園地区民生児童委員準備会 委員／札幌市 ・札幌市地域包括支援センター運営事業受託法人選定委員会 委員／札幌市 ・評議員／社会福祉法人 札幌市中央区社会福祉協議会
櫻井 蘭子	・理事／NPO法人こころ

4 専門職支援・セミナー講師等

デザイン学部

教員名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
蓮見 孝	平成24年7月11日	あたらしい価値を創造するコントラストイブ発想	(社)北海道中小企業家同友会
	平成24年7月31日	地域力を高める「ソシオデザイン」の理念と構造	札幌市
	平成24年10月27日	復活する地域力	アートチャレンジ滝川
	平成24年11月4日	川口の匠「美しきフォルム」	川口市立アートギャラリー
	平成24年11月5日	ポスト“熱い社会”と“参画型デザイン”の実践	札幌市経済局
	平成24年11月12日	「参画型デザイン」-都市の新しい役割-	札幌市拡大局長会議
	平成24年11月24日	デザインによる療養環境改善	NPO つくば臨床検査教育研究センター
	平成24年11月28日	モビリティの未来～デザイナーの視点から～	一般社団法人中部産業連盟
	平成24年12月13日	ソシオ・デザインの時代 ～ポスト“熱い社会”と“参画型デザイン”の実践～	京都工芸繊維大学
	平成25年1月11日	“いばらきデザインセレクションに挑戦!”	茨城県デザインセンター
	平成25年2月19日	「文化技術論」-明日の都市づくりをめざして-	札幌市文化芸術議員連盟
	平成25年3月14日	“QUEST”の時代-新しい視点と価値の創造-	センチュリー・プラザ・オタル
	平成25年3月21日	講演：都市の創造力を培養するカレッジの役割／パネルディスカッション：札幌駅前通地下歩行空間のマネジメント戦略	札幌駅前通地下歩行空間フォーラム実行委員会
中原 宏	平成24年10月10日	「札幌のまちの特質とこれからのまちづくり」	(社)全国建設技術協会
	平成24年10月15日	「豊平館のある地域(まち)」	(財)札幌市生涯学習振興財団
	平成24年11月20日	「少子高齢、人口減少を見据えたまちづくり」	(財)北海道建設技術センター
	平成24年11月16日	「『札幌のまち』を読む」	札幌市立大学
	平成25年1月10日	「札幌市の都市計画と未来」	(財)札幌市公園緑化協会
石崎 友紀	平成24年11月22日	生き生きと表現し、遊びを作り出す子供の育成	札幌石狩地区放送教育研究会
杉 哲夫	平成25年3月28日	第61期同友大学 第13回 地域に根差したものづくり	(社)北海道中小企業同友会
羽深 久夫	平成24年4月21日	プリロマネスク建築	NHK 文化センター
	平成24年5月19日	イタリアのロマネスク建築	NHK 文化センター (新さっぽろ教室)
	平成24年6月2日	ドイツのロマネスク建築	NHK 文化センター (新さっぽろ教室)
	平成24年7月7日	市民により歴史的建造物の保存再生とまちづくり	稚内市歴史・まち研究会
	平成24年7月14日	フランスのロマネスク建築	NHK 文化センター (新さっぽろ教室)

I 概要
II 教育活動
III 研究活動
IV 社会活動
V キャリア支援活動
VI 入学者選抜結果
VII 附属図書館
VIII 役員会、経営審議会 及び教育研究審議会
IX 学内運営の概要
X 資料
XI 教員業績一覧

教員名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
羽 深 久 夫	平成24年8月18日	スペインのロマネスク建築	NHK 文化センター (新さっぽろ教室)
	平成24年9月4日	豊平館の歴史	札幌市生涯学習センター
	平成24年9月8日	その他のロマネスク建築	NHK 文化センター (新さっぽろ教室)
	平成24年9月11日	豊平館のある地域	札幌市生涯学習センター
	平成24年9月18日	豊平館の現在	札幌市生涯学習センター
	平成24年9月25日	豊平館の未来	札幌市生涯学習センター
	平成24年10月3日	北海道における厚真町の民家遺構と出身地の民家遺構の比較	日胆地区博物館等連絡協議会
	平成24年10月13日	旭川の歴史的建造物を巡る	日本建築学会
	平成24年10月18日	建築史の立場から	札幌市立大学
	平成24年10月20日	フランスのゴシック建築	NHK 文化センター (新さっぽろ教室)
	平成24年11月15日	都市計画の立場から	札幌市立大学
	平成24年11月17日	イギリスのゴシック建築	NHK 文化センター (新さっぽろ教室)
	平成24年12月8日	ドイツのゴシック建築	NHK 文化センター (新さっぽろ教室)
	平成24年12月13日	環境デザインの立場から	札幌市立大学
	平成25年1月17日	風景・景観研究の立場から	札幌市立大学
	平成25年1月26日	スペインのゴシック建築	NHK 文化センター (新さっぽろ教室)
	平成25年2月14日	建築環境心理の立場から	札幌市立大学
	平成25年2月16日	イタリアのゴシック建築	NHK 文化センター (新さっぽろ教室)
	平成25年3月16日	その他のゴシック建築	NHK 文化センター (新さっぽろ教室)
原 俊 彦	平成24年8月18日	過疎化と地域医療・福祉の将来像	北海道医師会
	平成24年10月5日	地域人口の将来：加速する人口減少と地域社会の持続可能性	(財)厚生労働統計協会
	平成24年12月2日	人口減少下の北海道：市町村の動向と保健・医療・福祉	北海道医師会
矢 部 和 夫	平成24年4月7日	植生管理	円山動物園
	平成24年6月15日	湿原をはぐくむ霧と雪－石狩低地帯でみられる湿原景観の地理的変異－	サイエンスコンソーシアム
	平成24年6月30日	作品を演出する自然	札幌市立大学／芸術の森財団
	平成24年9月27日	ビオトープ	札幌市公園緑化協会
	平成25年2月21日	生物多様性	札幌市公園緑化協会
吉 田 恵 介	平成24年4月19日	コミュニティデザイン	札幌市公園緑化協会
	平成25年3月21日	緑化ボランティア	札幌市公園緑化協会

教員名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
齊藤 雅也	平成24年10月8日・9日	ペットボトルハウスで温房・涼房を考える	北海道旭川西高等学校
武田 亘明	平成24年11月26日	学校・家庭・地域連携による地域教育力の活性化と学校の役割	枝幸町教育委員会
	平成25年2月15日	体験に裏付けられた確かな学力・生き抜く力	枝幸町教育委員会学校支援地域本部
	平成26年12月3日	メディア社会を生き抜くための情報の安全安心教育～学校・家庭・地域連携による地域教育力の活性化	札幌市立宮の丘中学校健全育成推進会議
町田 佳世子	平成24年4月4日	コミュニケーションとは	(株)アイティコミュニケーションズ
	平成24年4月9日	コミュニケーションとは何か一人をつなぐ私たちの営みについて考えるー	札幌医科大学保健医療学部
上田 裕文	平成24年6月9日	札幌芸術の森ー彫刻と自然の調和ー	札幌市立大学
	平成25年1月17日	建築夜学校	札幌市立大学
柿山 浩一郎	平成24年10月26日	「評価」を核にサインデザインを考える	公益社団法人 日本サインデザイン協会
	平成24年12月3日	人間の感性を考慮した効果的な PPT 資料等の作成、Web デザインに関して	札幌管区气象台
片山 めぐみ	平成25年2月14日	環境心理学からみた環境・コミュニティデザインの理解と取組み	札幌市立大学
小宮 加容子	平成24年7月28日	コネキッド2012	札幌市立大学
	平成24年9月2日	おもちゃバスをデザインしよう	南区児童会館
	平成24年10月24日～28日	カードゲームデザインプロジェクト	札幌デザインウィーク実行委員会、札幌駅前通まちづくり(株)
	平成24年11月17日	環境かるたと防災カードゲームで遊ぼう	南区常盤児童会館
	平成24年12月15日	わくわくエコ広場	札幌コンベンションセンター
福田 大年	平成24年7月28日	コネキッド2012	札幌市立大学
	平成24年9月2日	南区児童会館地域子育て力育成事業「あそびの宝箱」事業	(財)札幌市青少年助成活動協会
	平成24年10月24日～28日	札幌デザインウィーク2012	札幌デザインウィーク2012 実行委員会事務局
	平成24年11月17日	札幌市常盤児童会館 会館20周年記念式典&祭典 森もりフェスティバル～作ろうじどうの未来 友だちの未来 君の手で～	札幌市常盤児童会館
	平成24年12月15日	SORA こそだてフェスティバル	札幌コンベンションセンター
松井 美穂	平成24年5月29日	アメリカ南部女性における女性たち	北海道女性協会

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

看護学部

1) 専門職支援

①認定看護管理者教育課程サードレベル
平成24年度受講者17名(修了者17名)

開講期間	教科目／ 時間／単位	単元	講義・演習 (時間数)	講師
第Ⅰ期(15日間) 平成24年8月27日 ～9月14日 第Ⅱ期(14日間) 平成24年11月5日 ～11月22日 第Ⅲ期(10日間) 平成25年1月10日 ～1月24日	保健医療福祉政策論 /30時間/2単位	1. 社会保障の概念	講義(3)	★梅井 治雄
		2. 諸外国の保健医療福祉	講義(3)	スーディ神崎 和代
		3. 保健医療福祉政策	講義(3)	★齋藤 訓子
		4. 看護制度・政策	講義・演習(6)	★齋藤 訓子 ★丸山 知子
		5. 制度・政策に影響を及ぼす看護管理者	講義・演習(6)	中村 恵子
		6. 保健医療福祉政策演習	演習(9)	★須田 倫子 ★松田 久代 猪股 千代子 河野 總子
	保健医療福祉組織論 /45時間/3単位	1. 保健医療福祉サービスのマーケティング	講義・演習(6)	★松下 博宣
		2. 地域保健医療福祉計画	講義(6)	★飯田 晃
		3. 組織デザイン論	講義・演習(9)	★永池 京子
		4. ヘルスケアサービスの連携	講義(12)	★佐々木 由紀子 ★鈴木 康世 ★平川 由紀子 中村 恵子
		5. 保健医療福祉組織論演習	演習(12)	★荒木 美弥子 ★中村 敦子 猪股 千代子 河野 總子

開講期間	教科目／ 時間／単位	単元	講義・演習 (時間数)	講師
第Ⅰ期(15日間) 平成24年8月27日 ～9月14日 第Ⅱ期(14日間) 平成24年11月5日 ～11月22日 第Ⅲ期(10日間) 平成25年1月10日 ～1月24日	経営管理論 /75時間/5単位	1. 医療福祉と経済論	講義・演習(6)	★高木 安雄
		2. 医療福祉経営	講義・演習(12)	★筒泉 正春
		3. 財務管理	講義・演習(6)	★玉川 真弓
		4. 経営分析	講義・演習(6)	★水野 克也
		5. ヘルスケアサービスの経営と 質管理・経済性	講義・演習(12)	★陣田 泰子 ★宮城 領子
		6. 看護経営の今後のあり方	講義・演習(15)	スーディ神崎 和代
		7. 経営管理論演習	演習(18)	★加藤 久美子 ★野中 浩美 猪股 千代子 河野 總子
	経営者論 /30時間/2単位	1. 経営者論	講義(6)	河野 總子 中村 恵子
		2. 管理者の倫理的意思決定	講義(6)	★石垣 靖子 中村 恵子
		3. 起業家論	講義(6)	★原田 典子 ★鈴木 英樹
		4. 経営者論演習①	演習(6)	★鈴木 康世 ★服部 紀美子 猪股 千代子 河野 總子
		5. 経営者論演習②	演習(6)	★鈴木 康世 ★服部 紀美子 猪股 千代子 河野 總子

★印:非常勤講師

2) セミナー講師等

教員名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
中村 恵子	平成24年4月1日 ～平成25年3月31日	一般財団法人日本救急医療財団 研修教育事業委員会におけるオブザーバー	一般財団法人 日本救急医療財団
	平成24年5月19日	新潟県看護教員の会講演会講師 「看護 OSCE について」	新潟県看護教員の会
	平成24年8月28日	専任教員職場内研修「看護教育における OSCE による到達度評価とその効果的 教育方法」	東京都立南多摩看護専門学校
	平成24年9月10日・ 20日	看護職復職支援講習会講師	さっぽろ雇用創造協議会

教員名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
中村 恵子	平成24年10月4日・5日	平成24年度看護師救急医療業務実地修練講師 座学「救急患者への対応とトリアージ」 ワークショップ「救急トリアージの実際」	一般財団法人 日本救急医療財団
	平成24年10月13日	科長・主任研修会講師「看護管理」	JA 北海道厚生連 遠軽厚生病院
	平成24年10月18日	第17回日本看護サミット青森'12シンポジスト	(社)青森県看護協会
	平成24年10月26日・31日、 平成25年1月21日・25日	平成24年度認定看護管理者教育制度 ファーストレベル教育課程講師 「①看護管理とは」 「②看護管理者の役割」	(社)北海道看護協会
	平成24年12月12日	平成24年度看護師特定能力養成調査試行 事業実施課程救急分野講師「特定看護師 (仮称)概論」	公益社団法人 日本看護協会看護研修学校
	平成25年2月26日	実施課程救急分野修了試験 OSCE 評価 の講師	公益財団法人 日本看護協会看護研修学校
樋之津 淳子	平成24年11月8日	平成24年度北海道高大連携フォーラム 講師「キャリア教育の充実を図る指導の ありかた」	北海道教育委員会
スーディ神崎 和代	平成24年4月1日 ～平成25年3月31日	管理職・看護・介護スタッフの継続教育 の非常勤講師「認知症看護および介護、感 染管理、医療経営認知症プログラム開発」	神鋼ケアライフ株式会社
	平成24年4月4日	平成24年度知的財産プロデューサー等 派遣事業 広域大学知的アドバイザー 新任研修講師	(社)発明協会
	平成24年7月11日	産学官連携研究会 HoPE 7月例会に おける講師「王様からキャベツまで一札 幌市立大学の産学連携の基本姿勢」	一般社団法人中小企業家同 友会 産学官連携研究会 HoPE
	平成24年7月31日	HiNT セミナー講師	R&B パーク札幌大通サテ ライト運営協議会
	平成24年9月1日 ～平成25年3月31日	医療福祉に関するアドバイザー	夕張市
	平成24年9月2日	枝幸町健康まつり事業講演会講師「認知 症予防は、家族みんなで、地域みんなで －今からできる脳の健康法－」	枝幸町
	平成24年9月18日・20日	平成24年度訪問看護師養成講習会講師 「訪問看護対象論」	(社)北海道看護協会
	平成24年11月21日	全道産学官ネットワーク推進協議会講 演会講師 仮題「札幌市立大学における 産学官連携の取り組みについて」	全道産学官ネットワーク推 進協議会
	平成25年1月11日	認知症介護従事者研修会講師 「認知症 の新しい情報 2012:論拠に基づいた認 知症とコミュニケーション」	滝川地域介護サービス連絡 協議会

教員名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
スーディ神崎 和代	平成25年1月19日	研修会講師「認知症の知識」	社会福祉法人札幌恵友会
	平成25年2月27日	平成24年度卒業記念招聘講演「未来につながる看護(仮テーマ)」	名古屋医療センター附属名古屋看護助産学校
	平成25年3月8日	講演会講師「認知症ケア各論 認知症の周辺症状に対するケア」	社会福祉法人湊仁会
猪股 千代子	平成24年7月6日	済生会小樽病院看護研修会講師「地域病院におけるおもてなしの心」	社会福祉法人恩賜財団済生会支部北海道済生会小樽病院
坂倉 恵美子	平成24年9月12日	看護職復職支援講習会講師	さっぽろ雇用創造協議会
	平成24年11月12日	平成24年度看護職員研修講師「高齢者の看護研修」	札幌市病院局市立札幌病院
定廣 和香子	平成24年7月12日・13日	秋田県実習指導者講習会講師「看護教育論」	秋田県立衛生看護学院
松浦 和代	平成25年5月8日	看護職員研修会講師「臨床指導者研修Ⅰ」	札幌市病院局市立札幌病院
	平成24年5月26日	市立稚内病院看護部研修会講師	市立稚内病院看護部
	平成24年6月7日・14日	平成24年度新人看護職員研修における実地指導者研修「自部署における新人看護職員研修の立案と評価」	北海道公立大学法人札幌医科大学付属病院
	平成24年6月15日、7月10日	平成24年度看護部院内研修講師「看護過程ミドル2」及び「看護研究の基礎」	KKR 札幌医療センター
	平成24年7月5日	北海学園札幌高等学校性教育講演会講師「1年生の性に関する講演」	北海学園札幌高等学校
	平成24年7月17日	健康講和講師「高校生としての性への対応について」	札幌平岸高等学校
	平成24年8月23日	第16回日本看護管理学会年次大会「未来の医療を牽引する看護管理」	第16回日本看護管理学会年次大会
山本 勝則	平成24年7月6日、11月23日	メンタルケア・スペシャリスト養成講座講師「メンタルケアの手法論」	(財)メンタルケア協会
	平成24年12月6日	平成24年度北海道看護協会小樽支部研修会講師「『気持ち良い体験』をしよう」	(社)北海道看護協会
大野 夏代	平成24年6月22日・27日、12月13日・14日	IMSグループ看護部職員新卒入職者対象精神的サポート“ほっとライン”面談講師「入職1ヵ月後面談」「入職6ヵ月後面談」	IMS グループ
	平成24年12月6日	平成24年度北海道看護協会小樽支部研修会講師「『気持ち良い体験』をしよう」	(社)北海道看護協会
貝谷 敏子	平成24年9月10日・13日	看護職復職支援講習会講師	さっぽろ雇用創造協議会
	平成24年11月24日	スミス・アンド・ネフュー北海道オートムセミナー講師「改訂版褥瘡予防・管理ガイドラインの解説～EBMに基づくドレッシング材を用いたガイドラインを学ぶ～」	スミス・アンド・ネフューウインドマネジメント(株)

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会・経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

I 概要
II 教育活動
III 研究活動
IV 社会活動
V キャリア支援活動
VI 入学者選抜結果
VII 附属図書館
VIII 役員会、経営審議会 及び教育研究審議会
IX 学内運営の概要
X 資料
XI 教員業績一覧

教員名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
菊地 ひろみ	平成24年9月12日	看護職復職支援講習会講師	さっぽろ雇用創造協議会
	平成24年10月24日・25日	平成24年度訪問看護師養成講習会演習助言者	(社)北海道看護協会
	平成25年2月13日	留萌地域在宅医療推進講座講師「(1)事例検討(うつ病患者の退院後の地域における看護について(仮)、拡張型心筋症の患者・家族の不安軽減に向けた看護について(仮))」	北海道留萌振興局保健環境部
清 水 光子	平成24年9月11日	看護職復職支援講習会講師	さっぽろ雇用創造協議会
	平成25年3月1日	平成24年度全国保健師長会札幌支部研修講師「保健師活動を魅せるためのプレゼンテーション～事業・業務成果を保健師活動に活かすために～」	全国保健師長会札幌支部
菅 原 美樹	平成24年9月11日・12日・14日	看護職復職支援講習会講師	さっぽろ雇用創造協議会
	平成24年11月7日・13日	看護師研修会講師「フィジカルアセスメントⅡ(応用)」「院内急変対応Ⅱ(応用)」	医療法人社団碩心会 心臓血管センター北海道大野病院
村 松 真澄	平成24年4月14日	北海道栄養士会札幌石狩支部学術講演会 講師「口腔ケアについて」	北海道栄養士会札幌石狩支部
	平成24年6月11日	講師「口腔ケア指導」	社会福祉法人鳩仁会 札幌中央病院
	平成24年7月21日	十勝口腔ケアフォーラム2012講師	日本口腔看護研究会
	平成24年7月22日	札幌口腔ケアフォーラム2012講師	日本口腔看護研究会
	平成24年7月24日	口腔ケア院内認定テクニカルコース講師「口腔ケアと看護」	砂川市立病院
	平成24年7月28日	口腔ケアに関する指導、及び助言	国立大学法人大阪大学
	平成24年8月28日	「口腔ケア、摂食・嚥下訓練」講演会講師	札幌鈴木病院
	平成24年9月10日	看護職復職支援講習会講師	さっぽろ雇用創造協議会
	平成24年10月20日	平成24年度上川南支部看護師研修会講師「口腔ケアの必要性和実際」	北海道看護協会上川南支部
	平成24年11月17日	介護職員等技術研修会講師「医療と介護を繋ぐ口腔ケアと食支援」	北海道宗谷総合振興局保健環境部
	平成24年12月2日	日本補綴歯科学会東北・北海道支部専門医研修会講師「高齢者の口腔ケアと補綴治療」	日本補綴歯科学会専門医制度委員会
	平成25年2月23日	研修会講師「食べ物の入り口である口の衛生と食べられる口を学びおいしく食べられる食事を考えよう」	全国在宅訪問栄養食事指導研究会北海道ブロック
	平成25年3月14日	周術期の口腔ケアに関する講演講師	岐阜県総合医療センター

教員名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
守村 洋	平成24年6月14日	専門研修講師「自殺対策研修」	北海道立精神保健福祉センター
	平成24年8月9日	平成24年度うつ病・自殺予防研修会講師「自殺の危険因子と対応を考える」	北海道胆振総合振興局
	平成24年9月10日	平成24年度上川地区地域に理解され支持される社協づくり研修Ⅰ-②(業務管理編)「職場におけるメンタルヘルス対策等」	北海道社会福祉協議会上川地区事務所
	平成24年10月1日	ストレスマネジメント研修講師「ストレスとは何かを学ぶ」	名寄市立総合病院
	平成24年10月15日	平成24年度八雲保健所自殺対策連絡会議講師	北海道渡島総合振興局北海道保健環境部八雲地域保健室
	平成24年11月17日	平成24年度生きがいづくりクリエイター養成講座講師「人の心理とメンタルヘルス」	北海道社会福祉協議会
	平成24年11月19日・20日	平成24年度上川地区地域福祉生活支援センター生活支援員研修会講師「知的障がい者・精神障がい者を支える制度や機関の役割について」	北海道社会福祉協議会上川地区事務所
	平成25年2月14日	平成24年度「こころの健康づくり講演会」講師「大切な人の悩みに気づいてください～身近な人の気づき・見守りから」	恵庭市
	平成25年3月26日	旭川市自殺対策ネットワーク会議講師「自殺未遂者対策の現状と対応の実際について(仮題)」	旭川市保健所
山田 典子	平成24年10月9日	平成24年度配偶者からの暴力相談関係職員研修講師「医療面からみたDV、性暴力被害への取組について」	札幌市
吉川 由希子	平成24年8月14日	院内研修講師「看護研究」	JA 北海道厚生連 札幌厚生病院
	平成24年11月1日～平成25年3月31日	院内看護職員研修講師	JA 北海道厚生連 札幌厚生病院
	平成25年2月12日	研修会講師「看護教育におけるポートフォリオの活用(仮題)」	四国大学
太田 晴美	平成24年7月3日・24日、9月、12月、平成25年2月	看護研究学集會講師「看護研究の指導」	砂川市立病院
	平成24年9月10日	看護職復職支援講習会講師	さっぽろ雇用創造協議会
	平成24年9月20日・21日	災害看護「その時あなたは どうする」研修会講師「災害医療の目的」	(社)北海道看護協会

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

I 概要
II 教育活動
III 研究活動
IV 社会活動
V キャリア支援活動
VI 入学者選抜結果
VII 附属図書館
VIII 役員会、経営審議会 及び教育研究審議会
IX 学内運営の概要
X 資料
XI 教員業績一覧

教員名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
太田 晴美	平成25年1月15日	平成24年度災害時医療救護部会主催 災害医療研修会講師「小さな災害から国際支援まで～災害医療の過去・現在・未来～」	堺市立病院機構 市立堺病院
	平成25年2月5日	北海道市町村振興協会支援事業講師「防災の知恵」	北見市
神島 滋子	平成24年度に講義、カンファレンス含め数回程度	研修会講師「チーム医療における看護師の役割と心構え(仮)」	社会福祉法人恩賜財団済生会 支部北海道済生会小樽病院
	平成25年2月4日	平成24年度看護研究発表会講師「看護研究論文の査読、看護研究発表の講評」	札幌市病院局市立札幌病院
杉田 久子	平成24年9月12日・14日	看護職復職支援講習会	さっぽろ雇用創造協議会
田中 広美	平成24年7月1日～8月30日	平成24年度専任教員養成講習会講師「研究方法(演習)」	北海道保健福祉部
	平成24年9月11日	看護職復職支援講習会講師	さっぽろ雇用創造協議会
	平成24年11月28日	小規模病院等看護技術強化事業主催臨床研修会講師「移動・移乗の基本的技術研修」	北海道自治体病院協議会
原井 美佳	平成24年4月24日、7月24日、平成25年2月5日	看護研究研修講師「疑問解決看護研究」	医療法人社団豊生会 東苗穂病院
	平成24年9月13日	看護職復職支援講習会講師	さっぽろ雇用創造協議会
	平成24年11月20日、12月6日	院内研修講師「オレムの看護理論」「オレムの理論を使った看護課程の展開」	IMS グループ医療法人社団明生会手稲ロイヤル病院
	平成25年2月1日・15日	小規模病院等看護技術強化事業研修会講師「ゴードンの看護理論研修」	北海道自治体病院協議会
	平成24年2月4日	平成24年度看護研究発表会講師「看護研究論文の査読、看護研究発表の講評」	札幌市病院局市立札幌病院
	平成25年2月21日	平成24年度看護研究発表会講師「看護研究発表論文、研究計画書についての講評」	社会医療法人鳩仁会 札幌中央病院
藤井 瑞恵	平成24年9月13日	看護職復職支援講習会講師	さっぽろ雇用創造協議会
山内 まゆみ	平成24年12月25日、平成25年1月21日	平成24年度第10回地域保健関係職員研修「母性に関する研修」講師「母性に関する保健指導の充実のために～乳房管理について～」	札幌市保健所
山本 真由美	平成24年5月21日	「看護研究計画書の作成について」の研修会講師	独立行政法人国立病院機構 北海道がんセンター
	平成25年3月11日	看護研究発表会の講師	独立行政法人国立病院機構 北海道がんセンター
渡邊 由加利	平成24年5月31日	臨地実習指導者研修講師	社会医療法人母恋 天使病院

教員名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
工藤 京子	平成24年2月21日	平成24年度看護研究発表会講師「看護研究発表論文、研究計画書についての講評」	社会医療法人鳩仁会 札幌中央病院
多賀 昌江	平成24年5月12日、 11月11日	ワーキングマタニティスクール講師「夫婦で楽しく妊娠・子育てライフ」	(財)母子衛生研究会
鶴木 恭子	平成24年12月6日	平成24年度北海道看護協会小樽支部研修会講師「『気持ち良い体験』をしよう」	(社)北海道看護協会
板東 奈穂美	平成25年2月5日	北海道市町村振興協会支援事業の講師「防災の智慧」	北見市
檜山 明子	平成24年11月28日	小規模病院等看護技術強化事業主催臨床研修会講師「移動・移乗の基本的技術研修」	北海道自治体病院協議会

I
概要II
教育活動III
研究活動IV
社会活動V
キャリア支援活動VI
入学者選抜結果VII
附属図書館VIII
役員会、経営審議会
及び教育研究審議会IX
学内運営の概要X
資料XI
教員業績一覧

5 国際交流実績

年月日	内容	
平成24年5月18日	報告会	国際交流事業公開報告会「草の根技術協力事業『先天性股関節脱臼の予防と早期発見』に関わる現地視察(モンゴル国)」
平成24年6月29日 ～7月5日	派遣	華梵大学(台湾)とのデザインワークショップ実施(学生15名、教員2名)
平成24年8月6日 ～17日	派遣	又松大学(韓国)語学・文化体験研修(学生5名、教員2名)
平成24年9月11日 ～17日	派遣	ノボシビルスク芸術大学(ロシア)との空間デザインワークショップと展覧会(学生7名、卒業生2名、教員1名)
平成24年11月5日	報告会	2012年度SCU国際交流事業合同報告会

6 サテライトキャンパスの利用状況

利用目的	学内利用件数	学外貸出件数	計
セミナー	33	0	33
会議	151	0	151
学会	15	0	15
その他	37	0	37
合計	236	0	236

V キャリア支援活動

1 デザイン学部

1) 概要

デザイン学部キャリア支援委員会は、デザイン学部の学生を対象としたキャリア支援の取り組みを図る目的として、平成20年4月に設立された。本委員会は、定例会議（毎月1回程度）において学生への支援方法及び企業へのPR・求人開拓活動などを協議し、コース毎の独自企画と連携しながら運営を行った。

平成20年4月には、キャリア支援室を開設し、教職員による就職相談体制を開始した。また、キャリア支援室は、後援会からの支援により、就職関連図書や什器などの備品・設備を整備した。平成24年度には就職相談員1名、補助員1名を配置し、きめ細かく個別指導できる体制を整備した。活動実績については、下記のとおりである。

学部4年生への支援	・個別指導(就職相談、面接対策、履歴書・ES対策など) (平成24年4月～) ・学内企業説明会(平成24年12月) ・求人情報の提供(掲示、メール)
学部3年生への支援 大学院1年生への支援	・キャリアガイダンス(平成24年4月～平成25年1月) ・就職活動マニュアルの配布(平成24年4月) ・進路希望調査(平成24年10月) ・学内企業説明会(平成24年12月) ・求人情報の提供(掲示、メール)
就職先の開拓	・企業訪問(PR活動、求人開拓) (平成24年8月～平成25年3月) ・企業向けパンフレット作成・発送(平成24年12月)
後援会からの支援	・デザイン系スキルアップセミナー(平成24年12月) ・履歴書用証明写真撮影補助(平成24年12月) ・就職先開拓支援(平成24年8月～)

2) 支援体制

デザイン学部のキャリア支援は、本委員会の委員、4コースのゼミ担当教員及び事務局（学生課学生支援係、就職相談員）によって行われている。主な役割分担として、事業の企画・運営は本委員会の委員が、就職先の開拓は全教員及び学生支援係が、学生相談のうち専門分野に関わることはキャリア支援室の就職相談員及び学生支援係がそれぞれ行っている。

3) 就職・進学結果

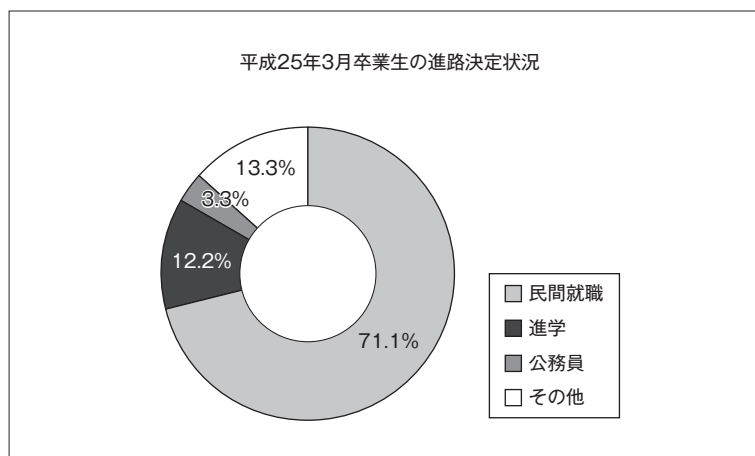
平成25年3月卒業生（4期生）

就職先	■情報通信業（放送・ゲームソフト・インターネット関連・映像制作等） エイチ・テー・ビー映像(株)、(株)シンクスマイル、(株)デイリー・インフォメーション北海道、ハートビットデジタル(株)、ピークス(株) ■専門・技術サービス業（デザイン業・広告業等） (株)インサイト、(株)MR P アド、(株)グラフィニカ、(株)QM、(株)ソフィアプロモーション、(株)乃村工藝社、(株)フラクタル、(株)プロコム北海道、(有)山内圭吉建築研究所、ランドマック(株)、(有)カイカイキキ札幌スタジオポンコタン ■製造業 (株)岡村製作所、極東高分子(株)、(株)クリナップ、札幌トヨタ自動車(株)、(株)SHINDO、(株)須田製版、ゼブラ(株)、DNP北海道(株)、東洋印刷(株)、ニチペイ(株)、(株)プリプレス・センター、森永乳業北海道販売(株)、(株)ユーメディア ■卸売業・小売業 (有)青木商店、(株)アガツマ、(株)エイ・ネット、(株)カンディハウス、3KG、(株)千趣会、ナラサキ産業(株)、(株)PAL、長谷川産業(株)、有限会社花たく、ハミューレ(株)、北海道日産自動車(株)、(株)ルビシア、(株)ローソン ■建設業 イネスホーム(株)、(株)三五工務店、(株)ジョンソンホームズ、スウェーデンハウス(株)、(株)土屋ホームトピア、(株)夢真ホールディングス ■公務 札幌市役所（建築）、北海道職員（一般行政、学校事務） ■サービス業 (株)クリーク・アンド・リバー社、(株)JTB北海道、(株)ステージ・ループ、(株)マイナビ、(株)ワンエイトクリエーション ■不動産業 (株)ビッグ ■医療、福祉 NPO法人RSジンジャー ■生活、娯楽 (株)星野リゾート ■農業、林業 八戸農業共同組合 ■教育・学習支援業 公立大学法人札幌市立大学、国立大学法人等職員（北海道大学）
進学先	札幌市立大学大学院、東京工業大学大学院、北海道大学教育学部、甲陽音楽学院神戸本校、ヒューマンアカデミー、白組ヒューマンスタジオ

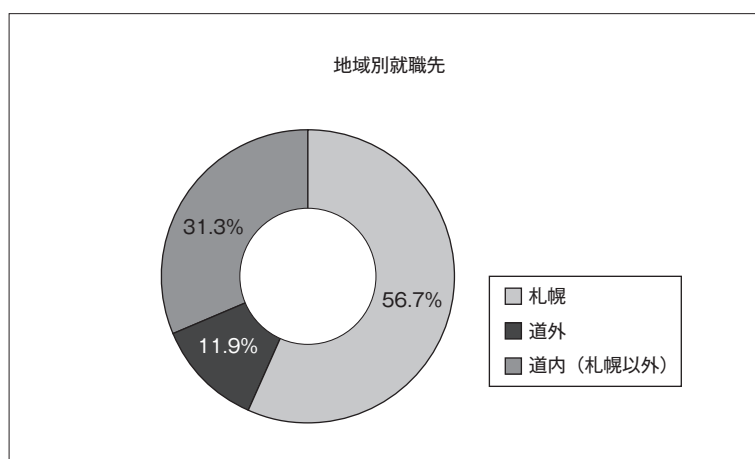
(4期生)

札幌市立大学デザイン学部 平成25年3月卒業生 就職状況 (平成25年5月15日現在)

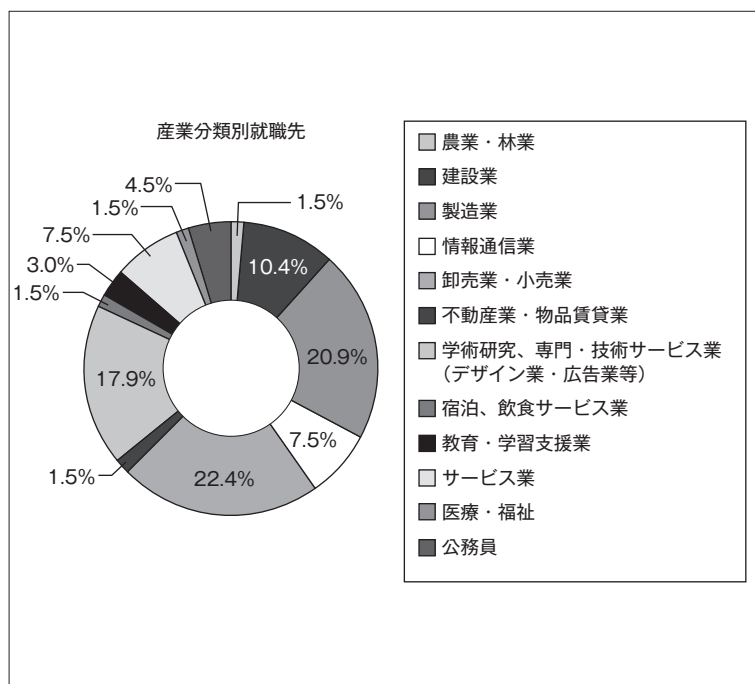
進路状況	名
民間就職	64
進学	11
公務員	3
その他	12
合 計	90



地域別就職先	名
札幌	38
道外	8
道内(札幌以外)	21
合 計	67



産業分類別就職先	名
農業・林業	1
建設業	7
製造業	14
情報通信業	5
卸売業・小売業	15
不動産業・物品賃貸業	1
学術研究、専門・技術サービス業(デザイン業・広告業等)	12
宿泊・飲食サービス業	1
教育・学習支援業	2
サービス業	5
医療・福祉	1
公務員	3
合 計	67



(4期生)

札幌市立大学デザイン学部 平成25年3月卒業生 進路決定状況 (概要)

1. コース別進路状況

コース	卒業生数①	1. 就職希望		就職者(起業含)※1		2. 進学希望	
		②	内公務員志望	③	内公務員	④	進学先決定者⑤※3
空間	20	14	1	14	1	6	6
製品	15	14	2	13	2	1	1
コンテンツ	19	14	0	10	0	3	3
メディア	36	32	0	30	0	3	1
合計	90	74	3	67	3	13	11
割合		82.2%	4.1%	90.5%	4.5%	14.4%	84.6%
		②÷①		③÷②		④÷①	
						⑤÷④	

(備考)

- ※1：就職希望者に対する就職者の割合
- ※2：進学希望者に対する進学先決定者の割合

○参考

- 平成24年度大学等卒業者の就職状況調査(平成24年4月1日現在)〔文部科学省〕
- ・大学の就職率〔全国〕93.9%(昨年同期比 0.3ポイント増)

2. 内定先の内訳(市内36社38名、道内8社8名、道外21社21名)

コース	道内企業(札幌市内含む)		道外企業
空間	市内	イネスホーム㈱〔建設〕 ナラサキ産業㈱〔卸・小売〕 札幌トヨタ自動車㈱〔製造〕 長谷川産業㈱〔卸・小売〕 ㈱ジョンソンホームズ〔建設〕 札幌市職員(建築)〔公務〕 ㈱土屋ホームトピア〔建設〕 ㈱三五工務店〔建設〕 ㈹山内圭吉建築研究所〔専門・技術〕 ㈱ワンエイトクリエーション〔サービス業〕 スウェーデンハウス㈱〔建設〕	㈱乃村工藝社〔専門・技術〕 ㈱岡村製作所〔製造〕
	道内	㈱カンディハウス〔卸・小売〕	
製品	市内	ハミューレ㈱〔卸・小売〕 北海道職員(一般行政)〔公務〕 北海道職員(学校事務)〔公務〕 ㈹カイカイキキ札幌スタジオボンコタン〔専門・技術〕	㈱千趣会〔卸・小売〕 ゼブラ㈱〔製造〕 ㈱ニチペイ〔製造〕 ㈱MR Tアド〔専門・技術〕 八戸農業協同組合〔農業、林業〕
	道内	極東高分子㈱〔製造〕 ㈱クリナップ〔製造〕	㈱ランドマック〔専門・技術〕 ㈱夢真ホールディングス〔建設〕
コンテンツ	市内	㈱ビッグ〔不動産業〕 NPO 法人RSジンジャー内定〔医療、福祉〕 ㈱QM〔専門・技術〕 ㈱JT B北海道〔サービス業〕 ハートビットデジタル㈱〔情報通信〕 DNP 北海道㈱〔製造〕	㈱シンクスマイル〔情報通信〕 ㈱SHINDO〔製造〕
	道内	東洋印刷㈱〔製造〕 極東高分子㈱〔製造〕	

コース	道内企業(札幌市内含む)		道外企業
メディア	市内	(株)デイリー・インフォメーション北海道(情報通信) (株)ローソン〔卸・小売〕 (株)須田製版〔製造〕 (株)エイ・ネット〔卸・小売〕 有限会社花たく〔卸・小売〕 (株)プリプレス・センター〔製造〕 国立大学法人等職員(北海道大学)〔教育・学習支援〕 ハミューレ(株)〔卸・小売〕 北海道日産自動車(株)〔卸・小売〕 (株)インサイト〔専門・技術〕 公立大学法人札幌市立大学〔教育・学習支援〕 森永乳業北海道販売(株)〔製造〕 3 K G〔卸・小売〕 (株)フラクタル〔専門・技術〕 エイチ・テー・ビー映像(株)〔情報通信〕 (株)マイナビ(ジョブスタートプログラム)〔サービス業〕	(株)ユーメディア〔製造〕 (株)PAL〔卸・小売〕 (株)ソフィアプロモーション〔専門・技術〕 ピークス(株)〔情報通信〕 (株)アガツマ〔卸・小売〕 (株)クリーク・アンド・リバー社〔サービス業〕 (株)ルビシア〔卸・小売〕 (株)ステージ・ループ〔サービス業〕 (有)青木商店〔卸・小売〕 (株)グラフィニカ〔専門・技術〕
	道内	(株)星野リゾート〔生活・娯楽〕 東洋印刷(株)〔製造〕 (株)プロコム北海道〔専門・技術〕	
	小 計	44社36名	21社12名
合 計	65社48名		

3. 進学状況(大学院11名)

空 間	大学院	東京工業大学大学院、札幌市立大学大学院(空間)5名	6名
	研究生		
製 品	大学院		
	研究生		
	その他	甲陽音楽学院 神戸本校	1名
コンテンツ	大学院	札幌市立大学大学院(コンテンツ・メディア)	1名
	研究生		
	その他	ヒューマンアカデミー、白組ヒューマンスタジオ	2名
メディア	大学院		
	研究生		
	その他	北海道大学教育学部	1名
合 計		大学院 7名 研究生 0名 その他 4名	11名

2 看護学部

1) 概要

看護学部キャリア支援委員会は、学生の進路相談や就職活動、国家試験への支援だけでなく、就職後の支援も視野に入れ、学生を支援する体制を整えている。

看護学部における支援体制には、①進路相談、②就職活動支援、③国家資格試験対策、④卒業後のキャリア支援の4つの取組を軸に、次のような活動計画を定めた。①看護学部キャリア支援室の管理・運営、②進路希望調査の実施、③看護学部キャリア支援ガイダンスの実施、④進路相談日の定期化、⑤各種就職説明会の開催、⑥国家試験自主ゼミの組織化。

また、上記に加え平成24年度から文部科学省の「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」の支援を受けて1期生、2期生、3期生を対象としたシャトル研修を実施するなど、卒後のキャリア支援も行った。

これらの活動が学生のニーズに適う内容であること及び学生の将来に有用な指針を示すものであることを念頭におき、進路希望調査の結果や進路相談などにおける学生の声を重視するとともに、これらを計画立案に反映させながら支援することに努めている。

2) 支援体制

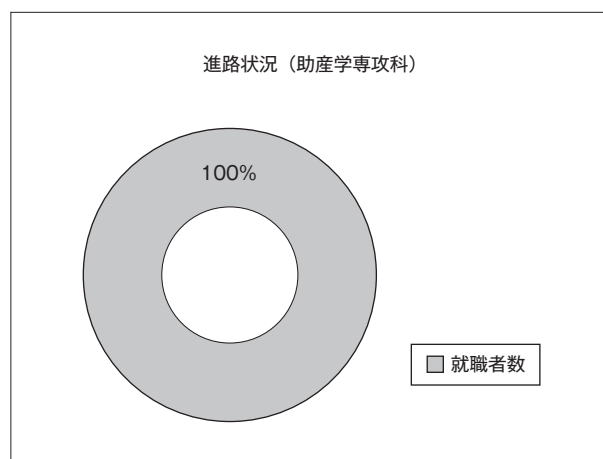
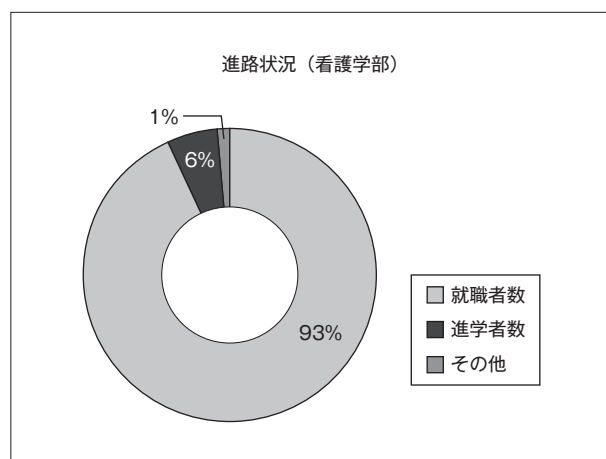
看護学部キャリア支援委員7名により、次の表のとおり年間活動計画及び進路相談などを行った。また、学生による国家試験対策自主ゼミグループを組織し、自主ゼミリーダー会議を定期的に開催した。

月	4年次生・助産学専攻科	3年次生
4月	・前期ガイダンス ・国家試験受験ガイダンス ・キャリアハンドブック配布（専攻科生） ・第1回進路希望調査	・前期ガイダンス
5月	・進路活動ガイダンス	
6月		
7月	①看護師模擬試験	
8月	・再学修セミナー（4回）	
9月	・後期ガイダンス ・再学修セミナー（6回） ②保健師模擬試験	・後期ガイダンス ・第1回進路希望調査
10月	③看護師模擬試験	・国家試験対策自主ゼミ結成 ・保健師就職説明会 ・助産師課程進学説明会
11月	④助産師模擬試験 ⑤保健師模擬試験 ・国家試験説明会	
1月	⑥看護師模擬試験 ⑦助産師模擬試験 ⑧保健師模擬試験	
2月	・国家試験受験事前説明会	・学内就職説明会
3月	・労務支援特別講義	①低学年用国家試験模擬試験

3) 就職・進学結果

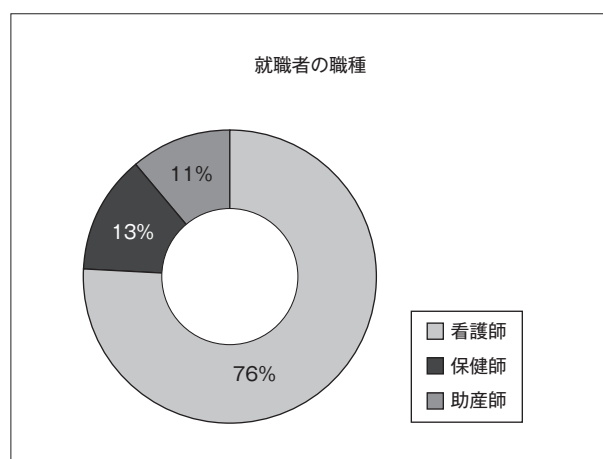
① 進路状況

	在籍数(名)	就職希望者数(名)	進学者数(名)	就職者数(名)	内定率(%)
学生数	89	84	5	83	98.8
(うち編入学)	10	10	0	10	100.0
助産学専攻科	11	11	0	11	100.0



② 就職者の職種（単位：名）

看護師	72
保健師	12
助産師	10
その他	0
合 計	94



4) 国家試験の結果

	出願者数(名)	受験者数(名)	合格者数(名)	合格率(%)
看護師	79	79	79	100.0%
保健師	89	89	89	100.0%
助産師	11	11	11	100.0%

3 デザイン研究科

1) 就職・進学結果

(2期生)

札幌市立大学（デザイン研究科） 2013年3月修了者 進路決定状況（概要）

1. 進路状況

研究科	在籍者	休学・留年等 (長期履修含む)	卒業者数							
			①	就職希望者数		就業者数③		進学希望者数		備考
				②			④	決定者数⑤		
デザイン	19	2	17	13	(0)	13	(0)	1	1	・留学生(帰国)1名 ・就職希望なし2名
合 計	19	2	17	13	(0)	13	(0)	1	1	0
割 合				76.5%	(0.00%)	100.0%	(0.00%)	5.9%	100.0%	0.0%
				②÷①	※1 ③÷②		④÷①		※2 ⑤÷④	

(備考)

- ・（ ）は、「うち公務員」を表す。
- ・※1：就職希望者に対する就職者の割合
- ・※2：進学希望者に対する進学先決定者の割合

2. 内定先の内訳（市内9社9名、道内1社1名、道外3社3名）

コース	道内企業(札幌市内含む)		道外企業
デザイン	市内	ケント・ハウス(株)[建設] (株)QM[専門・技術] (株)スノーボール[専門・技術] スタジオ・シンフォニカ(有)[専門・技術] (株)インサイト[建設] シンセメック(株)[製造] ダットジャパン(株)[情報通信] (株)ゴールウェイ[情報通信] (株)札幌振興公社[専門・技術]	チトセホーム(株)[建設] (株)大和ハウス工業[建設] 交建設計(株)[建設]
	道内	(株)オムニ商会内定[医療・福祉]	
小計	10社 10名		3社 3名

3. 進学状況

デザイン 研究科	大学院博士課程	札幌市立大学大学院博士課程	1名
	研究生		
	その他		
合 計		大学院 1名 研究生 0名 その他 0名	1名

VI 平成25年度入学者選抜結果

1 デザイン学部・看護学部

1) 入学者選抜要項

① アドミッションポリシー

<教育研究の理念>

本学は、デザイン学と看護学を教育研究の対象とする。デザイン学と看護学は、いずれも人間を対象とした学問領域であることから、両者に共通する「人間重視」の考え方を常に基本とし、一人の人間から社会全体までを対象に、安全で快適な暮らしを創造できる幅広い教養と豊かな人間性を有する職業人を育成する。市民の負託にこたえ、「市民に開かれた大学」「市民の力になる大学」「市民が誇れる大学」という三つの視点を掲げて、地域貢献という使命を果たしていくため、時代の要請に柔軟に対応しながら質の高い教育研究を追求する。

<教育研究の特長>

デザイン学と看護学それぞれの専門性を極める教育を行うとともに、幅広くデザインと看護の連携を目指す。また、市民、産業界、公的機関などと連携することにより、幅広いネットワークを持った大学とし、地域課題等に対応した教育研究を積極的に展開する。

<デザイン学部の求める学生像>

- 1 人間尊重・人間重視の姿勢を持ち、デザインを通して社会に貢献しようとする姿勢を持った人
- 2 豊かな感性と見識を持って、主体的かつ協同して未来のデザインを創造することに意欲のある人
- 3 デザインを通じ、地域活性化のリーダーとして文化・産業の発展に寄与する意志を持った人

このため、入学者には、日ごろから、人間及びその生活を豊かにするデザインに興味・関心を持ち、地域社会が抱える課題の発見や解決に向けて、日々の学習の中で幅広い基礎学力・思考力・発想力を身に付けるとともに、多くの人々と協働するためのコミュニケーション能力を備えていることが求められます。

<看護学部の求める学生像>

- 1 人々の健康、心、暮らしに関心を持ち、生命の尊厳を理解しようとする姿勢を持った人
- 2 豊かな感性と探究心を持って、柔軟に物事を考え、自主的に学修できる人
- 3 他者と協調し、信頼関係を築くことができ、積極的に地域に貢献する意志を備えた人

そのためには、高等学校における国語、英語、数学、理科などの基礎的な学力、及び課外活動等によって培われた協調性や責任感のある人を求めています。

② 平成25年度入学者選抜概要

入学定員・募集人員

(単位:名)

学部・学科名	入学定員	募集人員				
		一般選抜		特別選抜		
		前期日程	後期日程	推薦入学	社会人	私費外国人留学生
デザイン学部 デザイン学科	85	59	14	12	若干	若干
看護学部 看護学科	80	48	—	32	若干	—

選抜日程

選抜区分		出願期間	試験日	合格発表等
特別選抜	推薦入学 社会人	平成24年11月1日～6日	平成24年11月24日	平成24年12月11日 【入学手続期間】 平成24年12月11日～17日
	私費外国人留学(※)	平成25年1月28日 ～2月6日	平成25年2月25日	平成25年3月8日 【入学手続期間】 平成25年3月8日～15日
一般選抜	前期日程	平成25年1月28日 ～2月6日	平成25年2月25日	平成25年3月8日 【入学手続期間】 平成25年3月8日～15日
	後期日程(※)	平成25年1月28日 ～2月6日	平成25年3月12日	平成25年3月22日 【入学手続期間】 平成25年3月22日～27日

(※)は、デザイン学部のみ実施

試験会場

学部・学科名	試験会場
デザイン学部デザイン学科	芸術の森キャンパス
看護学部看護学科	桑園キャンパス

選抜方法

選抜区分		学部・学科名	選抜方法
特別選抜	推薦入学	デザイン学部 デザイン学科	「小論文(課題解決型の論述問題)」又は「実技(鉛筆デッサン)」(いずれかを選択)、面接及び調査書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。
		看護学部 看護学科	小論文(看護を学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力を見る。)、面接及び調査書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。
	社会人	デザイン学部 デザイン学科	「小論文(課題解決型の論述問題)」又は「実技(鉛筆デッサン)」(いずれかを選択)、面接及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。
		看護学部 看護学科	総合問題(国語、英語、自然科学、論述)、面接及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。
	私費外国人留学生	デザイン学部 デザイン学科	「小論文(課題解決型の論述問題)」又は「実技(鉛筆デッサン)」(いずれかを選択)、面接、日本留学試験及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。
一般選抜	一般選抜	デザイン学部 デザイン学科	入学者の選抜は、大学入試センター試験及び本学が実施する個別学力検査等の成績並びに調査書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。
		看護学部 看護学科	

一般選抜試験の大学入試センター試験及び個別学力検査等の教科・科目

学部・学科名	学力検査等の 区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等
		教科	科目名等	科目名等
デザイン学部 デザイン学科	前期日程	国語	「国」(古文・漢文を含む。)	「小論文(課題解決型の論述問題)」又は「実技(鉛筆デッサン)」のいずれかを選択
		地歴公民	「世A」「世B」「日A」「日B」「地理A」「地理B」「現社」「倫理」「政・経」「倫理、政・経」から1科目	
		数学	「数Ⅰ・数A」と「数Ⅱ・数B」の2科目	
		理科	「物Ⅰ」「化Ⅰ」「生Ⅰ」「地学Ⅰ」から1科目	
		外国語	「英」(筆記及びリスニング)	
	後期日程	国語	「国」(古文・漢文を含む。)	
		数学	「数Ⅰ・数A」	
看護学部 看護学科	前期日程	外国語	「英」(筆記及びリスニング)	面接
		国語	「国」(古文・漢文を含む。)	
		数学	「数Ⅰ・数A」	
		理科	「物Ⅰ」「化Ⅰ」「生Ⅰ」「地学Ⅰ」から2科目	
		外国語	「英」(筆記及びリスニング)	

③ 平成25年度3年次編入学者選抜概要

募集人員 (単位:名)

学部・学科名等	募集人員
デザイン学部デザイン学科	10
看護学部看護学科	10

選抜日程・試験会場

学部・学科名	出願期間	試験日	試験会場	合格発表
デザイン学部 デザイン学科	平成24年6月22日 ～29日	平成24年7月21日	芸術の森キャンパス	平成24年8月3日
看護学部 看護学科	平成24年8月10日 ～16日	平成24年9月8日	桑園キャンパス	平成24年9月25日

選抜方法

学部・学科名	選抜方法
デザイン学部 デザイン学科	入学者の選抜は、本学が実施する小論文(課題解決型の論述問題)、英語、面接・試問及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。
看護学部 看護学科	入学者の選抜は、本学が実施する論述試験、面接及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。

2) 選抜状況

① 入学者選抜状況

a. 選抜・入学状況

デザイン学部

(単位:名)

選抜区分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般選抜	前期日程	59	149	145	62	60
	後期日程	14	162	84	15	13
特別選抜	推薦入学	12	39	39	12	12
	社会人	若干	2	2	2	2
	私費外国人留学生	若干	6	5	2	1

看護学部

(単位:名)

選抜区分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般選抜	前期日程	48	135	134	48	48
特別選抜	推薦入学	32	87	87	32	32
	社会人	若干	21	20	3	2

b. 入学者の内訳

(単位:名)

学部	入学者数	道内外の内訳			男女の内訳	
		道内		道外	男	女
		札幌市内	札幌市外			
デザイン学部	88	52	25	11	17	71
看護学部	82	32	46	4	7	75
合 計	170	84	71	15	24	146

② 編入学選抜状況

a. 選抜・入学状況

(単位:名)

学部		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
デザイン学部	空間デザイン	10	7	7	6	4
	製品デザイン		4	4	2	2
	コンテンツデザイン		2	2	2	1
	メディアデザイン		4	4	3	3
	計	10	17	17	13	10
看護学部		10	26	24	10	10

b. 入学者の内訳

(単位:名)

学部	入学者数	道内外の内訳			男女の内訳	
		道内		道外	男	女
		札幌市内	札幌市外			
デザイン学部	10	6	1	3	3	7
看護学部	10	2	8	0	2	8
合 計	20	8	9	3	5	15

2 大学院デザイン研究科・大学院看護学研究科

1) 博士前期課程

i 入学者選抜要項

① アドミッションポリシー

【デザイン研究科】

本研究科は、地域社会全体に内在する様々な課題に対してデザインによる解決策を教育・研究することにより、高度で専門的なデザイン能力を持った職業人の育成を目指し、産業・芸術・文化等の振興、地域再生・活性化などの貢献を果たすことを目的としています。この目的を達成するために、本研究科が求める学生像は次のとおりとします。

<デザイン研究科博士前期課程の求める学生像>

- 1 デザインに関する基礎的知識を備え、豊かな感性と深い見識を持ち、人間重視の視点からデザインの発展に寄与できる人
- 2 各種のデザインを統合し、先導的なプロジェクトを主体的・戦略的に展開することに意欲のある人
- 3 デザインを通じ、地域を創成していくリーダーとして文化・産業の発展に貢献する意思を持った人

【看護学研究科】

本研究科では、広い視野に立って看護学の基盤を学修した個々人の専門性及び学識を深めつつ、看護学の発展、様々な形態での看護の実践及び幅広く地域社会に貢献できる高度で専門的な人材を育成することを目的としている。この目的を達成するために、本研究科が求める学生像は次のとおりである。

<看護学研究科博士前期課程が求める学生像>

- 1 看護学の基礎知識と総合的な学力を有し、豊かな人間性と高い探究心を持って、自主的・意欲的に看護実践の向上に寄与できる人
- 2 柔軟で論理的な思考を持って保健・医療・福祉の諸問題に積極的に取り組み、問題解決に向けた研究を遂行できる人
- 3 高い倫理観を有し、地域社会や国際社会に貢献する意志と責任感を持った人

② 平成25年度入学者選抜概要

(単位:名)

研究科・専攻名	一般選抜	特別選抜(社会人)	特別選抜 (私費外国人留学生)
デザイン研究科 デザイン専攻	18	若干	若干
看護学研究科 看護学専攻	18(一般選抜、特別選抜を含む)		

※デザイン研究科の特別選抜(社会人・私費外国人留学生)の若干名は一般選抜の募集人員18名に含む。

選抜日程

【第1次募集】

研究科・専攻名	選抜区分	出願期間	試験日	合格発表等
デザイン研究科 デザイン専攻	一般選抜	平成24年8月31日 ～9月7日	平成24年9月29日・ 30日	平成24年10月16日 【入学手続期間】 平成24年10月16日 ～23日
	特別選抜(社会人・ 私費外国人留学生)			
看護学研究科 看護学専攻	一般選抜	平成24年8月24日 ～31日	平成24年9月29日	平成24年10月16日 【入学手続期間】 平成24年10月16日 ～23日
	特別選抜(社会人・ 私費外国人留学生)			

【第2次募集】

研究科・専攻名	選抜区分	出願期間	試験日	合格発表等
デザイン研究科 デザイン専攻	一般選抜	平成25年2月1日 ～8日	平成25年3月2日	平成25年3月15日 【入学手続期間】 平成25年3月15日 ～22日
	特別選抜(社会人・ 私費外国人留学生)			
看護学研究科 看護学専攻	一般選抜	平成25年2月1日 ～8日	平成25年3月2日	平成25年3月15日 【入学手続期間】 平成25年3月15日 ～22日
	特別選抜(社会人・ 私費外国人留学生)			

試験会場

研究科名	試験会場
デザイン研究科	芸術の森キャンパス
看護学研究科	桑園キャンパス

選抜方法

研究科・専攻名	選抜区分	選抜方法
デザイン研究科 デザイン専攻	一般選抜	本学大学院が実施する学力検査(専門科目の筆記試験、英語)、面接・試問の評価及び研究計画書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。
	特別選抜 (社会人・私費外国人留学生)	本学大学院が実施する学力検査(専門科目の筆記試験)、面接・試問の評価及び研究計画書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。
看護学研究科 看護学専攻	一般選抜	本学大学院が実施する筆記試験(英語、専門科目)、面接(口頭試問含む)及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。
	特別選抜 (社会人・私費外国人留学生)	

I
概要

II
教育活動

III
研究活動

IV
社会活動

V
キャリア支援活動

VI
入学者選抜結果

VII
附属図書館

VIII
役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX
学内運営の概要

X
資料

XI
教員業績一覧

ii 選抜状況

① 入学者選抜状況

a. 選抜・入学状況

デザイン研究科【第1次・第2次募集合計】

(単位:名)

選抜区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般選抜	18	11	7	6	6
特別選抜 (社会人)	若干	2	2	2	2
特別選抜 (私費外国人留学生)	若干	2	2	2	2

看護学研究科【第1次・第2次募集合計】

(単位:名)

選抜区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般選抜	18	23	22	17	17
特別選抜(社会人)					
特別選抜 (私費外国人留学生)		0	0	0	0

b. 入学者の内訳

(単位:名)

学部	入学者数	道内外の内訳			男女の内訳	
		道内		道外	男	女
		札幌市内	札幌市外			
デザイン研究科	10	8	0	2	4	6
看護研究科	17	14	3	0	2	15
合 計	27	22	3	2	6	21

2) 博士後期課程

i 入学者選抜要項

① アドミッションポリシー

【デザイン研究科】

〈教育研究の理念〉

本課程は、人間重視を根幹とした高度な教育・研究を実践し、「知と創造の拠点」として地域からの負託に応え、高度の専門知識・技術を基盤に地域社会の発展に寄与します。さらに、高度で先進的な教育・研究の中核機関として機能し、新たな理論構築や技術開発に独創的に取り組み、新たな社会価値の創造を図ることを教育研究の理念とします。

〈教育研究の目的〉

本課程は、地域社会に内在する様々な課題をデザインの視点から幅広く発見するとともに、高度な教育・研究の成果を通じて、その解決策を見出し、より豊かな人間生活や地域社会の実現に貢献できる人材を育成することを目的としています。この目的を達成するために、本課程が求める学生像は次のとおりです。

＜デザイン研究科博士後期課程の求める学生像＞

- 1 柔軟な思考と独創的な視点に立って地域課題を発見・明確化し、その課題解決に向けて旺盛な探究心を持って自立した研究を遂行できる人
- 2 豊かな感性と深い見識を持ち、高度な教育・研究による成果をもとにデザインの発展に貢献しようとする意識を有する人
- 3 既成の概念にとらわれず、自立して独自のデザイン理論構築や技術開発に取り組み、新たな社会価値の創造を目指す意欲と実行力を有する人

【看護学研究科】

本課程では、高度な学識と豊かな実践経験を基礎に様々な看護現象の分析や評価を行い、その研究成果をもとに将来を見据えた看護の枠組みを再構築し、システム開発などを行うことができる人材を育成することを目的としている。

＜看護学研究科博士後期課程が求める学生像＞

- 1 柔軟な思考と独創的な視点に立って、看護を軸とした諸課題を発見・明確化し、その課題解決に向けて旺盛な探究心を持って自立した教育・研究を遂行できる人
- 2 保健医療福祉分野における新たな理論構築や技術開発等を通じて、より質の高い看護サービスのあり方を探求する意欲を有する人
- 3 卓越した看護知識と高い倫理観に基づく実践能力を有し、教育・管理能力の研鑽に励み、将来を見据えた保健医療福祉分野の指導者となりうる人

② 平成25年度入学者選抜概要

募集人員 (単位:名)

研究科・専攻名	一般選抜
デザイン研究科 デザイン専攻	3
看護学研究科 看護学専攻	3

選抜日程

研究科・専攻名	選抜区分	出願期間	試験日	合格発表等
デザイン研究科 デザイン専攻	一般選抜	平成25年2月1日 ～8日	平成25年3月2日	平成25年3月15日 【入学手続期間】 平成25年3月15日 ～22日
看護学研究科 看護学専攻	一般選抜	平成25年2月1日 ～8日	平成25年3月2日	平成25年3月15日 【入学手続期間】 平成25年3月15日 ～22日

試験会場

研究科名	試験会場
デザイン研究科デザイン専攻	芸術の森キャンパス
看護学研究科看護学専攻	桑園キャンパス

選抜方法

研究科・専攻名	選抜区分	選抜方法
デザイン研究科 デザイン専攻	一般選抜	面接(研究計画書に基づくプレゼンテーション、口頭試問を含む)の評価及び研究計画書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。
看護学研究科 看護学専攻	一般選抜	本学大学院が実施する筆記試験(英語)、面接(研究計画書に基づくプレゼンテーション、口頭試問を含む)及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。

ii 選抜状況

① 入学者選抜状況

a. 選抜・入学状況

デザイン研究科

(単位:名)

選抜区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般選抜	3	2	2	2	2

看護学研究科

(単位:名)

選抜区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般選抜	3	4	4	3	3

b. 入学者の内訳

(単位:名)

学部	入学者数	道内外の内訳			男女の内訳	
		道内		道外	男	女
		札幌市内	札幌市外			
デザイン研究科	2	1	1	0	1	1
看護学研究科	3	1	2	0	1	2
合 計	5	2	3	0	2	3

3 助産学専攻科

1) 入学者選抜要項

① アドミッションポリシー

本専攻科は、看護学を基盤に、助産に関する幅広く高度な知識と正確な技術を育み、地域社会における母子保健の向上に貢献できる人間性豊かな助産師の育成を目的とする。
これらの目的を達成するために、本専攻科が求める学生像は次のとおりとする。

< 助産学専攻科の求める学生像 >

- 1 「生命の誕生」に、責任を持って真摯に向き合える誠実で優しい人
- 2 看護学を基盤に、倫理観を持ち、主体的に「助産学」を積み重ねることができる人
- 3 広い視野で現代社会をとらえ、母子保健を取り巻くさまざまな課題の解決を追求できる人

② 平成 25 年度入学者選抜概要

募集人員 (単位:名)

専攻科名	募集人員
助産学専攻科	10

選抜日程

出願期間	試験日	合格発表等
平成24年8月10日 ～16日	平成24年9月8日	平成24年9月25日 【入学手続期間】 平成24年9月25日 ～10月2日

試験会場

専攻科名	試験会場
助産学専攻科	桑園キャンパス

選抜方法

専攻科名	選抜方法
助産学専攻科	入学者の選抜は、本学専攻科が実施する筆記試験(専門科目(看護学一般))、小論文、面接及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。

2) 選抜状況

① 入学者選抜状況

a. 選抜・入学状況 (単位:名)

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
10	36	35	12	10

b. 入学者の内訳 (単位:名)

入学者数	道内外の内訳			男女の内訳	
	道内		道外	男	女
	札幌市内	札幌市外			
10	6	3	1	－	10

Ⅶ 附属図書館

1 概要

1) 施設規模

芸術の森キャンパス・ライブラリー … 延べ床面積／1,500㎡

桑園キャンパス・ライブラリー …… 延べ床面積／500㎡

2) 図書・雑誌・視聴覚資料・電子ジャーナル所蔵数

(平成25年3月31日現在)

図書館の名称	図書の冊数				雑誌の種数		
	和書	洋書	うち 視聴覚資料	計	和雑誌	洋雑誌	電子 ジャーナル
芸術の森キャンパス・ ライブラリー	64,519	9,052	3,214	73,571	342	54	385
桑園キャンパス・ ライブラリー	31,567	1,603	1,144	33,170	331	6	1,482
合計	96,085	10,655	4,358	106,741	673	60	1,867

3) 平成24年度年間受入状況

区分			和	洋	計
芸術の森キャンパス・ ライブラリー	図書 (冊)	購入	1,728	217	1,945
		寄贈	148	44	192
		計	1,876	261	2,137
	雑誌 (種)	購入	30	8	38
		寄贈	69	0	69
		計	99	8	107
	図書 (冊)	購入	1,585	76	1,661
		寄贈	170	12	182
		計	1,755	88	1,843
桑園キャンパス・ ライブラリー	雑誌 (種)	購入	110	6	116
		寄贈	127	0	127
		計	237	6	243

2 利用状況

1) 開館時間・休館日

開館時間	平 日：午前9時～午後10時 土曜日：午前10時～午後4時 大学の長期休業期間中：午前9時～午後5時(平日)
休 館 日	日曜・祝日・年末年始

2) 利用資格

- ① 本学学部学生・大学院生及び教職員
- ② 札幌市に在住・在勤する18歳以上の方
- ③ 北海道地区大学図書館相互利用サービス加盟館所属の方

3) 年間利用者数・貸出冊数等

利用者	貸出冊数	貸出期間
学部生 (科目等履修生を含む)	10冊	図書：2週間 雑誌：2週間(芸術の森キャンパス・ライブラリーの一部のみ貸出可)
教職員	無制限	図書：2ヶ月間 雑誌：2週間(芸術の森キャンパス・ライブラリーの一部のみ貸出可)
市民等学外者	3冊	図書：2週間 雑誌：2週間(芸術の森キャンパス・ライブラリーの一部のみ貸出可)

4) 貸出冊数・期間

図書館の 名称	利用者	開館 日数	入館 者数	貸出 人数	貸出 冊数	ILL件数	
						受付	依頼
芸術の森 キャンパス・ ライブラリー	学生・ 教職員	273	13,303	3,895	8,261	19	67
	市民等 学外者	273	927	343	678	0	0
桑園 キャンパス・ ライブラリー	学生・ 教職員	266	27,405	6,184	13,766	167	941
	市民等 学外者	266	987	266	569	0	0
合計		—	42,622	10,688	23,274	186	1,008

ILL：Inter-Library Loan（相互貸借）

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

1 役員会及び審議会の審議状況

回数	経営審議会	教育研究審議会	役員会
6月19日 第1回	・ 公立大学法人札幌市立大学理事長選考会議委員の選出について ・ 平成23年度事業報告及び決算について ・ 平成23事業年度に係る業務及び中期目標期間に係る業務の実績に関する報告について	・ 公立大学法人札幌市立大学理事長選考会議委員の選出について ・ 平成23年度事業報告及び決算について ・ 平成23事業年度に係る業務及び中期目標期間に係る業務の実績に関する報告について ・ 公立大学法人札幌市立大学名誉教授称号授与について	・ 平成23年度事業報告及び決算について ・ 平成23事業年度に係る業務及び中期目標期間に係る業務の実績に関する報告について
8月22日 第2回	・ 平成23事業年度及び第一期中期目標期間の業務実績に関する評価結果について	・ 平成23事業年度及び第一期中期目標期間の業務実績に関する評価結果について ・ 平成26・27年度デザイン研究科博士前期課程入試の改正について	・ 平成23事業年度及び第一期中期目標期間の業務実績に関する評価結果について
10月23日 第3回	・ 平成24年度予算の補正について ・ 平成25年度予算編成方針について	・ 平成24年度予算の補正について ・ 平成25年度予算編成方針について ・ 教員の再任について	・ 平成24年度予算の補正について ・ 平成25年度予算編成方針について
11月29日 持ち回り	・ 公立大学法人札幌市立大学教職員の給与に関する規程等の一部を改正する規程案について		・ 公立大学法人札幌市立大学教職員の給与に関する規程等の一部を改正する規程案について
3月28日 第4回	・ 第二期経営戦略について ・ 平成25年度年度計画及び予算について ・ 規則等の制定及び改正等について	・ 第二期経営戦略について ・ 平成25年度年度計画及び予算について ・ 規則等の制定及び改正等について	・ 第二期経営戦略について ・ 平成25年度年度計画及び予算について

2 役員及び審議会委員名簿（平成25年3月31日現在）

1) 役員

役職	氏名	現職
理事長	蓮 見 孝	札幌市立大学 理事長・学長
理事	中 村 恵 子	札幌市立大学 副学長・看護学研究科長
理事	横 内 龍 三	(株)北洋銀行 取締役会長
理事	山 岸 正 美	(株)マーケティング・コミュニケーション・エルグ 代表取締役
理事	橋 本 道 政	(財)札幌市芸術文化財団 副理事長
監 事	藤 田 美 津 夫	弁護士
監 事	高 松 謹 也	公認会計士

2) 経営審議会委員

氏名	現職
蓮 見 孝	札幌市立大学 理事長・学長
中 村 恵 子	札幌市立大学 副学長・看護学研究科長
横 内 龍 三	(株)北洋銀行 取締役会長
橋 本 道 政	(財)札幌市芸術文化財団 副理事長
塩 澤 正 樹	札幌市立大学 事務局長
菊 嶋 明 廣	札幌商工会議所 常務理事
福 井 知 克	(財)さっぽろ産業振興財団 専務理事
秋 野 豊 明	医療法人溪仁会 理事長
花 井 秀 勝	フュージョン(株) 代表取締役会長
町 野 和 夫	北海道大学公共政策大学院 教授

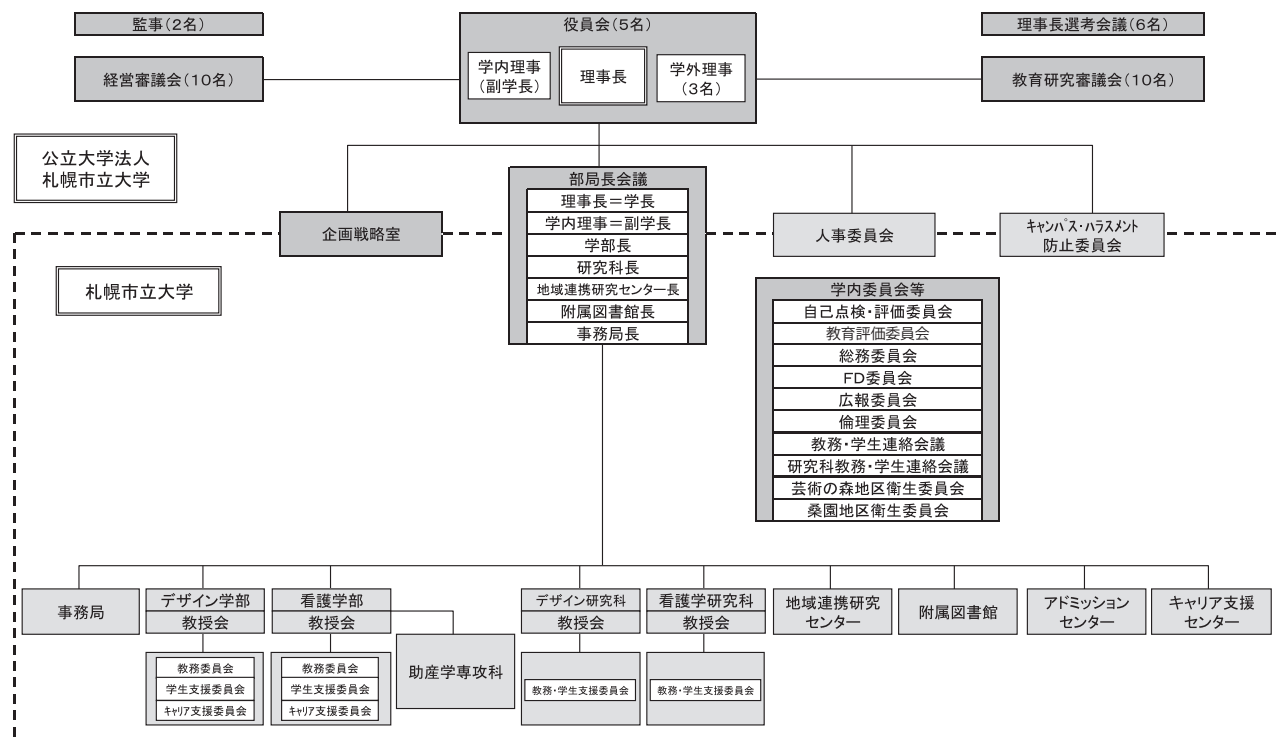
3) 公立大学法人札幌市立大学教育研究審議会委員

氏名	現職
蓮 見 孝	札幌市立大学 理事長・学長
中 村 恵 子	札幌市立大学 副学長・看護学研究科長
山 岸 正 美	(株)マーケティング・コミュニケーション・エルグ 代表取締役
酒 井 正 幸	札幌市立大学 デザイン学部長
樋之津 淳子	札幌市立大学 看護学部長
城 間 祥 之	札幌市立大学 デザイン研究科長
スーディ神崎 和代	札幌市立大学 地域連携研究センター長
中 原 宏	札幌市立大学 附属図書館長
塩 澤 正 樹	札幌市立大学 事務局長
山 中 善 夫	札幌市教育委員会 委員長
平 山 妙 子	(社)北海道看護協会 会長
石 垣 靖 子	北海道医療大学 客員教授

任期：平成26年3月31日まで

IX 学内運営の概要

1 2012年度（平成24年度）公立大学法人札幌市立大学 組織図



2 部局長会議

部局長会議は、法人の経営及び大学の教育研究に係るさまざまな事項について協議及び連絡調整を行うため、原則として毎月1回（第1水曜日）に開催しており、平成24年度は13回会議を開催した。

回数	開催日	議題
第1回	平成24年4月9日	なし
第2回	平成24年5月2日	(1) 名誉教授称号授与の発議について (2) 地方独立行政法人北海道立総合研究機構との連携・協力について
第3回	平成24年6月6日	(1) 名誉教授称号授与の発議について(継続) (2) 平成23年度決算について (3) 大学院生の施設利用時間の延長について (4) 札幌市民憲章制定50周年記念事業について (5) 平成26・27年度の入学選抜試験の変更について (6) 東日本大震災の被災に伴う平成25年度学納金の取扱いに関する確認について
第4回	平成24年7月4日	(1) デザイン研究科博士前期課程入学選抜試験の変更について (2) 札幌市立大学の夏季節電対策について (3) 芸術の森キャンパスグラウンドの市民への開放の検討について

回数	開催日	議題
第5回	平成24年7月29日	(1)デザイン学部学芸員課程関連科目履修に係る放送大学との単位互換協定の締結について (2)基金関係規程の制定について (3)国際交流事業緊急連絡網について
第6回	平成24年9月5日	なし
第7回	平成24年10月3日	なし
第8回	平成24年11月7日	公立大学法人札幌市立大学研究生規則の改正について
第9回	平成24年12月5日	華梵大学との「学生交流協定」の締結について
第10回	平成25年1月9日	(1)平成26年度大学入試センター試験実施体制図(案)について (2)承德医学院との協定更新について (3)競争的研究費について (4)認定看護管理者制度サードレベル教育課程の受講料の改定について
第11回	平成25年2月6日	(1)看護学研究科授業科目追加に伴う大学院学則等の改正について (2)平成25年度後期授業開始日の繰上げについて
第12回	平成25年3月6日	(1)デザイン研究科授業科目追加に伴う大学院学則等の改正について (2)履修等に関する規則の改正(履修登録単位数の上限設定)について (3)研究活動認定要領の制定について
第13回	平成25年3月18日	(1)出張におけるレンタカー及び自家用車使用の許可について (2)履修登録単位数の上限緩和基準(平成24年度以降1年次入学者用)について (3)年度末の規程改正について

3 企画戦略会議

企画戦略会議は、主に年度計画案の策定や実績報告の取りまとめ、札幌市地方独立行政法人評価委員会への対応、法人の経営戦略や予算編成方針の案の作成等に関する事項を所管している。

平成24年度は企画戦略会議を15回開催した。平成23年度は第一期中期目標期間（平成18～23年度）の最終年度であったことから、平成24年度は平成23年度の実績報告に加え、第一期中期目標期間における実績報告の取りまとめを行った。また、札幌市地方独立行政法人評価委員会によるヒアリング等について、本会議が中心となって対応した。平成24年度年度計画案の策定に当たっては、学内委員会等と調整し取りまとめを行った。

平成24年度から開始した第二期中期計画では、第二期中期目標期間（平成24～29年度）中の法人全体の経営戦略を平成24年度中に理事長（学長）が策定することとなっていた。経営戦略の策定に当たっては、本会議が中心となり教職員を対象とした戦略の方針に関するアンケート等を実施し、経営戦略案の策定に向けた作業を行った。本会議で策定した経営戦略案は平成25年3月の役員会で了承を得て確定した。

4 教授会

1) デザイン学部教授会

デザイン学部教授会は、平成24年度に13回開催し、教育課程の編成、学生の入学・在籍、学生支援、その他学部の教育等に関する事項などについて、幅広く審議を行った。

また、教授会終了後には、毎回、各学内委員会及び学部委員会からの報告を行う教員会議を開催した。

2) 看護学部教授会

看護学部教授会は、平成24年度に臨時教授会1回を含む13回開催し、教育課程の編成、学生の入学・在籍、学生支援、進級卒業判定、施設整備及びその他学部の研究等に関する事項などについて、幅広く審議を行った。また、助産学専攻科における教育課程の編成、修了判定及びその他専攻科の研究に関する事項などについても本教授会において、幅広く審議を行った。

教授会終了後には、各学内委員会及び学部委員会からの報告を行う教員会議を開催した。

3) デザイン研究科教授会

デザイン研究科教授会は、平成24年度に13回開催し、教育課程の編成、学生の入学・在籍、学生支援、その他研究科の研究等に関する事項などについて、幅広く審議を行った。

4) 看護学研究科教授会

看護学研究科教授会は、平成24年度に臨時教授会3回を含む15回開催し、教育課程の編成、学生の入学・在籍、学生支援、修了判定、施設整備及びその他研究科の研究等に関する事項などについて、幅広く審議を行った。また、各学内委員会等からの報告も行い、必要に応じて看護学研究科科目担当専任教員を構成員とする拡大会議として開催した。

5 地域連携研究センター

地域・産学連携部門、人材育成・継続教育部門、国際交流部門、紀要編集委員会の4セクションに構成員を配置して、研究活動、地域貢献および国内外ネットワーク形成の推進を担い、活動を行った。また、運営会議（計12回開催）で課題や情報を集約したほか、知的財産委員会を構成し、学内の知的財産に係わる管理・運営を行った。主な活動内容は以下のとおりである。

＜地域・産学連携＞

地域からの協力要請に対して、本学教員・学生が本来の活動の延長上で教育・研究の成果を地域に還元するため、地域連携活動の協力を行った。また、教員の研究成果を学外に周知し産学官連携のきっかけを探るために、「ビジネスEXPO」等学外の展示会へ出展したほか、産学官研究交流会を開催した。

＜人材育成・継続教育＞

大学が持つ知的資源をデザイン・看護の視点に基づき地域に還元し、地域の産業、まちづくり、保健・医療・福祉等への貢献をすることを目的として、公開講座を開催した。専門職業人や市民を対象とした9コース・16コマの講座を、延べ737名が受講した。

＜国際交流＞

国際交流事業として華梵大学とのワークショップ、又松大学語学文化体験研修への参加、ノボシビルスク芸術大学とのワークショップを実施した。また、承德医学院との学術交流協定を更新した。国際化方針策定に向けての枠組みについて協議し、作成した。

＜紀要編集＞

研究論文集「SCU Journal of Design & Nursing 第7巻」の発行にあたり、全ての投稿論文について査読を経て掲載の可否を決定し、9件の論文を掲載した。

＜研究推進＞

地域や産業界から依頼された受託研究16件、寄附金4件の受入れを行い、次年度の学内競争的研究費（学術奨励研究費・共同研究費）の公募と審査に係わる制度設計を行った。また、両学部の教員の交流を図るため、研究交流会を企画・実施した。

＜知的財産委員会＞

「広域大学知的財産アドバイザー派遣事業：（工業所有権情報・研修館主催）における広域大学知的財産ネットワーク」（①北海道地域中小規模大学知財ネットワーク、②異分野融合によるデザイン産学官連携広域ネットワーク）へ加盟した。当該事業から派遣される大学知的財産アドバイザーによる「知的財産セミナー全9回」及び経済産業省北海道経済産業局との共催による知的財産講習会を全学FDとして開催した。また、学生の著作物に関する利用許諾書を整備した。

6 附属図書館

平成24年度は全11回運営会議を開催し、附属図書館の運営に係る事項について協議を行った。結果、次のことを新たに導入・実施した。

第55回北海道地区大学図書館職員研究集会の当番館をつとめた（8月17日開催）。長期延滞者に対する督促フロー作成し、平成25年度より手続きを進めることとした。学外利用者の図書館利用証発行における写真の提出を平成25年度より不要とすることとした。

芸術の森図書館では、芸術の森美術館との連動企画展を開催（7月17日～8月16日）した。

この他、図書館専門員による他大学図書館への調査訪問を行った（3月7日、2件）。

7 アドミッションセンター

入学者選抜試験及びそれに伴う試験区分ごとの従事者説明会の実施、入試広報、入学者選抜方法の調査研究及び統計等に関する事業の計画的な推進を行った。

平成24年度は計10回の会議を開催し、前年度の結果の分析、入学者選抜方法の検討、高校訪問・進学相談会の実施計画の策定、入試区分ごとの学生募集要項・選抜試験実施要領の策定、入学者選抜試験に係る現状分析を行った。また、平成27年度以降の入学者を対象とする両学部一般選抜試験及び平成26・27年度のデザイン研究科博士前期課程入学者選抜試験の変更内容を決定した。

学生募集に係る具体的な取組として、オープンキャンパス、高校訪問及び進学相談会等についての企画・運営を行った。

8 キャリア支援センター

キャリア支援センター会議は、両学部に関係するキャリア支援に係る改善・充実を目的として、平成20年4月に設置された。平成24年度は1回開催（7月9日）し、平成24年度予算についての協議や、各学部がそれぞれ抱えるキャリア支援上の課題について意見交換を行った。

9 学内委員会

1) 自己点検・評価委員会

自己点検・評価委員会は、主に認証評価や年度計画の進捗管理等に関する事項を所管してお

り、平成24年度は7回開催した。

本委員会では、平成23年度までは年度計画の進捗状況の点検を半期ごとに実施していた。しかし、平成24年度については、第二期中期計画で進捗管理の徹底が盛り込まれたことを受け、年度計画のうち業務改善等に関する項目については四半期ごとの進捗管理を行い、それ以外の項目については半期ごとの進捗管理を行った。

進捗管理の点検結果は企画戦略会議等へ報告し学内で共有することにより、取組の遅れている項目の改善を促すことができ、年度計画の着実な達成に向けた取組を行うことができた。

2) 教員評価委員会

平成24年度は2回の委員会のほか、ワーキングや専門部会を開催し、各教員から提出された教員活動実績申告書の確認作業や教員評価書の作成作業を行うとともに、次年度に向けて、記入要領及び申告書様式等の検証や見直しを行った。

評価結果については、平成24年度末に任期満了を迎える教員の再任審査に活用し、また、研究費の追加配分にも活用した。

3) 総務委員会

平成24年度は10回の委員会を開催した。

委員会では、第二期中期計画の目標（その他業務運営に関する目標—環境に関する目標）達成に向けた環境方針の策定や懸念された夏季の電力需給への対応を目的として、本学における省エネルギー対策について検討を行い、実施した。

また、札幌市より依頼があった芸術の森キャンパスグラウンドの市民への開放について検討を行い、開放に関するルールをまとめたほか、積層造形システムの指導者や利用者を養成するために、ワーキンググループによる操作説明講習会を実施した。

4) FD委員会

平成24年度、FD委員会は、教員の資質向上、情報の共有化、情報収集のため、学内研修会の開催及び学外研修会への教員派遣等を積極的に行った。委員会を10回開催し、FD活動の方針について論議するとともに、FD活動それぞれについて、実施前後にその内容の確認・検証を行った。

平成24年度の具体的な活動として、全学FD研修会（16回）、各学部・研究科のFD研修会（10回）、学外研修会への教職員派遣（6回延べ14名）、本学学生及び教職員への授業評価アンケート集計結果に対する所見の公開、教員相互の授業参観等を企画・実施した。

また、「北海道地区FD・SD推進協議会」に幹事校として参加し、大学間のFD活動交流にも関わっている。

5) 広報委員会

「戦略広報」「実践広報」の2つのチーム編成により計9回の委員会を開催し、機能的に活動した。

<ホームページ>

- ・ 公式Twitterを試行期間から実施期間へ移行し、公式サイトのTOPページにリンクバナーを設置した。
- ・ Facebook公式アカウントを取得した。
- ・ ソーシャルメディア運用方針を策定した。
- ・ ホームページ更新業務の外部委託を始めた。

<大学案内等>

- ・ 2013大学案内を22,000部印刷し、公立大学、道内大学、札幌市などに発送した。
- ・ 2014大学案内について検討し、デザイン企画制作を行った。
- ・ 2014大学院案内について検討し、デザイン企画制作を行い、4,000部印刷した。

- ・ 2014助産学専攻科リーフレットについて検討し、1,400部印刷した。

<年報>

- ・ 平成23年度年報の電子データを制作し、公式サイトに掲載した。

<その他>

- ・ 公立大学協会メーリングリストを活用して「広報戦略・ソーシャルメディアの活用状況に関する調査」を実施した。
- ・ 広報基本方針枠組み（案）を作成し、「広報基本方針枠組み（案）」に関する学内アンケートを実施した。
- ・ 大学紹介DVDを作成した。

6) 倫理委員会

倫理委員会は研究を遂行する際に、被験者（研究協力者）等の人権擁護の観点から、研究倫理に則った十分な配慮をした研究計画になっているかを審査している。

平成24年度は原則、毎月末日を研究倫理審査申請の締切りとし、毎月第4水曜日に委員会を開催した（計12回開催）。また、平成24年度から倫理委員会における審査の前段として、倫理委員が審査資料の確認をし、申請者へコメントを送付することにより、審査時間の短縮と研究倫理審査の申請から研究開始までの迅速化を図った。年間の審査申請総数は40件であり、1回当たり平均3.3件の審査を実施した。審査結果は「承認」、「条件付承認」、「変更の勧告」、「非該当」のいずれかとし、「条件付承認」となった申請については、修正箇所を確認し承認する「迅速審査」を行った。

また、倫理審査の社会的透明性及び客観性を担保し、同時に申請者や委員に係るリスク管理の保全のために、平成23年度に引き続き、法律家を外部委員として委嘱することとし、中村隆弁護士が委員として審査に加わった。

このほか、審査申請様式・手順等について、委員会で協議のうえ見直しを図り、基本資料の改訂版を作成した。

7) 教務・学生連絡会議

教務・学生連絡会議は、平成24年度に11回の会議を開催し、共通教育、デザイン・看護両学部との連携教育に関する事項及び学生生活、課外活動支援に関する事項等について、年度計画を見据え、かつ実際の授業運営等に即して、必要となる協議を行った。

具体的には、学事暦、時間割、シラバス、定期試験及び授業評価アンケートに関すること、また、奨学金、大学祭、チューター制度に関すること等について議論を重ねたほか、年度計画における検討事項として、履修登録単位数の上限やGPAを活用した履修指導方法を策定した。また、毎回、両学部の教務委員会及び学生支援委員会から教務及び学生支援に関する課題を報告し、協議を行った。

8) 研究科教務・学生連絡会議

研究科教務・学生連絡会議は、平成24年度に7回の委員会を開催し、デザイン・看護学両研究科の連携に関する事項、研究科連携科目に関する事項及び学生生活に関する事項等について、年度計画を見据え、かつ実際の授業運営等に即して、必要となる協議を行った。

具体的には、研究科連携科目である連携プロジェクト演習の評価等について協議し、その効果検証として、アンケート調査を実施し、その集計結果を分析した。また、奨学金、チューター制度に関すること等について議論を重ねたほか、両研究科の教務・学生支援委員会から教務及び学生支援に関する課題を提案し、協議を行った。

構成員名簿

区分	委員会等	委員・構成員	
		教職員名	所属・職位等
	部局長会議	◎ 蓮 見 孝 中 村 恵 子 酒 井 正 幸 樋之津 淳子 城 間 祥 之 スーディ神崎 和代 中 原 宏 塩 澤 正 樹	学長 副学長 兼 看護学研究科長 デザイン学部長 看護学部長 デザイン研究科長 地域連携研究センター長 附属図書館長 事務局長
	企画戦略会議	◎ 蓮 見 孝 中 村 恵 子 酒 井 正 幸 樋之津 淳子 城 間 祥 之 スーディ神崎 和代 中 原 宏 塩 澤 正 樹	学長 副学長 兼 看護学研究科長 デザイン学部長 看護学部長 デザイン研究科長 地域連携研究センター長 附属図書館長 事務局長
	人事委員会	◎ 蓮 見 孝 中 村 恵 子 酒 井 正 幸 樋之津 淳子 城 間 祥 之 塩 澤 正 樹	学長 副学長 兼 看護学研究科長 デザイン学部長 看護学部長 デザイン研究科長 事務局長
	キャンパス・ハラスメント 防止委員会	◎ 蓮 見 孝 中 村 恵 子 酒 井 正 幸 樋之津 淳子 城 間 祥 之 塩 澤 正 樹	学長 副学長 兼 看護学研究科長 デザイン学部長 看護学部長 デザイン研究科長 事務局長
	地域連携研究センター	◎ スーディ神崎 和代 石 井 雅 博 羽 深 久 夫 原 俊 彦 矢 部 和 夫 山 本 勝 則 張 浦 華 大 野 夏 代 貝 谷 敏 子 石 田 勝 也 松 井 美 穂 山 田 良 太 田 晴 美 杉 田 久 子 原 井 美 佳 長 谷 川 聡 安 立 卓 也 上 田 理 子	地域連携研究センター長 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 看護学部教授 デザイン学部准教授 看護学部准教授 看護学部准教授 デザイン学部講師 デザイン学部講師 デザイン学部講師 看護学部講師 看護学部講師 看護学部講師 デザイン学部助教 桑園事務室長 兼 調整担当部長 事務局地域連携課長

I 概要
II 教育活動
III 研究活動
IV 社会活動
V キャリア支援活動
VI 入学者選抜結果
VII 附属図書館
VIII 役員会、経営審議会 及び教育研究審議会
IX 学内運営の概要
X 資料
XI 教員業績一覧

区分		委員会等	委員・構成員	
			教職員名	所属・職位等
	図書館	◎ 中 原 宏 松 浦 和 代 武 田 亘 明 町 田 佳 世 子 清 水 光 子 藤 井 瑞 恵 長 谷 川 聡 上 田 理 子	附属図書館長 看護学部教授 デザイン学部准教授 デザイン学部准教授 看護学部准教授 看護学部講師 デザイン学部助教 事務局地域連携課長	
	アドミッションセンター	酒 井 正 幸 樋之津 淳子 ◎ 城 間 祥 之 石 井 雅 博 杉 哲 夫 猪 股 千 代 子 菅 原 美 樹 山 内 ま ゆ み 田 村 洋 郷 平 岡 茂	デザイン学部長 看護学部長 デザイン研究科長 デザイン学部教授 デザイン学部教授 看護学部教授 看護学部准教授 看護学部講師 事務局学生課長 事務局桑園担当課長	
	キャリア支援センター	◎ 酒 井 正 幸 樋之津 淳子 杉 哲 夫 宮 崎 み ち 子 安 立 卓 也	デザイン学部長 看護学部長 デザイン学部教授 看護学部教授 桑園事務室長 兼 調整担当部長	
学内委員会	常置委員会	自己点検・評価委員会	◎ 中 村 恵 子 酒 井 正 幸 樋之津 淳子 城 間 祥 之 吉 田 和 夫 宮 崎 み ち 子 坂 本 将 司	副学長 兼 看護学研究科長 デザイン学部長 看護学部長 デザイン研究科長 デザイン学部教授 看護学部教授 事務局次長 兼 経営企画課長
		教員評価委員会	◎ 蓮 見 孝 中 村 恵 子 酒 井 正 幸 樋之津 淳子 城 間 祥 之 矢 部 和 夫 山 本 勝 則 塩 澤 正 樹	学長 副学長 兼 看護学研究科長 デザイン学部長 看護学部長 デザイン研究科長 デザイン学部教授 看護学部教授 事務局長
		総務委員会	吉 田 恵 介 坂 倉 恵 美 子 石 田 勝 也 小 宮 加 容 子 杉 田 久 子 渡 邊 由 加 利 ◎ 塩 澤 正 樹	デザイン学部教授 看護学部教授 デザイン学部講師 デザイン学部講師 看護学部講師 看護学部講師 事務局長

区分		委員会等	委員・構成員	
			教職員名	所属・職位等
学内委員会	常置委員会	FD委員会	スーディ 神崎 和代 武 邑 光 裕 ◎ 定 廣 和 香 子 斉 藤 雅 也 菊 地 ひろみ 村 松 真 澄 山 田 良 田 村 洋 郷 平 岡 茂	地域連携研究センター長 デザイン学部教授 看護学部教授 デザイン学部准教授 看護学部准教授 看護学部准教授 デザイン学部講師 事務局学生課長 事務局桑園担当課長
		広報委員会	◎ 中 原 宏 齋 藤 利 明 山 本 勝 則 片 山 めぐみ 福 田 大 年 吉 川 由 希 子 田 中 広 美 上 田 理 子	附属図書館長 デザイン学部教授 看護学部教授 デザイン学部講師 デザイン学部講師 看護学部准教授 看護学部講師 事務局地域連携課長
		倫理委員会	◎ 樋之津 淳子 石 崎 友 紀 原 俊 彦 宮 崎 みち子 内 田 雅 子 守 村 洋 片 山 めぐみ 上 田 理 子	看護学部長 デザイン学部教授 デザイン学部教授 看護学部教授 看護学部教授 看護学部准教授 デザイン学部講師 事務局地域連携課長
連絡調整会議	学部間	教務・学生連絡会議	◎ 樋之津 淳子 羽 深 久 夫 細 谷 多 聞 内 田 雅 子 定 廣 和 香 子 田 村 洋 郷 平 岡 茂	看護学部長 デザイン学部教授 デザイン学部教授 看護学部教授 看護学部教授 事務局学生課長 事務局桑園担当課長
	研究科間	研究科教務・学生連絡会議	◎ 中 村 恵 子 中 原 宏 望 月 澄 人 松 浦 和 代 田 村 洋 郷 平 岡 茂	副学長 兼 看護学研究科長 附属図書館長 デザイン学部教授 看護学部教授 事務局学生課長 事務局桑園担当課長
衛生委員会		芸術の森地区衛生委員会	上 遠 野 敏 武 田 亘 明 松 井 美 穂 ◎ 坂 本 将 司	デザイン学部教授 デザイン学部准教授 デザイン学部講師 事務局次長 兼 経営企画課長
		桑園地区衛生委員会	山 田 典 子 三 上 智 子 田 仲 里 江 ◎ 安 立 卓 也	看護学部准教授 看護学部助教 看護学部助手 桑園事務室長 兼 調整担当部長

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学学生選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

区分		委員会等	委員・構成員	
			教職員名	所属・職位等
学部委員会	デザイン学部	教務委員会	◎ 細 谷 多 聞 柿 山 浩 一 郎 町 田 佳 世 子 那 須 聖 福 田 大 年 須之内 元洋	デザイン学部教授 デザイン学部准教授 デザイン学部准教授 デザイン学部准教授* デザイン学部講師 デザイン学部助教
		学生支援委員会	◎ 羽 深 久 夫 上 遠 野 敏 原 俊 彦 上 田 裕 文 大 瀧 一 博 小 宮 加 容 子	デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部講師 デザイン学部講師 デザイン学部講師
		キャリア支援委員会	◎ 杉 哲 夫 斉 藤 雅 也 石 田 勝 也 上 田 裕 文 小 宮 加 容 子 福 田 大 年	デザイン学部教授 デザイン学部准教授 デザイン学部講師 デザイン学部講師 デザイン学部講師 デザイン学部講師
	看護学部	教務委員会	◎ 内 田 雅 子 河原田 まり子 貝 谷 敏 子 清 水 光 子 吉 川 由 希 子 田 中 広 美 原 井 美 佳 藤 井 瑞 恵 工 藤 京 子 多 賀 昌 江 坂 東 奈 穂 美 鈴 木 ち ひ ろ	看護学部教授 看護学部教授 看護学部准教授 看護学部准教授 看護学部准教授 看護学部講師 看護学部講師 看護学部講師 看護学部助教 看護学部助教 看護学部助教 看護学部助手
		学生支援委員会	◎ 定 廣 和 香 子 菅 原 美 樹 村 松 真 澄 山 田 典 子 太 田 晴 美 山 本 真 由 美 鶴 木 恭 子 柏 倉 大 作 田 仲 里 江 星 幸 江	看護学部教授 看護学部准教授 看護学部准教授 看護学部准教授 看護学部講師 看護学部講師 看護学部助教 看護学部助手 看護学部助手 看護学部助手
		キャリア支援委員会	◎ 宮 崎 み ち 子 大 野 夏 代 神 島 滋 子 櫻 井 蘭 子 照 井 レ ナ 三 上 智 子 檜 山 明 子	看護学部教授 看護学部准教授 看護学部講師 看護学部講師 看護学部助教 看護学部助教 看護学部助手

区分		委員会等	委員・構成員	
			教職員名	所属・職位等
研究科委員会	デザイン研究科	教務・学生支援委員会	◎ 望 月 澄 人 中 原 宏 石 井 雅 博 羽 深 久 夫 矢 部 和 夫 斉 藤 雅 也 町 田 佳 世子 三 谷 篤 史	デザイン学部教授 附属図書館長 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部准教授 デザイン学部准教授 デザイン学部講師
	看護学研究科	教務・学生支援委員会	◎ 松 浦 和 代 猪 股 千 代子 菊 地 ひろみ 守 村 洋	看護学部教授 看護学部教授 看護学部准教授 看護学部准教授

◎印：所管部局長等

※平成24年4月1日現在

I
概要

II
教育活動

III
研究活動

IV
社会活動

V
キャリア支援活動

VI
入学者選抜結果

VII
附属図書館

VIII
役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX
学内運営の概要

X
資料

XI
教員業績一覧

10 FD・SD 活動

(単位:名)

全学FD・SD		研修会名(講師)	場所	参加者数
平成24年 4月18日	FD/SD	大学におけるカルト問題とその対策について (櫻井 義秀)	桑園:大講義室 芸森:大会議室	67
平成24年 5月16日、 6月13日	FD/SD	知財ミニセミナー 国内優先権制度を利用した特許 出願(丞村 宏)	5月16日 芸森:大会議室、 6月13日 桑園:講義室1	6
平成24年 7月18日	FD/SD	知財ミニセミナー 特許(米国特許法の改正内容) (丞村 宏)	芸森:大会議室	1
平成24年 8月8日	FD/SD	知財ミニセミナー 特許(審査請求権とは－真田弘 美教授の特許出願履歴から－)(丞村 宏)	桑園:講義室1	3
平成24年 9月3日	FD	2012年度札幌市立大学研究交流会	芸森キャンパス	82
平成24年 9月19日	FD	科研費獲得に向けて (蓮見 孝、酒井 正幸、樋之津 淳子)	芸森:大会議室 桑園:大会議室	62
平成24年 9月19日	FD/SD	知財ミニセミナー 意匠権(丞村 宏)	芸森:大会議室	4
平成24年 10月10日	FD/SD	知財ミニセミナー 肖像権とは(丞村 宏)	桑園:講義室1	4
平成24年 10月17日	FD/SD	ディプロマポリシーの策定について(沖 裕貴)	桑園:大講義室 芸森:大会議室	69
平成24年 11月12日	FD/SD	産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備 事業について(中村 恵子)	桑園:大会議室 芸森:大会議室	61
平成24年 11月21日	FD/SD	メンタルヘルスと自殺予防 (山本 勝則、守村 洋)	桑園:講義室1 芸森:大会議室	70
平成24年 11月21日	FD/SD	知財ミニセミナー 新しい商標 (動く商標、音の商標等)(丞村 宏)	芸森:大会議室	4
平成25年 1月23日、 2月20日	FD/SD	知財ミニセミナー 契約のひな型(丞村 宏)	1月23日 芸森:大会議室 2月20日 桑園:講義室1	12
平成25年 2月26日	FD	学部連携演習ワークショップ	桑園:大講義室、 各教室	48
平成25年 3月5日	FD/SD	国際学会等における発表に向けてのヒント (石井 雅博)	芸森:大会議室 桑園:大会議室	23
平成25年 3月28日	FD	ラーニングポートフォリオを学ぼう！ (土持ゲーリー法一)	桑園:講義室1 芸森:大会議室	39

(単位:名)

デザイン学部・研究科 FD・SD		研修会名(講師)	場所	参加者数
平成24年 4月5日	FD	TAの心構えとTA受け入れについて (城間 祥之)	レクチャールーム	4
平成24年 4月23日	FD	デザイン研究科博士前期課程の研究指導教員等の資格認定について (城間 祥之)	レクチャールーム	8
平成24年 10月5日	FD	TAの心構えとTA受け入れについて (城間 祥之)	レクチャールーム	4
平成24年 12月19日	FD/SD	最近の企業動向と就職支援のあり方 (帝国データバンク)	大会議室	31

(単位:名)

看護学部・研究科 FD・SD		研修会名(講師)	場所	参加者数
平成24年 5月30日	FD	質的研究の実践 －研究プロセスを進めるclueとポイント	大学院棟中講義室	55
平成24年 5月29日	FD	フランスの看護教育について	講義室4	27
平成24年 6月19日	FD	看護教育者向けシミュレーションスキル	大学院棟大講義室、シ ミュレーションラボ	34
平成24年 9月11日	FD	ディプロマポリシー策定ワークショップ	講義室4、共同研究室 1・2・3・4	32
平成24年 9月19日	FD	就業力育成における動向調査・データベースの活用 について	講義室4	31
平成24年 3月5日	FD	教員と模擬患者によるOSCEシナリオの振り返り	講義室5	48

X 資料

1 平成24年度年度計画

I 大学の教育研究の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

(1) 教育の内容及び成果に関する目標を達成するための措置

ア 特色ある教育の実施

- ・授業評価アンケートや卒業生への追跡調査により、共通教育科目の効果について検証を行い、新カリキュラム導入に向けた課題を整理する。

※指標：共通教育科目の効果検証の実施 24年度

- ・平成25年度に予定する横断型連携教育の効果検証の実施に向け、学部及び研究科ごとに課題を整理する。
- ・博士後期課程において、設置認可申請に基づいた教育を展開するとともに、文部科学省への履行状況報告を適切に実施する。
- ・グローバル化社会に通用する人材の育成に対応した新カリキュラムの導入に向け、現状の課題整理及び先進事例の調査を実施する。

イ 時代に即した教育課程の編成

- ・ディプロマポリシー(学位授与の方針)の明文化に向けて、卒業後の多様な進路先を念頭において、学生の卒業時の学習到達目標及び学習到達度の検証方法を策定し、検証を試行する。

ウ 入学者選抜方法の検証と見直し

- ・アドミッションポリシー(入学者受入の方針)に基づき、デザイン・看護学部的一般選抜、特別選抜、3年次編入学試験を実施する。また、助産学専攻科及びデザイン・看護学研究科博士前・後期課程の入学者選抜試験を実施する。

- ・各入学者選抜方法の改善点について検証するため、入学者アンケート結果及び志願状況(小論文又は実技の科目選択状況を含む)の分析を行うとともに、入学者の入学後の成績等をもとに、追跡調査を行う。

- ・オープンキャンパスの開催、進学相談会、出前授業等への参加により、高校生、保護者等へ本学の活動内容を周知する機会を設けるとともに、高等学校の教員を対象とする大学説明会を新規に開催する。

※オープンキャンパス参加者数 のべ800名

- ・中学生以下を対象とした広報活動について検討し、次年度以降の実施に向けた活動内容を策定する。

エ 教育方法の改善等

- ・平成25年度の登録単位上限見直しに向けた課題を整理し、見直し内容を確定する。
- ・GPA制度を活用した履修指導について、次年度以降の試行に向けた具体策を決定する。
- ・平成25年度の成績評価の見直しに向け、各科目における成績評価基準や成績評価の状況を検証し、公平かつ適切な成績評価を実施する。

(2) 教育の実施体制に関する目標を達成するための措置

- ・教務・学生連絡会議は、教育の成果・効果を客観的に幅広く検証し、授業内容及び方法の改善を図るため、学生に対する授業評価アンケート及び卒業生に対する追跡調査を実施する。

※指標：授業評価アンケート学期ごと実施

卒業生に対する追跡調査 年1回実施

- ・平成25年度のアンケート見直しに向け、授業評価アンケート及び卒業生に対する追跡調査の質問項目及び集計結果について検証を行い、改善を図る。

- ・平成24年度FD研修会実施計画を策定し、実施計画に基づき成績評価・授業方法等の改善に資するFD研修会の実施及び検証に取り組む。
※指標:FD研修会開催 7回以上
- (3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置
 - ・産業界、保健・医療・福祉関係とのコンソーシアム(共同事業体)構築に向けて、デザイン関係団体、経済団体、保健・医療・福祉関係団体との協議を実施する。
 - ・通年のキャリアガイダンスを継続し、職場適応力、職業適応力に留意したプログラムを実施する。また毎回受講者アンケートを実施し、その満足度を計る。
 - ・全学的なキャリア支援の取り組みとして、文部科学省の「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」への申請し採択を目指す。
 - ・学生への情報伝達における現状の課題整理及び先進事例調査等を実施するとともに、ランニングコストなど総合的な検証を行い、今後必要となる情報伝達システムの概要について確定する。
 - ・留学生支援を目的としたチューター制度の実施要領を策定するなど、留学生に対して支援を実施する。
- 2 研究に関する目標を達成するための措置
 - (1) 研究水準及び研究成果に関する目標を達成するための措置
 - ・デザイン分野と看護分野が連携した研究をさらに進め、平成24年度は新たに、札幌市の障がい児(者)医療・福祉複合施設整備にかかわる研究を行う。
※指標:デザイン分野と看護分野が連携した研究数 6件
 - ・大型プロジェクトの獲得に向けた基盤を整えるために、外部研究機関と連携した分野横断的な研究を行う。
※指標:外部研究機関との提携協定締結 1件以上
科学研究費補助金の新規応募及び継続申請を合わせた申請率 66.5%
 - ・国際論文の査読経験者などによる研修、学術奨励研究費の「国際学会発表者補助」の増額など通じ、国際的に評価の高い学術誌や著書、国際学会等において積極的に発表する。
※指標:国際学会発表者補助の活用件数 10件以上
 - (2) 研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置
 - ア 研究の実施体制
 - ・学外共同研究者の受け入れ体制の確立に向け、現状の課題整理及び先進事例の調査を実施する。
※指標:共同研究・受託研究の数 14件/年
 - イ 地域連携の強化
 - ・産業界との連携を強化する目的で地域連携担当の専門員を配置し、産業界とのネットワークづくり、学内のシーズ発掘及び研究成果の公表等、産学連携に係る機能強化を目指す。
※指標:共同研究・受託研究の数 14件/年
 - ・サテライトキャンパスを教職員がより簡便に利用できるよう、利用方法、空き状況の周知等について見直す。
 - ・サテライトキャンパスの活用策に関する学内アンケートを行い、結果を基に次年度以降の活用策を取りまとめる。
 - ・産・看・学・公連携の促進及び大学間連携の場として、地域連携研究センターがサテライトキャンパスを活用する。
※指標:産・看・学・公連携の場としての活用 40件以上/年

II 地域貢献、国際化、大学間連携に関する目標を達成するための措置

1 地域貢献に関する目標を達成するための措置

(1) 札幌市等のまちづくりへの貢献に関する目標を達成するための措置

- ・地域貢献の現状及び課題を整理するため、学内の地域貢献に関わる情報を効率的に集約、発信する仕組みを構築する。
- ・本学への地域連携・貢献の依頼から事業実施に至るまでの手続きの流れを学内外向けの資料として作成し、公表する。
- ・地域連携担当の専門員を中心に、学内のシーズ発掘及び研究成果の公表等、ネットワークづくりに向けた取り組みを進める。

※指標: まちづくりに貢献した事例数 100件以上/年

(2) 市民への学習機会の提供に関する目標を達成するための措置

- ・公開講座の充実を図り、受講者の満足度をアンケート等で確認する。
- ・公開講座の体系化について検討し、次年度の企画に反映する。
- ・さっぽろ建築夜学校等専門職向けの公開講座の継続的な実施に加え、認定看護管理者制度サードレベル教育課程、潜在看護師向けの復職支援講習会等専門職業人を対象とした支援講座等を実施する。

※指標: 専門職業人支援講座等開催 225時間以上/年

2 国際化に関する目標を達成するための措置

- ・平成25年度の国際化に関する方針の策定に向けて、学内の意見を集約するとともに、現状の課題整理及び先進事例調査を実施し、国際化のあり方について取りまとめる。
- ・承德医学院、華梵大学への学生派遣、又松大学からの学生受入れ等提携校を中心とした学生及び教員の海外への派遣と受入れを実施する。

※指標: 教員・学生派遣 10人以上

- ・学内の共同研究費募集の際に、提携校との取組みについても積極的に募集する。

3 大学間連携に関する目標を達成するための措置

- ・大学間連携協定に関する学内横断的なプロジェクトチームを立ち上げ、単位互換、共同研究の実施に向けた現状の課題整理及び先進事例の調査を実施し、連携先大学選定の方針を決定する。

III 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

1 運営体制・手法に関する目標を達成するための措置

(1) 組織運営の改善に関する目標を達成するための措置

- ・第二期中期目標期間中の法人全体の経営戦略を役員会等の議を経て理事長が策定する。
- ・これまでの学内組織及び補佐体制の検証を行い、理事長(学長)のリーダーシップが機動的に発揮されるよう、補佐体制強化に向けた学内組織運営の見直し案を策定し、一部は試行実施する。

(2) 教職員の配置・定員の適正化に関する目標を達成するための措置

ア 教職員配置の適正化

- ・欠員が生じている職については、速やかに補充を行うとともに、平成25年度以降の教職員定員計画を策定する。

イ 職員の育成

- ・平成24年度末に市派遣職員1名を引き上げるとともに、それに伴う職員の採用を行う。
- ・人材育成基本方針を策定するとともに、職員研修受講履歴を作成・管理し、SDを計画的に実施する。

(3) 教員評価制度に関する目標を達成するための措置

- ・年度上半期中に、平成23年度教員活動実績申告に基づき教員評価を実施するとともに、実施結果を踏まえた評価項目等の見直しを適宜実施する。

2 事務の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置

- ・平成23年度に実施した業務分析を踏まえ、事務局の業務執行体制の見直し案を策定するとともに、年度内に対応可能なものは順次見直しを行う。
- ※指標:超過勤務時間の削減 前年度比▲5%

3 広報の充実にに関する目標を達成するための措置

- ・平成25年度の広報戦略策定に向け、学内の意見を集約するとともに、現状の課題整理及び先進事例調査を実施し、戦略的広報のあり方を取りまとめる。

IV 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

1 自己収入の増加に関する目標を達成するための措置

- ・外部資金の募集情報に関して、e-Radなどの情報提供手段を教員に対し周知する。
- ※指標:教員向け情報提供 年3回実施
- ・科学研究費補助金を含む外部資金の申請支援策を従前より強化するために年1回の研修を行う。
- ※指標:外部資金の獲得額 中期計画予算達成(第一期比10%増)
- ・基金設置に関する学内横断的なプロジェクトチームを立ち上げ、情報収集を行い、検討課題を洗い出した上で、基金設置の方向性、方針を決定する。

2 経費の抑制に関する目標を達成するための措置

- ・平成24年度予算について、節約保留や契約差金等を活用し、戦略的経費を捻出する。当該経費の額については、平成24年度一般管理費予算査定額から150万円以上とする。

V 自己点検・評価に関する目標を達成するための措置

- ・マネジメントサイクルによる自己点検・評価を実施し、半期(中期計画大項目第4、第5、第7にかかる計画は四半期ごと)の年度計画の進捗管理を行う。
- ・認証評価及び第一期中期目標期間の総合評価の結果を受け、改善が必要な事項については、適宜大学運営に反映させる。
- ・自己点検・評価委員会は、認証評価機関の評価項目及び評価基準に基づき、次回の自己点検・評価の実施に向け必要な資料を作成、蓄積する。

VI その他業務運営に関する目標を達成するための措置

1 施設・設備の整備・維持管理に関する目標を達成するための措置

(1) 教育研究環境の充実に関する目標

- ・ 中期計画予算を踏まえ保全計画を見直すとともに、急を要する施設の改修は適宜実施する。
- ・ 図書については、年間2,000冊程度を整備するとともに、電子ジャーナルの契約数を維持する。
- ・ 備品等については、予算編成において学内調整を行いながら適切に整備していく。
- ・ 図書館における電子的な資料も含めた学術情報の集積、提供などの機能の充実にに向けた取り組みを進めるために、学内利用者ニーズの調査・分析を含めた情報収集を行う。
- ・ 桑園キャンパス図書館の司書を増員し、ILL(図書館間の図書及び文献複写の相互利用サービス)の迅速化など、図書館機能の改善を図る。

(2) キャンパスの活用に関する目標を達成するための措置

- ・ 計画策定に向けた情報収集、先進事例調査を行い、策定に向けたスケジュール、検討体制を決定する。

2 安全管理等に関する目標を達成するための措置

(1) 安全管理の徹底に関する目標を達成するための措置

- ・ 平成25年度のリスクマネジメント体制の見直しに向け、全学的な安全衛生管理体制を検証し、必要に応じた見直しを行うとともに、教職員及び学生への周知を行う。
- ・ 平成22年度に策定したガイドラインに基づき、キャンパスハラスメント防止に向けて取り組むとともに、体制検証による必要に応じた見直しを行うとともに、教職員及び学生への周知、啓発を行う。

(2) 災害時の対応に関する目標を達成するための措置

- ・ 平成25年度のリスクマネジメント体制の見直しに向け、全学的な危機管理体制を検証し、必要に応じた見直しを行うとともに、教職員及び学生への周知を行う。

3 環境に関する目標を達成するための措置

- ・ 施設の総合管理業務により、施設運営管理に係る情報を集積し、消費エネルギー削減のための具体的取組を選定する。

※指標:エネルギー消費量 前年度比減

VII 予算(人件費の見積りを含む)、収支計画及び資金計画

別紙参照

VIII 短期借入金の限度額

1 短期借入金の限度額

2 億円

2 想定される理由

運営費交付金の受入れ遅延及び事故の発生等により緊急に必要な対策費として借り入れることが想定される。

IX 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

なし。

X 剰余金の使途

決算において剰余金が発生した場合、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。

XI 施設及び設備に関する計画

- ・ 経常的修繕、緊急修繕等
総額 20百万円

(注)金額については見込みであり、上記のほか、業務の実施状況に応じた施設・設備の改善や、老朽度合いに応じた改修等を追加することもあり得る。

XII 人事に関する計画

1 教職員配置の適正化

- ・ 欠員が生じている職については、速やかに補充を行うとともに、平成25年度以降の教職員定員計画を策定する。(再掲)

2 職員の育成

- ・ 平成24年度末に市派遣職員1名を引き上げるとともに、それに伴う職員の採用を行う。(再掲)

3 研修の充実

- ・ 平成24年度FD研修会実施計画を策定し、実施計画に基づき成績評価・授業方法等の改善に資するFD研修会の実施及び検証に取り組む。(再掲)
- ・ 人材育成基本方針を策定するとともに、職員研修受講履歴を作成・管理し、SDを計画的に実施する。(再掲)

別紙 予算、収支計画、資金計画（人件費の見積りを含む）

1. 予算

（単位：百万円）

区 分	金 額
収入	
運営費交付金	1,506
授業料等収入	464
受託研究等収入及び寄附金収入	28
補助金収入	17
その他収入	14
目的積立金取崩	25
計	2,054
支出	
教育研究経費	465
受託研究等経費及び寄附金事業費等	26
人件費	1,232
一般管理費	314
補助金事業費	17
計	2,054

2. 収支計画

（単位：百万円）

区 分	金 額
費用の部	
経常費用	2,101
教育研究経費	402
受託研究等費	26
人件費	1,232
一般管理費	272
財務費用	7
減価償却費	162
収益の部	
経常収益	2,076
運営費交付金収益	1,476
授業料等収益	485
受託研究等収益	28
補助金収益	17
資産見返運営費交付金戻入	34
資産見返寄附金戻入	3
資産見返物品受贈額戻入	16
資産見返補助金戻入	3
雑益	14
その他収益	14
純利益（純損失）	△25
目的積立金取崩益	25
総利益（総損失）	0

3. 資金計画

(単位:百万円)

区 分	金 額
資金支出	2,054
業務活動による支出	1,910
投資活動による支出	30
財務活動による支出	114
翌年度への繰越金	0
資金収入	2,054
業務活動による収入	2,029
運営費交付金による収入	1,506
授業料及入学金検定料による収入	464
受託研究等による収入	28
補助金等による収入	17
その他収入	14
投資活動による収入	0
財務活動による収入	0
前年度よりの繰越金	25

2 平成24年度決算

(単位:百万円)

区 分	予算額	決算額	差額 (決算－予算)	備 考
収入				
運営費交付金	1,506	1,506	0	(注1)
施設整備費補助金	0	19	19	
授業料等収入	464	465	1	
受託研究等収入及び寄附金収入	28	23	△5	
補助金収入	17	12	△5	
その他収入	14	17	3	
目的積立金取崩	25	0	△25	(注2)
計	2,054	2,042	△12	
支出				
教育研究経費	465	419	△46	(注3)
受託研究等経費及び寄附金事業費等	26	18	△8	
人件費	1,232	1,196	△36	(注4)
一般管理費	314	330	16	(注5)
施設整備費	0	19	19	(注1)
補助金事業費	17	11	△6	
計	2,054	1,993	△61	
収入－支出	0	49	49	

○予算と決算の差異について

(注1) キャンパス共用部照明電球(LED)交換工事に係る予算の補正のため、増加しました。

(注2) 目的積立金の取崩しは行いませんでした。

(注3) 業務の効率的運営(リース契約の見直し等)により、減少しました。

(注4) 教員の欠員により、減少しました。

(注5) 旅費支給業務の見直しに伴うシステム構築等により、増加しました。

3 教職員数（平成25年3月31日現在）

1) 学部別教員数（単位：名）

学 長	1
副 学 長	1
デザイン学部	34
看護学部	41
合 計	77

2) 職位別教員数（単位：名）

		教授	准教授	講師	助教	助手	計	非常勤講師
デザイン学部	男	19	3	6	2	0	30	58
	女	0	2	3	0	0	5	24
看護学部	男	1	1	0	0	1	3	72
	女	11	8	10	6	4	39	48
合 計		31	14	19	8	5	77	202

3) 職員数（単位：名）

	事務系	技術・技能系	医療系	その他	計
男	26	2	0	0	28
女	42	3	0	0	45
合 計	68	5	0	0	73

4 管理職一覧表（平成25年3月31日現在）

役職名	教職員名
学長	蓮 見 孝
副学長 兼 看護学研究科長	中 村 恵 子
デザイン学部長	酒 井 正 幸
看護学部長	樋之津 淳子
デザイン研究科長	城 間 祥 之
地域連携研究センター長	スーディ神崎 和代
附属図書館長	中 原 宏
事務局長	塩 澤 正 樹
事務局次長 兼 経営企画課長	坂 本 将 司
桑園事務室長 兼 調整担当部長	安 立 卓 也
事務局総務課長	西 村 剛
事務局地域連携課長	上 田 理 子
事務局学生課長	田 村 洋 郷
事務局桑園担当課長	平 岡 茂

5 教員一覧表（平成25年3月31日現在）

デザイン学部		看護学部	
職位	教員名	職位	教員名
教授	蓮見 孝	教授	中村 恵子
教授	酒井 正幸	教授	樋之津 淳子
教授	城間 祥之	教授	スーディ神崎 和代
教授	中原 宏	教授	宮崎 みち子
特任教授	原田 昭	特任教授	河野 總子
特任教授	小西 敏正	教授	猪股 千代子
教授	石井 雅博	教授	内田 雅子
教授	石崎 友紀	教授	河原田 まり子
教授	上遠野 敏	教授	坂倉 恵美子
教授	齋藤 利明	教授	定廣 和香子
教授	杉 哲夫	教授	松浦 和代
教授	武邑 光裕	教授	山本 勝則
教授	羽深 久夫	准教授	大野 夏代
教授	原 俊彦	准教授	貝谷 敏子
教授	細谷 多聞	准教授	菊地 ひろみ
教授	望月 澄人	准教授	清水 光子
教授	矢部 和夫	准教授	菅原 美樹
教授	吉田 和夫	准教授	村松 真澄
教授	吉田 恵介	准教授	守村 洋
准教授	柿山 浩一郎	准教授	山田 典子
准教授	斉藤 雅也	准教授	吉川 由希子
准教授	武田 亘明	講師	太田 晴美
准教授	張 浦華	講師	神島 滋子
准教授	町田 佳世子	講師	櫻井 蘭子
講師	石田 勝也	講師	杉田 久子
講師	上田 裕文	講師	田中 広美
講師	大渕 一博	講師	原井 美佳
講師	片山 めぐみ	講師	藤井 瑞恵
講師	小宮 加容子	講師	山内 まゆみ
講師	福田 大年	講師	山本 真由美
講師	松井 美穂	講師	渡邊 由加利
講師	三谷 篤史	助教	工藤 京子
講師	山田 良	助教	多賀 昌江
助教	須之内 元洋	助教	鶴木 恭子
助教	長谷川 聡	助教	照井 レナ
		助教	坂東 奈穂美
		助教	三上 智子
		助手	柏倉 大作
		助手	鈴木 ちひろ
		助手	田仲 里江
		助手	檜山 明子
		助手	星 幸江

6 学生定員及び学生数（平成24年5月1日現在）

1) 学生定員（単位：名）

学部	入学定員	3年次編入学定員	総定員
デザイン学部	80	20	360
看護学部	80	10	340
合計	160	30	700

2) 学生数（単位：名）

学部	学年	男女別		計
		男	女	
デザイン学部	1学年	25	64	89
	2学年	28	63	91
	3学年	22	72	94
	4学年	36	64	100
看護学部	1学年	10	73	83
	2学年	5	81	86
	3学年	13	76	89
	4学年	12	80	92
助産学専攻科		0	11	11
合計		151	584	735

研究科	学年	男女別		計
		男	女	
デザイン研究科 博士前期課程	1学年	7	6	13
	2学年	7	12	19
看護学研究科 博士前期課程	1学年	4	15	19
	2学年	4	24	28
合計		22	57	79

研究科	学年	男女別		計
		男	女	
デザイン研究科 博士後期課程	1学年	2	2	4
	2学年	0	0	0
	3学年	0	0	0
看護学研究科 博士後期課程	1学年	1	4	5
	2学年	0	0	0
	3学年	0	0	0
合計		3	6	9

3) 科目等履修生・聴講生・研究生

(単位:名)

学部	科目等履修生	聴講生	研究生	計
デザイン学部	0	0	1	1
看護学部	0	0	0	0
合計	0	0	1	1

学部	科目等履修生	聴講生	研究生	計
デザイン研究科	1	0	4	5
看護学研究科	0	1	1	2
合計	1	1	5	7

7 授業料等

(単位:円)

区分	検定料	入学料		授業料
		札幌市内居住者	札幌市外居住者	
学部生	17,000	141,000	282,000	535,800
科目等履修生・聴講生	9,800	14,100	28,200	1単位につき 14,800
研究生	9,800	42,300	84,600	月額 29,700

8 奨学金貸与・授業料減免実施状況 (平成25年3月31日現在)

奨学金貸与状況 (単位:名)

学年	日本学生支援機構		その他	計
	第1種	第2種		
1学年	40	52	2	94
2学年	39	44	5	88
3学年	45	49	3	97
4学年	39	66	3	108
助産学専攻科		4	0	4
大学院1年生	6	1	5	12
大学院2年生	6	3	0	9
合計	175	219	18	412

授業料減免実施状況 (単位:名)

学年	学期	全額減免者	半額減免者	計
1学年	前期	0	21	21
	後期	0	20	20
2学年	前期	0	14	14
	後期	0	17	17
3学年	前期	(1)	14	15(1)
	後期	(2)	11	13(2)
4学年	前期	(3)	21	24(3)
	後期	(3)	21	24(3)
助産学専攻科	前期	0	1	1
	後期	0	1	1
大学院1年生	前期	0	4	4
	後期	0	5	5
大学院2年生	前期	0	3	3
	後期	0	3	3
合計	前期	(4)	78	82(4)
	後期	(5)	78	83(5)

()内は、特別措置として実施した東北地方大震災の被災に伴う全額免除者数。
 なお、この特別措置は平成24年度で終了する。

9 学生の入選・受賞

入選・受賞 年月	氏名	タイトル及び入賞・受賞の別	主催者
平成24年4月	堺 麻那	JRタワー「アートボックス2012」・優秀賞	札幌駅総合開発㈱
平成24年8月	安田 奈央 西澤 研人 山本 美星子 亀田 夢葉	第7回金の卵オールスターデザインショー ケース・入選	アクシスギャラリー
平成24年9月	チーム 「IWAMURA」	第12回ロボット・トライアスロン札幌大会 2012・ポスター賞	日本ロボット学会
平成24年9月	チーム「焦らし ジェラシー」	行啓通商店街 ショートフィルムコンテス ト・最優秀賞	行啓通商店街振興組合
平成24年10月	齊藤 美雪	日本病院・地域精神医学会第56回総会ポス ター・チラシデザイン・採用	日本病院・地域精神医学会
平成24年11月	正木 裕子	さっぽろ学生ITアイディアコンテスト2012・ 優秀賞	(財)さっぽろ産業振興財団
平成24年12月	菊池 はるか	「札幌市グリーティングカード」デザイン・採用	札幌市
平成25年2月	垂水 浩貴	未来を創ろう！メッセージムービーサミット 2013・MVP賞	札幌市円山動物園、北海道コ カ・コーラボトリング㈱、札幌 市立大学デザイン学部
平成25年2月	石崎 絵理 丸山 唯花 山野井 早紀	未来を創ろう！メッセージムービーサミット 2013・円山動物園賞	札幌市円山動物園、北海道コ カ・コーラボトリング㈱、札幌 市立大学デザイン学部
平成25年2月	吉岡 理恵	未来を創ろう！メッセージムービーサミット2013・ 札幌市経済局産業振興部ものづくり産業課賞	札幌市円山動物園、北海道コ カ・コーラボトリング㈱、札幌 市立大学デザイン学部
平成25年2月	十川 みなみ 中村 千尋	未来を創ろう！メッセージムービーサミット 2013・電通北海道賞	札幌市円山動物園、北海道コ カ・コーラボトリング㈱、札幌 市立大学デザイン学部
平成25年2月	竹田 直樹	未来を創ろう！メッセージムービーサミット 2013・北海道新聞社賞	札幌市円山動物園、北海道コ カ・コーラボトリング㈱、札幌 市立大学デザイン学部
平成25年2月	田中 麻帆	未来を創ろう！メッセージムービーサミット 2013・アドバコム賞	札幌市円山動物園、北海道コ カ・コーラボトリング㈱、札幌 市立大学デザイン学部
平成25年2月	菊池 はるか	未来を創ろう！メッセージムービーサミット 2013・エアードライブ賞	札幌市円山動物園、北海道コ カ・コーラボトリング㈱、札幌 市立大学デザイン学部
平成25年2月	川浪 沙羅	未来を創ろう！メッセージムービーサミット 2013・ノースユナイテッド賞	札幌市円山動物園、北海道コ カ・コーラボトリング㈱、札幌 市立大学デザイン学部

I
概要

II
教育活動

III
研究活動

IV
社会活動

V
キャリア支援活動

VI
入学
者選抜結果

VII
附属
図書館

VIII
役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX
学内
運営の概要

X
資料

XI
教員
業績一
覧

入選・受賞 年月	氏名	タイトル及び入賞・受賞の別	主催者
平成25年2月	丹野 健介 山口 多聞 横山 航	未来を創ろう！メッセージムービーサミット 2013・センド賞	札幌市円山動物園、北海道コ カ・コーラボトリング(株)、札幌 市立大学デザイン学部
平成25年2月	本間 鈴菜	未来を創ろう！メッセージムービーサミット 2013・円山動物園オフィシャルショップ賞	札幌市円山動物園、北海道コ カ・コーラボトリング(株)、札幌 市立大学デザイン学部
平成25年2月	生田 友希 大塚 めぐみ 小川 祥平	未来を創ろう！メッセージムービーサミット 2013・北海道コカ・コーラボトリング賞	札幌市円山動物園、北海道コ カ・コーラボトリング(株)、札幌 市立大学デザイン学部
平成25年2月	谷本 由惟	とくとく健診ロゴマーク制作・採用	札幌市
平成25年3月	吉岡 理恵	EGGs'12開催告知ポスター・採用	日本建築学会北海道支部
平成25年3月	加藤 由梨枝 後藤 優太	EGGs'12開催告知ポスター・入選(2位)	日本建築学会北海道支部
平成25年3月	沼田 香織	EGGs'12開催告知ポスター・入選(3位)	日本建築学会北海道支部

10 学生の課外活動

1	バスケットボール部	14	軟式野球サークル「すらっくす」
2	吹奏楽部	15	昆虫サークル「昆サ採一レ」
3	軽音楽部	16	ダンスサークル「VOLUME」
4	美術部「noumenon」	17	バドミントンサークル
5	YOSAKOIソーラン部「真花」	18	映像制作研究サークル「Vomish」
6	デザイン部「GNING」	19	国際協力／ボランティアを考える同好会 「AMIGO」
7	服飾制作部「Alice」	20	軽音楽同好会「Piece」
8	写真映像部「SEED」	21	地域交流ボランティア同好会「act」
9	絵本ボランティアサークル「しゃぼん玉」	22	カレー研究同好会「SCUカレー研究会」
10	フットサルサークル「SCUギャラクシー」	23	演劇同好会「デンコラ」
11	作品制作サークル「さくさく」	24	スポーツ同好会「すぼさ」
12	創作活動サークル「創-KIZ-」	25	アクティ部(同好会)「ナースポ」ナース+スポーツ
13	茶道サークル「Cha部」		

11 後援会

後援会（平成19年2月発足）は、学生の福利厚生推進等、学生生活の充実に向けて必要な支援を行い、教育目的の達成に寄与することを目的として活動している。

（平成24年度）

役員	（会 長）河内 博 （副会長）田中 直人 （理 事）内藤 満美、魚住 由美、服部 聖、服部 博和、村井 哲也、鎌田 久美子、 小林 宏史 （監 事）三浦 正、本間 日出春
主な事業	・ 課外活動（部活動、大学祭、地域ボランティア活動等）支援 ・ 就職対策（企業開拓支援、就職講話、資格取得支援、国家試験対策） ・ 後援会報「SSA News」発行
後援会費	40,000円（ただし、編入学者は20,000円）

12 教育・研究刊行物一覧

発行年月	名称
平成24年4月	平成24年度履修要項
平成24年4月	平成24年度学生生活ハンドブック
平成24年4月	平成25年度大学案内パンフレット
平成24年5月	平成25年度デザイン学部3年次編入学学生募集要項
平成24年6月	平成25年度学生募集要項（デザイン研究科 博士前期課程）
平成24年6月	平成25年度学生募集要項（デザイン研究科 博士後期課程）
平成24年6月	平成25年度入学者選抜要項（デザイン学部・看護学部）
平成24年6月	平成25年度看護学部3年次編入学学生募集要項
平成24年6月	平成25年度学生募集要項（看護学研究科 博士前期課程）
平成24年6月	平成25年度学生募集要項（助産学専攻科）
平成24年9月	平成25年度学生募集要項（デザイン学部・看護学部 特別選抜）
平成24年11月	就職パンフレット
平成24年11月	平成25年度学生募集要項（デザイン学部・看護学部 一般選抜）
平成24年11月	平成25年度学生募集要項（デザイン研究科 博士前期課程 第2次募集）
平成24年11月	平成25年度学生募集要項（看護学研究科 博士前期課程 第2次募集）
平成24年11月	平成25年度募集要項（看護学研究科 博士後期課程）
平成25年1月	札幌市立大学附属図書館ニュースレターのほほん第6号
平成25年2月	札幌市立大学年報 平成23年第6号
平成25年3月	デザイン学部デザイン学科卒業研究展図録
平成25年3月	SCU Journal of Design and Nursing - 札幌市立大学研究論文集 - 第7巻1号
平成25年3月	平成25年度大学院案内パンフレット
平成25年3月	平成25年度助産学専攻科リーフレット
平成25年3月	デザイン学部・デザイン研究科 第3回卒業・修了研究展図録

13 施設

1) 校地・校舎、講義室・演習室等の面積

(平成25年3月31日現在)

区分	校地・校舎		講義室・演習室等	
	校地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	総数	面積(㎡)
芸術の森キャンパス	167,617	23,087	52	5,764
桑園キャンパス	18,152	12,367	30	3,083
サテライトキャンパス	175	175	2	152
合計	185,769	35,326	84	8,999

2) 芸術の森キャンパス・桑園キャンパス・サテライトキャンパス（施設配置図・校舎配置図）

芸術の森キャンパス
〔大学本部・デザイン学部〕

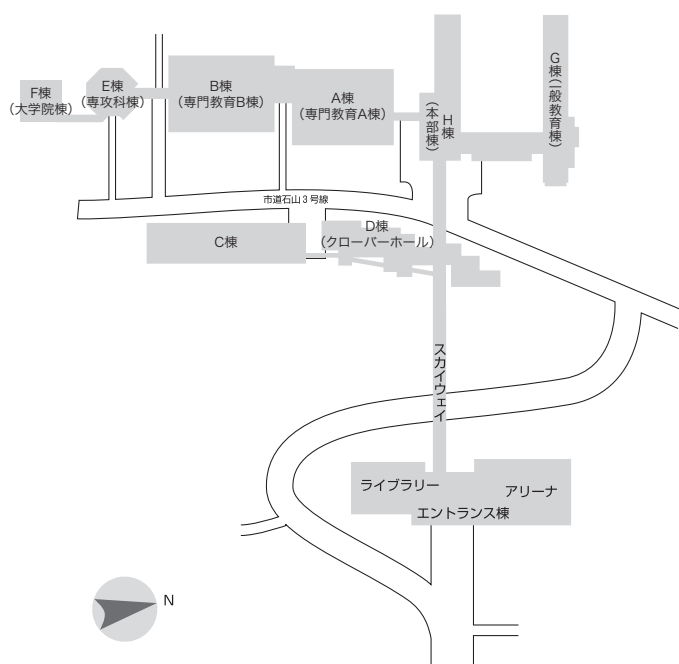
〈施設配置図〉

〒005-0864

北海道札幌市南区芸術の森1丁目

TEL：011-592-2300（代）

FAX：011-592-2369



桑園キャンパス
〔看護学部〕

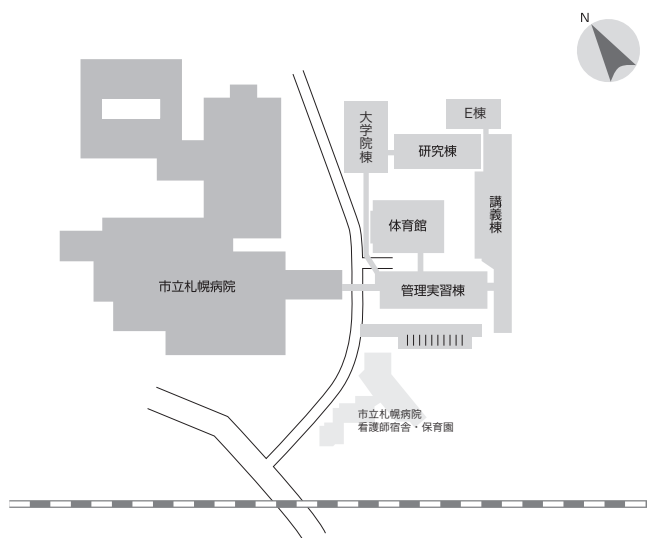
〈施設配置図〉

〒060-0001

北海道札幌市中央区北11条西13丁目

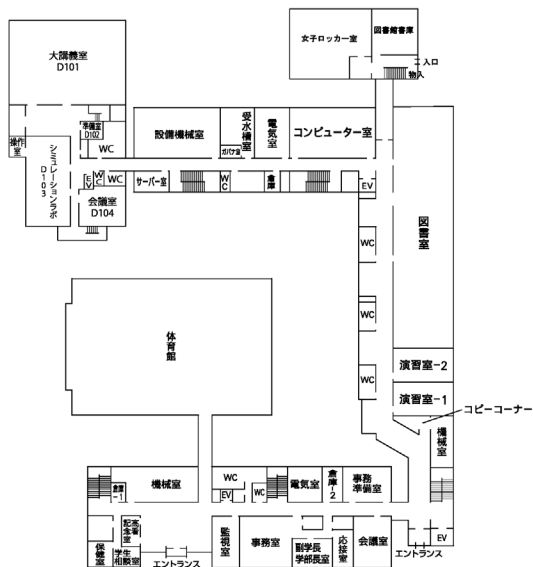
TEL：011-726-2500（代）

FAX：011-726-2506

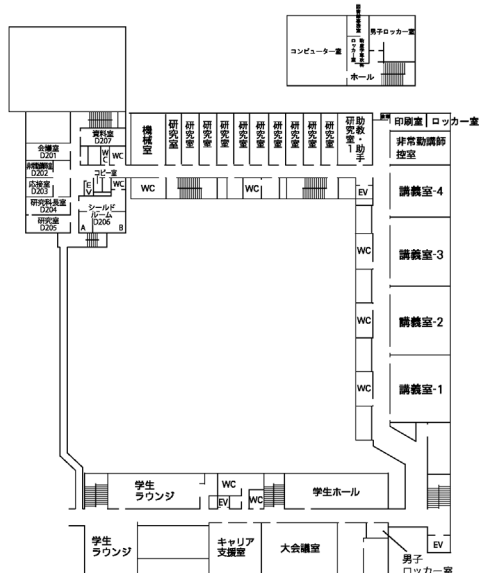


桑園キャンパス〈校舎配置図〉

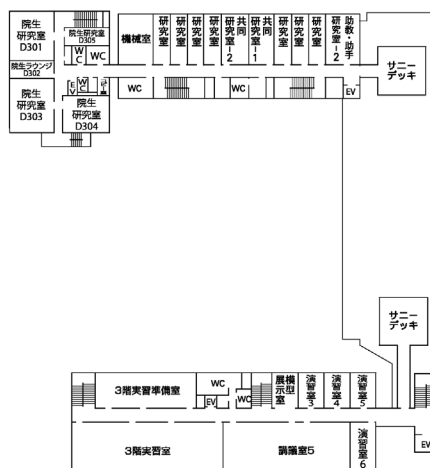
1F



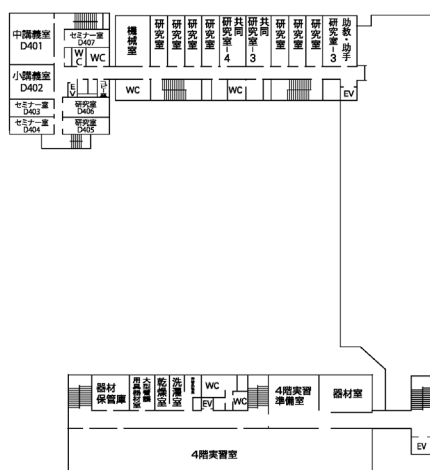
2F



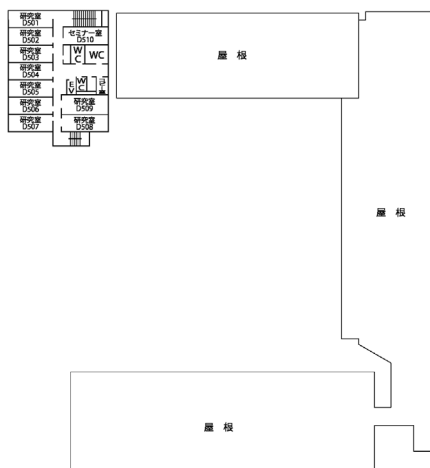
3F



4F



5F



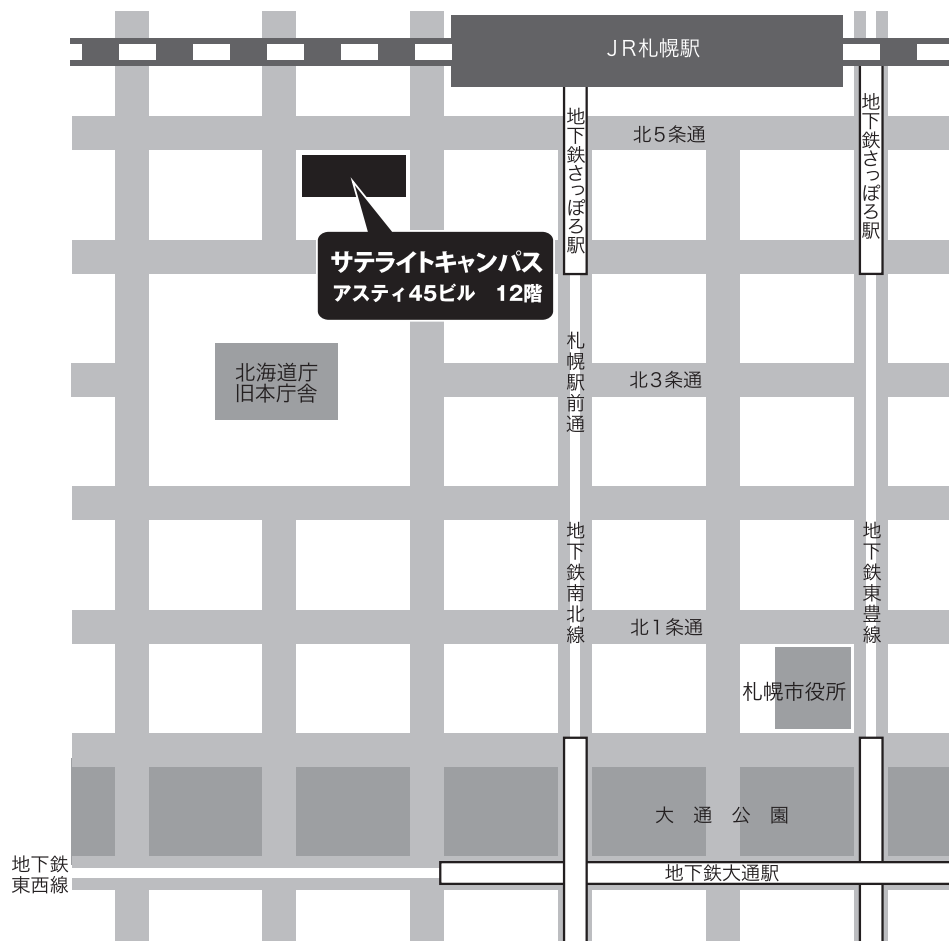
サテライトキャンパス

〒060-0004

北海道札幌市中央区北4条西5丁目 アスティ45ビル12階

TEL：011-218-7500

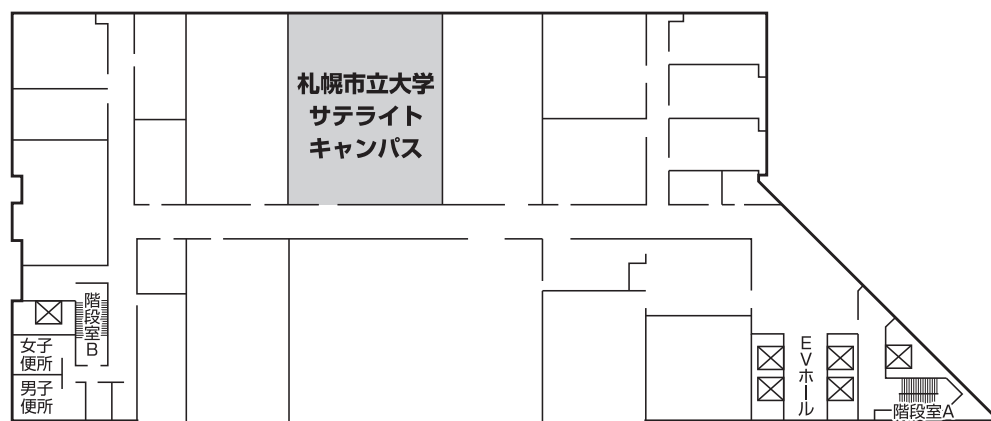
FAX：011-218-7507



〈施設配置図〉

北側（JR札幌駅方面）

アスティ45ビル12階



I
概要

II
教育活動

III
研究活動

IV
社会活動

V
キャリア支援活動

VI
入学
者選
抜結
果

VII
附
属
図
書
館

VIII
役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

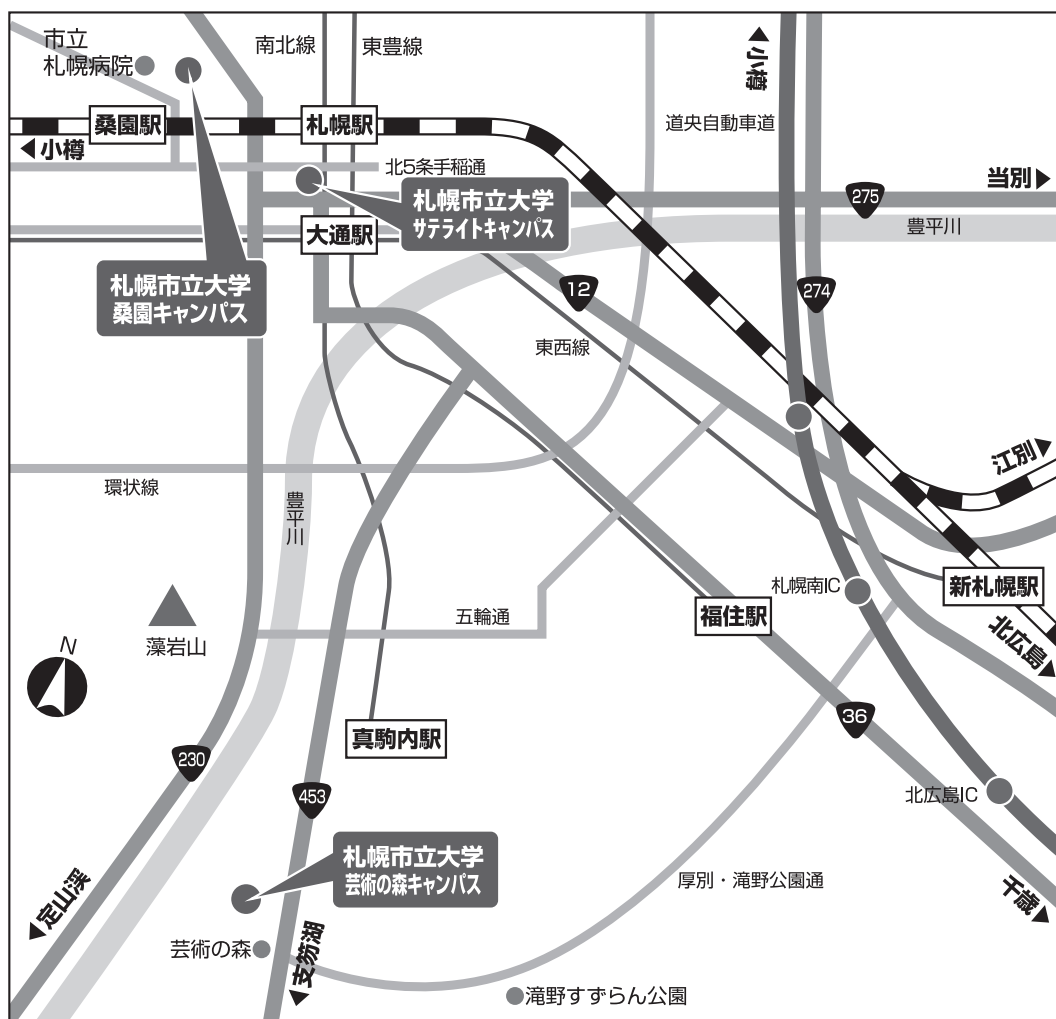
IX
学
内
運
営
の
概
要

X
資
料

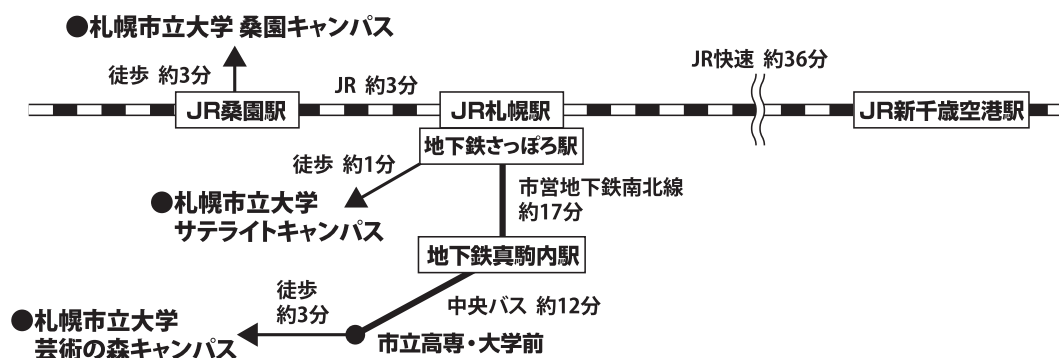
XI
教
員
業
績
一
覧

14 大学への交通アクセス

1) アクセスマップ



2) 交通案内



15 札幌市立大学 大学歌『みらいの手』

作詞：後藤優太・首藤翠(デザイン学部 第4期生)
作曲：堀 彩葉(デザイン学部 第3期生)

力強く風が吹き抜ける
新たな希望をたずさえて
さあ飛び出そう
翼広げて
光の指す方へと

ともに笑いともに競った仲間たち
これからは別々の道を往く
強い風に吹かれ
立ち止まりかけても
恐れず歩き続けて

僕らには創りあげる手がある
僕らには支えあえる手がある
同じ空の下には今も
走り続ける仲間がいるだろう

僕らには創りあげる手がある
僕らには支えあえる手がある
あの地平の彼方にはきっと
君の染める世界がある

僕らには導く能力(ちから)がある
僕らには差し伸べる精神(こころ)がある
その壁の向こうにはきっと
君を待つ世界がある

『みらいの手』

公立大学法人 札幌市立大学 大学歌

作詞：首藤 翠・後藤 優太 (デザイン学部)
作曲：堀 彩葉 (デザイン学部)

♩ = 93

A *a tempo*

からづよく かぜ が ふき ー ぬ け ー る あ

ら た な き ぼ う を た ず さ え ー て さ

B

あ と び だ ー そ う つ ば ー さ ひ る ー げ て ひ かりのさすほうへ と ー ぼくら

C

に は つ くり あ げ る て が あ る ぼくら に は さ さ え あ え る て が あ る あ

の ち ー へ い の ー か な た ー に は き っ と き み の ー そ め る せ かい が あ る

rit. **A** *a tempo*

と も に わ ら い と も に き そ っ た な か ま ー た ち こ

れ か ら は べ つ べ つ の み ち を ー ゆ ー く っ

B

よ い か ぜ に ふ ー か れ た ち ど ま ー り か け ー て も お そ れ ず あ る き つ け て ぼくら

C

に は み ち び く ち か ら が あ る ぼくら に は さ し の べ る こ こ ろ が あ る そ

の か べ の ー む こ う ー に は き っ と き み を ー ま つ せ かい が あ る ー ぼくら

C

に は つ くり あ げ る て が あ る ぼくら に は さ さ え あ え る て が あ る お

rit. *a tempo*

な じ ー そ ら の ー し た に は い ま ち ほ し り ー つ っ づ け る ー な

rit.

か ま が い る だ る う ー

XI 教員業績一覧

- ・ 研究業績等
- ・ 学会及び研究会における活動
- ・ 社会における活動
- ・ 地域貢献諸活動
- ・ 専門職支援・セミナー講師等
- ・ マスメディア掲載実績

デザイン学部

蓮 見 孝

＜調査研究報告書＞1. 「手づくね」ワークショップによる療養環境改善のガイドライン（編者、共著（共同）、平成25年3月、筑波大学・札幌市立大学、JSPS科研費22615005）

＜学会招聘講演＞1. 地域を変える横断型知力としてのデザイン（平成24年6月）、日本デザイン学会）

＜研究業績等＞1. 図録：川口の匠 vol.2、美しき自転車との出会い（平成24年10月、川口市アートギャラリー・アトリア）、2. 書評 ディスタンスション－社会的判断力批判－（平成24年9月、道具学会News 46）

＜学会及び研究会における活動＞理事（日本デザイン学会）、委員（第5回国際デザイン学会連合国際会議（IASDR）組織委員会）

＜社会における活動＞副会長（茨城県総合計画審議委員会）、会長（茨城県生涯学習審議会・社会教育委員会）、委員（グッドデザイン賞審査委員会）、委員長（いばらきデザインセレクション2012審査委員会）、委員（（独）大学評価・学位授与機構学位審査会専門委員会）、評議員（（公財）日本サイクリング協会）、顧問（SAPPOROショートフェスト実行委員会）、講演等（HoPE7月例会、札幌市・都市政策研究ゼミナール、ACT主催・五十嵐塾、札幌市経済局職員育成講座、札幌市拡大局長会議講話、次世代自動車地域産学官フォーラム～モビリティビジネス創出セミナー～、札幌市文化芸術議員連盟講演、センチュリー・プラザ・オタル主催講演会、札幌駅前通 地下歩行空間2周年フォーラム、他）

＜受賞等＞文部科学省・平成24年度社会教育功労者表彰

＜マスメディア掲載実績＞時論（茨城新聞客員論説委員）：札幌から見る茨城のデザイン力（平成24年4月29日）／地域で教育の構築を（平成24年10月14日）

酒 井 正 幸

＜学術論文＞1. A Study on the Visual Usability of Home Appliances（共著、平成24年5月、KEER2012、1巻、1号、pp. 524-531）／2. 操作履歴を用いた階層グラフ化手法の開発と提案（共著、平成25年3月、デザイン学研究、59巻、6号、pp. 31-40）

＜調査研究報告書＞1. 円山動物園の森ビオトープの生物多様性向上のための研究（共同、平成25年2月）／2. 地方都市観光振興のためのICTを用いた情報ユニバーサルデザイン（共同、平成25年3月）

＜入選・受賞＞1. 日本デザイン学会春季大会グッドプレゼンテーション賞（共同、平成24年6月、日本デザイン学会）

＜学会発表＞1. 外国人観光客のための情報ユニバーサルデザイン（共同、日本デザイン学会春季大会）／2. 人間と動物の共生デザイン（1）（共同、日本デザイン学会春季大会）／3. 看護との連携と地域からモノづくりを考える（単独、日本デザイン学会春季大会）／4. 博物館展示におけるUD視点からの調査研究（共同、日本デザイン学会春季大会）／5. 動画配信とSNSを使ったアニマルファミリーシステム（単独、SAGA15）／6. 博物館における触覚展示の可能性に関する研究（共同、日本人間工学会北海道支部大会）／7. 盲導犬の訓練とアフォーダンス（共同、日本人間工学会北海道支部大会）／8. アフォーダンス視点からの盲導犬の誘導プロセスの研究（共同、日本人間工学会看護人間工学会部会）

＜学会シンポジウム＞1. 動物園における環境教育システムの研究（共同、感性フォーラムin札幌）／2. 図式を用いた集団における思考の外化に関する研究（共同、感性フォーラムin札幌）／3. 博物館における触覚展示の可能性に関する研究（共同、感性フォーラムin札幌）

＜論文査読・学会抄録査読＞1. デザイン学研究（論文（全国学会）、1件、日本デザイン学会）／2. 第4回国際ユニバーサルデザイン会議（論文（国際学会）、3件、国際ユニバーサルデザイン会議）

＜地域貢献諸活動＞副理事長、企画運営（北のユニバーサルデザイン協議会）／評議員（（財）さっぽろ産業振興財団）／運営委員（北のケア環境研究会）／理事（NPO北海道デザインネットワーク）

ク)／委員(さっぽろデザインウィーク実行委員会)

＜社会における活動＞次世代博物館検討会議(札幌市)／円山動物園の森協議会(札幌市)／図書館協議会(札幌市)

＜専門職支援・セミナー講師等＞ペットの飼い方マナー標語ポスターデザイン審査／憩いの広場空間デザインコンペ審査

城 間 祥 之

＜学会発表＞1. 死産児安置の為の「わが子のひつぎ」プロトタイプデザイン(共同、平成24年6月、日本デザイン学会第59回春季大会)／2. パッケージデザインの印象評価に関する日中比較研究－北海道産お土産菓子用パッケージデザインの中国人向き・デザインを例として－第1報(共同、平成24年6月、日本デザイン学会第59回春季大会)／3. Webサービスにおける利用規約に関する情報提示手法の提案(共同、平成24年9月、第14回日本感性工学会大会)／4. パッケージデザインの印象評価に関する日中比較研究－北海道産お土産菓子用パッケージデザインの中国人向き・デザインを例として－第2報(共同、平成24年9月、第14回日本感性工学会大会)／5. パッケージデザインの印象評価に関する日中比較研究－北海道産お土産菓子用パッケージデザインの中国人向き・デザインを例として－第3報(共同、平成25年2月、感性フォーラム札幌2013)

＜学会研究発表＞1. 札幌市立大学大学院デザイン研究科における地域連携の取り組み(単独、平成24年11月、SNN第71回11月例会)

＜論文査読・学会抄録査読＞1. Kansei Engineering International Journal(論文(国際学会)、2件、日本感性工学会)／2. 日本感性工学会論文誌(論文(全国学会)、4件、日本感性工学会)

＜地域貢献諸活動＞理事として、IT事業の普及事業等の選定・決定(NPO法人「札幌ITフロント」)／北海道産乳製品の新商品開発に係るワークショップ参加(農都共生研究会)／講演会参加／運営(札幌なにかができる経済人ネットワーク)

＜社会における活動＞平成25年度情報セキュリティポリシー研究業務の業務発注に係る審査委員会(札幌市)

＜マスメディア掲載実績＞卒業研究デザイン「カワイイ」でつながれ世界(平成25年3月13日、朝日新聞、朝刊)

中 原 宏

＜学術論文＞1. 札幌市の統計区にみる高齢者の「暮らしやすさの潜在性」評価(共著、平成24年9月、北海道都市地域学会研究論文集「都市学研究」NO. 49)

＜論文査読・学会抄録査読＞1. 札幌市立大学研究論文集 第7巻1号(論文(大学紀要)、1件、札幌市立大学)

＜学術集会運営＞学会創立50周年記念シンポジウム「暮らしやすい未来社会への希求－北海道モデルのデザイン－」企画・運営(北海道都市地域学会、平成25年3月)

＜受託研究＞再生可能な地中熱の利用による「札幌版次世代コミュニティ暖房」の可能性に関する研究(共同、平成25年2月、札幌市大学提案型共同研究事業、札幌市)

＜社会における活動＞北海道建築士審査会 会長(北海道)、札幌市中高層建築物紛争調整委員会 委員(札幌市)、アイヌアートモニュメント設置検討アドヴァイザー(札幌市)、アイヌアートモニュメント設置検討会議 委員(札幌市)

＜専門職支援・セミナー講師等＞平成24年度 建設技術講習会「特別講演：札幌のまちの特質とこれからのまちづくり」(社団法人全国建設技術協会、平成24年10月)／さっぽろ市民カレッジ2012秋期講座「豊平館学～北海道の歴史的建築と周辺地域を再発見する 第2回：豊平館のある地域(まち)」(財団法人札幌市生涯学習振興財団、平成24年10月)／平成24年度まちなか活性化セミナー「講演：少子高齢、人口減少を見据えたまちづくり」(財団法人北海道建設技術センター、平成24年11月)／さっぽろ建築夜学校2012 第2回「『札幌のまち』を読む」(札幌市立大学公開講座、平成24年11月)／さっぽろ緑化園芸学校「講演：札幌市の都市計画と未来」(財団法人札幌市公園緑化協会、平成25年1月)

石井 雅博

<学術論文>1. 3次元空間内におけるPseudo-Hapticsについて（共著、平成24年5月、映像情報メディア学会誌、66巻、6号、pp. 188-191）／2. 遠近調節が輻輳による見えの距離に及ぼす影響（共著、平成24年6月、映像情報メディア学会誌、66巻、7号、pp. 271-274）

<作品発表>1. A display blank triggers a reversal of KDE（平成24年5月、Vision Sciences Society 2012 Annual Meeting Demo）

<学会発表>1. Pseudo-Haptics using motion-in-depth stimulus and second-order motion stimulus（共同、平成24年5月、2012 Vision Sciences Society Annual Meeting）／2. Horizontal vertical illusion by touch（共同、平成24年7月、Asia Pacific Conference on Vision 2012）／3. A study on stereoanomalies : comparison of upper and lower visual field（単独、平成24年7月、Asia Pacific Conference on Vision 2012）／4. A method to estimate the pupil center from eye image（共同、平成24年7月、Asia Pacific Conference on Vision 2012）／5. 周辺視野の距離・奥行き知覚に及ぼす視対象間の分離の効果（共同、平成24年8月、視覚学会2012年夏季大会）／6. 刺激の暗転による運動奥行き効果の反転（単独、平成24年8月、視覚学会2012年夏季大会）／7. RDSの奥行き知覚に影響する単眼手がかりの影響（共同、平成25年1月、視覚学会2013年冬季大会）／8. 観察者の運動が二義的刺激の知覚に及ぼす影響（共同、平成25年1月、視覚学会2013年冬季大会）／9. 前後の頭部運動に伴う運動視差と奥行き知覚（共同、平成25年1月、視覚学会2013年冬季大会）／10. 調節・輻輳の同時操作が絶対距離知覚に及ぼす影響（共同、平成25年1月、視覚学会2013年冬季大会）

<学会研究発表>1. 前方・後方への頭部移動が生む運動視差と奥行き知覚～水平移動との比較～（平成24年12月、映像情報メディア学会）

<論文査読・学会抄録査読>1. International Journal of Affective Engineering（論文（国際学会）、1件、Japan Society of Kansei Engineering）／2. 日本バーチャルリアリティ学会論文誌（論文（全国学会）、1件、日本バーチャルリアリティ学会）／3. デザイン学研究（論文（全国学会）、1件、日本デザイン学会）

石崎 友紀

<学術論文>1. tv「世界一受けたい授業」に登場した道具に見るマニュアルと作法の技術文化債（単著、平成25年3月、道具学論集、2012年度、18、pp. 4-14）／2. 未来の家庭用ロボットにおける形態的アプローチの考察と提案（共著、平成25年3月、道具学論集、2012年度、18、pp. 48-56）

<その他の論文>1. レンズマウントアダプター（平成24年12月、道具学会）

<実務関係書>1. 工作記事執筆（単著、平成24年4月、NHK出版、4月～7月号、pp. 41-42）／2. 工作記事執筆（単著、平成24年9月、NHK出版、9月～12月号、pp. 49-50）／3. 工作記事執筆（単著、平成24年12月、NHK出版、1月～3月号、pp. 49-50）／4. 恐竜王ティラノサウルス（単著、平成24年8月、NHK出版、pp. 62-80）

<作品発表>1. テーブルウエア（単独、2012年12月、日本クラフト展）／2. テーブルウエア（単独、2012年6月、日本のクラフト展IN江別）／3. テーブルウエア（単独、2012年9月、assemble5北で育った手仕事展）

<学会発表>1. 「世界一受けたい授業」に登場した道具の考察（単独、平成25年1月、2012年度道具学研究フォーラム）／2. 高速鉄道車両のスタイリング2（共同、平成24年6月、2012年度デザイン学会春季大会）

<学会シンポジウム>1. 道具の技術文化比較（単独、平成25年1月、2012年度道具学研究フォーラム）

<社会における活動>札幌市芸術文化財団（札幌市）、工芸専門委員会委員

<専門職支援・セミナー講師等>つくってわくわくショー支援／「公共建築の日ポスターコンテスト」審査員：公共建築の日ポスターコンテスト（平成24年11月5日、デザインを学ぶ学生、一般市民、北海道開発局）

<マスメディア掲載実績>芸能欄での人物紹介（北海道新聞、平成24年5月2日、夕刊）／日本テレビ「世界一受けたい授業」社会科で授業（日本テレビ系列、平成24年6月30日）／「つくってあそぼ」

造形監修（NHK教育テレビ、平成24年度）／「つくってあそぼ」テキスト指導（NHK出版）

上 遠 野 敏

<作品発表>1. 笑顔にチェンジアートインスタレーション（共同、平成24年7月、ニセコ倉庫邑2012（ニセコ町委託））／2. もっと遠くに飛ぶために（単独、平成24年9月、ミニ大通お散歩まつり「樹上展」）／3. 呼吸する石炭／4. 栄光と衰退／5. ブリ山と緑 他、全5作品展示（9月～10月、奔別アートプロジェクト（主催者選出））／6. Heavenwards Configuration（20世紀の記念碑）（単独、11月～12月、札幌アートステージ（札幌アートステージ実行委員会選出））／7. 奔別アートプロジェクト報告パネル（共同、平成24年12月、奔別アートプロジェクト報告展）

<学会シンポジウム>1. ツーリズムとアート・遺産（単独、平成25年3月、北海道芸術学会）

<学会研究発表>1. 大学生のための読書推進企画と学習支援（図書館報のほほんを事例に）（平成24年9月、北海道図書館大会）

<所属学会・研究会等>北海道芸術学会

<地域貢献諸活動>炭鉱の記憶推進事業団運営委員、各種活動に参加（通年、NPO炭鉱の記憶推進事業団）／年間10回の美術講演の企画、運営、出版、文化賞の顕彰事業（通年、サッポロアトラボ）

<社会における活動>空知地域づくり推進委員会&ガイドマニュアル専門部会（空知総合振興局）／そらち「炭鉱の記憶」提案活動選定委員会（空知総合振興局）

<専門職支援・セミナー講師等>地域再生プロジェクト：キャラクターグッズ開発、ゲーム冊子アートディレクター：三吉神社例大祭（5月14日～15日、札幌三吉神社）／からくりデザインプロジェクト 福田繁大回顧展関連園内作品アートディレクター：からくりデザインプロジェクト（7月27日～9月2日、札幌芸術の森）／産学連携：レークビューホテルTOYA 乃の風リゾート 壁画アートディレクター：産学連携壁画アート（10月2日～3日、野口観光）／ミニ大通お散歩まつり「樹上展」アートディレクター：ミニ大通りお散歩まつり（9月9日、ミニ大通お散歩まつり実行委員会）／奔別アートプロジェクトアートプロデューサー：奔別アートプロジェクト（9月22日～10月28日、NPO炭鉱の記憶推進事業団）

<マスメディア掲載実績>炭鉱丸ごとアートに あすから芸術家40人、作品展示 三笠（9月21日、北海道新聞、朝刊）／炭鉱アート40点見に来て 作品展が開幕 三笠・旧奔別選炭施設（9月23日、北海道新聞、朝刊）／三笠・旧選炭施設跡で作品展 炭都の盛衰 芸術に（10月13日、北海道新聞、朝刊）／炭鉱遺産 アートの祭典 三笠「奔別プロジェクト」開幕（9月25日、読売新聞、朝刊）／炭鉱遺産彩るアート あすから仮設展示や絵画など（9月21日、読売新聞、朝刊）

齋 藤 利 明

<その他の論文>1. 北海道のデザイン（共著、平成25年3月、北海道デザイン協議会、pp. 74-75）／2. 立体力～仏像から人形、フィギュアまで～（共著、平成24年6月、札幌芸術の森美術館、pp. 84-91）

<作品発表>1. 白木連（単独、平成24年6月2日～7月8日、「立体力」札幌市芸術の森美術館）／2. 玉藻（単独、平成24年6月2日～7月8日、「立体力」札幌市芸術の森美術館）／3. 朝霞（単独、平成24年6月2日～7月8日、「立体力」札幌市芸術の森美術館）／4. 茱萸（グミ）（単独、平成24年6月2日～7月8日、「立体力」札幌市芸術の森美術館）／5. 里桜（単独、平成24年6月2日～7月8日、「立体力」札幌市芸術の森美術館）／6. 紫陽花（単独、平成24年6月2日～7月8日、「立体力」札幌市芸術の森美術館）／7. 鬼灯（ほおずき）（単独、平成24年11月25日～12月2日、「第51回群炎展」東京都美術館）／8. 苧環（おだまき）（単独、平成24年9月15日～30日、北海道デザイン協議会30周年記念展）

<入選・受賞>1. 郡炎展新人賞（平成24年11月、群炎美術協会）

<地域貢献諸活動>理事（北海道支部長）（テレビ日本美術家協会）

<社会における活動>あけぼのアート&コミュニティーセンター管理運営団体選定委員会（札幌市）／NPO法人 テレビ日本美術家協会 理事

<専門職支援・セミナー講師等>一般公募「アート・ボックス」審査委員：アート・ボックス（1月23

日～3月7日、札幌駅総合開発株式会社）／北海道建築学会賞審査委員：北海道建築学会賞（5月18日～11月2日、北海道建築学会）

＜マスメディア掲載実績＞作家紹介（平成24年6月15日、北海道新聞（平成24年6月15日）、朝刊）

杉 哲 夫

＜学術論文＞1. 札幌市立大学研究論文集研究報告「スノーダンプの改良研究」（単著、平成25年3月、札幌市立大学、7巻、1号、pp. 47-52）

＜入選・受賞＞1. 第59回日本デザイン学会グッドプレゼンテーション賞（平成24年6月、日本デザイン学会）

＜学会発表＞1. 産学連携を通じての大人用三輪自転車の提案（単独、平成24年6月、日本デザイン学会第59回春季研究発表大会）／2. 除雪具の改良研究に関する研究スノーダンプの改善（共同、平成25年2月、国土交通省第25回ゆきみらい研究発表会）

＜地域貢献諸活動＞中小企業人材確保・定着協議会委員（平成24年5月～平成25年3月、社北海道中小企業家同友会）／札幌市立桑園小学校における健康・安全教育の推進活動支援（平成24年11月8日、札幌市立大学、北海道医療大学共同、札幌市立桑園小学校）／高齢者向け三輪自転車の開発 活動リーダー（平成24年4月～平成25年3月、株式会社Will-E）／授産施設木工製品開発支援（平成24年7月～平成25年3月、特定非営利活動法人クリオネ）

＜専門職支援・セミナー講師等＞ものづくりテクノフェアへのスノーダンプ出展：モノづくりテクノフェア（平成24年8月7日、一般市民、北洋銀行）／ゆきみらい2013in秋田へのスノーダンプ出展：ゆきみらい2013in秋田（平成25年2月6～8日、一般市民、国土交通省）／社北海道中小企業家同友会第61期同友大学講師（平成25年3月28日）

＜マスメディア掲載実績＞どさんこワイドモノづくりテクノフェア取材放映（平成24年8月7日、テレビ）／NHK秋田放送局ゆきみらい2013in秋田取材放映（平成25年2月7日、テレビ）／秋田文化放送ゆきみらい2013in秋田取材放映（平成25年2月7日、テレビ）

武 邑 光 裕

＜調査研究報告書＞1. 札幌メディア・アーツ・ラボ2012年度調査研究報告書（単著、平成25年3月、札幌メディア・アーツ・ラボ）／2. 創造都市さっぽろハンドブック Crestive City Sapporo 101（単著、平成25年3月、札幌メディア・アーツ・ラボ）／3. SMAL国際会議「デジタルの裏庭・日本」報告（単著、平成25年3月、札幌メディア・アーツ・ラボ）

＜その他の論文＞1. トランスメディアとしての創造都市（単著、平成25年3月、創造都市ネットワーク日本）

＜学会発表＞1. Digital Backyards : Art of Tommorrow（単独、平成24年10月、Berliner Gazette）／2. Digital Backyard Japan, Social Sculpture（単独、平成25年1月、札幌メディア・アーツ・ラボ）

＜所属学会・研究会等＞American Computer Machinery（ACM）／文化経済学会／芸術科学会／日本予防医学リスクマネジメント学会

＜地域貢献諸活動＞年次行事の運営委員（平成24年度、札幌メディア・アートフォーラム）／理事（平成24年度、NPO法人 都市文化創造機構）／会長（平成24年度、都市さっぽろ芸術の森地区協議会）／審査委員長（平成24年度、全北海道広告協会）／アドバイザー（平成24年度、新渡戸稲造と札幌遠友夜学校を考える会）

＜社会における活動＞北海道商工振興審議会（北海道）／創造都市さっぽろ実行委員会副会長（札幌市）／札幌メディア・アーツラボ所長（創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会メディア・アーツ部会長）（北海道）／ユネスコ創造都市ネットワーク加盟申請起草委員会委員長（札幌市）／Film in 北海道委員会委員（北海道）

＜専門職支援・セミナー講師等＞全北海道広告賞審査委員長：全北海道広告協会賞 審査委員会（平成24年5月、全北海道広告業界、全北海道広告協会）／年間の事業運営・企画：札幌メディア・アーツ・ラボ（平成24年7月より、札幌市民、創造都市関係者、創造都市さっぽろ実行委員会）／芸術祭

の企画運営・ゼネラル・プロデューサー：ゼネラル・プロデューサー（平成24年11月より、国際芸術祭、札幌国際芸術祭実行委員会）／第6回金沢学会セッション②「技を楽しむ」～ものづくりの「技」の発展を促す方策を考える～：「技を楽しむ」～ものづくりの「技」の発展を促す方策を考える～（平成24年12月16日、金沢同友会、デザイン関係者、金沢同友会）

<マスメディア掲載実績>北海道新聞コラム「魚眼図」毎月連載 年12回（毎月、北海道新聞、夕刊）

羽 深 久 夫

<学術論文>1. 1956年から2010年までの木質構造における研究動向（共著、平成25年3月、札幌市立大学研究論文集、7巻、1号、pp. 83-93）／2. 動物園の立体構造物における樹上空間再現性の評価と向上への研究（共著、平成25年3月、札幌市立大学研究論文集、7巻、1号、pp. 67-82）

<調査研究報告書>1. 南区の地域活性化に関する調査研究（共著、平成25年3月、札幌市立大学、pp. 1-33）／2. 札幌中央卸売市場施設の機能的なデザイン等に関する調査研究（共著、平成25年3月、札幌市立大学、pp. 1-54）

<所属学会・研究会等>建築史学会／日本生活文化史学会／日本家政学会／風俗史学会／北海道考古学会

<地域貢献諸活動>札幌市南区定山溪地区まちづくり協議会 委員（年間、札幌市南区定山溪地区まちづくり協議会）／札幌市南区芸術の森地区まちづくり推進会議 特別委員（年間、札幌市南区芸術の森地区まちづくり推進会議）／札幌市南区芸術の森地区「雪明かりの祭典」実行委員会 委員（8月～2月、札幌市南区芸術の森地区「雪明かりの祭典」実行委員会）／札幌市南区「こまおか夏祭り」実行委員会 委員（7月～10月、札幌市南区「こまおか夏祭り」実行委員会）／札幌市南区石山地区まちづくり協議会 委員（石山商店街振興組合理事として）（年間、札幌市南区石山地区まちづくり協議会）／NPO法人北の民家の会 理事長・事務局（年間、NPO法人北の民家の会）／NPO法人日本民家再生協会 会員（年間、NPO法人日本民家再生協会）／NPO法人アルテピアッツァ美唄 会員（年間、NPO法人アルテピアッツァ美唄）／芸術の森フラワーロードに花を咲かせる会 会員（年間、芸術の森フラワーロードに花を咲かせる会）／北海道中小企業家同友会札幌支部南地区会 会員（年間、北海道中小企業家同友会札幌支部南地区会）／札幌市南区商店街連絡協議会 会員（年間、札幌市南区商店街連絡協議会）

<社会における活動>札幌市文化財保護審議会 委員長代理（札幌市）／豊平館修理整備等検討委員会 委員長代理（札幌市）／豊平館設計デザインワーキング 副リーダー（札幌市）／札幌芸術の森運営協議会委員 委員（札幌芸術文化財団）／喜茂別町地域再生推進協議会 委員長（喜茂別町）／喜茂別町水の郷きもべつまちづくり振興基金補助金審査会 委員（喜茂別町）／喜茂別町民間賃貸住宅促進事業公募型プロポーザル審査委員会 委員（喜茂別町）／厚真町古民家再生推進協議会 委員長（厚真町）／札幌シーニックバイウエイ藻岩山麓・定山溪ルート運営代表者会議委員（札幌市南区）／札幌シーニックバイウエイ藻岩山麓・定山溪ルート検討協議会委員（札幌市南区）／札幌シーニックバイウエイ藻岩山麓・定山溪ルート地域づくり部会委員（札幌市南区）／札幌市保養センター駒岡運営協議会委員（札幌市環境福祉事業団）／北海道地域づくりアドバイザー（北海道）

<専門職支援・セミナー講師等>「建築学および建築学関連分野」JABEE審査プログラム審査委員（年間、建築教育関係者、日本技術者教育認定機構）／厚真町の古民家見学会：福井県、石川県、富山県の民家と枠の内造（5月26日、建築関係者、NPO法人北の民家の会）／第8回総会記念講演会：古民家の現代的意義と板倉の応急仮設住宅（6月23日、建築関係者、NPO法人北の民家の会）／松村秀一セミナー：北の民家モデル構築と北方型住宅の意義（10月3日、建築関係者、NPO法人北の民家の会）／鶴居村O邸見学会：道産トドマツを用いた伝統的木構造の住宅（11月22日、建築関係者、NPO法人北の民家の会）

<マスメディア掲載実績>今日の話題「農村の古民家」（3月27日、北海道新聞、夕刊）／住宅改修エコの浸透（10月27日、北海道新聞、夕刊）

原 俊 彦

<学術論文>1. 配偶関係別純移動率の推計：札幌市1995年～2010年（単著、平成25年3月、札幌市立大学

研究論文集、7巻、1号、pp. 37-45) / 2. 特集：人口減少下の地域人口変動 人口減少下の北海道：市町村の動向（単著、平成24年11月、統計、63巻、11号、pp. 2-8) / 3. 特集：新人口推計と社会福祉のゆくえ 論文III 過疎化と地域福祉の将来像（単著、平成24年7月、月刊福祉、95巻、10号、pp. 30-33)

<書評>1. 新刊短評：鬼頭宏【著】『2100年、人口3分の1の日本』（単著、平成24年6月、人口学研究、48号、pp. 65-66)

<学会発表>1. 配偶関係別純移動率の推計：札幌市1995年－2010年（単独、平成24年6月、第64回日本人口学会） / 2. 配偶関係別純移動率の推計と国勢調査結果との比較：札幌市1995年－2000年（単独、平成25年3月、日本人口学会2012年度第2回東日本部会)

<学会招聘講演>1. 女性の労働市場と働き方：その現状と課題（単独、平成24年11月、看護経済・政策研究学会)

<論文査読・学会抄録査読>1. 家族社会学研究（論文（全国学会）、1件、日本家族社会学会） / 2. 札幌市立大学研究論文集（論文（大学紀要）、1件)

<社会における活動>国立社会保障・人口問題研究所 研究評価委員（厚生労働省)

<マスメディア掲載実績>フォーカス「ファミリー層 マチ形成」（平成24年4月13日、北海道新聞、朝刊） / 女性の労働市場と働き方：その現状と課題（平成25年1月1日、ベストナース） / U型テレビ「高齢化率35%」（平成24年6月14日、北海道放送（UHB）)

細谷 多聞

<学会発表>1. ライフログでの活用を目指した感性タグに関する研究（第2報）（共同、平成24年9月、第14回日本感性工学会大会） / 2. 環境音の視覚化とその要件に関する研究（第1報）（共同、平成24年9月、第14回日本感性工学会大会)

<論文査読・学会抄録査読>1. 感性工学（論文（全国学会）、1件、日本感性工学会)

<地域貢献諸活動>理事（北海道デザインマネジメントフォーラム)

<社会における活動>札幌スタイル審査委員会 委員長（札幌市)

望月 澄人

<作品発表>1. Office Area Community（単独、ANBDソウル展9／5～11 淑明女子大学 IANG GALLERY） / 2. Fishing Village Area Community（単独、ANBD蘇州展11／6～12 蘇州大學藝術學院展覧館） / 3. Downtown Area Community（単独、ANBD桃園展11／9～15 銘伝大学芸術センター） / 4. Mountain Village Area Community（単独、ANBD横浜展12／18～24 横浜赤レンガ1号館)

<所属学会・研究会等>デジタル・イメージ／AND（アジア・ネットワーク・ビヨンド・デザイン)

<地域貢献諸活動>「とくとく健診」シンボルマーク作成 アートディレクター（10月17日、札幌市保健福祉局、札幌市立大学） / ICAF（インター・カレッジ・アニメーション・フェスティバル）への学生参加（5月～11月、ICAF、17名） / 受託研究映像制作「ゴミモン・バスター」への参加（平成24年2月、札幌市立大学／札幌市、受講生以外2名)

<社会における活動>札幌市保健福祉局 PRポスター選考（札幌市)

矢部 和夫

<学術論文>1. Effects of snow-load and shading by vascular plants on the vertical growth of hummocks formed by Sphagnum papillosum in a mire of northern Japan（共著、平成24年9月、Plant Ecology、213巻、pp. 1055-1067)

<学会発表>1. Effects of snow load and plant shade on the growth of Sphagnum papillosum in relation to water depth in a cool temperate bog in north Japan（共同、平成24年6月、9Th INTECOL International Wetlands Conference） / 2. 札幌市の都市公園につくられた湿地における12年間の植生と水文化学環境の変化（共同、平成24年9月、日本湿地学会 第4回大会） / 3. ウトナイ湖北岸におけるオオアワダチソウ駆除（共同、平成25年3月、日本生態学会第60回大会（静岡）） / 4. 動物園内の環境教育の場のひとつとしてのビオトープデザイン（単独、平成24年11月、SAGA15（ア

フリカ・アジアに生きる大型類人猿を支援する集い))

＜学会シンポジウム＞1. Distribution of secondary grasslands in relation to edaphic conditions established after burning of peat forest in Central Kalimantan (共同、平成24年9月、JST-JICA国際シンポジウム)

＜論文査読・学会抄録査読＞1. 保全生態学研究 (論文 (全国学会)、1件、日本生態学会)

＜地域貢献諸活動＞ふれあいガーデン生きがいづくり事業に協力 (5月-10月、芸術の森地区町づくりセンター) / サマーアートキャンプIN江別 (江別市共催) の子どもキャンプのスタッフを務めた (5月-10月、トライ☆アス☆カル2011実行委員会) / 道内の自然を守る活動 (常務理事) (5月-10月、北海道自然保護協会) / 湿原植生のアドバイザーとしての役割 (5月-10月、キウシト湿原の会) / 植生管理のアドバイザーとしての役割 (5月-10月、ビオトープイタンキ) / 湿原再生のアドバイザーとしての役割 (5月-10月、フラット南幌)

＜社会における活動＞植生凡例検討委員会 (環境省) / 釧路湿原自然再生協議会 (環境省・国交省) / 美々川自然再生事業技術検討委員会 (北海道) / 平岡公園原っぱ会議委員 (札幌市・札幌市公園緑化協会) / 円山動物園の森協議会 (円山動物園) / ウトナイ湖ネイチャーセンター運営協議会委員 (日本野鳥の会) / 成東・東金食虫植物群落作業部会委員 (千葉県山武市)

吉田 和夫

＜作品発表＞1. Regional Culture-AND & DNA 1 (単独、平成24年9月5日-11日、アジア・ネットワーク・ビヨンド・デザイン ANBD 2012ソウル展 (韓国)) / 2. Regional Culture-AND & DNA 2 (単独、平成24年11月6日-12日、アジア・ネットワーク・ビヨンド・デザイン ANBD 2012蘇州展 (中国)) / 3. Regional Culture-AND & DNA 3 (単独、平成24年11月9日-15日、アジア・ネットワーク・ビヨンド・デザイン ANBD 2012桃園展 (台湾)) / 4. Regional Culture-AND & DNA 4 (単独、平成24年12月18日-24日、アジア・ネットワーク・ビヨンド・デザイン ANBD 2012横浜展 (日本)) / 5. 月夜の虎 (単独、平成25年1月23日-27日、TGC創立60周年記念展「どうぶつは地球かぞく」展)

＜学会研究発表＞1. 「大学と動物園の新たな連携プロジェクト」ユニバーサル・サインデザイン (単独、平成24年11月、SAGA15-アフリカ・アジアに生きる大型類人猿を支援する集い)

＜所属学会・研究会等＞TGC (東京デザイナーズクラブ)

＜地域貢献諸活動＞救急安心センターさっぽろロゴ・マーク選考会審査委員 (札幌市保健福祉局)

＜社会における活動＞札幌市都市景観審議会 (札幌市) / 札幌市広告アドバイザー会議 (札幌市) / 中央区まちづくりPRのイメージデザイン選考委員会 (札幌市) / キョタでお菓子を食べよう! キャンペーン委員会シンボルマーク選考委員 (札幌市) / 札幌シーニックバイウエイ藻岩山麓・定山渓ルートシンボルマーク&ロゴタイプ選考委員会 (札幌市) / 大通交流拠点地下広場プロポーザル選定委員 (札幌市) / 大通交流拠点デザイン検討における外部アドバイザー (札幌市) / 喜茂別町地域再生推進協議会 喜茂別ブランド検討委員会委員 (札幌市) / 広告電通賞 地区選考委員会委員長 / 広告電通賞審議会 / 駅前通地下広場広告デザイン審査会 委員 / 札幌駅前通まちづくり株式会社

＜専門職支援・セミナー講師等＞広告電通賞 地区選考委員会 委員長、駅前通地下広場広告デザイン審査会 委員

吉田 恵介

＜学術論文＞1. 北海道のランドスケープと観光 (共著、平成25年2月、ランドスケープ研究、76巻、4号、pp. 358-361)

＜解説文＞1. 北海道の環境デザインについて (単著、平成24年10月、デザイン学会環境デザイン部会、65号、p. 15) / 2. 札幌市立大学デザイン学部空間コース作品について (単著、平成24年6月、デザイン学会環境デザイン部会、64号、p. 11)

＜学会シンポジウム＞1. 北海道の観光とランドスケープ (共同、平成24年10月、日本造園学会北海道支部大会)

＜学会研究発表＞1. 農産物情報に対する消費者ニーズに関する考察 (共同、平成24年11月、日本農村

生活学会) / 2. 国際都市フォーラム札幌2012 食とランドスケープ (共同、平成24年6月、国際都市フォーラム実行委員会)

<論文査読・学会抄録査読> 1. 環境情報科学論文集 26 (論文 (全国学会)、1件、環境情報科学センター)

<地域貢献諸活動> 隊長として運営 (通年、八剣山発見隊、八剣山発見隊) / 地元町内会と協力し、雪まつり協賛でサッポロガーデンパークに雪像 (2月1日~2月3日、サッポロビール、ウィンターファンタジー) / 顧問として運営・企画を行った (通年、グリーンライフさっぽろ、グリーンライフさっぽろ) / ボランティアハンドブック作成委員会に前年に引き続き参加 (通年、札幌市公園緑化協会、札幌市公園緑化協会) / 会長として企画運営に関わる (通年、札幌市農政部、札幌の農業と歩む会)

<社会における活動> 札幌市公園緑化協会評議員 (札幌市)、札幌市環境影響評価審議会 (札幌市)、札幌市芸術文化財団評議員 (札幌市)、札幌市都市景観アドバイザー (札幌市)、札幌市屋外広告物審議会委員 (札幌市)、古代の里整備基本構想検討委員会 (札幌市)、藻岩山魅力アップ構想環境配慮ライン検討懇談会 (札幌市)、公園マネージメント評価委員会 (札幌市)、北海道特定開発行為審査会 (北海道)

<専門職支援・セミナー講師等> ふらっとホーム2012の運営: 南区 ふらっとホーム事業 (11月8日、公募市民、南区) / 八剣山ワイナリーエチケッデザインコンペ審査: デザインコンペ審査会 (10月31日、コンペ応募者、八剣山ワイナリー) / 運営委員として企画制作に関わった: 全国花のまちづくり全国大会 (10月18日、一般市民、札幌市みどりの推進部) / ビール工場見学者に対するビールに関するインスタレーション制作: サッポロビールインスタレーション (6月27日、工場見学者、サッポロビール)

<マスメディア掲載実績> 札幌の農業と歩む会の活動 (10月22日、北海道新聞、朝刊) / 南区版南区再発見 (毎月初旬配布、広報さっぽろ、朝刊) / 学会の日、眼、眼 (8月10日、広報日造協、朝刊) / 北海道の絆に乾杯 (5月26日、北海道新聞、朝刊) / サッポロビール印スターレーション模型製作紹介 (5月24日、北海道新聞、朝刊)

柿山 浩一郎

<学術論文> 1. A Study on the Visual Usability of Home Appliances (共著、平成24年5月、International Conference on Kansei Engineering and Emotion Research (KEER2012)、CD-ROM出版、pp. 524-531)

<作品発表> 1. The World in a Cube (単独、Asia Network Beyond Design ソウル展 (9月)) / 2. The World in a Cone (単独、Asia Network Beyond Design 桃園展 (10月)) / 3. The World in a Ball (単独、Asia Network Beyond Design 横浜展 (12月)) / 4. The World in a Cylinder (単独、Asia Network Beyond Design 蘇州展 (1月))

<入選・受賞> 1. グットプレゼンテーション賞 (筆頭、平成24年6月、日本デザイン学会) / 2. グットプレゼンテーション賞 (共同、平成24年6月、日本デザイン学会)

<学会発表> 1. 図式を用いた知識構造の外化と記憶に関する研究 (共同、平成24年6月、日本デザイン学会 第59回 研究発表大会) / 2. インクルーシブデザインによる遠隔看護システム「E-KANGO」の開発 (共同、平成24年6月、日本デザイン学会 第59回 研究発表大会) / 3. 高リアリティ、且つ、低恐怖感の視覚刺激表現に関する研究 (筆頭、平成24年6月、日本デザイン学会 第59回 研究発表大会) / 4. 死産児安置の為に「わが子のひつぎ」プロトタイプデザイン-第3報: 悲しみを癒す要素抽出- (筆頭、平成24年6月、日本デザイン学会 第59回 研究発表大会)

<論文査読・学会抄録査読> 1. Kansei Engineering International Journal (ICBAKE2011の論文特集号) (論文 (国際学会)、1件、ICBAKE2011) / 2. Kansei Engineering International Journal (論文 (全国学会)、2件、日本感性工学会) / 3. 感性工学 (論文 (全国学会)、1件、日本感性工学会) / 4. 札幌市立大学研究紀要 (論文 (大学紀要)、1件、札幌市立大学)

<所属学会・研究会等> 日本デザイン学会、日本感性工学会、日本教育工学会

<社会における活動> 路面電車 トータルデザイン検討会議委員 (札幌市市民まちづくり局)

斉藤 雅也

<実務関係書>1. 北方型住宅を超える 高性能リフォームの計画 2013（共著、平成25年1月、一般社団法人北海道建築技術協会、pp. 48-55）

<解説文>1. いま、公共建築の魅力を語る意味～第31回北海道建築作品発表会～（単著、平成24年12月、日本建築学会北海道支部、32巻、pp. 58-58）

<作品発表>1. Medium House－Stock and Flow－（共同、2013. 3月、第3回LIXIL国際大学建築コンペティション（北海道大学チームに所属））

<学会発表>1. 札幌市円山動物園 「は虫類・両生類館」の来園者の展示デザイン評価（共同、平成24年6月、日本デザイン学会第59回春季研究発表大会）／2. 動物園の爬虫類・両生類の生体展示に対する来園者の印象・評価に関する調査研究（共同、平成24年6月、第85回日本建築学会北海道支部研究発表会）／3. 地中熱利用・外断熱住宅の冬季実測とエネルギー・エクセルギー解析（共同、平成24年9月、平成24年度空気調和・衛生工学会大会）／4. 熊本と札幌における夏季の小学児童の想像温度・温熱的不快・授業への集中度 その1. 温熱的不快となる外気温・実際室温・想像温度（共同、平成24年9月、2012年度日本建築学会大会学術講演会）／5. 熊本と札幌における夏季の小学児童の想像温度・温熱的不快・授業への集中度 その2. 想像温度と授業への集中度（共同、平成24年9月、2012年度日本建築学会大会学術講演会）／6. 室内温熱環境が身体に与える影響に関する実態把握－室温と血圧の関係－（共同、平成24年9月、2012年度日本建築学会大会学術講演会）／7. 複合商業施設におけるグリーンカーテンによる地域コミュニティデザイン グリーンピアザプロジェクト1年目とこれからの展望（共同、平成25年2月、日本感性工学会2013感性フォーラム札幌研究発表会）／8. 寒冷地にある認定こども園の室内温熱環境デザインの可能性 開園前の実測調査を通して（共同、平成25年2月、日本感性工学会2013感性フォーラム札幌研究発表会）／9. 北方型住宅の夏季の「涼しさ」感の研究（共同、平成25年2月、日本感性工学会2013感性フォーラム札幌研究発表会）／10. 熊本と東京ならびに札幌における小学児童と温熱的不快・想像温度（共同、平成25年3月、2012年度日本建築学会九州支部研究発表会）／11. 在宅医療・看護時の室内温熱環境が身体へ与える影響の実態把握 その2 兵庫在住高齢者の室温と血圧変化（共同、平成25年3月、平成24年度空気調和・衛生工学会北海道支部学術講演会）／12. 「涼しさ」感が得られる北方型住宅の夏季温熱環境の実測調査（共同、平成25年3月、平成24年度空気調和・衛生工学会北海道支部学術講演会）／13. Effects of high Insulated house with GSHP system give to the relationship between exergy demand and supply in the regional community（共同、平成24年9月、Annex definition workshop）／14. 北方型住宅を対象とした室内環境のエクセルギー評価（共同、平成25年3月、平成24年度空気調和・衛生工学会北海道支部学術講演会）

<学会シンポジウム>1. 動物の熱環境に配慮した動物舎のデザイン－飼育・展示環境における温・冷放射デザインの可能性－（単独、平成24年11月、SAGA15（アフリカ・アジアに生きる大型類人猿を支援する集い））

<学会招聘講演>1. 「看護とデザインのコラボレーション PartⅡ～快適療養環境を創造する」（単独、平成24年8月、第16回日本看護管理学会年次大会）／2. 療養環境の室内気候デザイン（単独、平成24年11月、第41回日本医療福祉設備学会）

<論文査読・学会抄録査読>1. 日本建築学会環境系論文集（論文（全国学会）、3件、日本建築学会）／2. 日本感性工学会論文集（論文（全国学会）、1件、日本感性工学会）／3. 日本建築学会技術報告集（論文（全国学会）、2件、日本建築学会）

<所属学会・研究会等>日本建築学会／空気調和・衛生工学会／日本太陽エネルギー学会／日本デザイン学会／日本感性工学会／住まい・環境教育学会／日本看護科学学会／日本公衆衛生学会

<地域貢献諸活動>第18回サイエンスフォーラムinさっぽろ「北国の住まいの環境をデザインする」（平成25年2月16日、札幌市博物館活動センター、札幌市博物館活動センター）

<専門職支援・セミナー講師等>わが家と発電所の繋がり～電力の供給・需要を考える～：わが家と発電所の繋がり～電力の供給・需要を考える～（平成24年6月14日、北海道内の経営者、北海道フロンティアカレッジ）／造り手と住まい手実践「温房・涼房×省エネデザイン」：造り手と住まい手

が実践「温房・涼房×省エネデザイン」（平成24年6月18日、東北地域の建築関係者、エコ・ハウスコンテストいわて、ドットプロジェクト、岩手県地球温暖化防止活動推進センター、特定非営利活動法人環境パートナーシップいわて）／第24回 サイエンス・サロン札幌 エクセルギー概念から見える建築・都市環境システム：エクセルギー概念から見える建築・都市環境システム（平成24年10月12日、札幌サイエンスコンソーシアム関係者、札幌サイエンス・コンソーシアム）／日本建築家協会北海道支部 建築技術デザインセミナー：住まい手の生理・心理・行動的適応と建築環境のあるべき姿（平成24年11月2日、建築関係者、日本建築家協会北海道支部）／2012年度 住宅リフォーム連続講座：住宅の断熱改修で快適健康生活（平成25年3月16日、建築関係者、HTNC 北海道トップランナー構築会議）／第4回JIA・テスクチャレンジ設計コンペティション：寒冷地で共有する住まいのかたち（平成25年3月、建築関係者（実務家・学生）、日本建築家協会北海道支部、㈱テスク）／グリーンカーテンでつなげよう！プロジェクト講演「緑のカーテンの効果」：緑のカーテンの効果（平成24年6月11日、市民、芸術の森地区まちづくりセンター）／BIS（断熱施工技術者）養成講習会（2回）：BIS養成講習会（1、2回目）（平成25年1月24日、29日、建築関係者、北海道建築技術協会）／BIS（断熱施工技術者）更新講習会：BIS更新講習会（平成25年2月15日、建築関係者、北海道建築技術協会）／LCCM住宅研究・開発委員会 先導技術・開発委員会 LCCM住宅設計部会 委員：LCCM住宅研究・開発委員会 先導技術・開発委員会 LCCM住宅設計部会 委員（平成24年4月1日～平成25年3月31日、建築関係者、一般社団法人日本サステナブル建築協会）／道内の看護ケア環境に関する研究会への参加：北のケア環境研究会（平成24年11月～平成25年3月、看護職、北のケア環境研究会）
<マスメディア掲載実績>緑のカーテンで涼演出 芸術の森地区新景観づくり計画（平成24年6月12日、北海道新聞、朝刊）／夏を涼しく省エネに 節電の夏 寒冷紗の効果を検証する（平成24年8月15日、北海道住宅新聞）／ブラインド 二重窓の間に設置「外付け風」で涼しく（平成24年8月18日、北海道新聞、朝刊）

武田 亘明

<調査研究報告書>1. クリエイティブ人材育成のための実践的学び（単著、平成25年3月、日本教育工学会、JSET13巻、1号、pp. 195-200）

<その他の論文>1. 平成24年度「発達障害者の特性に応じた就労支援連携事業」報告書（共著、平成25年3月、社会福祉法人旭川旭親会、pp. 8-12,26）

<解説文>1. メディア社会を生き抜く力～読み解く力、見抜く力～（単著、平成25年3月、教育ネットワーク情報セキュリティ推進委員会、WEB版）

<所属学会・研究会等>情報処理学会／日本教育工学会／日本教育工学協会／北海道中国哲学会／教育とコンピュータ利用研究会／北海道企画デザイン研究会

<地域貢献諸活動>事務局代表。メディアを活用した情報協働教育の企画運営（平成24年4月～平成25年3月、バーチャル雪まつり実行委員会、バーチャル雪まつり実行委員会）／web・ドメイン・サーバ管理、運営・外部対応などに関する活動（平成24年4月～平成25年3月、情報と教育フォーラム「オンコの木」、情報と教育フォーラム「オンコの木」）／web・ドメイン・サーバ管理、運営・外部対応などに関する活動（平成24年4月～平成25年3月、ハイパー風土記札幌InterCityOroppas運営委員会、ハイパー風土記札幌InterCityOroppas運営委員会）／web・ドメイン・サーバ管理、運営・外部対応などに関する活動（平成24年4月～平成25年3月、ネットワークコミュニティフォーラム事務局、ネットワークコミュニティフォーラム事務局）／運営委員、事務局活動、ワークショップ等プロジェクト企画運営（平成24年4月～平成25年3月、札幌メディアアートフォーラム、札幌メディアアートフォーラム）／理事。会運営に関する活動（平成24年4月～平成25年3月、北海道高齢者ハートフル共同住宅・地域ケア協議会、北海道高齢者ハートフル共同住宅・地域ケア協議会）／副会長、北海道支部長。web・ドメイン管理およびメディア教育に関する情報交流（平成24年4月～平成25年3月、教育とコンピュータ利用研究会、教育とコンピュータ利用研究会）／代表。障害者就労支援、人材育成支援およびメディア戦略検討プロジェクト等の主催（平成24年4月～平成25年3月、北海道企画デザイン研究会、北海道企画デザイン研究会）

＜社会における活動＞北海道学校・家庭・地域の連携による教育活動促進事業推進委員会（北海道）／望ましい生活習慣定着推進事業検討委員会（北海道）／望ましい読書週間定着推進事業子ども読書プロジェクトチーム（北海道）／さっぽろ地域IT活用支援事業審査委員会（北海道）／「視聴覚教育・情報教育功労者表彰」選考委員会（札幌市）／優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰推薦活動選考委員会（北海道）／北海道立生涯学習センター業務委託契約に係る総合評価審査委員会（北海道）／札幌市立西岡小学校学校評議員会（札幌市）／枝幸町学校支援地域本部事業（枝幸町）／北海道札幌藻岩高等学校学校評議員会（札幌市）

＜専門職支援・セミナー講師等＞二次審査委員：全日本中学高校WebコンテストThinkQuest（平成24年11月～12月）

張 浦 華

＜調査研究報告書＞1. 寿都町におけるコミュニティ・レストランの調査研究（共著、平成25年3月、札幌市立大学、pp. 1-29）／2. 寿都町におけるブルーツーリズムと中間支援組織に関する調査研究（共著、平成25年3月、札幌市立大学、pp. 1-30）／3. 第4回華札幌市立大学－華梵大学デザインワークショップ報告書（単著、平成24年8月、札幌市立大学）

＜作品発表＞1. Blooming Flower（単独、平成24年11月、Asia Network Beyond Design 2012, Suzhou）／2. Leaf of Water Lily（単独、平成24年11月、Asia Network Beyond Design 2012, Taoyuan）／3. Rooting Nuts（単独、平成24年12月、Asia Network Beyond Design 2012, Yokohama）／4. Bursting Seed（単独、平成24年9月、Asia Network Beyond Design 2012, Seoul）／5. 星雲壺（単独、平成25年1月、第34回 北海道陶芸作家協会展（コンチネンタルギャラリー））／6. 青朽葉壺（単独、平成25年1月、第34回 北海道陶芸作家協会展（コンチネンタルギャラリー））／7. 竹蠟花器（単独、平成25年1月、第34回 北海道陶芸作家協会展（コンチネンタルギャラリー））

＜学会発表＞1. ボーダーレス食器の提案「障がい者」と「健常者」の境界線を感じないユニバーサル食器（共同、平成25年2月、感性フォーラム札幌2013）／2. 家庭菜園の機能的・心理的特徴に特化した専用ウェアの提案（共同、平成25年2月、感性フォーラム札幌2013）／3. 暮らしの中心となる食空間を支える機器の提案－料理の伝承で繋がる（共同、平成25年2月、感性フォーラム札幌2013）

＜学会研究発表＞1. 高齢者が主導するまちづくり拠点としてのコミュニティ・レストランの可能性～寿都町「風のごはんや」の取り組み～（SCU産学官研究交流会）

＜論文査読・学会抄録査読＞1. 日本感性工学会論文誌（論文（全国学会）、1件、日本感性工学会）

＜所属学会・研究会等＞日本デザイン学会入／日本感性工学会／軽労化研究会／北海道陶芸作家協会

＜地域貢献諸活動＞被災地支援チャリティーバザール運営実施及び作品出品（平成24年6月16日、北海道陶芸作家協会）

＜社会における活動＞北海道陶芸作家協会役員

＜専門職支援・セミナー講師等＞（スマートスーツ・ライト実用化促進事業推進）アドバイザー、被災地支援チャリティーバザールポスター制作

町田 佳世子

＜学術論文＞1. 森林ウォーキングによってもたらされる気分変化のプロセスに関する研究（共著、平成25年3月、ランドスケープ研究、76巻、5号）

＜調査研究報告書＞1. 北海道の企業が採用時に重視する「コミュニケーション能力」に関する実証的調査（単著、平成24年6月、一般財団法人北海道開発協会開発調査総合研究所、pp. 145-170）／2. 北海道の企業が若者にもとめるコミュニケーション能力（単著、平成25年1月、開発こうほう、594巻、pp. 36-40）／3. 2012年度上山市クアオルト健康ウォーキングおよびクアオルト健康講座 質問紙調査報告書（共著、平成25年3月、札幌市立大学）

＜学会発表＞1. Psychological effects of hill walking at Kaminoyama－Relations among mood alternation, weathers, and trail characteristics（共同、平成24年10月、The ISOQOL 19th Annual Conference）／2. 企業が採用時に重視するコミュニケーション能力と採用後の若手社員に対する評

価（共同、平成24年6月、日本コミュニケーション学会第42回年次大会）／3. 飼育員の発話から見た来園者の学びに関する研究（共同、平成24年11月、SAGA15）／4. 飼育体験をとおして子どもが得たもの－体験前後の言葉の変化から－（共同、平成25年1月、第53回日本動物園水族館教育研究会）／5. 札幌市円山動物園「は虫類・両生類館」の来園者の展示デザイン評価（共同、平成24年6月、日本デザイン学会第59回春季研究発表大会）／6. 就職活動を控えた大学性が考える社会人コミュニケーション能力（共同、平成24年11月、日本コミュニケーション学会北海道支部第21回研究大会）／7. 動物園の爬虫類・両生類の生体展示の印象・評価に関する調査研究（共同、平成24年6月、日本建築学会第85回北海道支部研究発表会）

＜学会研究発表＞1. 北海道の企業が採用時に重視するコミュニケーション能力に関する実証的研究（単独、平成24年11月、一般財団法人北海道開発協会開発調査総合研究所）

＜論文査読・学会抄録査読＞1. 札幌市立大学研究論文集（論文（大学紀要）、1件、札幌市立大学）

＜所属学会・研究会等＞日本コミュニケーション学会／International Communication Association／International Pragmatics Association／一般社団法人 大学英語教育学会／日本質的心理学会／日本語用論学会／全日本博物館学会／日本動物園水族館教育研究会／産業・組織心理学会

＜地域貢献諸活動＞女性の地位向上を目的とした企画活動に参加（平成24年7月11日、特定非営利活動法人日本BPW連合会札幌クラブ）／上山型の温泉クアオルトの周知・広報への協力、調査等のアドバイス（平成24年4月1日～平成25年3月31日、かみのやま温泉クアオルト協議会、上山型温泉クアオルト推進員アドバイザリーフェロー）

＜社会における活動＞家庭裁判所 参与員（裁判所）／一般財団法人札幌市水道サービス協会評議委員（札幌市）

石田 勝也

＜作品発表＞1. 映像インスタレーション（平成24年12月、さっぽろアートステージ2012）

＜地域貢献諸活動＞北海道地域のクリエイティブ及び食の東アジア地域に対するPRプロジェクト（11月～12月、クリエイティブ北海道）／映像プログラム制作（7月、10月、電子音響イベント「エレキネシス」）／メーキャップイベント映像制作及びオペレーション（10月19日、横山美和）／ポロトコタンの夜Ustream配信プロジェクト（8月3日、白老アイヌ民族博物館）／映像プログラム制作（12月、3月、音楽イベント「AZURAM」）／実行委員会委員としてプロジェクトの運営を行った（3月～10月、行啓通フィルムコンテンツ）／札幌中央区にあるギャラリーにて美術部と写真部の合同展のサポート（平成25年1月～2月、ノメノン・シード、参加学生20名）／札幌市立大学サテライトキャンパスにて地下歩行空間コンテンツの製作方法講義（平成24年12月、札幌市IT振興普及推進協議会、参加学生10名）

＜マスメディア掲載実績＞クリエイティブ北海道ミーツ香港（11月28日・12月1日・4日・6日北海道新聞、朝刊）／クリエイティブ北海道ミーツ香港（12月26日、北海道新聞、夕刊）

上田 裕文

＜学術論文＞1. Landscape Image Sketches of Forests in Japan and Russia（共著、平成24年6月、Forest Policy and Economics、19巻、pp. 537-540）／2. 森林ウォーキングによってもたらされる気分変化のプロセスに関する研究（単著、平成25年3月、ランドスケープ研究、76巻、5号、pp. 533-538）／3. 個人意識としての気に入っている風景と集団意識としての地域らしい風景の関係（共著、平成25年3月、ランドスケープ研究、76巻、5号、pp. 575-578）

＜著書＞1. Landschaften : Theorie, Praxis und Internationale Bezüge（共著、平成25年1月、Oceano Verlag Schwerin e. K.、pp. 115-130）

＜調査研究報告書＞1. 道庁正門前木塊舗装・銀杏並木―札幌舗装道路発祥の地―（平成24年10月、土木学会、97巻、10号、pp. 8-9）

＜実務関係書＞1. 高山範理著「エビデンスからみた森林浴のストレス低減効果と今後の展開」書評（平成25年3月、日本造園学会、76巻、3号、p. 224）

＜解説文＞1. 寿都町におけるブルーツーリズムと中間支援組織に関する調査研究報告書（平成25年3月）／2. 2011年度上山市クアオルト健康ウォーキング 質問紙調査報告書（平成25年3月）

＜書評＞1. 北海道型クアオルト形成に向けた国民保養温泉地の空間構造分析（平成24年7月、北海道開発協会、588巻、pp. 48-52）

＜学会発表＞1. 観光のまなざしによりつくられる北海道の風景イメージの研究（共同、平成24年5月、平成24年度日本造園学会全国大会）／2. 健康ウォーキングでの気分変化に対する 自然環境とガイドの影響（共同、平成24年10月、平成24年度日本造園学会北海道支部大会）

＜論文査読・学会抄録査読＞1. 都市計画（論文（全国学会）、2件、日本都市計画学会）／2. 農村計画学会誌（論文（全国学会）、1件、農村計画学会）／3. 札幌市立大学研究論文集（論文（大学紀要）、1件、札幌市立大学）

＜所属学会・研究会等＞日本造園学会／日本都市計画学会／農村計画学会／日本観光研究学会

＜社会における活動＞札幌市みどりの審議会委員（札幌市）／北海道特定開発行為審査会委員（北海道）／上山型温泉クアオルト推進員アドバイザーフェロー（上山市）

＜専門職支援・セミナー講師等＞さっぽろ緑花園芸学校講師：自然のランドスケープデザイン（平成25年11月1日、札幌緑化ガーデナー、札幌公園緑化協会）／水源地域支援ネットワーク会議講師：大学の地域づくりへの関わり（12月20日、26日、地域づくりリーダー、国土交通省水管理・国土保全局水資源部）／水源地域支援ネットワーク会議ワークショップファシリテーター：「気づき」（～身近な宝の発掘～）（12月21日、27日、地域づくりリーダー、国土交通省水管理・国土保全局水資源部）

＜マスメディア掲載実績＞北海道新聞11月17日、世代結ぶゼジェネレンジャー（11月17日、北海道新聞、朝刊）／北海道新聞2月22日、寿都の日常写真で紡ぐ（2月22日、北海道新聞、朝刊）／北海道新聞3月15日、時計台「危機」を救え（3月15日、北海道新聞、朝刊）

大 瀧 一 博

＜学術論文＞1. 助産学の客観的臨床能力試験を受験した助産学専攻科生の評価（共著、平成25年3月、札幌市立大学、7巻、1号、pp. 61-66）

＜学会発表＞1. 災害訓練タイマーの開発 Ver. 1（共同、平成25年1月、第18回日本集団災害医学会学術集会）／2. 助産学専攻科の修了直前に実施したOSCEの効果と今後の課題－保健指導場面のOSCE評価から－（共同、平成24年11月、第53回日本母性衛生学会学術集会）

＜所属学会・研究会等＞電子情報通信学会／日本教育工学会／日本感性工学会／日本看護学教育学会／日本母性衛生学会／日本集団災害医学会

＜地域貢献諸活動＞円山動物園内のカフェで上映する映像制作コンペの企画・運営（平成24年7月～平成25年3月、メッセージムービーサミット2013実行委員会／実行委員会への参加（イベント広報のサポート）（平成25年1月～、高校生チャレンジグルメコンテスト実行委員会）／メッセージムービーサミット2013（平成25年2月18日、メッセージムービーサミット2013実行委員会、23名）／ウォーキング推進キャンペーン事業 ワークショップ（平成24年11月19日～平成25年1月21日、札幌市保健福祉局保健所健康企画課、17名）／札幌市長グリーティングカード制作（平成24年11月8日、札幌市総務局国際部交流課推進係、32名）／EGGs'12ポスターコンペ（平成25年3月8日、日本建築学会北海道支部、5名）

＜社会における活動＞ウォーキング推進キャンペーン事業（札幌市保健局）

＜専門職支援・セミナー講師等＞札幌イメージコーディネート研究会所属メンバーへのソフトウェア利用に関する個別指導等（随時、札幌イメージコーディネート研究会 所属メンバー、札幌イメージコーディネート研究会）／札幌市長グリーティングカード 選考会審査員：札幌市長グリーティングカード 選考会（平成24年11月8日、コンペ出展者、札幌市国際部）

＜マスメディア掲載実績＞「札幌ぐるりウォーキングマップ」公開（平成25年2月14日、北海道新聞、朝刊）／「メッセージムービーサミット2013」開催（平成25年2月19日、北海道新聞、朝刊）／「札幌市長グリーティングカード」制作（平成24年12月11日、北海道新聞、朝刊）

片山 めぐみ

＜学術論文＞1. 高齢者と地域とを結び付ける「縁側サービス」の効果：福祉系NPO法人によるコミュニティ・レストランを事例として（共著、平成24年10月、日本建築学会計画系論文集、77巻、680号、pp. 2399-2406）

＜調査研究報告書＞1. 動植物の光・温熱環境と省エネルギーに配慮した動物舎のデザイン研究－「アジアゾーンのデザイン監修」（共著、平成25年3月、札幌市立大学、pp. 1-36）／2. 平成24年度受託研究報告書－「寿都町におけるコミュニティ・レストランの調査研究」（共著、平成25年3月、札幌市立大学、pp. 1-31）／3. 子育て支援環境づくりの課題と展望（共著、平成25年3月、北海道大学、pp. 30-47）

＜学会発表＞1. 立体的なスケッチ感覚を重視した 建築スタディツールの提案（共同、平成24年9月、2012年度日本建築学会大会）／2. 設計の初期段階における 立体的なエスキースを可能とする デザインツールの開発（共同、平成24年7月、第85回日本建築学会北海道支部研究発表会）／3. 立体的なスケッチ感覚を重視した 建築スタディツールの提案（共同、平成24年6月、第59回日本デザイン学会春季研究発表大会）／4. 来園者の観覧体験からみた動物展示デザインに関する一考察（単独、平成24年6月、第59回日本デザイン学会春季研究発表大会）

＜学会シンポジウム＞1. 見る人と動物の“ワクワク”をかたちにする（平成24年11月、第15回アフリカ・アジアに生きる大型類人猿を支援する集い（SAGA））

＜論文査読・学会抄録査読＞1. デザイン学研究（論文（全国学会）、2件、日本デザイン学会）／2. 札幌市立大学研究論文集（論文（大学紀要）、1件）

＜社会における活動＞札幌市犯罪のない安全で安心なまちづくり等審議会委員（札幌市）／次世代育成支援対策推進協議会委員（札幌市）／大規模小売店舗立地法専門家会議委員（札幌市）／地域活動の場整備支援事業審査委員（札幌市）

＜専門職支援・セミナー講師等＞コミュニティレストラン北海道フォーラムでの講演：行政・大学・市民の協働から誕生したコミレス「風のごはんや」（平成25年3月16日、行政職、コミュニティレストランネットワーク北海道）

＜マスメディア掲載実績＞「風のごはんや」18日開店－寿都にコミュニティレストラン（平成24年6月8日、北海道新聞、朝刊）／好評 地域交流拠点に－寿都・コミュニティレストラン 開店3ヶ月（平成24年10月2日、北海道新聞、朝刊）／「コミレス」で世代を超え交流を－寿都で講演会とワークショップ（平成25年3月12日、北海道新聞、朝刊）

小宮 加容子

＜学術論文＞1. 「コネキッド」頭と体と心をつなぐ遊びの提案（共著、平成25年3月、玩具福祉研究、11号、pp. 55-61）

＜作品発表＞1. ハコマチ・フワヌノ遊び（共同、平成25年3月、キッズワークショップカーニバルinふくしま）／2. 「コネキッド2012 in チカホ」（共同、平成24年7月、キッズデザイン賞巡回展2012）／3. 雪道ベビーカーの提案（共同、平成24年8月、ものづくりテクノフェア）／4. 授産施設製品へのデザイン提案（共同、平成24年8月、ものづくりテクノフェア）／5. 雪道ベビーカーの提案（共同、平成24年11月、ビジネスEXPO）／6. 授産施設製品へのデザイン提案（共同、平成24年11月、ビジネスEXPO）／7. 環境カルタ（共同、平成24年11月、産学官研究交流会（札幌市立大学））／8. おもちゃバスプロジェクト（デザインモデル）（共同、平成24年11月、産学官研究交流会（札幌市立大学））／9. 風の遊び場（共同、平成24年8月、大分市博愛病院博愛子ども成育医療センター）

＜入選・受賞＞1. 第6回キッズデザイン賞（平成24年7月、キッズデザイン協議会）

＜学会発表＞1. 散剤に適した服用動作を誘導する分包袋の提案－子どもの服用動作の検証と考察－（単独、平成24年6月、日本デザイン学会第59回研究発表会概要集）／2. 遊びからつながる地域と大学について（共同、平成24年8月、日本福祉のまちづくり学会第15回全国大会）／3. 雪国の生活環境を考慮したベビーカーの提案（単独、平成24年8月、日本福祉のまちづくり学会第15回全国大会）

＜所属学会・研究会等＞ヒューマンインタフェース学会、計測自動制御学会、日本リハビリテーション工学協会、日本機械学会、日本福祉のまちづくり学会、玩具福祉学会、日本デザイン学会、日本科

学看護学会

＜マスメディア掲載実績＞番組「この街きらり☆」での「芸術の森地区特集」（5月14日、NHK札幌放送局）

福田 大年

＜調査研究報告書＞1. 札幌市立大学E-KANGO Project 2011 広域・寒冷積雪地における医療機関の継続看護・退院連携情報ネットワーク構築に関する研究 療養者の安全と安心に向けた遠隔看護システム（E-KANGO）の応用（共著、平成24年8月、札幌市立大学）／2. 地方都市観光振興のための情報UD提案（共著、平成25年3月、札幌市立大学）／3. 札幌円山動物園 寒冷地の動物園における熱帯系飼育・展示施設のデザイン研究（共著、平成25年3月、札幌市立大学）／4. 札幌市中央卸売市場施設の機能的なデザインに関する調査研究（共著、平成25年3月、札幌市立大学）

＜その他の論文＞1. 「コネキッド」頭と体と心をつなぐ遊びの提案（共著、平成25年3月、玩具福祉学会、11号、pp. 55-61）

＜作品発表＞1. 「パン工房ひかり」との協同プロジェクトの成果（単独、平成24年11月、第26回北海道技術・ビジネス交流会“ビジネスEXPO”）／2. BIRD（共同、平成24年8月、HAKOMART（ハコマ））／3. ANIMAL（共同、平成24年8月、HAKOMART（ハコマ））／4. Futaba. EXHIBITION（共同、平成24年11月「tri tri tri」）／5. コネキッド2012inチカホ（共同、平成24年7月、キッズデザイン賞巡回展2012）／6. コネキッド2013in福島「ハコマチ」（共同、平成25年3月、キッズワークショップカーニバルinふくしま）／7. コネキッド2013in福島「フヌノあそび」（共同、平成25年3月、キッズワークショップカーニバルinふくしま）

＜入選・受賞＞1. 日本デザイン学会第59回春季研究発表大会「グッドプレゼンテーション賞（テーマセッション）」（平成24年6月、日本デザイン学会）／2. 日本デザイン学会第59回春季研究発表大会「グッドプレゼンテーション賞（テーマセッション）」（平成24年6月、日本デザイン学会）／3. 第6回キッズデザイン賞（平成24年7月、キッズデザイン協議会）

＜学会発表＞多人数によるスケッチ作業を活かしたアイデア発想の支援－就労継続支援B型事業所で実施した“クルクルスケッチ”ワークショップの報告－（共同、平成24年6月、日本デザイン学会第59回研究発表大会）／インクルーシブデザインによる遠隔看護システム「E-KANGO」の開発（共同、平成24年6月、日本デザイン学会第59回研究発表大会）／デザイン系大学の資源を活用した就労継続支援B型事業所の自立支援の試み－『パン工房ひかり』デザインプロジェクト学生の活動事例報告－（単独、平成24年8月、日本福祉のまちづくり学会 第15回全国大会）／遊びからつながる地域と大学について（共同、平成24年8月、日本福祉のまちづくり学会 第15回全国大会）

＜学会シンポジウム＞特別セッション「地場から産まれる『これからのデザイン』」（共同、平成24年6月、日本デザイン学会第59回春季研究発表大会）／学生交流ワークショップ「地場から産まれる『玩具のデザイン』」（共同、平成24年6月、日本デザイン学会第59回春季研究発表大会）

＜所属学会・研究会等＞日本デザイン学会／情報文化学会／札幌アートディレクターズクラブ／札幌メディア・アート・フォーラム／札幌情報デザイン研究会（spk_infod）／アジアネットワークビヨンドデザイン

＜地域貢献諸活動＞防災ゲーム「防災勇者」の企画デザイン（平成24年6月29日～平成25年3月31日、（一社）建設コンサルタンツ協会北海道支部、参加学生2名）

＜地域貢献諸活動＞防災ゲーム「防災勇者」の企画デザイン（平成24年6月29日～平成25年3月31日、（一社）建設コンサルタンツ協会北海道支部、参加学生2名）

＜社会における活動＞札幌スタイル ブランドマネジメント委員会（札幌市）、札幌メディア・アート・フォーラム運営委員

＜専門職支援・セミナー講師等＞「imagine!クリエイティブ・フロンティア」出品学生のサポート：「imagine!クリエイティブ・フロンティア」（平成24年5. 26、学生、NHK札幌放送局）／長沼 陽風堂 ブランド構築 学生コンペの企画ならびに参加学生のサポート：長沼 陽風堂 ブランド構築（平成24年5月6日、長沼 陽風堂、長沼 陽風堂）／箱のセレクトWebサイト「Hakop」立ち上げの企画・デ

ザインのサポート：Webサイト「Hakop」（平成23年3月～平成24年6月、一般、モリタ株式会社）／「リボネシアの世界」出版記念トークショーの司会担当：「リボネシアの世界」出版記念トークショー（平成24年4月21日、一般、紀伊国屋書店札幌本店）／「インターカレッジオブアニメーションフェスティバル2012」出品学生のサポート：インターカレッジオブアニメーションフェスティバル2012in札幌（平成24年10月11～14日、学生、ICAF）／講演会：「命を大切にする」教育を考える：喫煙防止教育を通じた教育と医療のコラボレーション、教育講演「紙媒体の情報を子どもと保護者に伝えるコツ」：紙媒体の情報を子どもと保護者に伝えるコツ（平成25年2月2日、養護教諭、医療関係者、今野美紀（札幌医科大学保健医療学部看護学科教授））／団体の運営および一部のイベントの企画・運営を担当、研究会に参加：SMFコトバ・ワークショップ2012（平成24年11月17～18日、学生、デザイン従事者、札幌メディア・アート・フォーラム）／産業界ニーズGPに関連して「ワークショップ型インターンシップ」を2回実施（3月22日、3月25日）

<マスメディア掲載実績>NHK北海道「つながる@きたカフェ」にて、札幌市南区紹介～大学紹介～遊びのデザインについて出演およびインタビュー（平成24年5月14日、NHK札幌放送局）／HBC「北海道ニュース1」にて、痛タクシーについてコメント（平成24年6月7日、HBC北海道放送）

松井 美穂

<学術論文>1. 「White Lady, Black Mask-Julia Peterkin の *Scarlet Sister Mary*における人種とセクシュアリティ」（単著、平成25年3月、札幌市立大学紀要、7巻、1号、pp. 3-10）

<調査研究報告書>1. 「モダニズムを考える－『無垢の時代』の「恐るべき産物」－」（単著、平成25年3月、『北海道アメリカ文学』29号、pp. 62-66）

<学会シンポジウム>1. 「モダニズムを考える－『無垢の時代』の「恐るべき産物」－」（単独、平成24年12月、第22回日本アメリカ文学会 北海道支部大会）

三谷 篤史

<学術論文>1. Experiment and simulation of micro-part dynamics with roughness effect（共著、平成24年12月、IEEJ Transaction on Electrical and Electronic Engineering、7巻、S1号pp. 173-178）

<学会発表>1. The Effect of Anisotropic Friction on Vibratory Velocity Fields（共同、平成24年5月、2012 IEEE International Conference on Robotics and Automation（IEEE ICRA 2012））

／2. Experiments and Simulation of Micro-Parts Dynamics with Roughness Effect（共同、平成24年7月、2012 IEEE/ASME International Conference on Advanced Intelligent Mechatronics（AIM 2012））

／3. A Case Study of Mechatronics Education In Product Design Course Using A Teaching Tool For PIC processor（単独、平成24年9月、International Conference on Engineering and Product Design Education（E & PDE 2012））

／4. 遊び手の操作に応じて反応が変化するメカトロ積み木の開発（共同、平成24年5月、日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス部門講演会2012（ROBOMECH2012））

／5. 音を楽しむための小児用演奏インタフェースの提案（共同、平成24年9月、第14回日本感性工学会大会）

／6. 木材の感性性能を活用したメカトロ積み木の開発（共同、平成24年9月、第14回日本感性工学会大会）

／7. 通常歩行時における身体の振動解析（共同、第13回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会（SI2012））

／8. 非対称形状表面によるマイクロパーツの対称振動輸送 第9報 -異方性エッチングを用いた非対称表面の開発-（共同、第13回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会（SI2012））

<論文査読・学会抄録査読>1. Procs. 2012 IEEE International Conference on Robotics and Biomimetics（ROBIO 2012）（論文（国際学会）、10件、IEEE）

／2. Advanced Robotics（論文（国際学会）、1件、RSJ）

／3. Procs. 2013 IEEE International Conference on Robotics and Automation（IEEE ICRA 2013）（論文（国際学会）、1件、IEEE）

<所属学会・研究会等>日本機械学会／日本デザイン学会／精密工学会／計測自動制御学会／アメリカ電気電子学会（IEEE）／日本ロボット学会／北海道トライボロジー研究会／北海道光科学技術研究会

<地域貢献諸活動>道内の大学生を対象としたロボットコンテスト「第12回ロボット・トライアスロ

ン」の実施・運営（9月17日、ロボット・トライアスロン実行委員会、ロボット・トライアスロン実行委員会）／道内の小中学生を対象とした子供向けメカトロ教室「簡単!電子工作」の実施・運営（6月30日、日本機械学会、日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス部門）

<専門職支援・セミナー講師等>サッポロ・ロボットコーナーにおける作品展示：サッポロ・ロボットコーナー（通年、札幌市青少年科学館、札幌市青少年科学館来館者）／地域の研究者・企業を対象とした若手交流会における研究紹介：遊び手の操作に応じて反応が変化するメカトロ積み木の開発（11月2日、ノーステック財団、財団職員・企業・研究者）／大通Bisseにおける展示活動：札幌市立大学－台湾華梵大学国際合同ワークショップ展示（5月7日～5月21日、北洋銀行、市民および当該施設訪問者）

山 田 良

<学術論文>1. 環境芸術なる連続性－鑑賞者を包み込む環境芸術 その2－（単著、平成24年11月、環境芸術学会学会誌、11巻、1号、pp. 39-43）

<実務関係報告書>1. Infinite Landscape（単著、平成24年12月、Gestalten、p. 117）

<作品発表>1. Existent Landscape（単独、平成24年8月、環境芸術推進会議 杜舞台アートプロジェクト2012）／2. Previous Landscape（単独、平成24年7月、小樽アートプロジェクト2012）／3. VIEW（単独、平成24年6月、北海道ガーデンショー2012）

<入選・受賞>1. AR+D Emerging Architecture Award（平成24年11月、The Architectural Review）／2. 第一回環境芸術学会賞（平成24年11月、環境芸術学会）

<学会発表>1. リノベーションからリインテンシファイへ（単独、平成24年11月、環境芸術学会大会 第11回大会）

<地域貢献諸活動>定山溪雪灯路プロデュース（平成24年7月～12月、定山溪観光協会、定山溪観光協会）／休憩スペースのデザイン・設置（平成24年4月～5月、さっぽろシャワー通り商店街、さっぽろシャワー通り）／HELPO札幌オーロラタウン案内ブースのデザイン提案（平成24年10月～12月、札幌大通まちづくり会社、札幌大通まちづくり会社）

<社会における活動>さっぽろテレビ塔塗装色検討委員会（札幌市）、札幌市総合企画調査専門委員（札幌市）

<専門職支援・セミナー講師等>環境芸術の地域での可能性講演：リノベーションからリインテンシファイへ（7月26日、建築家、デザイナーほか公開、NPO小樽ワークス）／環境芸術の地域での可能性講演：環境芸術の地域での可能性（8月21日、インテリアプランナーズ協会、インテリアプランナーズ協会）／空間デザインワークショップ開催：環境芸術の地域での可能性（9月11日～16日、建築家、デザイナー、学生、シベリア北海道文化センター）

<マスメディア掲載実績>小樽アートプロジェクト2012（7月21日、北海道新聞、朝刊）／環境芸術学会賞受賞紹介（11月14日、北海道新聞、夕刊）／Creators Work（2月号、AXIS）／Recent Works（4月号、IN&OUT）／Vertical Landscape（5月号、arhitext）／AR+D Award Infinite Landscape（12月号、The Architectural Review）

須之内 元洋

<解説文>1. 2012-2013年の都市・建築・言葉 アンケート（共著、平成25年1月、LIXIL出版）

<作品発表>1. World Sound Mix for Beall Center（共同、平成24年10月4日、DataViz : Information as Art）

<学会研究発表>1. Social Media as Digital Backyard（単独、平成25年1月、Digital Backyard）／2. アートプロジェクトのデジタルアーカイブについて（単独、平成24年11月、社会システム〈芸術〉とその変容）／3. 北2条CGMサイネージがめざす市民参加型コンテンツの可能性（単独、平成24年12月、第22回札幌学院大学社会情報学部シンポジウム）

<所属学会・研究会等>ACM／芸術科学会／情報処理学会

<地域貢献諸活動>行事企画運営・ウェブサイト広報（通年、札幌メディアアートフォーラム、札幌メディアアートフォーラム）／行事企画運営・ウェブサイト広報（平成24年8月～平成25年3月、

Sapporo Media Arts Lab、Sapporo Media Arts Lab)

＜専門職支援・セミナー講師等＞地域間交流支援（RIT）事業 事前調査（JETRO事業）座長（通年、民間専門職・研究者、特定非営利活動法人札幌ビズカフェ）／講義・ワークショップ講師（平成24年5月～24年6月、アート関係者、アサヒビール株式会社）／デジタルアーカイブ構築支援（通年、窯業関係者、文化人、研究者、森正洋デザイン研究所）／札幌国際芸術祭2014地域事業・地下歩行空間運業者入札審査員など（通年）／札幌国際芸術祭2014ウェブサイト監修（平成24年11月～25年3月）／オペラ・ダンス公演のウェブ広報戦略支援（平成24年11月～25年3月）／アートプロジェクトのアーカイブ企画支援（平成24年12月）

長谷川 聡

＜著書＞1. 「DESIGNER'S FILE 2013」（共著、平成24年3月、株式会社 ワークスコーポレーション、pp. 200-201）

＜作品発表＞1. night cloud（単独、平成24年9月、地震ITSUMO in バンコク展、NPO法人 プラス・アーツによる招致、主催）／2. solar pileus（単独、平成24年11月22日～12月4日、JIDA創立60周年記念事業「私の想う明るい未来」ジャパンデザインの基礎と先端「絵にかいたモチ」、リビングデザインセンターOZONE）／3. shike veil 2012（共同、平成24年10月17日～19日、株式会社 松井機業場＋札幌市立大学 デザイン学部 長谷川研究室、IFFT 国際インテリアライフスタイル展2012、東京ビックサイト）／4. shike veil 2012（共同、平成24年11月20日～21日、株式会社 松井機業場＋札幌市立大学 デザイン学部 長谷川研究室、JFW JAPAN CREATION 2013展、東京国際フォーラム）

＜入選・受賞＞1. ラベンダーガーデン墓石デザインコンテスト、優秀賞（単独、平成24年10月、(社)ふる里公苑 真駒内滝野霊園・札幌市）

＜学会発表＞1. 横断型デザインと一線を画する地域社会のデザイン資源の活用と創出（単独、平成24年6月、日本デザイン学会春期大会、札幌市立大学）

＜研究会発表＞1. シリコン系太陽電池から有機系太陽電池への用途開発・デザインの転換（単独、平成24年7月13日、CREST 有機太陽電池シンポジウム、京都大学エネルギー科学研究所、主催 JST、CREST）

〈所属学会・研究会等〉日本インダストリアルデザイナー協会／日本デザイン学会／芸術工学会／日本感性工学会／日本建築学会／土木学会／産業用LED応用研究会

＜地域貢献諸活動＞1. 未来へ泳げ！みんなの鯉のぼり／日本テレビ「愛は地球を救う2012」STVメインオブジェ・デザインディレクション（単独、平成24年8月15日～31日、STV（札幌テレビ放送）×AEON（イオン株式会社）、イオン札幌発寒店、イオン苫小牧店）

＜非常勤講師等＞1. 首都大学東京 産業技術大学院大学 産業技術研究科 認定登録講師（製品デザイン、空間デザイン）

看護学部

中村 恵子

<著書>1. 看護師のための院内トリアージテキスト（共著、平成24年11月、へるす出版、pp. 1-8）

<その他の論文>特集「これからの新人看護職員研修」事例基礎教育と臨床の連携 大学から発信するシャトル研修で卒業後の継続的フォローアップ（単独、平成25年3月、看護増刊、Vol. 65 No. 4、pp. 119-122）

<学会発表>1. 大学と病院の人材育成連携活動の長期的組織的影響の記述（共同、平成24年8月、日本看護管理学会年次大会）／2. 看護師個人の成長を看護チームの成長へとつなぐ継続教育プログラム試案（共同、平成24年8月、日本看護管理学会年次大会）／3. OSCEを用いた助産技術教育プログラムの開発分娩期助産技術の評価内容（共同、平成24年12月、日本看護科学学会）／4. 助産学専攻科の修了直前に実施したOSCEの効果と今後の課題（共同、平成24年11月、日本母性衛生学会）／5. 卒業後の経験年数による職場適応力と職業適応力の到達状況（共同、平成24年12月、日本看護科学学会）／6. A大学卒業生の就労に対する思いの実態と大学に求めるキャリア支援（共同、平成24年12月、日本看護科学学会）／7. 卒業年別と学年別OSCE及び社会人基礎力、看護者の基本姿勢との関係（共同、平成24年12月、日本看護科学学会）／8. OSCEを用いた助産技術教育プログラムの開発－分娩期助産技術（共同、平成24年12月、日本看護科学学会）／9. 助産学専攻科生から見たOSCEの学修上の意義（共同、平成24年12月、日本看護科学学会）

<学会シンポジウム>1. 多職種連携（単独、平成25年2月、日本救急医学会関東地方会）／2. 看護基礎教育と臨床をつなぐ－札幌市立大学の取組み：シンポジウム（単独、平成24年10月、第17回看護サミット）

<学会招聘講演>1. 看護師の将来展望（単独、平成24年6月、日本臨床救急医学会総会）

<論文査読・学会抄録査読>1. 日本看護管理学会誌（論文（全国学会）、2件、日本看護管理学会）／2. 日本臨床救急医学会誌（論文（全国学会）、1件、日本臨床救急医学会総会）／3. 日本災害看護学会年次大会（抄録（全国学会）、5件、日本災害看護学会）／4. 日本クリティカルケア看護学会学術集会（抄録（全国学会）、4件、日本クリティカルケア看護学会）／5. 日本集団災害医学会誌（論文（全国学会）、1件、日本集団災害医学会）

<地域貢献諸活動>専門看護師認定審査（2回／年、日本看護協会）／専門看護師専門領域認定審査（2回／年、日本看護協会）

<社会における活動>電話トリアージカリキュラム委員会（札幌市）／救急業務検討委員会（札幌市）／医道審議会（厚生労働省）／日本看護協会専門看護師認定制度委員会 委員／日本看護協会専門看護師認定実行委員会 委員長／日本看護協会特定看護師教育委員会 委員

<専門職支援・セミナー講師等>講義：看護管理とは：2回／年：北海道看護協会 ファーストレベル教育課程看護管理概説（10月26日、1月21日、看護師、道看護協会）／講義：看護管理者の役割2回／年：看護管理者の役割（10月31日、1月25日、看護師、道看護協会）／救急患者への対応とトリアージ：救急看護への対応とトリアージ（10月4・5日、看護師、日本救急医療財団）／救急看護セミナー講師：5回／年：救急看護師の役割（8月4日、9月9・15日、看護師、日本救急看護学会）／看護管理：看護管理（10月13日、看護師、遠軽厚生病院）／看護OSCE－実践的な学習の評価：看護OSCE－実践的な学習の評価（5月19日、看護教員、新潟県看護教員の会）／看護OSCE－看護教育における到達度評価とその効果的な教育方法：看護OSCE－看護教育における到達度評価とその効果的な教育方法（8月28日、看護教員、南多摩看護専門学校）／大学と臨床のコンソーシアムで医療を牽引する：大学と臨床のコンソーシアムで医療を牽引する（8月23日、看護師、日本看護管理学会）／救急看護師の専門性育成教育と将来への展望：救急看護師の専門性育成教育と将来への展望（6月、看護師、医師など、日本臨床救急医学会）／看護基礎教育と臨床をつなぐ－札幌市立大学の取組み（10月18日、看護師、第17回看護サミット青森）／文科省大学改革推進事業「循環型教育システムによる看護師育成プラン」評価委員：文科省大学改革推進事業「循環型教育システムによる看護師育成プラン（平成21～25年度、大学および附属病院、京都府立医科大学）／特定看護師として実践する看

看護師の役割機能：特定看護師として実践する看護師の役割機能（12月12日、看護師、日本看護協会）／家族ケア「看取りの概念とグリーフケア」（1月21日）／臓器提供施設におけるクオリティマネジメントセミナー／移植医療の社会的基盤に関する研究

樋之津 淳子

<学会発表>1. 静脈内留置針を刺入する熟練看護師の主観的難易度と手の動作と視線（共同、平成24年9月、第11回日本看護技術学会学術集会）／2. 静脈内留置針を刺入する熟練看護師の主観的難易度と上肢の動作（共同、平成24年9月、第11回日本看護技術学会学術集会）／3. 注射の実施における露出した針の取り扱いに関する認識調査（第1報）（共同、平成24年9月、第11回日本看護技術学会学術集会）／4. 注射の実施における露出した針の取り扱いに関する実態調査（共同、平成24年9月、第11回日本看護技術学会学術集会）／5. キャリア教育の体系的支援推進の試み－大学教職員はすべてキャリア支援担当者（共同、平成24年8月、日本看護学教育学会第22回学術集会）／6. 卒業年別と学年別OSCE及び社会人基礎力、看護者の基本姿勢との関係（共同、平成24年11月、第32回日本看護科学学会学術集会）／7. A大学卒業生の就労に対する思いの実態と大学に求めるキャリア支援（共同、平成24年11月、第32回日本看護科学学会学術集会）／8. 卒業後の経験年数による職場適応力と職業適応力の到達状況（共同、平成24年11月、第32回日本看護科学学会学術集会）

<学会シンポジウム>1. 看護とデザインのコラボレーション Part II～快適療養環境を創造する～（平成24年8月、第16回日本看護管理学会年次大会）

<論文査読・学会抄録査読>1. 日本看護科学学会誌（論文（全国学会）、1件、日本看護科学学会）／2. Japanese Journal of NURSING SCIENCE（論文（国際学会）、1件、Japan Academy of Nursing Science）／3. 日本看護研究学会雑誌（論文（全国学会）、2件、日本看護研究学会）／4. SCU Journal（論文（大学紀要）、1件、札幌市立大学）

<地域貢献諸活動>看護学部の概要説明、大学案内（滝川高校PTA）

<社会における活動>大学設置・学校法人審議会専門委員（文部科学省）

スーディ神崎 和代

<学術論文>1. 在宅看護の世界（ISSN1340-3753）（単著、平成25年3月、日本看護図書館協会誌、2013巻、20号、pp. 3-9）

<著書>1. 在宅看護学講座 筆頭執筆・編集（共著、平成24年11月、ナカニシヤ出版、ISBN97847795）

<調査研究報告書>1. 勇美記念財団報告書：広域寒冷積雪地における医療機関の継続看護・退院連携情報ネットワーク構築に関する研究（共著、平成24年8月、勇美記念財団オンライン、pp. 1-6）／2. E-KANGO PROJECT2011 療養者の安全と安心に向けた遠隔看護システムの応用（共著、平成24年8月、札幌市立大学、pp. 1-62）

<入選・受賞>1. グットプレゼンテーション賞（共同、平成24年6月、日本デザイン学会）

<学会発表>1. インクルーシブデザインによる遠隔看護システム「E-KANGO」の開発（共同、日本デザイン学会）／2. 積雪寒冷地における遠隔看護（E-KANGO）シュミレーションと評価 病院看護師による評価（共同、日本ルーラルナースング学会）／3. 積雪寒冷地における遠隔看護（E-KANGO）シュミレーションと評価 外来患者による評価（共同、日本ルーラルナースング学会）／4. Research and Development of Coffin "WAGAKO NO HITSUGI" for Stillborn Baby under 22 weeks of Gestation（共同、World Health Organization）

<所属学会・研究会等>NAHQ（国際医療の質学会、米国）／日本在宅ケア学会／日本ルーラルナースング学会／日本看護学教育学会／日本看護科学学会／日本遠隔医療学会／日本プライマリケア連合会／北海道公衆衛生学会／National Rural and Remote Health（AU）／北海道在宅ケア研究会／北のケア環境研究会／北海道医療産業研究会

<地域貢献諸活動>世話役（北海道医療産業研究会）／札幌市立大学の産学官連携の基本姿勢（平成24年7月11日、北海道中小企業家同友会）／HINT産学官連携 異分野連携研究E-KANGOから見えてきた課題と展望（平成24年7月31日、HINT）／今からできる脳の元気法（平成24年9月2日、北海道

国民健康保険団体連合会)／絆の会(センソリーガーデンと認知症)(平成24年11月4日、神鋼ケアラライフ社)／地域連携のポイントー道内自治体との連携の経験から(平成24年11月21日、北海道経済産業局)／招聘講演「看護とデザインの異分野連携」(平成25年2月11日、INJE UNIVERSITY/DESIGN INSTITUTE (SEOUL))／招聘講演「看護とデザインの異分野連携研究の可能性」(平成25年2月12日、INJE UNIVERSITY DESIGN DEPT (BUSAN))／未来を拓き、動かす看護(平成25年2月27日、名古屋医療センター附属名古屋看護助産学校)

＜社会における活動＞医療福祉に関するアドバイザー(夕張市)／北海道公衆衛生学会(評議員)

＜専門職支援・セミナー講師等＞ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理委員会委員：ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理審査会(平成24年4月1日～平成26年3月31日、札幌医科大学)／サード看護管理者教育課／訪問看護師養成講習会講師：対象論・異文化理解(平成24年9月18日、平成24年9月20日、訪問看護師、北海道看護協会)

＜マスメディア掲載実績＞ICT活用し在宅支援 訪問看護負担軽減も 札幌市立大学看護学部(平成25年2月15日、北海道医療新聞、朝刊)／認知症の予防紹介(平成24年9月4日、北海道新聞、朝刊)

宮崎 みち子

＜学術論文＞1. 看護OSCE受験生の心理的反応および学習意欲の関係と課題(共著、平成24年4月、日本看護学会論文集、42号、pp. 10-13)／2. 助産学の客観的臨床能力試験を受験した助産学専攻科生の評価(共著、平成25年3月、札幌市立大学、7巻、1号、pp. 61-66)

＜学会発表＞1. 客観的臨床能力試験(OSCE)を用いた助技術教育プログラムの開発(共同、平成24年12月、第32日本看護科学学会)／2. 助産学専攻科の修了直前に実施したOSCEの効果と今後の課題(共同、平成24年10月、第53回日本母性衛生学会)／3. 助産学専攻科生から見た客観的臨床能力試験(OSCE)の学修上の意義(共同、平成24年12月、第32回日本看護科学学会)／4. Informed consent of nursing in Japan(単独、平成24年8月、19thWorld Congress Medical Law)／5. キャリア教育の体系的支援推進の試み(共同、平成24年8月、第22回日本看護学教育学会)

＜論文査読・学会抄録査読＞1. 日本母性衛生学会誌(論文(全国学会)、1件、日本母性衛生学会)／2. 日本助産学会誌(抄録(全国学会)、2件、日本助産学会)／3. 日本看護管理学会誌(抄録(全国学会)、10件、日本看護管理学会)

＜所属学会・研究会等＞日本助産学会／日本母性衛生学会／日本看護科学学会／日本看護学教育学会／日本看護倫理学会／日本看護管理学会／医事法学会／生命倫理学会／国際看護研究会／日本看護研究学会／北海道母性衛生学会／北海道公衆衛生学会

＜地域貢献諸活動＞外部顧問として、ワンストップセンターの設立・研修会・学習会の企画・運営(平成24年4月～10月、ゆいネット北海道)／「性暴力被害者支援センター北海道SACRACH」の運営支援・周知活動(平成24年10月～平成25年3月、性暴力被害者支援センター北海道SACRACH)／留学生の支援(平成24年10月27日、北海道国際女性協会)

＜専門職支援・セミナー講師等＞社会貢献委員会活動(災害支援・健やか親子21支援・助産師希望の高校生支援・助産教育における地域貢献)の企画・運営：社会貢献委員会(平成24年4月～平成25年3月、全国助産師教育協議会)

猪股 千代子

＜著書＞1. Technological Advancements in Biomedicine for Healthcare Applications. (共著、平成24年12月、IGI Global, Pennsylvania, pp. 235-239)

＜学会発表＞1. 自治体と共同による「音楽&看護療法」の有効性について(共同、日本看護研究学会第22回北海道地方会学術集会)／2. 神経難病患者への自宅トレーニング用CD作成とその活用(共同、第12回日本音楽療法学会)／3. ストレスマネジメントを目的としたヨガ療法実習の意味(共同、第16回日本統合医療学会)

＜学会シンポジウム＞1. 「寄り添い・絆を深め・しなやかな心を取り戻す、生(スピリチュアル)をささえるケア」ー専門家による患者支援グループ活動と語り合いの場から得られるパワーー(単

独、日本統合医療学会)

＜論文査読・学会抄録査読＞日本医療マネジメント学会雑誌（論文（全国学会）、10件、日本医療マネジメント学会）／日本看護管理学会年次大会講演抄録集（抄録（全国学会）、5件、日本看護管理学会）

＜所属学会・研究会等＞日本看護管理学会／日本統合医療学会／日本医療マネジメント学会／日本看護科学学会／日本看護研究学会／日本看護教育学会／日本音楽療法学会／北日本看護学会

＜地域貢献諸活動＞地域の保健医療福祉職とケアリングの学習会を開催（平成24年5月・7月・9月・11月・1月・3月、日本統合医療学会北海道地区研究会）／難病患者さんへの健康増進支援活動 音楽・アロマ・ヨガと看護療法（5月11日・6月1日・6月22日・7月13日・7月27日・9月28日・10月19日・11月9日・11月30日・1月25日・2月22日、統合医療ヘルスケアシステム開発機構HOKT123研究会）

＜専門職支援・セミナー講師等＞おもてなしの心：北海道済生会小樽病院看護部研修 地域病院におけるおもてなしの心（平成24年7月6日、看護職員他、済生会小樽病院）

＜マスメディア掲載実績＞統合医療で健康増進 音楽・アロマ・ヨーガ（平成25年4月19日、北海道医療新聞、朝刊）

内 田 雅 子

＜学術論文＞1. 研究交流推進委員会報告 看護実践における事例研究（共著、平成24年12月、日本慢性看護学会誌、6巻、2号、pp. 39-44）

＜著書＞1. 成人看護学 第2版（共著、平成25年1月、医学書院、pp. 306-333）

＜調査研究報告書＞1. チーム・プロセスに焦点を当てた人材育成連携活動の形成的評価研究（平成24年5月、平成23年度科研費実績報告書）

＜学会発表＞1. データベースを活用した看護技術の自己評価力育成－看護実践能力の育成－（共同、平成24年8月、第16回日本看護管理学会年次大会）／2. 大学と病院の人材育成連携活動の長期的・組織的影響の記述（共同、平成24年8月、第16回日本看護管理学会年次大会）／3. 卒業後の経験年数による職場適応力と職業適応力の到達状況（共同、平成24年12月、第32回日本看護科学学会学術集会）／4. 卒業年別と学年別OSCE及び社会人基礎力、看護者の基本姿勢との関係（共同、平成24年12月、第32回日本看護科学学会学術集会）／5. 研究交流ワークショップ 看護実践における事例研究 その4－実践知の集積へつなぐ事例研究－（共同、平成24年6月、第6回日本慢性看護学会学術集会）

＜学会研究発表＞1. パネルディスカッション2 アクションリサーチを用いた看護マネジメントについての経験知の共有と外部の知恵の導入による新しい学びの創発（第16回日本看護管理学会年次大会）

＜論文査読・学会抄録査読＞1. 日本慢性看護学会誌（論文（全国学会）、1件、日本慢性看護学会）

＜所属学会・研究会等＞日本慢性看護学会／日本看護科学学会／日本赤十字看護学会／日本透析医学会／日本看護管理学会

河原田 まり子

＜学術論文＞1. 日本におけるソーシャル・キャピタルと健康に関する研究の動向（共著、平成25年3月、北海道公衆衛生学雑誌、26巻、2号、pp. 39-47）／2. Depression prevention program for workers of private companies : A randomized controlled trial（共著、平成25年3月、Open Journal of Nursing、3巻、pp. 114-121）／3. 東京保健所長会方式を参考にした北海道市区町村の改変版平均寿命の検討（共著、平成25年3月、北海道公衆衛生学雑誌、26巻、2号、pp. 107-113）

＜学会発表＞1. 市民講座を受講する高齢者が受診を必要と認識する症状とその判断理由（共同、平成25年1月、第1回日本公衆衛生看護学会学術集会）／2. 未就学期の子供を持つ男性公務員の育児参加と関連要因（共同、平成25年1月、第1回日本公衆衛生看護学会学術集会）／3. 保健師がとらえる乳幼児期の子ども虐待事例における母親の精神的不安を助長させる父親の行動特性（共同、平成25年1月、第1回日本公衆衛生看護学会学術集会）／4. Relationship between work-life balance of Japanese fathers and the childcare support systems at their workplaces（共同、平成25年3月、

International Collaboration for Community Health Nursing Research)

＜論文査読・学会抄録査読＞1. 北海道公衆衛生学雑誌（論文（地方学会）、1件、北海道公衆衛生学会）／2. 産業衛生学雑誌（論文（全国学会）、1件、日本産業衛生学会）／3. 北方産業衛生誌（論文（地方学会）、1件、日本産業衛生学会北海道地方会）

＜所属学会・研究会等＞日本看護科学学会／日本地域看護学会／日本公衆衛生看護学会／看護総合科学研究会／日本糖尿病教育・看護学会／日本産業看護学会／日本公衆衛生学会／日本産業衛生学会／日本産業衛生学会北海道地方会／北海道公衆衛生学会

＜専門職支援・セミナー講師等＞産業保健特別相談員（産業保健に関する相談、調査研究等）：平成24年度第2回産業保健相談会会議（平成25年3月7日、産業保健基幹相談員・特別相談員、北海道産業保健推進センター）

坂倉 恵美子

＜調査研究報告書＞1. 札幌市老人福祉センター利用者の生活実態とQOL（平成24年4月、札幌市立大学受託研究）／2. 北海道の介護保険施設の口腔ケアに対する看護管理的取り組みについて実態調査（平成24年4月、札幌市立大学受託研究）／3. 看護学校における教育倫理指針-北海道看護教育施設協議会-（平成24年10月、北海道看護教育施設協議会）

＜学会発表＞1. 口腔ケアに関する看護管理的取り組みの実態調査（共同、平成24年6月、日本口腔ケア学会）／2. 地域高齢者の口腔の主観的健康感と主観的健康感の関連（共同、平成24年7月、第17回日本老年看護学会学術集会）／3. 口腔ケアに関する看護管理的取り組みの介護保険施設間の比較（共同、平成24年10月、第71回日本公衆衛生学会学術集会）／4. 寒冷地における地域在住高齢者の季節別に見た外出頻度（共同、平成24年10月、第71回日本公衆衛生学会学術集会）／5. 老年看護学におけるイメージの変化（共同、平成24年6月、第17回日本老年看護学会学術集会）／6. 医療機関で看護親が認識する認知症高齢者の倫理的問題と関連要因（共同、平成24年12月、第32回日本看護科学学会学術集会）／7. 老人福祉センターを利用する高齢者の生活実態と主観的幸福感（共同、平成24年7月、第17回日本老年看護学会学術集会）／8. Relationships between Subjective well-being and Subjective oral health of the user of Elderly Citizens' Welfare Center（共同、平成24年6月、The 9th International Conference of the Global Network of WHO）／9. Research of the subjective well-being among the users of Elderly Citizens' Welfare Centers（共同、平成24年6月、The 9th International Conference of the Global Network of WHO）／10. Relationships between Subjective well-being and self-assessed mastication ability of the user of Elderly Citizens' Welfare Center（共同、平成24年7月、Keele conference BSG2012）／11. Relationship between subjective well-being and oral health among the elderly living in a city in Japan（共同、平成24年7月、The 9th International Conference of the Global Network of WHO）／12. Frequency of going-out by season and related factors for community-dwelling elderly people in heavy snow areas（共同、平成25年3月、第14回国際地域看護学会学術集会）／13. 積雪地における地域在住高齢者の季節別外出頻度の実態と関連要因（共同、平成24年12月、第32回日本看護科学学会学術集会）

＜研究会発表等＞1. 研究会招聘講演：高齢者の心理社会的支援の回想法研究

＜論文査読・学会抄録査読＞1. 天使大学紀要（論文（大学紀要）、1件、天使大学）／2. 名寄市立大学紀要（論文（大学紀要）、1件、名寄市立大学）／3. 日本ルーラルナーシング学会誌（論文（全国学会）、1件、日本ルーラル学会）／4. 札幌市立大学紀要編集委員会（論文（大学紀要）、1件、札幌市立大学）

＜所属学会・研究会等＞日本老年看護学会／日本地域看護学会／日本公衆衛生学会／日本老年社会学会／日本看護科学学会／日本看護教育学会／日本ルーラルナーシング学会／日本老年社会学会

＜地域貢献諸活動＞講演「高齢者にやさしい健康な“まち”づくりへの提案－看護の立場から－」、評議員（社会福祉法人札幌市福祉事業団）／高齢者特性と看護の理解（札幌市立病院）

＜社会における活動＞介護認定審査会審査委員（札幌市）／北海道建築審査会審査委員（北海道）／札幌市社会福祉協議会 評議委員／北海道社会福祉協議会 幹事

<専門職支援・セミナー講師等>近郊大学（北大）、デザイン学部、市民、編集出版社エディターなどで勉強会／高齢者にやさしい健康なまちづくり提案／北海道看護教育施設協議会幹事
<マスメディア掲載実績>老年看護学概論において現役高齢者の老いについてゲストとして招聘、最終年の感謝の風景（平成24年6月9日、北海道新聞、朝刊）

定 廣 和 香 子

<学術論文>1. 保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定められた教育内容の変遷（共著、平成24年7月、日本看護学教育学会誌、22巻、1号、pp. 95-105）
<著書>1. 看護学教育における授業展開（共著、平成25年1月、医学書院）
<解説文>1. 「看護職者としての基盤作りとその発展を支える教育」シンポジウムの司会にあたって（単著、平成24年8月、日本看護教育学学会、21巻、2号、p. 19）
<学会発表>1. 看護大学における就業前スキルアップトレーニングの効果の検証（共同、平成24年9月、日本看護技術学会第11回学術集会）／2. 看護師の疼痛アセスメント方法に関する研究－精神疾患患者に対するアセスメントに焦点を当てて（共同、平成24年12月、日本看護科学学会第32回学術集会）／3. Safety Management behaviors of Japanese Expert Nurses（共同、平成24年7月、sigma Theta tau international 23th international nursing research congress）
<学会シンポジウム>1. 看護職者としての基盤作りとその発展を支える教育（単独、平成24年8月、日本看護教育学学会）
<論文査読・学会抄録査読>1. 看護教育学研究（論文（全国学会）、1件、日本看護教育学学会）／2. 日本看護学教育学会誌（論文（全国学会）、1件、日本看護学教育学会）／3. 日本看護技術学会誌（論文（全国学会）、1件、日本看護技術学会）／4. 名寄市立大学紀要（論文（大学紀要）、1件、名寄市立大学）／5. 群馬パース大学（論文（大学紀要）、1件、群馬パース大学）／6. 看護教育学研究（抄録（全国学会）、1件、日本看護教育学学会）／7. 日本看護技術学会学術集会（抄録（全国学会）、6件、日本看護技術学会）
<所属学会・研究会等>Sigma Theta Tau International／日本看護教育学学会／日本看護学教育学会／日本看護技術学会／日本看護科学学会／医療の質・安全学会
<専門職支援・セミナー講師等>秋田県実習指導者講習会 看護教育論9時間担当：秋田県実習指導者講習会（7月12日・13日、実習指導者・予定者、秋田県）

松 浦 和 代

<著書>1. 小児看護学概論（改訂第2版）子どもと家族に寄り添う援助（共著、平成24年12月、南江堂、pp. 24-30）／2. 小児看護技術（改訂第2版）子どもと家族の力を引き出す技（共著、平成24年12月、南江堂、pp. 1-44）
<調査研究報告書>1. ホスピスから学ぶホスピタリティ研修事業報告書（平成25年1月、認定特定非営利活動法人ファミリーハウス、pp. 32-62）
<その他の論文>1. 「最近話題のミニセミナー」小児看護の基礎教育と新人研修の活性化のために 第4回 eラーニング（単著、平成24年4月、小児看護、へるす出版、35巻、4号、pp. 510-513）／2. 「最近話題のミニセミナー」小児看護の基礎教育と新人研修の活性化のために 第5回 小児看護学におけるeラーニング自己学修教材の作成と活用の実際（共著、平成24年6月、小児看護、へるす出版、35巻、6号、pp. 786-789）／3. 「最近話題のミニセミナー」小児看護の基礎教育と新人研修の活性化のために 第7回 看護OSCE（共著、平成24年8月、小児看護、へるす出版、35巻、8号、pp. 1265-1289）／4. 「最近話題のミニセミナー」小児看護の基礎教育と新人研修の活性化のために 第8回 看護OSCE【実践例】（共著、平成24年9月、小児看護、へるす出版、35巻、9号、pp. 1407-1413）／5. 演習の工夫、看護技術教育の工夫（共著、平成25年2月、小児看護、へるす出版、36巻、2号、pp. 144-149）
<学会発表>1. 北海道における在宅重症心身障害児の社会資源の利用状況（共同、平成24年7月、日本小児看護学会第22回学術集会）／2. 卒業大学主催の往還型研修の取り組みと評価（第1報）－入職

後3ヶ月時のメンタルヘルスー（共同、平成24年8月、日本看護学教育学会第22回学術集会）／3. 卒業大学主催の往還型研修の取り組みと評価（第2報）－卒業1年目を対象に－（共同、平成24年8月、日本看護学教育学会第22回学術集会）／4. 卒業大学主催の往還型研修の取り組みと評価（第3報）－卒業2年目を対象に－（共同、平成24年8月、日本看護学教育学会第22回学術集会）／5. 木材の感性性能を活用したメカトロ積み木の開発（共同、平成24年8月、第14回日本感性工学会大会）／6. 遊び手の操作に応じて反応が変化するメカトロ積み木の開発（共同、平成24年6月、ROBOMEC2012）／7. 転倒予防マットレスを用いた運動プログラム導入後の低学年児童の基礎活動力（共同、平成24年11月、第59回日本学校保健学会）

＜学会シンポジウム＞1. 新卒看護師の社会化 基礎教育の担当者からみた現状と課題（単独、平成24年8月、第16回日本看護管理学会年次大会）

＜研究会発表＞1. モンゴル国における技術協力「先天性股関節脱臼の予防と早期発見」事業に関わる視察（共同、平成24年9月、国際看護研究会第15回学術集会）／2. 北海道の訪問看護ステーションにおける医療的ケアのある小児への訪問活動の実態（平成24年9月、NPO在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク 第18回全国の集い in 高知2012）

＜論文査読・学会抄録査読＞1. 日本小児看護学会誌（論文（全国学会）、1件、日本小児看護学会）／2. 日本小児看護学会第22回学術集会（抄録（全国学会）、5件、日本小児看護学会）／3. 日本看護学教育学会第22回学術集会（抄録（全国学会）、5件、日本看護学教育学会）

＜所属学会・研究会等＞日本小児看護学会／日本小児保健学会／日本看護科学学会／日本看護研究学会／日本看護学教育学会／日本学校保健学会／日本行動療法学会

＜専門職支援・セミナー講師等＞ホスピスから学ぶホスピタリティ研修事業：ホスピスから学ぶホスピタリティ研修委員会委員（1年間、認定特定非営利活動法人ファミリーハウスボランティア、認定特定非営利活動法人ファミリーハウス）／臨地実習指導者研修：臨地実習指導者研修（5月26日、臨地実習指導者、市立稚内病院看護部）／看護部院内研修：看護過程ミドル、看護研究の基礎（6月15日、7月10日、看護師、KKR札幌医療センター看護部）／臨床指導者研修：臨床指導者研修Ⅰ（5月8日、臨床指導者、札幌市病院局市立札幌病院看護部）／新人看護職員研修における実地指導者研修：自部署における新人看護職員研修の立案と評価（6月7日、6月14日、札幌医科大学付属病院看護部）／看護学教育FDマザーマップ開発：看護学教育FDマザーマップ開発専門家会議委員（3年間、千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター）

山本 勝則

＜学術論文＞1. 高齢者介護施設における感染管理－管理者への実態調査－（共著、平成25年3月、熊本保健科学大学、10号、pp. 25-34）／2. 精神看護学におけるシミュレーション教育の概観と実践－精神看護学トライアルOSCEから構造化されたシミュレーション教育への移行－（共著、平成25年3月、札幌市立大学、7巻、1号、pp. 53-59）

＜学会発表＞1. 精神看護におけるシミュレーション教育－看護学生の患者イメージと態度への影響－（共同、平成24年6月、日本精神保健看護学会第22回学術集会）／2. 交流集会Ⅴ安楽を提供するマッサージー看護師による実践の報告（共同、平成24年7月、第38回日本看護研究学会学術集会）／3. 高齢者介護施設における感染管理－管理者への実態調査－（共同、平成24年8月、第16回日本看護管理学会年次大会）／4. 患者理解の意味（単独、平成24年9月、日本応用心理学会第79回大会）／5. 交流集会K26就業力を高めるポートフォリオの取り組み～「SCUラーニングポートフォリオ」が目指すものとその実践報告（共同、平成24年12月、第32回日本看護科学学会学術集会）

＜論文査読・学会抄録査読＞1. 応用心理学研究（論文（全国学会）、1件、日本応用心理学会）／2. SCU JOURNAL（論文（大学紀要）、1件、札幌市立大学）／3. 日本看護研究学会第39回学術集会（抄録（全国学会）、6件、日本看護研究学会）

＜所属学会・研究会等＞日本看護科学学会／日本看護研究学会／日本精神保健看護学会／日本看護管理学会／日本赤十字看護学会／日本病院・地域精神医学会／日本公衆衛生学会／日本応用心理学会／日本行動分析学会／日本発達心理学会

<専門職支援・セミナー講師等>研修会「気持ち良い体験をしよう」：「気持ち良いとリラックス」
(平成24年12月6日、看護師、北海道看護協会小樽支部)

大野 夏代

<学術論文>1. 看護OSCEにおける学生の自己効力感と関連要因の検討（共著、平成24年4月、日本看護学会論文集看護教育2012、pp. 10-13）

<学会発表>1. 卒業大学主催による往還型研修の取り組みと評価（第1報）－入職後3ヶ月時のメンタルヘルス（共同、平成24年8月、日本看護学教育学会第22回学術集会）／2. 卒業大学主催の往還型研修の取り組みと評価（第2報）－卒後1年目を対象に－（共同、平成24年8月、日本看護学教育学会第22回学術集会）／3. 卒業大学主催による往還型研修の取り組みと評価（第3報）－卒後2年目を対象に－（共同、平成24年8月、日本看護学教育学会第22回学術集会）／4. 交流集会V：安楽を提供するマッサージ看護師による実践の報告（共同、平成24年7月、第38回日本看護研究学会学術集会）／5. モンゴル国における技術協力「先天性股関節脱臼の予防と早期発見」事業に関わる視察（共同、平成24年9月、国際看護研究会第15回学術集会）／6. 静脈内留置針を刺入する熟練看護師の手の動作と視線（共同、平成24年9月、第11回日本看護技術学会）／7. 静脈内留置針を刺入する熟練看護師の主観的難易度と上肢の動作（共同、平成24年9月、第11回日本看護技術学会）

<所属学会・研究会等>日本看護科学学会／日本看護研究学会／国際看護研究会／日本看護学教育学会／国際看護交流協会／日本国際保健医療学会／日本渡航医学会／日本人間工学会／日本人間工学会看護人間工学部会／看護における指圧マッサージ研究会

<地域貢献諸活動>看護師によるマッサージボランティア活動（4月12日・19日、6月14日・21日、7月19日・25日、8月1日・22日・29日、9月5日・26日、11月7日、12月5日・12日、1月9日・30日、2月6日・13日、3月6日・13日・27日、手稲溪仁会病院ボランティア、手稲溪仁会病院ボランティア）

<専門職支援・セミナー講師等>新入職看護職員の面談：ほっとライン（6月22日・6月27日・12月13日・12月14日、看護師、IMSグループ）／勤医協病院研究指導：札幌市立大学研究支援（8月8日・3月25日、看護師、勤医協病院）／「看護師のための指圧マッサージ実践講座」の開催方法とコンフォート理論について・看護場面に活用したいマッサージ実技の講習：「看護師のための指圧マッサージ実践講座」の開催方法とコンフォート理論について・看護場面に活用したいマッサージ実技の講習（11月3日・1月12日、看護師、日本統合医療学会看護部会北海道地区研究会）

貝谷 敏子

<学術論文>1. Reliability and validity of the Chinese version of DESIGN-R, an assessment instrument for pressure ulcers.（共著、平成25年2月、Ostomy Wound Manage、59巻、2号、pp. 36-43）／2. Evaluation of skin temperature, humidity, and comfort of two types of absorbent products for urinary incontinence.（共著、平成25年1月、J Jpn WOCM、16巻、4号、pp. 345-352）／3. Predictive validity of granulation tissue color measured by digital image analysis for deep pressure ulcer healing : a multicenter prospective cohort study.（共著、平成25年2月、Wound Repair Regen.、21巻、1号、pp. 25-34）／4. 褥瘡予防・管理ガイドライン（共著、平成24年6月、日本褥瘡学会誌、14巻、2号、pp. 165-226）

<著書>1. 褥瘡ガイドブック（共著、平成24年9月、照林社、pp. 28-80）／2. 在宅褥瘡予防・治療ガイドブック第2版（共著、平成24年9月、照林社、pp. 110-111）

<学会発表>1. 皮膚・排泄ケア認定看護師が実施する陰圧閉鎖療法 of 効率性の評価（共同、平成24年12月、第42回日本創傷治癒学会）／2. COST UTILITY ANALYSIS OF WOUND, OSTOMY and CONTINENCE NURSES PERFORMING ADVANCED WOUND MANAGEMENT FOR PRESSURE ULCERS（共同、平成24年9月、4th Congress of the World Union of Wound Healing Societies（WUWHS2012））／3. A qualitative study of morphological characteristics and wound healing process in venous leg ulcers.（共同、平成24年9月、4th Congress of the World Union of Wound Healing Societies（WUWHS2012））

＜学会シンポジウム＞1. 褥瘡重症化予防・治癒促進プロトコルの効率性評価－マルコフモデルを用いた分析－（単独、平成25年2月、日本看護評価学会）

＜論文査読・学会抄録査読＞1. 第16回日本看護管理学会年次大会抄録集（抄録（全国学会）、5件、日本看護管理学会）／2. 第22回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会抄録集（抄録（全国学会）、5件、日本創傷・オストミー・失禁管理学会）

＜所属学会・研究会等＞日本褥瘡学会／日本創傷・オストミー・失禁管理学会／看護科学学会／日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会／創傷治癒学会／医療経済学会／看護理工学会

菊地 ひろみ

＜学術論文＞1. Structural equation modeling of factors contributing to quality of life in Japanese patients with multiple sclerosis（共著、平成25年2月、Bio Med Central Neurology、13巻、10号）

＜著書＞1. 在宅看護学講座（共著、平成24年12月、ナカニシヤ出版、pp. 29-31、pp. 35-41、pp. 75-82、pp. 147-154）／2. 多発性硬化症と視神経脊髄炎（共著、平成24年10月、中山出版、pp. 288-291）／3. 臨床病態学第2版（共著、平成24年10月、ヌーヴェルヒロカワ、pp. 133-143）

＜学会発表＞1. Possible interventions for improving quality of life in patients with multiple sclerosis（共同、平成24年4月、64th AAN Annual Meeting）／2. 在宅看護学実習における学生の技術経験の経年的変化（共同、平成24年8月、日本看護学教育学会第22回学術集会）／3. 積雪寒冷地における遠隔看護（E-KANGO）のシミュレーションと評価第1報 外来患者による評価（共同、平成24年9月、日本ルーラルナーシング学会第7回学術集会）／4. 積雪寒冷地における遠隔看護（E-KANGO）のシミュレーションと評価第2報 病院看護師による評価（共同、平成24年9月、日本ルーラルナーシング学会第7回学術集会）／5. 中重度療養者の在宅療養継続に対する療養通所介護の役割（共同、平成24年11月、日本在宅看護学会第2回学術集会）／6. 就業力を高めるポートフォリオの取り組み ～「SCUラーニングポートフォリオ」が目指すものとその実践報告（共同、平成24年12月、日本看護科学学会第32回学術集会）／7. 療養通所介護利用が在宅中重度療養者の家族のQOLに及ぼす影響 SEIQoL-DWによるQOLの検討（共同、平成25年3月、第17回日本在宅ケア学会）／8. Perceptions of and Experiences in Home Healthcare for Older adults among University Students in Japan and Korea（共同、平成24年7月、9th International Conference of the Global Network of WHO Collaborating Centers for Nursign and midwifery）

＜論文査読・学会抄録査読＞1. 札幌市立大学研究論文集（論文（大学紀要）、1件）

＜所属学会・研究会等＞日本看護科学学会／日本看護学教育学会／日本難病看護学会／日本在宅ケア学会／日本在宅看護学会／日本ルーラルナーシング学会／日本プライマリケア学会／北海道公衆衛生学会／日本遠隔医療学会／看護総合科学研究会

＜専門職支援・セミナー講師等＞訪問看護スキルアップ講座（全2回）の企画・準備・運営：糖尿病療養者の在宅ケア、認知症と環境（平成23年5月、11月、訪問看護師、札幌市立大学）／留萌地域在宅医療推進講座：留萌地域在宅医療推進講座における講義及び事例検討の助言（平成25年2月13日、訪問看護師）

＜マスメディア掲載実績＞神経難病のQOL研究の掲載（平成24年7月、北海道医療新聞）

清水 光子

＜学術論文＞1. 管学民の連携による地域に根ざした健康教育演習の実際と学習効果（共著、平成25年3月、札幌市立大学研究論文集、7巻、1号、pp. 11-22）／2. ソーシャル・キャピタルと健康に関する研究の動向（共著、平成25年3月、北海道公衆衛生雑誌、26巻、2号、pp. 39-47）／3. 看護OSCE受験者の心理的反応および学習意欲の関係と課題（共著、平成24年4月、日本看護学会論文集、42回、pp. 10-13）

＜学会発表＞1. 育児支援を必要とする家族を対象にした保健師のアセスメントと判断の視点（共同、平成24年6月、日本地域看護学会第15回学術集会）／2. 保健師の育児支援を支える体制の検討（共同、平成25年1月、第1回日本公衆衛生看護学会学術集会）

＜論文査読・学会抄録査読＞1. 札幌市立大学研究論文集（論文（大学紀要）、1件）

＜所属学会・研究会等＞日本公衆衛生学会／北海道公衆衛生学会／北海道公衆衛生セミナー／日本地域看護学会／日本看護科学学会／日本公衆衛生看護学会

＜地域貢献諸活動＞中央図書館元気カフェワークショップ（4月17日・5月14日・2月1日、札幌市保健福祉局障がい保健福祉部、札幌市保健福祉局 障がい保健福祉部）／さっぽろぐるりウォーキングマップワークショップ（11月19日・12月3日・12月8日・1月21日・2月9日、札幌市保健福祉局保健所、札幌市保健福祉局 保健所）／札幌市中央区社会福祉協議会評議員（社会福祉法人 札幌市中央区社会福祉協議会）／中央図書館元気カフェ整備事業（4月17日・5月14日・2月1日、札幌市保健福祉局障がい福祉部、13名）／ウォーキング推進キャンペーン事業（11月19日・12月3日・12月8日・1月21日・2月9日、札幌市保健福祉局保健所、17名）

＜社会における活動＞札幌市地域包括支援センター運営協議会委員（札幌市）／札幌市桑園地区民生児童委員準備会委員（札幌市）／札幌市地域包括支援センター運営事業受託法人選定委員会の委員（札幌市）／社会福祉法人 札幌市中央区社会福祉協議会評議員

＜専門職支援・セミナー講師等＞保健師活動を魅せるためのプレゼンテーション～事業・業務成果を保健師活動に活かすために～」：保健師活動を魅せるためのプレゼンテーション～事業・業務成果を保健師活動に活かすために～」（平成25年3月1日、就業年数4年目以上の保健師、全国保健師長会札幌支部）

＜マスメディア掲載実績＞中央図書元気カフェ整備事業（平成25年2月2日、北海道新聞、朝刊）／ウォーキング推進キャンペーン事業（平成25年2月14日、北海道新聞、朝刊）／さっぽろ散歩「ぐるりウォーキングマップ」の紹介（平成25年2月23日、STVラジオ 2月23日 11：30～）

菅 原 美 樹

＜著書＞1. 系統看護学講座 救急看護学 第5版（共著、平成25年1月、医学書院、pp. 71-77）

＜学会発表＞1. JTAS開発最前線 CTASからJTASへの工程・全ての救急医療機関への展開と課題（共同、平成24年4月、第15回日本臨床救急医学会総会学術集会）／2. 就業力を高めるポートフォリオの取り組み「SCUラーニングポートフォリオ」が目指すものとその実践（共同、平成24年11月、第32回日本看護科学学会学術集会）／3. 大学と病院の人材育成連携活動の長期的・組織的影響の記述（共同、平成24年8月、第16回日本看護管理学会年次大会）

＜論文査読・学会抄録査読＞1. 札幌市立大学研究論文集第7巻第1号（論文（大学紀要）、1件、札幌市立大学）／2. 日本クリティカルケア看護学会誌第9巻1号（論文（全国学会）、1件、日本クリティカルケア看護学会）／3. 日本循環器看護学会誌（論文（全国学会）、1件、日本循環器看護学会）／4. 第16回日本看護管理学会年次大会講演抄録集（抄録（全国学会）、5件、日本看護管理学会）／5. 第8回日本クリティカルケア看護学会学術集会プログラム・抄録集（抄録（全国学会）、4件、日本クリティカルケア看護学会）／6. 第14回日本救急看護学会プログラム・抄録集（抄録（全国学会）、4件、日本救急看護学会）

＜所属学会・研究会等＞日本クリティカルケア看護学会／日本救急看護学会／日本看護科学学会／日本循環器看護学会／日本看護学教育学会／日本看護研究学会／日本災害看護学会／日本集中治療医学会／日本臨床救急医学会

＜地域貢献諸活動＞監事：委員会活動が適切に実施されているか監査、会計監査（平成24年9月8日・1日、日本救急看護認定看護師会）

＜専門職支援・セミナー講師等＞院内研修会の講師：フィジカルアセスメント研修会、院内急変対応：フィジカルアセスメント研修会（応用編）（11月7日・1日、看護師、北海道大野病院看護部）／評価：院内急変対応に関する 最近の知識（11月13日・1日、看護師、北海道大野病院看護部）／トリアーニナス育成研修会の運営支援：北海道JTASプロバイダーコース（4月8日・1日、看護師、日本臨床救急医学会）／北海道JTASプロバイダーコースの運営支援：トリアーニナス育成研修会（9月15～16日・2日、看護師、日本救急看護学会）

村松 真澄

<学術論文>1. Relationships between subjective assessment of oral health and medical expenses in community-dwelling elderly persons. (共著、平成24年6月、Gerontology、29巻、2号、pp. 246-252)

<調査研究報告書>1. 平成24年度科学研究費助成事業(基金)基盤C一般課題番号24593485全国の介護保険施設の口腔ケアに対する看護管理的取り組みについての実態調査(共著、平成25年3月、村松真澄、pp. 1-50) / 2. 平成24年度札幌市立大学基盤研究費全国の新生児集中治療室(NICU)の口腔ケアに対する看護管理的取り組みについての実態調査(共著、平成25年3月、村松真澄、pp. 1-25) / 3. 老人福祉センターを利用する高齢者の生活実態と主観的幸福感研究(共著、平成24年6月、坂倉恵美子)

<その他の論文>1. 口腔ケアに関する看護管理的取り組みの調査。教育、業務、歯科連携に課題(共著、平成24年4月、北海道医療新聞社ベストナース、23巻、4号、pp. 60-61) / 2. 看護師の意識の実態調査 エイラズ口腔ケアアセスメント導入前の意識(第一報)(共著、平成24年12月、北海道医療新聞社ベストナース、23巻、12号、pp. 65-67) / 3. 医療と介護ナビ2013特集3「口腔ケア」を学ぶ(単著、平成24年12月、北海道医療新聞社、22号、pp. 108-112)

<学会発表>1. 口腔ケアに関する看護管理的取り組みの実態調査介護老人福祉施設と介護老人保健施設の比較(共同、平成24年6月、第9回日本口腔ケア学会) / 2. 北海道の介護保険施設において実践されている口腔ケアに関する看護管理的取り組みの実態調査(共同、平成24年6月、第9回日本老年歯科医学学会) / 3. Relationship between subjective well-being and oral health among the elderly living in a city in Japan (共同、平成24年7月、The 9th International Conference of the Global Network of WHO) / 4. Research of the Subjective Well-being among The Users of an Elderly Citizens' Welfare Center (共同、平成24年7月、The 9th International Conference of the Global Network of WHO) / 5. Relationships between subjective well-being and self-assessed mastication ability among elderly who use an elderly citizens' welfare center (共同、平成24年7月、The BSG 2012 Keele conference BSG2012 (Keele)) / 6. 地域高齢者の口腔の主観的健康感と主観的幸福感の関連A市老人福祉センター利用者の調査(共同、平成24年7月、第17回日本老年看護学会) / 7. 健康高齢者を対象とした老年看護学実習における学生の学び-実習レポートの内容を示すキーワードの分析-(共同、平成24年8月、第22回日本看護教育学学会) / 8. データベースを活用した看護技術の自己評価力育成 -看護実践能力の育成-(共同、平成24年8月、第16回日本看護管理学会) / 9. 口腔ケア依頼用紙導入後における口腔外科受診患者の実態調査(共同、平成24年8月、第16回日本看護管理学会) / 10. 新生児集中治療室(NICU)において実践されている口腔ケアに関する看護管理的取り組みに関する実態調査(共同、平成24年8月、第17-18回日本摂食-嚥下リハビリテーション学会) / 11. 急性期病院の口腔ケア～口腔ケア院内認定制度(共同、平成24年8月、第17-18回日本摂食-嚥下リハビリテーション学会) / 12. ICU入室患者の口腔内の乾燥状態と全身状態の関係(共同、平成24年9月、第43回日本看護学会成人看護I) / 13. 切断肢再接着-皮弁術後観察の標準化について(共同、平成24年9月、第43回日本看護学会成人看護I) / 14. 『Eilers. J口腔アセスメントシート』院内のための研修とその後の実態調査(共同、平成24年10月、第14回日本医療マネジメント学会) / 15. 口腔ケアに関する看護管理的取り組みの介護保険施設間の比較(共同、平成24年10月、第71回日本公衆衛生学会) / 16. 閉じこもり高齢者のスクリーニング尺度の作成と訪問介入プログラムの開発(共同、平成24年10月、第31回日本公衆衛生学会) / 17. 口腔ケアに関する看護管理的取り組みの実態調査-新生児集中治療室の場合(共同、平成24年11月、第24回日本小児口腔外科学会) / 18. A大学卒業生の就労に対する思いの実態と大学に求めるキャリア支援(共同、平成24年11月、第32回日本看護科学学会) / 19. 積雪地における地域在住高齢者の季節別外出頻度の実態と関連要因(共同、平成24年12月、第32回日本看護科学学会) / 20. 新生児集中治療室において実践されている口腔ケアの実態調査(共同、平成24年11月、第32回日本看護科学学会) / 21. 卒業後の経験年数による職場適応力と職業適応力の到達状況(共同、平成24年11月、第32回日本看護科学学会) / 22. 卒業生と学年別OSCE及び社会人基礎力、看護者の基本姿勢との関係(共同、平成24年12月、第32回日本看護科

学会) / 23. Frequency of going-out by season and related factors for community-dwelling elderly people in heavy snow areas (共同、平成25年3月、ICCHNR Conference 2013 (The International Collaboration for Community Health Nursing Research) 国際地域看護学会エジンバラ大会)

<学会研究発表> 1. Utilization and Practice of an Oral Assessment Guide – Aim for oral care with patient participation – (単独、平成25年2月、高知大学医学部附属病院がんセンターThe 2nd Hawaii International Workshop) / 2. 食物の入り口である口腔の衛生と食べられる口を学びおいしく食べられる食事を考えよう (単独、平成25年2月、全国訪問栄養食時指導研究会北海道ブロック) / 3. 看護師の意識の実態調査～エイラズ口腔ケアアセスメント導入前の意識～第1報 (平成24年7月、北海道看護協会第3支部看護研究発表会)

<論文査読・学会抄録査読> 1. 日本摂食嚥下リハビリテーション学会誌 (論文 (全国学会)、1件、日本摂食嚥下リハビリテーション学会)

<所属学会・研究会等> 日本看護科学学会会員 / 日本看護研究学会会員 / 日本歯科医学会会員 / 北海道歯学会会員 / 日本公衆衛生学会会員 / 日本口腔ケア学会理事 / 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会評議員 / 日本老年看護学会会員 / 日本がん看護学会会員 / 日本口腔科学学会会員 / 北海道口腔ケア研究会会員 / 日本看護管理学会会員 / 日本医療・病院管理学会会 / 日本医療マネジメント学会 / 北海道プライマリーケア研究会会員 / British Society for Gerontology

<社会における活動> 上川中部地域歯科保健推進協議会・旭川口腔ケア普及会 幹事 / 科学研究費専門員 (独立行政法人日本学術振興会) / 北海道看護協会札幌第一支部委員長6月2日まで

<地域貢献諸活動> 1. 健康教育の企画運営、学生参加事業調整担当、地域交流ボランティア同好会actの学生と活動 (9月9日、ミニ大通りお散歩祭り実行委員会、ミニ大通りお散歩祭り実行委員会) / 2. 地域交流ボランティア同好会actの学生と住民への口腔の健康教育の企画運営 (10月21日、NPO法人炭鉱の記憶推進事業団、奔別アートプロジェクト) / 3. 地域交流ボランティア同好会actの学生と健康まつりのスタッフとしてボランティア (7月25日、札幌市福祉事業団、はつらつ健康まつり)

<専門職支援・セミナー講師等> 企画運営：第11回北海道口腔ケアセミナー (5月12日、医療職、北海道口腔ケア研究会) / 看護部現任教育口腔ケア院内テクニカルコース研修会：口腔ケアと看護 (7月24日、看護師、砂川市立病院) / 看護部看護研究支援：看護部看護研究支援 (24年度1年間、看護師、徳洲会病院) / 医療安全：安心・安全・快適口腔ケア (8月28日、病院職員、鈴木病院) / 看護部研修会：口腔アセスメントおよび口腔ケアマニュアルについて (7月28日、看護師、科学研究費) / 上川南支部研修会の口腔ケア研修会講師：口腔ケアの必要性と実践 (10月20日、看護師、北海道看護協会) / 十勝口腔フォーラム2012：口腔ケアアセスメントOAGを使った患者参加型口腔看護 (7月21日、看護師、) / 札幌口腔フォーラム2012：口腔ケアアセスメントOAGを使った患者参加型口腔看護 (7月22日、看護師、) / 看護部研究支援：口腔ケアの研究支援 (6月11日、看護師、札幌中央病院) / 宗谷地域リハビリテーション広域支援センター研修会：医療と介護をつなぐ口腔ケアと食支援 (11月17日、看護師、介護職、北海道宗谷総合振興局) / 食べる支援の実践のために栄養士に期待することを看護師の立場から述べた：実践!口腔ケア!栄養士に期待する3つの事 (4月14日、栄養士、北海道栄養士会) / 急性期病院における口腔ケアと地域連携について：急性期病院における口腔ケアと地域との連携 (3月14日、看護師、歯科医師等、岐阜県総合医療センター) / 日本口腔看護研究会世話人、潜在看護師復職支援講習会講師 (9月10日 札幌市立大学看護学部)

<マスメディア掲載実績> 口腔機能向上の健口体操について出演2月20日 (2月20日、UHB「さあトークだよ」2月20日に放送) / はつらつ健康まつりでボランティア (札幌市福祉事業団主催事業) (9月号、ベストナース9月号) / ミニ大通りお散歩まつりで認知症の予防目指す舌の体操を紹介 (12月号、ケア12月号) / 老年看護学概論でゲストスピーカーをされた高齢者の記事 (6月9日、北海道新聞、朝刊) / 高齢者と学生合同のファッションショーを開催 (学部連携演習) (12月1日、ベストナース12月号)

守 村 洋

<学術論文> 1. 精神看護学におけるシミュレーション教育の概観と実践 (共著、平成25年3月、札幌市立大学研究論文集、7巻、1号、pp. 53-59) / 2. 多職種でかかわる自殺未遂者ケア：ポイントと課題

看護師の立場から（単著、平成24年7月、救急医学、36巻、7号、pp. 822-825）／3. 自殺未遂者への支援～ツール開発とガイドラインの活用～（単著、平成24年8月、心の健康、129号、pp. 31-35）

＜著書＞1. 救急医療における精神症状評価と初期診療PEECガイドブック（共著、平成24年6月、へるす出版、pp. 105-112）

＜調査研究報告書＞1. 救命救急センターへ搬送された自殺企図患者の退院後ケアに関する研究（平成25年3月、身体疾患を合併する精神疾患患者の診療の質の向上に資する研究、pp. 93-103）／2. 札幌市における児童精神医療に関する調査結果報告（平成25年3月、システム環境研究所）

＜学会発表＞1. 自殺総合対策大綱改定への提言（共同、平成24年6月、第15回日本臨床救急医学会総会－学術集会）／2. 札幌市における2次および3次救急医療機関へ搬送される自殺未遂者の現状（単独、平成24年9月、第36回日本自殺予防学会）

＜地域貢献諸活動＞札幌市権利擁護審査会委員長、札幌市社会福祉総合センター管理運営委員会委員長（社会福祉法人札幌市社会福祉協議会）

＜社会における活動＞北海道精神医療審査会（北海道）／北海道精神保健福祉審議会（北海道）／札幌市精神保健福祉審議会（札幌市）

＜専門職支援－セミナー講師等＞平成24年度専門研修「自殺未遂者研修」：自殺未遂者対策の現状と対応の実際について（6月14日、保健師（北海道）、北海道）／平成24年度室蘭保健所「うつ－自殺予防研修」：自殺に傾く人の心理を理解し対応を学ぶ（8月19日、保健師、他（胆振管内）、北海道胆振振興局）／医療情報技師検定試験：医療情報技師検定試験（8月26日、医療情報技師受験者、日本医療情報学会）／平成24年度生きがいきづくりクリエイター養成講座、平成24年度上川地域に理解され支持される社協づくり研修、平成24年度上川地域地域福祉生活支援センター生活支援員研修会研修会およびケース検討会の講師－助言者：職場におけるメンタルヘルス等の対策について（9月1日、上川管内社協職員等、北海道社会福祉協議会）／ストレスマネジメント研修：看護者のストレスマネジメント（10月1日、名寄市立総合病院看護師、名寄市立総合病院）／平成24年度八雲保健所自殺対策連絡会議の講師及び助言者：自殺未遂者の現状と対応の実際について（10月15日、保健師、他（渡島管内）、北海道渡島総合振興局）／知的障がい者－精神障がい者を支える制度や機関の役割について（11月19-20日、生活支援員、他、北海道社会福祉協議会）／平成24年度HEC研修：PEECに学ぶ精神科救急（12月6日、江別消防署、他、HEC）／日常生活自立支援事業研修：日常生活自立支援事業（3月6日、12月、社協職員、札幌市社会福祉協議会）／研究支援：研究支援（通年、勤医協病院看護師、勤医協病院）／平成24年度旭川自殺対策ネットワーク会議研修会：自殺未遂者支援の現状と対応の実際について（3月26日、保健師、他（旭川市）、旭川保健所）

山田 典子

＜学術論文＞1. 官学民の連携による地域に根差した健康教育演習の実際と学習効果（共著、平成25年3月、札幌市立大学研究論文集、7巻、1号、pp. 11-22）／2. 日本におけるソーシャル・キャピタルと健康に関する研究の動向（共著、平成25年3月、北海道公衆衛生学雑誌、26巻、2号、pp. 39-47）

＜著書＞1. ナーストリアージ（ファミリーバイオレンス分担）（共著、平成24年4月、中山書店、pp. 170-185）

＜調査研究報告書＞1. 「性暴力被害者支援に対する急性期看護ケア実践モデルの開発」報告書分担執筆（共著、平成25年3月、茨城県立医療大学、pp. 68-70）

＜その他の論文＞1. THE TRANSMISSION OF INFORMATION IN THE IMMEDIATE AFTERMATH OF THE GREAT EAST JAPAN EARTHQUAKE BY THE ADMINISTRATION IN THEIR EFFORTS TO ESTABLISH SAFE COMMUNITIES（共著、平成24年10月、Journal of Injury Prevention 2012、20巻、1号、p. 154）／2. セーフコミュニティに取り組む行政の震災時の情報伝達状況（共著、平成24年8月、日本災害看護学会誌、14巻、1号、p. 271）／3. 生活行動の難易度の問診に基づく外傷危険者のスクリーニングについて。（共著、平成24年10月、日本ヒューマンケア科学会誌、5巻、2号、p. 127）

＜学会発表＞1. セーフコミュニティに取り組む行政の震災時の情報伝達状況（単独、平成24年7月、第14回日本災害看護学会年次大会 ウィンクあいち 愛知県名古屋市）／2. 生活行動の難易度に関する高齢者の認識と外傷受診の関連について（共同、平成24年9月、日本行動計量学会第40回大会）／3. The transmission of information in the immediate aftermath of the Great East Japan Earthquake by the administration in their efforts to establish safe communities.（共同、平成24年10月、11th World Conference on Injury Prevention and Safety Promotion、Michael Fowler Centre,Wellington,NZ）／4. 生活行動の難易度の問診に基づく外傷危険者のスクリーニングについて（共同、平成24年10月、第5回日本ヒューマンケア科学学会年次大会 青森県立保健大学 青森県青森市）／5. セーフティプロモーションの担い手である市民ボランティアの変化（共同、平成25年1月、第1回公衆衛生看護学会学術集会 首都大学東京 東京都荒川区）

＜学会研究発表＞1. 学習満足度とストレの関連について（共同、青森県保健医療福祉研究会）

＜論文査読・学会抄録査読＞1. 札幌市立大学研究論文集（論文（大学紀要）、1件）／2. 日本災害看護学会誌（論文（全国学会）、1件、日本災害看護学会）

＜所属学会・研究会等＞日本看護科学学会／日本公衆衛生学会／日本公衆衛生看護学会／日本ヒューマンケア科学学会／日本セーフティプロモーション学会／母性衛生学会／日本子ども虐待防止学会／日本健康教育学会／日本災害看護学会／国際フォレンジックナース学会

＜地域貢献諸活動＞地域の活動への参加調整（平成24年9月1日、桑園地区連合町内会、桑園ボランティア）／性暴力被害者支援の情報ネットワーク（平成24年11月、札幌市男女共同参画課、さくらこ）

＜マスメディア掲載実績＞桑園ボランティア（8月24日、北海道新聞掲載、朝刊）

吉川 由希子

＜著書＞1. 小児看護学技術 改訂第2版（共著、平成24年11月、南江堂、pp. 2-44）

＜その他の論文＞1. 小児看護学におけるeラーニング自己学習教材の作成と活用の実例（共著、平成24年6月、小児看護、35巻、6号、pp. 786-789）／2. 看護OSCE（共著、平成24年8月、小児看護、35巻、9号、pp. 1265-1269）／3. 看護OSCE【実践例】看護基礎巨育における看護OSCEの展開 小児看護学課題を例に（共著、平成24年9月、小児看護、35巻、10号、pp. 1407-1413）／4. 看護学生の教育を再考する 演習の工夫 看護技術教育の工夫（共著、平成25年2月、小児看護、36巻、2号、pp. 144-149）

＜学会発表＞1. Concept Analysis of Nursing Competency from Japanese Perspective（共同、平成24年7月、Sigman Theta Tau International's 23rd International Nursing）／2. 就業力を高めるポートフォリオの取り組み～SCUラーニングポートフォリオが目指すものとその実践報告（共同、平成24年11月、第32回日本看護科学学会学術集会）

＜学会研究発表＞1. 北海道の訪問看護ステーションにおける医療的ケアのある小児への訪問活動の実態調査（共同、平成24年9月、在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク第18回全国の集いin高知）

＜論文査読・学会抄録査読＞札幌市立大学研究論文集 第6巻第1号（論文（大学紀要）、1件）

＜所属学会・研究会等＞小児保健学会／日本看護研究学会／日本家族看護学会／日本小児看護学会／日本看護科学学会／日本学校保健学会／日本母性衛生学会／日本助産学会／日本看護学教育学会／全国病弱教育研究会

＜専門職支援・セミナー講師等＞看護研究研修講師：看護研究導入コース（平成24年8月14日、看護職員、JA北海道厚生連札幌厚生病院）

太田 晴美

＜実務関係報告書＞1. 東日本大震災活動報告－JMATと地域保健医療機関へ“つなぐ”支援活動－（共著、平成24年6月、日本集団災害医学会誌、17巻、1号、pp. 273-280）

＜学会発表＞1. 災害支援に派遣した看護師のメンタルサポートの取り組み（共同、平成24年7月、日本災害看護学会第14回年次大会）／2. 被災地での災害支援を終えた看護師の行動－思い－勤務に

戻った看護師へのインタビューから－（共同、平成24年7月、日本災害看護学会第14回年次大会）／
3. 災害看護に取り組む看護師支援に関するアクションリサーチに参加して（共同、平成24年7月、日本災害看護学会第14回年次大会）／4. キャリア教育の体系的支援推進の試み－大学教職員はすべてキャリア支援担当者（共同、平成24年8月、日本看護学教育学会第22回学術集会）／5. ワークショップ参加後の自己の意識と役割の変化－災害看護に取り組む看護支援に関するアクションリサーチ（共同、平成25年1月、第18回日本集団災害医学会学術集会）／6. 災害訓練タイマーの開発（ver. 1）（共同、平成25年1月、第18回日本集団災害医学会学術集会）／7. 災害看護に取り組む看護師支援に関するアクションリサーチ－ワークショップ運営課題と研究者の学び－（共同、平成25年1月、第18回日本集団災害医学会学術集会）／8. 北海道エマルゴ協会主催 第1回エマルゴ公認コースの実施結果と課題（共同、平成25年1月、第18回日本集団災害医学会学術集会）

<論文査読・学会抄録査読>1. 日本災害看護学会誌（論文（全国学会）、1件、日本災害看護学会）／2. 日本看護管理学会（抄録（全国学会）、10件、第16回日本看護管理学会）

<所属学会・研究会等>日本集団災害医学会／日本災害看護学会／日本看護管理学会／日本医療マネジメント学会／日本看護科学学会／日本看護教育学学会／臨床救急医学会

<専門職支援・セミナー講師等>セミナーインストラクター：第一回エマルゴベーシックインストラクターコース（4月7日、道内医療関係者、日本災害医療教育研修会－北海道エマルゴ協会）／災害看護講師：第一回エマルゴコース（4月7日、道内医療関係者、北海道エマルゴ協会）／セミナーインストラクター：北海道看護協会苫小牧支部研修「災害看護」（9月20-21日、道内看護職者、北海道看護協会苫小牧支部）

神 島 滋 子

<著書>1. ナーシング・グラフィカ成人看護学⑥リハビリテーション看護（5章6節）（共著、平成25年3月、メディカ出版、pp. 121-132）

<学会発表>1. 卒業大学主催による往還型研修の取り組みと評価（第3報）－卒後2年目を対象に（共同、平成24年8月、日本看護学教育学会第22回学術集会）／2. 卒業大学主催による往還型研修の取り組みと評価（第2報）－卒後1年目を対象に（共同、平成24年8月、日本看護学教育学会第22回学術集会）／3. 卒業大学主催による往還型研修の取り組み（第1報）－入職後3ヶ月時のメンタルヘルス（共同、平成24年8月、日本看護学教育学会第22回学術集会）／4. 大学と病院の人材育成連携活動の長期的・組織的影響の記述（共同、平成24年8月、第16回日本看護管理学会）

<論文査読・学会抄録査読>1. 日本看護管理学会（抄録（全国学会）、3件、第16回日本看護管理学会）

<所属学会・研究会等>日本看護科学学会／日本看護研究学会／日本脳神経看護研究学会／日本クリティカルケア看護学会／日本更年期医学会／日本慢性看護学会／日本高次脳機能障害学会／国際リハビリテーション看護研究会／日本救急看護学会／日本看護学教育学会／日本看護管理学会

<地域貢献諸活動>「パーソナルノート（仮）」の準備委員（脳外傷友の会コロポックル）

<専門職支援・セミナー講師等>回復期リハビリテーション病棟他への看護活動への指導（北海道済生会小樽病院）／研究発表への指導（市立札幌病院）／看護研究発表会講師（市立札幌病院）

櫻 井 蘭 子

<学術論文>1. 官学民の連携による地域に根ざした健康教育演習の実際と学習効果（共著、平成25年3月、SCU Journal of Design & Nursing 札幌市立大学論文集、7巻、1号、pp. 11-22）／2. 日本におけるソーシャル・キャピタルと健康に関する研究の動向（共著、平成25年3月、北海道公衆衛生学雑誌、26巻、2号、pp. 39-47）

<学会発表>1. 卒業後の経験年数による職場適応力と職業適応力の到達状況（共同、平成24年12月、第32回日本看護科学学会学術集会）／2. データベースを活用した看護技術の自己評価力育成－看護実践能力の育成－（共同、平成24年8月、第16回日本看護管理学会学術集会）／3. A大学卒業生の就労に対する思いの実態と大学に求めるキャリア支援（共同、平成24年12月、第32回日本看護科学

学会学術集会) / 4. 卒業生と学年別OSCE及び社会人基礎力、看護者の基本姿勢との関係 (共同、平成24年12月、第32回日本看護科学学会学術集会)

<学会シンポジウム> 1. 産業看護部会企画 特別研修会 (第22回日本産業衛生学会 産業医・産業看護全国協議会)

<所属学会・研究会等> 日本産業衛生学会 / 日本看護科学学会 / 日本看護研究学会 / 日本産業精神保健学会 / 日本精神保健看護学会 / 日本公衆衛生学会 / 日本地域看護学会 / 北海道公衆衛生学会

<地域貢献諸活動> 北海道産業看護研修会 (10月6日、日本産業衛生学会北海道地方会看護部会) / 実務研修会 (1月29日、日本産業衛生学会北海道地方会看護部会)

<社会における活動> NPO法人こころ 理事

<専門職支援・セミナー講師等> 医療従事者を対象として、メンタルヘルス問題 (特にうつ病の予防～復職) への対処方法に関する講演会の企画・運営: 『臨床現場のうつ～予防から復職まで』 (5月24日、医療従事者、NPO法人こころ)

田中 広美

<著書> 1. カンファレンスで根付かせる看護倫理 (共著、平成24年5月、日総研、pp. 11-17)

<学会発表> 1. 看護系書籍にみる注射針のプロテクターの取り扱いの現状と課題 (共同、平成24年8月、日本看護管理学会第16回年次大会) / 2. 注射の実施における露出した針の取り扱いに関する認識調査 (共同、平成24年9月、日本看護技術学会第11回学術集会) / 3. 注射の実施における露出した針の取り扱いに関する実態調査 (共同、平成24年9月、日本看護技術学会第11回学術集会) / 4. 看護大学における就業前スキルアップトレーニングの効果の検証 (共同、平成24年9月、日本看護技術学会第11回学術集会)

<論文査読・学会抄録査読> 1. 札幌市立大学研究論文集7 (1) (論文 (大学紀要)、1件) / 2. 日本看護学会論文集 (看護総合) (抄録 (全国学会)、10件、日本看護学会)

<所属学会・研究会等> 日本看護科学学会 / 日本看護学教育学会 / 日本看護研究学会 / 日本看護技術学会 / 日本看護歴史学会 / 日本看護管理学会

<専門職支援・セミナー講師等> 病棟での指導11回、中間発表会助言者 (合計12回): 勤医協西区病院 研究指導 (平成24年5月～2013年3月、看護師、札幌市立大学大学と病院の連携協力) / 北海道専任教員養成講習会 7回: 看護研究方法演習 (7月1日～8月30日・2ヶ月、専任教員・看護師、北海道看護協会) / 移動・移乗の基本的技術 講習会 (羽幌病院): 移動・移乗の基本的技術 講習会 (11月28日・1日、看護職、北海道自治体病院協議会)

原井 美佳

<学術論文> 1. 女性高齢者の尿失禁と関連する体重などの要因の断面研究 (共著、平成25年2月、日本公衆衛生雑誌、60巻、2号、pp. 79-86)

<その他の論文> 1. 「寒冷地に居住してきた高齢女性の尿失禁リスク要因の解明」 (共著、平成24年10月、日本老年泌尿器科学雑誌、25巻、p. 121)

<学会発表> 1. 前期高齢者である女性の加齢に伴う尿失禁有訴率の変化 (共同、平成24年5月、第25回日本老年泌尿器科学会) / 2. Research of the subjective well-being among the users of Elderly Citizens' Welfare Centers. (共同、平成24年6月、The 9th International Conference of the Global Network of WHO.) / 3. Relationships between Subjective well-being and Subjective oral health of the user of Elderly Citizens' Welfare Center. (共同、平成24年6月、The 9th International Conference of the Global Network of WHO.) / 4. The transition of a prevalence rate of Urinary Incontinence on elderly women in northern Japan. (共同、平成24年6月、The 9th International Conference of the Global Network of WHO.) / 5. 地域高齢者の口腔の主観的健康と主観的幸福感との関連A市老人福祉センター利用者の調査 (共同、平成24年6月、日本老年看護学会第16回学術集会) / 6. Relationships between Subjective well-being and self-assessed mastication ability of the user of Elderly Citizens' Welfare Center (共同、平成24年8月、British Society of Gerontology) /

7. 健康高齢者を対象とした老年看護学実習における学生の学び－実習レポートの内容を示すキーワードの分析－（共同、平成24年8月、日本看護学教育学会第22回学術集会）／8. Secular change of prevalence rate of urinary incontinence and effect of pelvic floor muscle exercise on elderly women in northern Japan. （共同、平成24年10月、ICS2012 42nd Annual meeting of the International Continence Society）／9. 高齢女性の尿失禁有病率の推移とリスク要因の解明（共同、平成24年10月、第71回日本公衆衛生学会総会）／10. 積雪地における地域在住高齢者の季節別外出頻度の実態と関連要因の検討（共同、平成24年10月、第71回日本公衆衛生学会総会）／11. 介護保健施設における口腔ケアに関する看護管理的取り組みの実態（共同、平成24年10月、第71回日本公衆衛生学会総会）／12. 積雪地における地域在住高齢者の季節別外出頻度の実態と関連要因（共同、平成24年12月、第32回日本看護科学学会学術集会）／13. Frequency of going-out by season and related factors for community-dwelling elderly people in heavy snow areas（共同、平成25年3月、ICCHNR Conference 2013（The International Collaboration for Community Health Nursing Research）国際地域看護学会エジンバラ大会）／14. 通常歩行時における身体の振動解析（共同、平成24年12月、第13回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会）

＜論文査読・学会抄録査読＞1. 第16回日本看護管理学会年次大会講演抄録集（抄録（全国学会）、10件、日本看護管理学会）

＜所属学会・研究会等＞日本老年看護学会／日本看護管理学会／日本看護科学学会／日本看護学教育学会／日本公衆衛生学会／愛知排泄ケア研究会／日本コンチネンス協会／日本産業カウンセラー協会／札幌市介護支援専門員連絡協議会／福祉住環境コーディネーター協会／日本老年社会科学院／北海道公衆衛生学会／日本老年泌尿器科学会

＜専門職支援・セミナー講師等＞社会医療法人鳩仁会 札幌中央病院看護部 看護研究発表会講評：看護研究発表会講評（2月21日、看護職、札幌中央病院看護部）／市立札幌病院看護部 研究支援・発表会講評：看護職員看護研究支援・看護研究発表会（通年・2月4日、看護職、市立札幌病院看護部）／医療法人社団豊生会 東苗穂病院看護部 看護研究講義×3回、通年研究支援：看護研究支援・「看護研究の基本を学び研究計画書を作ろう」「研究計画書を見直し研究論文について学ぶ」・看護研究発表会（通年・4月24日・7月24日・2月5日、看護職、東苗穂病院看護部）／手稲ロイヤル病院 看護職院内研修会 11月20日「オレムの看護理論」、12月13日「オレムの理論を使った看護過程の展開」：看護職院内研修会「オレムの看護理論」「オレムの理論を使った看護過程の展開」（11月20日・12月13日、看護職、IMSグループ医療法人社団 明生会 手稲ロイヤル病院）／講義・看護過程（2月1日、2月15日）：ゴードンの看護理論（2月1日、2月15日、看護職、北海道自治体病院協議会小規模病院等看護技術強化研修事業（長万部町立病院））

藤井 瑞恵

＜学術論文＞1. 看護OSCE受験生の心理的反応および学習意欲の関係と課題（共著、平成24年4月、第42回日本看護協会論文集看護教育、pp. 10-13）

＜学会発表＞1. 地域一般住民の飲酒と健康関連QOLとの関連－端野・壮瞥町研究より－（共同、平成25年1月、第23回日本疫学会学術総会）／2. Towards the Establishment of an Effective System for Diabetic Patient Consultation at Nights and on Holidays（共同、平成24年11月、9th IDF-WPR Congress & 4th AASD Scientific Meeting）／3. 口腔ケアに関する看護管理的取り組みの実態調査（共同、平成24年6月、第9回日本口腔ケア学会総会・学術大会）／4. 口腔ケアに関する看護管理的取り組みの実態調査（共同、平成24年10月、第71回日本公衆衛生学会総会）／5. 大学と病院の人材育成連携活動の長期的・組織的影響の記述（共同、平成24年8月、第16回日本看護管理学会年次大会）

＜論文査読・学会抄録査読＞1. 日本糖尿病教育・看護学会誌（抄録（全国学会）、4件、第17回日本糖尿病教育・看護学会学術集会抄録集）／2. 日本看護管理学会（抄録（全国学会）、10件、第16回日本看護管理学会年次大会講演抄録集）

＜所属学会・研究会等＞日本看護科学学会／日本看護研究学会／日本看護学教育学会／日本看護管理学会／日本看護技術学会／日本糖尿病教育・看護学会／日本糖尿病学会／日本疫学会／日本老年医学

会／日本公衆衛生学会／日本循環器病予防学会

＜専門職支援・セミナー講師等＞臨床看護師の院内研究支援：院内研究支援（6月～3月、臨床看護師、徳州会病院）／潜在看護師復職支援講習会（9月、採血演習）

＜マスメディア掲載実績＞お酒と健康（1200字）（平成25年1月号、壮瞥町広報誌「すまいる」）

山内 まゆみ

＜学術論文＞1. 4か月の乳児の主要な栄養、及び主要な栄養以外の摂取状況とその母親が考える離乳時期に関する実態報告（共著、平成24年6月、看護総合科学研究会誌、14巻、1号、pp. 3-13）

＜学会発表＞1. 助産学生を対象とした職業準備性を高める教育手法の試みとその有効性（共同、平成24年7月、第38回日本看護研究学会）／2. 助産学専攻科の修了直前に実施したOSCEの効果と今後の課題（共同、平成24年11月、第53回日本母性衛生学会）／3. 客観的臨床能力試験（OSCE）を用いた所sな技術教育プログラムの開発 分娩期助産技術の評価内容と到達度（共同、平成24年12月、第32回日本看護科学学会）／4. 助産学専攻科生から見た客観的臨床能力試験（OSCE）の学修上の意義（共同、平成24年12月、第32回日本看護科学学会）／5. 交流集会 就業力を高めるポートフォリオの取り組み「SCUラーニングポートフォリオ」が目指すものとその実践報告（共同、平成24年12月、第32回日本看護科学学会）

＜論文査読・学会抄録査読＞1. SCU紀要（論文（大学紀要）、1件）

＜所属学会・研究会等＞日本看護科学学会／日本母性衛生学会／日本母性看護学会／北海道母性衛生学会／日本地域看護学会／日本看護研究学会／日本助産学会

＜専門職支援・セミナー講師等＞平成24年度第10回地域保健関係職員研修「母性に関する研修」：母性に関する研修（12月25日、1月21日、札幌市保健師、札幌市）／研究活動支援 院内報告会コメンテーター2回、研究活動支援2回：研究 院内報告会（6月 10月、勤医協札幌病院スタッフ、勤医協連）／助産師職能第4支部委員会委員：第4支部助産師職能委員会 1回／月（4月～2月迄、北海道看護協会、北海道看護協会）

山本 真由美

＜学術論文＞1. 助産学の客観的臨床能力試験を受験した助産学専攻科生の評価（共著、平成25年3月、札幌市立大学研究論文集、7巻、1号、pp. 61-66）

＜その他の論文＞1. 母性看護学における客観的臨床能力試験を用いた教育の課題（共著、平成24年8月、北海道母性衛生学会誌、41巻、1号、pp. 25-29）

＜学会発表＞1. 看護大学における就業前スキルアップトレーニングの効果の検証（共同、平成24年9月、第11回日本看護技術学会学術集会）／2. 助産学専攻科の修了直前に実施したOSCEの効果と今後の課題-保健指導場面のOSCE評価から（共同、平成24年11月、第53回日本母性衛生学会学術集会）／3. 客観的能力試験（OSCE）を用いた助産技術教育プログラムの開発-分娩期助産技術の評価内容と到達度（共同、平成24年12月、第32回日本看護科学学会学術集会）／4. 助産学専攻科生がとらえた客観的臨床能力試験（OSCE）の学修上の意義（共同、平成24年12月、第32回日本看護科学学会学術集会）／5. 産科混合病棟の管理者が認識する困難な課題-北海道札幌圏の総合病院の場合-（単独、平成24年8月、第16回日本看護管理学会学術集会）／6. 産科混合病棟の管理者が認識する課題-北海道道央圏の総合病院の場合-（単独、平成24年12月、第32回日本看護科学学会学術集会）

＜所属学会・研究会等＞日本助産学会／日本看護科学学会／日本母性衛生学会／北海道母性衛生学会／日本看護管理学会／日本看護学教育学会／日本看護技術学会

＜専門職支援・セミナー講師等＞看護研究活動支援：「研究計画書、統計処理、質的分析」講義（平成24年5月21日、看護研究担当者、北海道がんセンター）／北海道看護協会教育委員：月1回（平成24年6月～、北海道看護協会）／研修運営：今求められている新人教育（第1回）（平成24年6月2日・3日、北海道看護協会、北海道看護協会）／研修運営・平成25年度研修企画立案：看護師等養成所の管理者研修（平成24年8月28日・29日、北海道看護協会、北海道看護協会）／研修運営：家族看護入門（第2回）（平成25年1月8日、北海道看護協会、北海道看護協会）／看護研究活動支援：院内研究発

表会講評（平成25年3月11日、看護研究担当者、北海道がんセンター）

渡邊 由加利

<学術論文>1. 妊娠末期の「夫婦関係」の実態と関連要因の検討（単著、平成25年3月、札幌市立大学研究論文集、7巻、1号、pp. 23-36）／2. 助産学専攻科生がとらえた客観的臨床能力試験（共著、平成25年3月、札幌市立大学研究論文集、7巻、1号、pp. 61-66）

<その他の論文>1. 母性看護学における客観的臨床能力試験を用いた教育の課題（共著、平成24年8月、北海道母性衛生学会誌、41巻、1号、pp. 25-29）

<学会発表>1. 客観的臨床能力試験（OSCE）を用いた助産技術教育プログラムの開発－分娩期助産技術の評価内容と到達度－（共同、平成24年11月、第32回日本看護科学学会）／2. 助産学専攻科生がとらえた客観的臨床能力試験（OSCE）の学修上の意義（共同、平成24年11月、第33回日本看護科学学会）／3. 助産専攻科の終了直前に実施したOSCEの効果と今後の課題－保健指導場面のOSCE評価から－（共同、平成24年11月、第53回日本母性衛生学会）／4. Concept Analysis Nursing Competency from Japanese Perspective（共同、平成24年7月、第23回international Nursing Research Congress）／5. Informed Consent in Nursing in Japan（共同、平成24年8月、19th WORLD CONGRESS ON MEDICAL LAW）

<論文査読・学会抄録査読>1. 札幌市立大学研究論文集第7巻1号（論文（大学紀要）、1件、札幌市立大学）

<所属学会・研究会等>日本看護科学学会／日本助産学会／日本看護教育学会／日本人間工学会／看護人間工学部会／母性衛生学会／北海道母性衛生学会

<地域貢献諸活動>模擬患者組織の支援 近郊の模擬患者との交流会の開催など（7月18日・7月19日・9月7日・3月29日、札幌市立大学模擬患者担当者、札幌市立大学看護学部模擬患者「桑の会」）

<専門職支援・セミナー講師等>社会貢献委員会委員（平成24年4月～平成25年3月、全国助産師教育協議会）／臨床指導者研修会：臨床実習指導者研修（5月31日、臨床指導者、天使病院）

工藤 京子

<学会発表>1. 大学と病院の人材育成連携活動の長期的・組織的影響の記述（共同、平成24年8月、第16回日本看護管理学会年次大会）／2. 看護大学における就業前スキルアップトレーニングの効果の検証（共同、平成24年9月、第11回日本看護技術学会学術集会）

<論文査読・学会抄録査読>1. 第16回日本看護管理学会年次大会講演抄録集（抄録（全国学会）、7件、日本看護管理学会）

<所属学会・研究会等>日本看護学教育学会／日本看護科学学会／日本呼吸ケア・リハビリテーション学会／日本看護研究学会／日本慢性看護学会／日本創傷治癒学会／日本看護技術学会

<地域貢献諸活動>役員会、総会への出席、講演会の企画、会報誌への執筆、発行（隔月1回／年、難病連所属北海道低肺の会、北海道低肺の会）／大学における授業の担当者と模擬患者間の連絡調整、学習会やその他の活動支援（通年、札幌市立大学模擬患者桑の会、札幌市立大学模擬患者「桑の会」）

<専門職支援・セミナー講師等>看護研究計画書、看護研究成果発表への指導と助言：院内研究発表会（2013年2月21日（木）、札幌中央病院看護師、札幌中央病院）／看護研究計画書提出までの指導：看護研究研修（2012年12月～2013年3月、看護スタッフ5名、札幌市病院局市立札幌病院）

多賀 昌江

<学術論文>1. 助産学の客観的臨床能力試験を受験した助産学専攻科生の評価（共著、平成25年3月、7巻、1号、pp. 61-66）

<その他の論文>1. 母性看護学における客観的臨床能力試験を用いた教育の課題（共著、平成24年8月、北海道母性衛生学会誌、41巻、1号、pp. 25-29）

<学会発表>1. Research and Development of Coffin WAGAKO NO HITSUGI Design for Stillborn Babies under 22 Weeks of Gestation（共同、平成24年6月、The 9th International Conference with

the Global Network of WHO Collaborating Centres for Nursing and Midwifery) / 2. 卒業大学主催による往還型研修の取り組みと評価 (第1報) - 入職後3ヶ月時のメンタルヘルス - (共同、平成24年8月、日本看護学教育学会第22回学術集会) / 3. 卒業大学主催による往還型研修の取り組みと評価 (第2報) - 卒後1年目を対象に - (共同、平成24年8月、日本看護学教育学会第22回学術集会) / 4. 卒業大学主催による往還型研修の取り組みと評価 (第3報) - 卒後2年目を対象に - (共同、平成24年8月、日本看護学教育学会第22回学術集会) / 5. 助産学専攻科の修了直前に実施したOSCEの効果と今後の課題 - 保健指導場面のOSCE評価から - (共同、平成24年11月、第53回日本母性衛生学会学術集会) / 6. 客観的臨床能力試験 (OSCE) を用いた助産技術教育プログラムの開発 - 分娩期助産技術の評価内容と到達度 - (共同、平成24年12月、第32回日本看護科学学会学術集会) / 7. 助産学専攻科生から見た客観的臨床能力試験 (OSCE) の学修上の意義 (共同、平成24年12月、第32回日本看護科学学会学術集会)

<学会シンポジウム> 1. 「外国で生活する女性の健康支援 - 看護職の役割を考える」 (共同、第16回日本渡航医学会学術集会看護シンポジウム)

<学会研究発表> 1. 日本デザイン学会第59回研究発表大会 (共同、平成24年6月、日本デザイン学会)

<所属学会・研究会等> 日本助産学会 / 日本助産師会 / 文化人類学会 / 北海道民族学会 / 日本渡航医学会 / 国際看護研究会 / 日本母性衛生学会 / 北海道母性衛生学会 / 日本人間工学会 / 日本感性工学会 / 日本看護科学学会 / 日本看護教育学会

<地域貢献諸活動> 一般市民向け「うまれる」映画自主上映会誘致活動、当日運営、講演 (2月17日、はーと・あーと・はッピー北海道、あーと・はーと・はッピー北海道)

<専門職支援・セミナー講師等> 1. 母子衛生研究会ワーキングマタニティスクール「夫婦で楽しく妊娠ライフ」講師 (5月12日、母子衛生研究会)

<マスメディア掲載実績> 映画「うまれる」上映会inさっぽろ 2月17日札幌市立大学 (2月15日、まんまる新聞)

坂東 奈穂美

<学会発表> 1. 看護大学における就業前スキルアップトレーニングの効果検証 (共同、平成24年9月、日本看護技術学会第11回学術集会)

<論文査読・学会抄録査読> 1. 第16回日本看護管理学会年次大会講演抄録集 (抄録 (全国学会)、2件、日本看護管理学会)

<所属学会・研究会等> 日本看護科学学会 / 日本看護技術学会 / 日本看護教育学会 / 日本経営学会

<専門職支援・セミナー講師等> 専門部会への支援：北海道看護協会第一支部総会の選挙管理委員 (2月23日、看護職者、北海道看護協会第一支部)

三上 智子

<著書> 1. Bioinformatics : Genome Bioinformatics and Computational Biology. (共著、平成24年6月、Nova Biomedical、pp. 61-88)

<その他の論文> 1. 小児看護学におけるeラーニング自己学習教材の作成と活用の実例 (共著、平成24年5月、小児看護、35巻、6号、pp. 786-789) / 2. 看護OSCE (共著、平成24年7月、小児看護、35巻、9号、pp. 1265-1269) / 3. 看護OSCE【実践例】看護基礎教育における看護OSCEの展開 - 小児看護学課題を例に - (共著、平成24年8月、小児看護、35巻、10号、pp. 1407-1413) / 4. 看護学生の教育を再考する 演習の工夫 看護技術教育の工夫 (共著、平成25年2月、小児看護、36巻、2号、pp. 144-149)

<学会発表> 1. データベースを活用した看護技術の自己評価力育成 - 看護実践能力の育成 - (共同、平成24年8月、第16回日本看護管理学会) / 2. 転倒予防マットレスを用いた運動プログラム導入後の低学年児童の基礎活動力 (共同、平成24年11月、第59回日本学校保健学会) / 3. A大学卒業生の就労に対する思いの実態と大学に求めるキャリア支援 (共同、平成24年11月、第32回日本看護科学

学会) / 4. 卒業後の経験年数による職場適応力と職業適応力の到達状況 (共同、平成24年11月、第32回日本看護科学学会) / 5. 卒業生と学年別OSCEおよび社会人基礎力、看護者の基本姿勢との関係 (共同、平成24年11月、第32回日本看護科学学会)

＜所属学会・研究会等＞日本看護科学学会 / 日本看護教育学会 / 日本看護研究学会 / 日本母性衛生学会 / 日本小児看護学会 / 北海道小児保健研究学会 / 日本学校保健学会 / 小児保健研究学会 / 在宅ケアを考える診療所・市民ネットワーク / 日本看護管理学会

＜地域貢献諸活動＞大縄跳び大会 (8月25日、桑園まちづくりセンター青少年育成委員会、札幌市中央区市民部桑園まちづくりセンター) / 試合大会時の救護活動 (6月9日、9月29日、小樽地区サッカー協会4種大会、グリーンイーグルスサッカースポーツ少年団)

＜専門職支援・セミナー講師等＞看護研究支援：看護研究トライアルコース 発表会 (平成25年3月25日、勤医協中央病院看護師、勤医協中央病院2012看護研究委員会)

柏倉 大作

＜論文査読・学会抄録査読＞1. 日本看護管理学会第16回年次大会抄録集 (論文 (全国学会)、2件、日本看護管理学会)

＜所属学会・研究会等＞日本看護科学学会

鈴木 ちひろ

＜学術論文＞1. 助産学の客観的臨床能力試験を受験した助産学専攻科生の評価 (共著、平成25年3月、札幌市立大学研究論文集、7巻、1号、pp. 61-66)

＜所属学会・研究会等＞日本助産学会 / 日本母性衛生学会

田 仲 里 江

＜学術論文＞1. 官学民の連携による地域に根ざした健康教育演習の実際と学習効果 (共著、平成25年3月、札幌市立大学、7巻、1号、pp. 11-22) / 2. 日本におけるソーシャル・キャピタルと健康に関する研究の動向 (共著、平成25年3月、北海道公衆衛生学雑誌、26巻、2号、pp. 39-47)

＜学会発表＞1. 就業力を高めるポートフォリオの取りくみ～「SCUラーニングポートフォリオ」が目指すものとその実践報告～ (共同、平成24年12月、第32回日本看護科学学会学術集会)

＜学術集会運営＞1. 学術集会誘致・運営 (日本災害看護学会第15回年次大会)

＜所属学会・研究会等＞日本地域看護学会 / 日本看護科学学会 / 日本公衆衛生学会 / 日本公衆衛生看護学会 / 保健活動を考える自主的研究会 / 北海道保健活動を考える自主的研究会

＜地域貢献諸活動＞桑園地区のまちづくりセンターでの行事に学生と参加 (7月～10月、桑園地区連合町内会、桑園地区ボランティア)

＜専門職支援・セミナー講師等＞研究支援：看護研究に対する支援 (平成24年4月1日～平成25年3月31日、病棟看護職員、札幌徳洲会病院)

檜 山 明 子

＜著書＞1. カンファレンスで根付かせる看護倫理 現場導入の仕方 (共著、平成24年5月、日経研出版、pp. 174-197)

＜調査研究報告書＞1. 厚生労働科学研究費補助金 看護師の高度な臨床実践能力の評価方法の開発 平成24年度総括・分担研究報告書 (共著、平成25年3月、pp. 11-14)

＜学会発表＞1. 看護系書籍にみる注射針のプロテクターの取り扱いの現状と課題 (共同、平成24年8月、第16回日本看護管理学会学術集会) / 2. 注射の実施における露出した針の取り扱いに関する認識調査 (第一報) (共同、平成24年9月、第11回日本看護技術学会学術集会) / 3. 注射の実施における露出した針の取り扱いに関する実態調査 (共同、平成24年9月、第11回日本看護技術学会学術集会) / 4. 就業力を高めるポートフォリオの取り組み～「SCUラーニングポートフォリオ」が目指すものとその実践報告～ (共同、平成24年12月、第32回日本看護科学学会学術集会) / 5. 看護師の疼

痛アセスメント方法に関する研究～精神疾患患者に対するアセスメントに焦点を当てて～（共同、平成24年12月、第32回日本看護科学学会学術集会）

＜所属学会・研究会等＞日本看護研究学会／日本看護倫理学会／日本看護学教育学会／日本看護科学学会／看護総合科学研究会／日本看護技術学会／日本看護管理学会／北のケア環境研究会

＜専門職支援・セミナー講師等＞研究支援：研究教育支援活動（平成24年4月1日～平成25年3月31日、看護職、札幌市立大学看護学部）／移動移乗技術研修：移動・移乗の基礎看護技術～らくらく動作介助技術を用いて～（平成24年11月28日、看護職、北海道自治体病院協議会 小規模病院等看護技術強化事業）

星 幸 江

＜学会発表＞1. 就業力を高めるポートフォリオの取り組み=SCUラーニングポートフォリオ」が目指す物とその実践報告～（共同、平成24年11月、第32回日本看護科学学会学術集会）

＜所属学会・研究会等＞日本看護協会／日本看護科学学会／日本精神保健看護学会

I
概要

II
教育活動

III
研究活動

IV
社会活動

V
キャリア支援活動

VI
入学者選抜結果

VII
附属図書館

VIII
役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX
学内運営の概要

X
資料

XI
教員業績一覧

「札幌市立大学のシンボルマークについて」

札幌市立大学のシンボルマークは、
英国の著名なクリエイティブグループtomatoの
ジョン・ワーウィッカー氏によってデザインされました。
雪の結晶のイメージは、札幌の自然環境を特徴づけると共に、
大学での学習過程を図像的にあらわしたものです。(登録商標)



札幌市立大学

SAPPORO CITY UNIVERSITY

札幌市立大学年報 平成24年度 第7号

編 集 広報委員会（委員長 中原 宏）

担 当 事 務 地域連携課（広報）

発 行 日 平成26年1月20日

発 行 札幌市立大学

〒005-0864 北海道札幌市南区芸術の森1丁目

TEL：011-592-2300 FAX：011-592-2369

URL <http://www.scu.ac.jp>